

講義科目名称： 食と健康（P）

授業コード： 51100250

英文科目名称： Food & Health

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	1	2	選択
担当教員			
田岡 晃子			
開講曜限	授業形態		
月5	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■子ども教育学科■</p> <p>■1-1 子どもの発達に関する基本的知識を有し、子ども一人一人の特性や心身の状況を多面的に捉えることができる</p> <p>■2-4 子ども・家庭をめぐる今日的・社会的諸課題について多面的に捉えることができる</p>
---------	--

科目の概要・目的	「食べること」は生きることの原点である。私たちは食物を摂取する（食べる）ことによって生命を維持し、活動するために必要なエネルギーや栄養素を得ている。しかし、どのような食物を選択するか、食生活を営むかは、その人の環境や考え方などに影響を受ける。そして、その人のQOLにも影響を与える。また、生活習慣病への罹患が増加しており、健康への関心がますます高まっている。時代とともに変遷してきた食生活の変化と疾病構造の変化などを通して、「食べること」の意味をさまざまな視点から理解し、考える。健康や栄養に関する情報が氾濫する今、健康を維持するための行動力や自己判断が必要であり、食生活の自己管理ができる基礎知識を修得することをめざす。
----------	---

学習到達目標	健康増進や生活習慣病予防のための食生活について理解する。 自分自身を含め、他者の食生活管理に対する基礎的な知識や方法を理解する。
--------	---

授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <ul style="list-style-type: none">・課題についてグループで検討し、発表する <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <ul style="list-style-type: none">・プロジェクターを利用し授業を行う。・適宜Microsoft officeのアプリケーションを利用する。 <p>【その他特記事項】</p> <p>講義形式を主とする。適宜グループ等での活動を取り入れる。</p>
-------	---

成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <ul style="list-style-type: none">・定期試験（筆記）・グループ課題（発表内容、取り組み方）・個人課題（提出状況、取り組み方） <p>【割合】 定期試験70% グループ課題15% 個人課題15%</p>
---------	---

教科書・テキスト	食と健康の科学（建帛社） 稲山貴代・大森玲子 編著
----------	---------------------------

参考書	授業中に提示する。
-----	-----------

授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	授業計画で指示している内容について取り組むこと。 課題に変更が生じる場合は、授業中に提示する。
---------------------------	--

履修上の留意事項	最低限のルールを守ること。
----------	---------------

オフィスアワー	火曜日 13:00～17:00
---------	-----------------

課題に対するフィードバックの方法	下記のいずれかの方法で行う。 <ul style="list-style-type: none">・授業中にコメントする。・レポートにコメントを記載し返却する。・適宜Microsoft officeのアプリケーションを利用する。・Aポータルを利用する。
------------------	---

実務経験	特記事項なし
------	--------

その他	特になし
-----	------

授業の内容	<p>第1回 Introduction 授業の進め方、成績評価の説明をおこなう。 「食」について考える。 【事前学修】 シラバスに目を通しておくこと。 【事後学修】 講義終了時に提示する。</p> <p>第2回 食事の基本 自分の食事内容について振り返り、グループで検討する。 バランスのとれた食事について理解する。 三色食品群と六つの基礎食品について学ぶ。 【事前学修】 食事を記録しておく（方法は授業中に提示）。</p>
-------	--

第3回	<p>【事後学修】講義終了時に提示する。</p> <p>食事の基本 食事バランスガイドについて学ぶ。 生体リズムと食事の関係について学ぶ。 【事前学修】食事バランスガイドについて調べておく。 【事後学修】講義終了時に提示する。</p>
第4回	<p>主食、主菜の栄養学 主食や主菜の特徴、とり方について理解する。 【事前学修】前日の食事の中で主食、主菜にあたるものは何だったか、どれくらい食べていたかを記録しておく。 【事後学修】講義終了時に提示する。</p>
第5回	<p>副菜、牛乳・乳製品の栄養学 副菜の特徴、とり方について理解する。 食品成分表を用いて、代表的な食材の栄養素量を把握する。 【事前学修】前日の食事の中で副菜、牛乳・乳製品にあたるものは何だったか、どれくらい食べていたかを記録しておく。 【事後学修】講義終了時に提示する。</p>
第6回	<p>エネルギーのバランス エネルギーバランスについて理解する。 エネルギー必要量について理解する。 【事前学修】自分の身長、体重を記録しておく。 【事後学修】講義終了時に提示する。</p>
第7回	<p>おいしさを科学する おいしさについて考える。 おいしさに影響をもたらす要因について学ぶ。 【事前学修】最近気になった食べ物、おいしかった食べ物を記録しておく。 【事後学修】講義終了時に提示する。</p>
第8回	<p>食行動を科学する 食べることに関わることについて考える。 【事前学修】食行動に影響をもたらす要因について考えておく。 【事後学修】講義終了時に提示する。</p>
第9回	<p>母と子の健康と栄養・食生活 母と子の健康と栄養・食生活について学ぶ。 【事前学修】教科書58～63ページを読んでおく。 【事後学修】講義終了時に提示する。</p>
第10回	<p>若者世代の健康と栄養・食生活 若者世代の健康と栄養・食生活について学ぶ。 【事前学修】教科書64～70ページを読んでおく。 【事後学修】講義終了時に提示する。</p>
第11回	<p>シニア世代の健康と栄養・食生活 シニア世代の健康と栄養・食生活について学ぶ。 【事前学修】教科書71～76ページを読んでおく。 【事後学修】講義終了時に提示する。</p>
第12回	<p>生活習慣と健康 生活習慣病とその要因について学ぶ。 【事前学修】生活習慣病について調べておく。 【事後学修】講義終了時に提示する。</p>
第13回	<p>気を付けたい健康課題 やせや貧血などについて学ぶ。 【事前学修】教科書96～102ページを読んでおく。 【事後学修】講義終了時に提示する。</p>
第14回	<p>生活と健康 栄養・食生活と疾病構造の変化について学ぶ。 【事前学修】教科書106～114ページを読んでおく。 【事後学修】講義終了時に提示する。</p>
第15回	<p>文化と健康 日本の食文化について学ぶ。 【事前学修】教科書115～121ページを読んでおく。 【事後学修】講義終了時に提示する。</p>
	<p>定期試験</p>

講義科目名称： 日本語 I (P)

授業コード： 51100950

英文科目名称： Japanese I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	1	2	必修
担当教員			
大澤 茂男、三木 慰子、渡口 行雄			
開講曜限	授業形態		
月2			
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■子ども教育学科■</p> <p>■3-3 言葉遣い、挨拶、礼儀、マナーなどの社会的常識や、読み書き、プレゼンテーション力などの社会人として必要なリテラシーを身につけている</p>
---------	---

科目の概要・目的	母国語としての日本語の運用能力を高めるため、「読む、書く、聴く、話す」活動の実践を中心に展開していく科目です。
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 卒業し社会人として活躍するために必要な言葉の知識・表現技能を十分身につけている。【知識・技能】 場面や状況に応じて、日本語を用いた的確な判断・適切な表現をすることができる。【思考・判断・表現】 日本語の学修に主体的かつ協働的に取り組むことができる。【主体性・協働性】
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 ペアワーク (2回)</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 遠隔授業を行う場合、一部の課題提出・返却(コメント付き)にMSTeamsを活用します。</p> <p>【その他特記事項】 全体を3つのグループに分けて実施するため、2回目以降の授業はそれぞれ担当者別の①～④の内容となります。</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <p>各教員の授業回 (4回ずつ) の平常点、eラーニングの学修成果、全体授業での課題達成状況。</p> <p>【割合】</p> <p>各教員の授業回 (4回ずつ) の平常点をそれぞれ20%とし、eラーニングの学修成果を20%、全体授業での課題達成状況 (漢字テスト含む) を20%として合算します。</p>
教科書・テキスト	漢字検定3級 頻出順完成問題 (増進堂)
参考書	各教員が授業の中で提示する場合があります。
授業時間外の学修について (事前・事後学習について)	eラーニング「アオドリ ワカドリコース」の学修がこれにあたります。また、それぞれの教員の授業内容に応じた【事前学修】【事後学修】が授業時間外の学修として「授業の内容」に示されています。
履修上の留意事項	授業内での活動を重視します。積極的に授業に参加してください。
オフィスアワー	大澤：水曜2限、木曜4限 (大澤研究室：4-403) 三木：研究室は1号館307。月、火、木の昼休み (12時30分～13時) 渡口：授業終了後に、非常勤講師の控室で相談に応じる。
課題に対するフィードバックの方法	各教員とも、提出の次の授業週にコメントを付して返却する形をとります。
実務経験	大澤：国立高専における1～3年次生「国語」担当 (5年間) 渡口：新聞記者 三木：高等学校における1～3年次生「国語」担当 (3年間)
その他	特記事項なし

授業の内容	<p>第1回 全体授業 (オリエンテーション)</p> <p>学年を3つのグループに分け、次の週からグループ別の授業を展開することなど、本科目の進め方や教室外の学修、eラーニングの活用などについて説明。 【事前学修】 シラバスを精読する。 【事後学修】 グループ別授業の担当教員と授業内容を確認し、必要な準備をする。</p> <p>第2回 渡口①</p> <p>中学入試最難関に挑戦 (漢字クイズ=灘中の問題)・漢字ドリル (熟語の構成)。 【事前学修】 第1回目の全体授業で指示された事前の学修に取り組む。 【事後学修】 本時の内容を振り返り、次回のために指示された授業の準備をおこなう。</p> <p>第3回 渡口②</p> <p>新聞記事から探る①三種の漢字について・漢字ドリル (四字熟語)。 【事前学修】 前時に指示された事前の学修に取り組む。 【事後学修】 本時の内容を振り返り、次回のために指示された授業の準備をおこなう。</p> <p>第4回 渡口③</p> <p>新聞記事から探る②漢字で表す外国名・漢字ドリル (部首)。</p>
-------	--

	<p>【事前学修】前時に指示された事前の学修に取り組む。 【事後学修】本時の内容を振り返り、次回のために指示された授業の準備をおこなう。</p>
第5回	<p>渡口④ 新聞記事から探る③こんなに変わった珍苗字・漢字ドリル(同音同訓異字)。 【事前学修】前時に指示された事前の学修に取り組む。 【事後学修】本時の内容を振り返り、次回のために指示された授業の準備をおこなう。</p>
第6回	<p>三木① 「名前」を感じる・知る・紹介する(あいうえお作文)・漢字ドリル。 【事前学修】あいうえお作文を考える。 【事後学修】名前の由来を知らない人は必ずご両親などに尋ねておく。</p>
第7回	<p>三木② 季節を感じる・知る(年中行事と記念日クイズ)・漢字ドリル。 【伝統文化に学ぶ、伝統文化の世界の授業に繋げる予定】 【事前学修】月ごとの行事を書いてみる。 【事後学修】気になる行事に関して、由来や内容に関して調べてみる。</p>
第8回	<p>全体授業(中間まとめ) 漢字100問テスト、中間アンケートなど。 【事前学修】これまでの授業内容を振り返るとともに、漢字テストのために必要な準備をおこなう。 【事後学修】返却後の漢字テストを確認し、誤答部分について知識を補填・更新しておくとともに、次回以降の各担当教員から指示された授業の準備をおこなう。</p>
第9回	<p>三木③ 他者を感じる・知る(卒業生からの学び-話す)・漢字ドリル。 【事前学修】メモの取り方について考える。 【事後学修】卒業生のプレゼンテーションから得たこと(内容はいうまでもなく、話し方、メモの取り方、まとめ方)を振り返る。</p>
第10回	<p>三木④ 他者を感じる・知る(卒業生からの学び-書く)・漢字ドリル。 【事前学修】指定されたYouTubeを見て、メモをとる。 【事後学修】授業中に紹介した他のYouTubeをみる。</p>
第11回	<p>大澤① 職場想定自己紹介、「ことばあて」(伝達力を鍛えるペアワーク)、漢字ドリル。 【事前学修】将来つきたい職業・職種について考え、現時点の希望進路を考えておく。 【事後学修】本時の内容を振り返り、本時に指示された次回授業の準備をおこなう。</p>
第12回	<p>大澤② 「かんじがいいね」(表記法に関するセルフワーク)、「図形あて」(伝達力を鍛えるペアワーク)、漢字ドリル。 【事前学修】漢字かな交じり表記の長所について考えておく。 【事後学修】本時の内容を振り返り、本時に指示された次回授業の準備をおこなう。</p>
第13回	<p>大澤③(メディアセンターにて実施) 専門分野関連書籍の書評作成演習。漢字ドリル。 【事前学修】メディアセンターに入館し、自分の専門分野に関連する書籍を探しておく。 【事後学修】本時の内容を振り返り、本時に指示された次回授業の準備をおこなう。</p>
第14回	<p>大澤④ 文章の要約に関する演習(セルフワーク)、漢字ト鳥ドリル。 【事前学修】文章を要約した経験を振り返り、それについてコメントできるようにしておく。 【事後学修】本時の内容を振り返り、次回のために指示された授業の準備をおこなう。</p>
第15回	<p>全体授業(最終まとめ) 科目全体の学修内容を総括、漢字確認テスト、授業アンケートなど。 【事前学修】各教員の授業内容を振り返るとともに、漢字の確認テストのために必要な準備をおこなう。 【事後学修】本授業全体の内容を振り返り、自分自身の日本語力をさらに伸ばしていくために今後取り組むべきことは何か考える。</p> <p>※グループごとに、第2～7回および第9～14回の内容と担当者が変わります。第1回の授業で詳しく説明します。</p>

講義科目名称： 心理学（P）

授業コード： 51101450

英文科目名称： Psychology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	1	2	選択
担当教員			
高木 典子			
開講曜限	授業形態		
金3	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■子ども教育学科■</p> <p>■3-1 獲得した知識・技能を活かして、自らの学びを常に省察し、課題を見つけて改善し続けることができる</p>
---------	---

科目の概要・目的	<p>私たちの身近にある「心」について、今までどのような研究がなされ、そこでは「人間の心」について何がわかってきたのか、客観的科学的の一分野として成長してきた心理学について、研究内容と知見を広く学ぶ。その過程で、私たちの身近な疑問をどのように科学的に考えることができるのかといった論理的な思考を鍛えることにも挑戦する。</p> <p>教養としての心理学を学ぶという位置づけであり、個人の心の悩みを具体的にどのように解決するのかという臨床心理学の技法に関する内容は、この授業では扱わない。</p> <p>「自分って何だろう」「心は人間に固有のものなのだろうか」といった疑問を持っている人や、人間観察が好きという人、とにかく自分の疑問をとことん考えてみるのが好きという人におすすめの授業である。</p>
学習到達目標	<p>①心理学的なものの方がわかる。</p> <p>②心理学において、何が明らかになったのかについて、複数述べるができる。</p> <p>③心とは何かについて、自分なりの考えを持つことができる。</p> <p>本科目は、教養科目としての位置づけであり、授業を通して人間理解の基本的な考え方を知り、自分の人生を切り開いていくための考える力を磨くことも目的としている。</p>
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 受講者の人数次第では、グループディスカッションを多く取り入れる。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 MicrosoftTeams上に授業のプレゼン内容などは挙げていき、復習に活用できるようにする。 (Teamsの利用については、情報処理の授業で本学のアカウントを作成することで可能になる。)</p> <p>【その他特記事項】 特になし</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】 定期試験（筆記）、課題内容、受講態度</p> <p>【割合】 定期試験（筆記）(60%)、課題内容（30%）、受講態度(10%)の総合評価とする。</p> <p>※定期試験で100点満点中30点未満の者については、再試験の対象外とする。</p>
教科書・テキスト	若林明雄著「教養としての心理学講座」有斐閣
参考書	<p>アダム・ハート=デイヴィス著 山崎正浩訳「パブロフの犬ー実験でたどる心理学の歴史」創元社</p> <p>ウィル・バッキンガム著「哲学大図鑑」三省堂・バッキンガム著「哲学大図鑑」三省堂</p> <p>キャサリン・コーエン著「心理学大図鑑」三省堂</p> <p>マーカス・ウィークス著「10代からの心理学図鑑」三省堂</p> <p>大山正・藤永保・吉田正昭編「心理学小辞典」有斐閣</p> <p>斎藤勇監修 田中正人編著「図解心理学用語大全」誠文堂新光社</p> <p>下山晴彦・遠藤利彦編「心理学辞典 新版」誠信書房</p> <p>中島義明・箱田裕司・繁樹算男編「新・心理学の基礎知識」有斐閣</p>
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	<p>事前学習として、最低限、教科書の該当範囲は目を通して頂くこと。その上でわからない言葉は参考書に上げた辞典等で調べて頂くこと、授業内容をよく理解することができる。</p> <p>事後学習は、原則として課題プリントを配布する。課題は次回の授業開始時に提出とし、内容に応じて課題点をつける。</p> <p>また、心理学の扱う範囲は非常に広く、授業内で扱えるのはその一部である。書籍によっても扱う内容が異なるので、学修内容を深めるために、心理学関連の書籍を最低1冊はメディアセンターや図書館等で探して読むことを求める。</p>
履修上の留意事項	<p>履修にあたっての制限は特にないが、履修者には、授業時の発言をはじめとする能動的な授業参加を求める。教科書を使って授業を進めるので、必ずテキスト販売日に購入すること。毎回の授業にテキストを持参せずに臨んでいる場合には受講停止とすることがある。</p> <p>授業を欠席した場合でも、Teamsで授業内容を確認し、課題プリントを提出すれば、課題点をつける。そのため、欠席した場合は、メールにて連絡の上、次回の授業前に課題プリントを取りに来ること。</p>
オフィスアワー	<p>金曜日の昼休み（12:20-12:50） 上記以外の時間帯でも事前連絡があれば対応可。</p>
課題に対するフィードバックの方法	課題回収時に全体に対するコメントという形でフィードバックを行う。
実務経験	特になし

その他	授業の進捗によっては、本シラバスの記載から授業計画を部分的に変更することがある。その際には、授業内で連絡する。
授業の内容	<p>第1回 初回ガイダンス <教科書pp.1-7 Lecture0> 授業の進め方や受講上の注意についての説明をする。 初回はテキスト購入前のため、教科書の該当ページを印刷して配布する。 課題①：心とは何かについての自分の考え及び、この授業で何を学びたいのか。（授業内で提出） 本時の目標：心理学と読心術は違うものであることがわかる。</p> <p>【事前学修】シラバスをよく読んで、本授業の目的を確認しておくこと。 【事後学修】「日常知・経験知としての心理学」と「科学としての心理学」の違いをよく復習し、この授業の目的を改めて確認する。</p> <p>第2回 科学としての心理学とは <教科書pp.9-31 Lecture1> 心についての疑問を科学的に扱うとはどういうことかについて教科書に沿って説明する。 本時の目標：心理学の定義を理解し、心理学が科学の一分野に位置づけられることがわかる。</p> <p>【事前学修】教科書の該当箇所を目を通しておくこと。 【事後学修】本時の内容を復習し、「ヒト以外の動物にも心はあるのか」という問いに教科書の著者はどのように答えているのかをまとめる（課題②）。</p> <p>第3回 心理学の歴史 <教科書pp.33-50 Lecture2> 心についての疑問を人間はどのように考えてきたのか、その歴史を概説する。 本時の目標：科学的心理学の始まりとそこから分かれる3分野がわかる。</p> <p>【事前学修】教科書の該当箇所を目を通しておくこと。 【事後学修】ヴントの心理学の何に対する批判から3分野が生じたのかについて復習し、課題プリントにまとめる（課題③）。</p> <p>第4回 学習①条件づけ <教科書pp.71-83 Lecture4> 新しい行動を獲得する2つのメカニズムについて概説する。 本時の目標：心理学における「学習」の意味がわかる。</p> <p>【事前学修】教科書の該当箇所を目を通しておくこと。 【事後学修】2種類の条件づけについて、その仕組みと違いを復習し、課題プリントにまとめる（課題④）。</p> <p>第5回 学習②認知学習 <教科書pp.84-88 Lecture4> 認知の変容による学習のメカニズムについて概説する。 本時の目標：連合学習と認知学習の違いがわかる。</p> <p>【事前学修】教科書の該当箇所を目を通しておくこと。 【事後学修】前時で学んだ「学習」と今回学んだ「学習」について、具体的に身近な例を考え、課題プリントにまとめる（課題⑤）。</p> <p>第6回 記憶 <教科書pp.89-104 Lecture5> 記憶のメカニズムについて概説する。 本時の目標：記憶の種類がわかる。記憶の不確実性を理解する。</p> <p>【事前学修】教科書の該当箇所を目を通しておくこと。 【事後学修】記憶の種類について復習し、課題プリントにまとめる（課題⑥）。ワーキングメモリについてもよく復習しておくこと。</p> <p>第7回 感覚・知覚① <教科書pp.105-117 Lecture6> 感覚・知覚について、特に視覚を中心に概説する。 本時の目標：感覚・知覚が心の基本であることがわかる。</p> <p>【事前学修】教科書の該当箇所を目を通しておくこと。 【事後学修】視覚の特徴について復習し、課題プリントにまとめる（課題⑦）。</p> <p>第8回 感覚・知覚② <教科書pp.118-124 Lecture6> 視覚の錯覚を実際に体験してみる。準備物：ハサミとノリ 残りの時間で、感覚・知覚について、聴覚を中心に概説する。 本時の目標：感覚・知覚体験においても個人差があることがわかる。</p> <p>【事前学修】教科書の該当箇所を目を通しておくこと。 【事後学修】聴覚の特徴について復習し、課題プリントにまとめる（課題⑧）。</p> <p>第9回 個人差について <教科書pp.125-126, 141-144 Lecture7-8> 心理的機能について、ここまで扱ってきた内容がヒト全般に当てはまるものであったことを押さえた上で、個人差について概説する。 本時の目標：正規分布について理解する。</p> <p>【事前学修】教科書の該当箇所を目を通しておくこと。 【事後学修】集団間の差と個人差の違いについて復習し、課題プリントにまとめる（課題⑨）。</p> <p>第10回 知的能力の個人差 <教科書pp.144-160 Lecture8> 知能とその測定方法について概説する。 本時の目標：知能指数が意味することがわかる。</p>

第11回	<p>【事前学修】教科書の該当箇所に通しておくこと。 【事後学修】知能のとらえ方の変遷や、個人差としての知能がどのように測定されるのかについて復習し、課題プリントにまとめる（課題⑩）。</p> <p>パーソナリティの個人差 <教科書pp. 161-180 Lecture9> パーソナリティとその測定方法について概説する。 受講人数次第では、性格テストを実施する。 本時の目標：類型論と特性論の違いがわかる。</p>
第12回	<p>【事前学修】教科書の該当箇所に通しておくこと。 【事後学修】パーソナリティのとらえ方として、どのような考え方があるのかを復習し、課題プリントにまとめる（課題⑪）。</p> <p>認知スタイルの個人差 <教科書pp. 181-204 Lecture10> 認知スタイルとは何かについて概説する。 本時の目標：認知スタイルの代表的なとらえ方がわかる。</p>
第13回	<p>【事前学修】教科書の該当箇所に通しておくこと。 【事後学修】認知スタイルと教育との関係について調べ、課題プリントにまとめる（課題⑫）。</p> <p>社会的行動① <教科書pp. 205-230 Lecture11> 社会心理学で研究されてきた事柄について、有名な心理実験を紹介しながら概説する。 本時の目標：社会的状況によって、同じ個人の行動が変わりうるということがわかる。</p>
第14回	<p>【事前学修】教科書の該当箇所に通しておくこと。 【事後学修】他者の存在が私たちの行動にどのような影響を及ぼすのかについて、本時で学んだ内容を復習し、課題プリントにまとめる（課題⑬）。</p> <p>社会的行動② <教科書pp. 205-230 Lecture11> 社会心理学で研究されてきた事柄について、対人認知及び認知バイアスを中心に概説する。 本時の目標：認知バイアスについて複数述べるができる。</p>
第15回	<p>【事前学修】教科書の該当箇所に通しておくこと。 【事後学修】対人認知の特徴及び認知バイアスについて復習し、課題プリントにまとめる（課題⑭）。</p> <p>まとめ 学びの振り返り 定期試験について 本時の目標：心とは何かについて、授業の学びを踏まえた上で、自分の考えを述べるができる。</p>
定期試験	<p>【事前学修】第1～14回の学びの内容について、自分のノートや返却課題を見直しておくこと。 【事後学修】心理学を学んだことで、自分自身の心についての考えに変化があったかを振り返る。</p>

講義科目名称： 情報処理（P）

授業コード： 51101750 51101760

英文科目名称： Information Processing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	1	2	必修
担当教員			
辰口 和保			
開講曜限	授業形態		
水1、2	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■子ども教育学科■</p> <p>■3-3 言葉遣い、挨拶、礼儀、マナーなどの社会的常識や、読み書き、プレゼンテーション力などの社会人として必要なリテラシーを身につけている</p>
---------	---

科目の概要・目的	<p>パソコンの普及によって、情報システムを活用する技能は、現代人の基本的な技能として定着してきた。中でも電子メールを含めた文書処理(ワードプロセッシング)は、もっとも基本的な技能といえる。これはDP3-3の社会人としての必要なリテラシーでもある。本講義では、実際にシステムを利用することで、大阪青山教育情報ネットワーク(OAENS)とMicrosoft365について知り、情報システムのしくみを理解するとともに、その活用方法の基礎を学ぶ。</p> <p>注意！！ 再履修者は、必ず第1回授業に出席すること。欠席の場合、以降の出席を認めない。</p>
学習到達目標	<p>大阪青山教育情報ネットワーク(OAENS)を利用できる。 Microsoft365を利用できる。 メールシステムを利用できる。 検索システムやネットワークドライブなどのネットワークツールを利用できる。 情報セキュリティに配慮することができる。 ネットワーク上で適切にふるまうことができる。 簡単な文書作成を行える。 各種文書ファイルを取り扱える。</p>
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 情報システムを実際に動作させながら授業を進める。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 パソコンを利用するとともに、教室システムやMicrosoft Teamsで確認を行いながら授業を進める。</p> <p>【その他特記事項】 特になし</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】 平常点および課題（レポートを含む）</p> <p>【割合】 平常点40%、課題（レポートを含む）60%</p>
教科書・テキスト	<p>大阪青山大学情報教育センター「コンピュータ利用の手引」 その他、適宜、授業中に指示する。</p>
参考書	<p>Microsoft 365 トレーニング https://support.microsoft.com/ja-jp/training?redirectSourcePath=%252fja-jp%252foffice-training-center その他、適宜、授業中に紹介する。</p>
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	<p>課題を作成し、教材の復習を行うこと。</p>
履修上の留意事項	<p>課題は自力で行うこと。 再履修者は、必ず第1回授業に出席すること。欠席の場合、以降の出席を認めない。</p>
オフィスアワー	<p>水曜13：00～14：30</p>
課題に対するフィードバックの方法	<p>対面授業の中で、または、メールやMicrosoft Teamsを介して</p>
実務経験	<p>特記事項なし</p>
その他	<p>おもにコンピュータ室で授業を行う。 授業の進行度合により、内容を変更することがある。 プリント等の配布は、ひとり1部のみとする。紛失しても再配布しないので注意すること。</p>
授業の内容	<p>第1回 はじめに 大阪青山教育情報ネットワーク(OAENS)の概要 ユーザー登録 【事前学修】 ・シラバスを読んでおく。 ・利用の手引を読んで、ユーザー登録に必要なものを知っておく。 ・利用の手引を読んで、本学PCの操作方法の概要を知っておく。</p>

第2回	<p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の進行について再確認する。 ・本学のMicrosoft365へのサインインなどを試し、ユーザー登録完了を確認する。 <p>ネットワークとセキュリティ（1） ネットワークのしくみと構成 OAENSの動作の実際 情報セキュリティ</p> <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用の手引を読んで、情報セキュリティの重要性を知っておく。 ・利用の手引を読んで、Microsoft365の概要について知っておく。
第3回	<p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティについて、自分の取るべき具体的行動を考える。 <p>ネットワークとセキュリティ（2） 電子メールの基礎 インターネットメールシステムのしくみと設定 電子メール活用技法</p> <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用の手引を読んで、メールの仕組みを知っておく。
第4回	<p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メール利用のために必要な設定ができていないか確認する。 <p>ネットワークツール 情報の探索と共有 - 検索サイトの利用 検索条件の記述方法 その他のツール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布プリントを参照し、身の回りのネットワークツールにはさまざまなものがあることを知る。 <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用の手引を読んで、クラウドコンピューティングについて知っておく。
第5回	<p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラウドコンピューティングの重要性とそのセキュリティの重要性を再確認する。 <p>文書処理（1） 情報機器作業について 入力装置と入力技術について ビジネスキーボード認定試験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布プリントを参照し、情報機器作業とその労働衛生ガイドラインについて知る。 ・ビジネスキーボード認定試験について知り、練習ソフトを使って入力技能の判定を行う。 <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報機器作業の労働衛生について調べておく。
第6回	<p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PC利用時の作業環境や身体的な <p>文書処理（2） 入力技術について ビジネスキーボード認定試験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスキーボード認定試験について知り、練習ソフトを使って入力技能の判定を行う。 <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスキーボード認定試験について、確認しておく。
第7回	<p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入力練習を行う。 <p>文書処理（3） 文書の形式と構造1 ビジネス文書とは ビジネス文書の形式 入力の実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布プリントを参照し、ビジネス文書の構造等について知る。 <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用の手引を読んで、Microsoft Word等の起動方法などを知っておく。
第8回	<p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビジネス文書の体裁を知り、指示されたところまで文書入力を行い、保存する。 <p>文書処理（4） 文書の形式と構造2 ビジネス文書の装飾と印刷</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布プリントを参照し、文書作成の細部を知る。 <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作成された文書が保存されているか、確認しておく。
第9回	<p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学内での文書の印刷方法について再確認する。 <p>文書処理（5） 文書の形式と構造3 一般文書の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布プリントを参照し、ビジネス文書とは異なる一般文書について知る。 <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Microsoft Wordの機能について簡単に調べておく。
第10回	<p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指示されたところまで、文書を作成しておく。 <p>文書処理（6） 文書の形式と構造4 一般文書の装飾と印刷</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布プリントを参照し、一般文書作成の細目を知る。 <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作成された文書が保存されているか、確認しておく。 ・利用の手引きを読んで、教室でのプリンタ利用について再確認しておく。
第11回	<p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文書作成の手順を再確認しておく。 <p>文書処理（7） 電子メールにおける文書 効果的なメール文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布プリントを参照し、メール文の構成や必要な要素や性質を知る。 <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メール文の書き方について調べておく。
第12回	<p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分がメールを書く際の具体的な注意点を考える。 <p>文書処理（8） コンピュータで文字を取り扱う方法 文字コード問題について コードとフォント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布プリントを参照し、文字コードとは何かを知る。 ・レポート課題を出題の予定。 <p>【事前学修】</p>

第13回	<ul style="list-style-type: none"> ・文字コードについて、簡単に調べておく。 【事後学修】 ・レポート課題のために授業で取り上げられた文字コードについてのトピックで、興味を持ったことを調べ、まとめる。 <p>文書処理（9）</p> <p>さまざまな文書の形式 DOC・DOCX・TXT・PDF・HTML・ODF e. t. c.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布プリント参照し、文書ファイルとして取り扱われるファイルを種類を知る。 ・代表的な文書ファイル作成方法を知る。 【事前学修】 <ul style="list-style-type: none"> ・文書ファイル形式について、簡単に調べておく。 【事後学修】 <ul style="list-style-type: none"> ・よく利用される文書ファイル形式の作成方法を再確認する。
第14回	<p>画像情報の取り扱い</p> <p>静止画と動画 さまざまな符号化方式 情報圧縮の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布プリントを参照し、文字以外の情報のデータ化、特に画像情報のデータ化の方法を知る。 ・情報圧縮の方法を知る。 【事前学修】 <ul style="list-style-type: none"> ・画像のデータ化の方法を簡単に調べておく。 【事後学修】 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の描いた画像が授業で紹介した方法でどのように圧縮されるか試してみる。
第15回	<p>情報システムの今後</p> <p>ネットワークで接続された社会の展望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの授業を振り返り、ネットワークシステムにセキュリティが重要であることを再確認する。 ・配布プリントを参照し、文書のセキュリティを確保する方法を知る。 【事前学修】 <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの授業内容を再確認する。 ・文書を安全に送受信する方法について調べておく。 【事後学修】 <ul style="list-style-type: none"> ・出題されている課題を再確認する。

講義科目名称： 情報処理（P・再履修）

授業コード： 51101770

英文科目名称： Information Processing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	2	2	必修
担当教員			
辰口 和保			
開講曜限	授業形態		
土1	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■子ども教育学科■</p> <p>■3-3 言葉遣い、挨拶、礼儀、マナーなどの社会的常識や、読み書き、プレゼンテーション力などの社会人として必要なリテラシーを身につけている</p>
---------	---

科目の概要・目的	<p>パソコンの普及によって、情報システムを活用する技能は、現代人の基本的な技能として定着してきた。中でも電子メールを含めた文書処理(ワードプロセッシング)は、もっとも基本的な技能といえる。本講義では、実際にシステムを利用することで、大阪青山教育情報ネットワーク(OAENS)とMicrosoft365について知り、情報システムのしくみを理解するとともに、その活用方法の基礎を学ぶ。</p> <p>注意！！ 再履修者は、必ず第1回授業に出席すること。欠席の場合、以降の出席を認めない。</p>
----------	--

学習到達目標	<p>大阪青山教育情報ネットワーク(OAENS)を利用できる。</p> <p>Microsoft365を利用できる。</p> <p>メールシステムを利用できる。</p> <p>検索システムやネットワークドライブなどのネットワークツールを利用できる。</p> <p>情報セキュリティに配慮することができる。</p> <p>ネットワーク上で適切にふるまうことができる。</p> <p>簡単な文書作成を行える。</p> <p>各種文書ファイルを取り扱える。</p>
--------	---

授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <p>情報システムを実際に動作させながら授業を進める。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <p>パソコンを利用するとともに、教室システムやメール、Microsoft Teamsで確認を行いながら授業を進める。</p> <p>【その他特記事項】</p> <p>特になし</p>
-------	--

成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <p>平常点および課題（レポートを含む）</p> <p>【割合】</p> <p>平常点40%、課題（レポートを含む）60%</p>
---------	---

教科書・テキスト	<p>大阪青山大学情報教育センター「コンピュータ利用の手引」</p> <p>その他、適宜、授業中に指示する。</p>
----------	--

参考書	<p>Microsoft 365 トレーニング</p> <p>https://support.microsoft.com/ja-jp/training?redirectSourcePath=%252fja-jp%252foffice-training-center</p> <p>その他、適宜、授業中に紹介する。</p>
-----	--

授業時間外の学修について(事前・事後学習について)	<p>課題を作成することで、教材の復習を行うこと。</p>
---------------------------	-------------------------------

履修上の留意事項	<p>課題は自力で行うこと。</p> <p>注意！！ 再履修者は、必ず第1回授業に出席すること。欠席の場合、以降の出席を認めない。</p>
----------	---

オフィスアワー	<p>水曜13:00～14:30</p>
---------	----------------------

課題に対するフィードバックの方法	<p>対面授業の中で、または、メールやMicrosoft Teamsを介して</p>
------------------	--

実務経験	<p>特記事項なし</p>
------	---------------

その他	<p>おもにコンピュータ室で授業を行う。</p> <p>授業の進行度合により、内容を変更することがある。</p> <p>プリント等の配布は、ひとり1部のみとする。紛失しても再配布しないので注意すること。</p>
-----	---

授業の内容	<p>第1回</p> <p>はじめに</p> <p>はじめに この授業の概要 ユーザー登録の確認とメール設定の確認</p> <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバスを読んでおくこと。 ・ユーザー名・パスワード・メールアドレス等を確認しておくこと。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メール設定等を再確認する。
-------	--

第2回	電子メールとMicrosoft365の活用 電子メールとMicrosoft Teamsを中心としたMicrosoft365の活用方法 【事前学修】 ・Microsoft365へサインインできることを確認しておく。 【事後学修】 ・Microsoft365の各種機能の利用方法を復習する。
第3回	ネットワークツール 情報の探索と共有 - 検索サイトの利用 検索条件の記述方法 その他のツール ・配布プリントを参照し、身の回りのネットワークツールにはさまざまなものがあることを知る。 【事前学修】 ・利用の手引を読んで、クラウドコンピューティングについて知っておく。 【事後学修】 ・クラウドコンピューティングの重要性とそのセキュリティの重要性を再確認する。
第4回	文書処理（1） 電子メールにおける文書（1） 電子メール文の構成 ・配布プリントを参照し、メール文の構成や必要な要素や性質を知る。 【事前学修】 ・メール文の書き方について調べておく。 【事後学修】 ・自分がメールを書く際の具体的な注意点を考える。
第5回	文書処理（2） 電子メールにおける文書（2） 特徴的な電子メール文の用法 ・配布プリントを参照し、返信や引用文など、メール特有の用法を知る。 【事前学修】 ・WEB版Outlookの機能を確認しておく。 【事後学修】 ・メール特有の用法をOutlookの機能とともに再確認する。
第6回	文書処理（3） ・課題のひとつとして、メール利用について試験を行う。 【事前学修】 ・メールの取り扱い全般について、復習しておく。 【事後学修】 ・授業の内外でのメール利用の状況を思い返し、危険や間違いがないかを再確認する。
第7回	文書処理（4） ビジネスキーボード認定試験日本語・英語トレーニング ・ビジネスキーボード認定試験トレーニングソフトにて、キーボード入力スキルを試す。 【事前学修】 ・トレーニングソフトについて、調べておく。 【事後学修】 ・トレーニングソフトを活用し、キーボード入力を練習する。
第8回	文書処理（5） 文書の形式と構造1 ビジネス文書とは ビジネス文書の形式 入力の実際 ・配布プリントを参照し、ビジネス文書の構造等について知る。 【事前学修】 ・利用の手引を読んで、Microsoft Word等の起動方法などを知っておく。 【事後学修】 ・ビジネス文書の体裁を知り、指示されたところまで文書入力を行い、保存する。
第9回	文書処理（6） 文書の形式と構造2 ビジネス文書の装飾と印刷 ・配布プリントを参照し、文書作成の細部を知る。 【事前学修】 ・作成された文書が保存されているか、確認しておく。 【事後学修】 ・学内での文書の印刷方法について再確認する。
第10回	文書処理（7） 文書の形式と構造3 罫線や表組 ・罫線や表組などの特殊な機能を活用した文書の作成方法を知る。 【事前学修】 ・Microsoft Wordの機能について簡単に調べておく。 【事後学修】 ・課題文書を作成するとともに、機能を復習しておく。
第11回	文書処理（8） 文書の形式と構造4 文書の装飾 グラフや画像の挿入 画像に代表される種々のデータを文書に挿入する方法を知る。 【事前学修】 ・Microsoft Wordの機能について簡単に調べておく。 【事後学修】 ・課題文書を作成するとともに、機能を復習しておく。
第12回	文書処理（9） コンピュータで文字を取り扱う方法 文字コード問題について コードとフォント ・配布プリントを参照し、文字コードとは何かを知る。 ・レポート課題を出題の予定。 【事前学修】 ・文字コードについて、簡単に調べておく。 【事後学修】 ・レポート課題のために授業で取り上げられた文字コードについてのトピックで、興味を持ったことを調べ、まとめる。

第13回	<p>文書処理 (10)</p> <p>さまざまな文書の形式 DOC・DOCX・TXT・PDF・HTML・ODF e. t. c.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布プリント参照し、文書ファイルとして取り扱われるファイルを種類を知る。 ・代表的な文書ファイル作成方法を知る。 <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文書ファイル形式について、簡単に調べておく。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よく利用される文書ファイル形式の作成方法を再確認する。
第14回	<p>画像情報の取り扱い</p> <p>静止画と動画 さまざまな符号化方式 情報圧縮の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布プリントを参照し、文字以外の情報のデータ化、特に画像情報のデータ化の方法を知る。 ・情報圧縮の方法を知る。 <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・画像のデータ化の方法を簡単に調べておく。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の描いた画像が授業で紹介した方法でどのように圧縮されるか試してみる。
第15回	<p>情報システムの今後</p> <p>ネットワークで接続された社会の展望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの授業を振り返り、ネットワークシステムにセキュリティが重要であることを再確認する。 ・配布プリントを参照し、文書のセキュリティを確保する方法を知る。 <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの授業内容を再確認する。 ・文書を安全に送受信する方法について調べておく。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出題されている課題を再確認する。

講義科目名称： 情報リテラシーⅡ（P）

授業コード： 51101950

英文科目名称： Information Literasy II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	2	2	選択
担当教員			
辰口 和保			
開講曜限	授業形態		
火1	講義		
添付ファイル			

DPとの関連	<p>■子ども教育学科■</p> <p>■3-3 言葉遣い、挨拶、礼儀、マナーなどの社会的常識や、読み書き、プレゼンテーション力などの社会人として必要なリテラシーを身につけている</p>
--------	---

科目の概要・目的	現代の情報化社会では、「情報」は「コンテンツ」という形に仕立てられ、「メディア」によって提供される。本講義では、専門分野に必要な統計解析を取り上げ、コンピュータを利用して、データの単なる集まりからコンテンツの重要な要素となる意味のある分析結果を引き出す方法の基礎を学ぶ。これらは現代の保育者・教育者の持つべき技能であり、DP3-3のリテラシーの要素である。
学習到達目標	メディアリテラシーを持って、事実に基づいた情報の判断ができる。 統計処理の基本的事項を理解している。 Microsoft Excelを利用してデータの統計的処理が行える。 SPSSを利用した簡単な統計処理が行える。
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 情報システムを実際に動作させながら授業を進める。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 パソコンを利用するとともに、教室システムやMicrosoft Teamsで確認を行いながら授業を進める。</p> <p>【その他特記事項】 特になし</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】 平常点および課題（レポートを含む）</p> <p>【割合】 平常点30%、課題（レポートを含む）70%</p> <p>ただし、すべての課題が受理されることを単位取得の条件とする。</p>
教科書・テキスト	プリントを配布するほか、適宜、授業中に指示する。
参考書	涌井良幸、涌井貞美著「初歩からしっかり学ぶ 実習統計学入門」技術評論社刊 高橋信、トレンドプロ著「マンガでわかる統計学」オーム社 そのほか、適宜、授業中に紹介する。
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	課題を作成し、教材の復習を行うこと。
履修上の留意事項	OAENS利用者登録を行っていること。 ネットワークシステムの利用について理解していること。 （基礎教育科目「情報処理」および「情報リテラシーⅠ」を履修していることが望ましい。）
オフィスアワー	水曜13：00～14：30
課題に対するフィードバックの方法	対面授業の中で、または、メールやMicrosoft Teamsを介して
実務経験	なし
その他	他の科目との連携を考慮する。 課題は自力で行うこと。 おもにコンピュータ室で授業を行う。 授業の進行度合により、内容を変更することがある。 プリント等の配布は、ひとり1部のみとする。紛失しても再配布しないので注意すること。
授業の内容	<p>第1回 はじめに 情報リテラシーⅡの授業の概要 メディアとコンテンツの時代 【事前学修】 ・シラバスを読んでおく。 【事後学修】 ・授業の進行について再確認する。</p> <p>第2回 統計の意味と計算 基本的な統計量 最小二乗法による直線回帰 ・基本的な統計量について理解する。 【事前学修】</p>

第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的統計量・最小二乗法について調べておく。 【事後学修】 ・課題を完成させ、統計量を計算する関数やグラフの取り扱いを再確認する。 <p>統計と表計算ソフトウェア（1）</p> <p>Microsoft Excelを利用した統計解析1 - 統計パッケージの利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Excelアドインの統計パッケージ「分析ツール」の利用法を理解する。 【事前学修】 ・Excelアドインについて調べておく。 【事後学修】 ・課題を完成させ、「分析ツール」の動作を利用方法を再確認する。
第4回	<p>統計と表計算ソフトウェア（2）</p> <p>Microsoft Excelを利用した統計解析2 - サンプルング・不偏推定量・自由度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不偏推定量について理解する。 【事前学修】 ・不偏推定量の意味を調べておく。 【事後学修】 ・課題を完成させ、全数調査と標本調査の違いを再確認する。
第5回	<p>統計と表計算ソフトウェア（3）</p> <p>Microsoft Excelを利用した統計解析3 - 共分散と相関係数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組になったデータから得られる統計情報について理解する。 【事前学修】 ・共分散と相関係数について調べておく。 【事後学修】 ・課題を完成させ、共分散と相関係数の違いを再確認する。
第6回	<p>統計と表計算ソフトウェア（4）</p> <p>Microsoft Excelを利用した統計解析4 - 確率変数と確率分布1 確率密度関数と累積分布関数 一様分布</p> <ul style="list-style-type: none"> ・確率密度関数と累積分布関数の違いについて理解する。 ・一様分布について理解する。 【事前学修】 ・確率分布について調べておく。 【事後学修】 ・課題を完成させ、各種分布に従う乱数の利用方法を再確認する。 ・分布の性質について再確認する。
第7回	<p>統計と表計算ソフトウェア（5）</p> <p>Microsoft Excelを利用した統計解析5 - 確率変数と確率分布2 離散一様分布・二項分布</p> <ul style="list-style-type: none"> ・離散一様分布と二項分布について理解する。 【事前学修】 ・確率分布について再確認する。 【事後学修】 ・課題を完成させ、各種分布に従う乱数の利用方法を再確認する。 ・分布の性質について再確認する。
第8回	<p>統計と表計算ソフトウェア（6）</p> <p>Microsoft Excelを利用した統計解析6 - 正規分布と中心極限定理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正規分布について理解する。 ・統計の最も重要な定理の1つである中心極限定理について理解する。 【事前学修】 ・正規分布と中心極限定理について調べておく。 【事後学修】 ・課題を完成させ、計算に利用する関数について再確認する。 ・正規分布の性質について再確認する。 ・乱数により、中心極限定理の結果がどのように示されたか再確認する。
第9回	<p>統計と表計算ソフトウェア（7）</p> <p>Microsoft Excelを利用した統計解析7 - t分布とχ^2（カイ二乗）分布</p> <ul style="list-style-type: none"> ・t分布とχ^2（カイ二乗）分布について理解する。 【事前学修】 ・それぞれの分布について調べておく。 【事後学修】 ・課題を完成させ、計算に利用する関数について再確認する。
第10回	<p>統計と表計算ソフトウェア（8）</p> <p>Microsoft Excelを利用した統計解析8 - 推定の原理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・統計的な推定について理解する。 【事前学修】 ・中心極限定理について再確認しておく。 【事後学修】 ・課題を完成させ、推定の利用できる条件・方法、信頼度について再確認する。
第11回	<p>統計と表計算ソフトウェア（9）</p> <p>Microsoft Excelを利用した統計解析9 - 検定の原理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検定とは何か、推定と検定の違いを理解する。 【事前学修】 ・検定がどのような場合に利用されるか調べておく。 【事後学修】 ・課題を完成させ、検定の方法や棄却域の意味などを再確認する。
第12回	<p>高度な統計解析ソフトウェア（1）</p> <p>統計解析ソフトウェアSPSSの基礎1 - ExcelからSPSSへ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SPSSの起動やデータの入力方法などについて理解する。 【事前学修】 ・これまでのExcelによる統計計算を再確認しておく。 【事後学修】 ・課題を完成させ、SPSSの操作方法を再確認する。

第13回	<p>高度な統計解析ソフトウェア（2） 統計解析ソフトウェアSPSSの基礎2 ー SPSSでの基本的な統計処理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SPSSでの基本的な統計処理について理解する。 <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SPSSの操作方法を再確認しておく。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題を完成させ、Excelとの利用方法の違いを再確認する。
第14回	<p>高度な統計解析ソフトウェア（3） 統計解析ソフトウェアSPSSの基礎3 ー データ変換 χ^2（カイ2乗）検定 等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大量データに基づく統計処理の実際を知る。 <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SPSSの操作方法を再確認しておく。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題を完成させ、大量データの取り扱い方法を再確認する。
第15回	<p>統計の現代的な応用 ベイズ統計 ビッグデータをコンテンツに仕立てる手法 人工知能の応用</p> <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データサイエンスについて簡単に調べておく。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・統計的手法が教育分野の様々な場面で利用され始めていることを再確認する。

講義科目名称： 基礎英語 I (P)

授業コード： 51102050 51102060

英文科目名称： Basic English I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	1	1	必修
担当教員			
山口 美穂			
開講曜限	授業形態		
水1、2	演習		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■子ども教育学科■</p> <p>■3-2 社会で必要とされる対人関係スキルを身に付け、集団活動において、リーダーシップを発揮し、集団をまとめることができる</p> <p>■3-3 言葉遣い、挨拶、礼儀、マナーなどの社会的常識や、読み書き、プレゼンテーション力などの社会人として必要なリテラシーを身につけている</p>
科目の概要・目的	基礎的な英語の総合的運用能力の養成のために、BBC Learning Englishの映像から、国や地域の文化的側面を比較し説明する。リスニング力 スピーキング力の向上することを目的として。授業では、ニュースの内容について分かりやすい英語で再構築したり、英語を用いて積極的にコミュニケーションを続けたりすることができるように アクティブラーニングやペアでのコミュニケーション活動を設定する。
学習到達目標	「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4技能を高めるとともに、「聞いたり、話したり」「読んだり、話したり」するなど、複数の技能を統合させたタスクを通して、即興的なコミュニケーション力を向上させたり、自分の考えを英語を用いて的確に伝えたりすることができるようになる。
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 グループディスカッション</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 特になし</p> <p>【その他特記事項】 ペアやグループでの会話をする場面が多くある。</p>
成績評価の方法	【評価項目】 【割合】 英語のプレゼンテーションとインタビューによる個別の面接評価 (50%) ・毎時間の授業中のタスクの取り組み (50%)
教科書・テキスト	授業時間にプリント配布
参考書	BBC Learning English ウェブサイト http://www.bbc.co.uk/learningenglish/english/features/lingohack
授業時間外の学修について(事前・事後学習について)	授業中の発表活動に向けた準備や練習、関連する事柄の調査など各自の活動が必要となる。毎週、1週間で自習により視聴したBBC Learning Englishの内容について報告する。
履修上の留意事項	BBC Learning English ウェブサイトを使った自主学習ができる環境が必要である。
オフィスアワー	月曜日1限・2限の授業終了後、月曜日5限 その他(必要に応じてメールで連絡) 1号館314研究室
課題に対するフィードバックの方法	タスクへの取り組みについては授業内で評価する。毎時間の授業プリントは添削して返却し、フィードバックを行う。個別の面接パフォーマンスについてはその場で評価する。
実務経験	小学校教諭 中学校教諭 主幹教諭 教頭
その他	常時、学習相談に応じます。(事前にメールで連絡してください。)
授業の内容	<p>第1回 オリエンテーション これまでの自己の英語学習を振り返る。 【事前学修】これまでの英語学習の課題を明らかにしておく。 【事後学修】講義で学んだことから自己の到達目標をもつ。 BBC Learning Englishの動画を視聴して abstractを書く。</p> <p>第2回 BBC Words in the News Topic1 BBC Words in the News Topic1を視聴して内容を理解する。 【事前学修】新出単語の復習をする。 【事後学修】プリントの本文の音読練習をする。 BBC Learning Englishの動画を視聴して abstractを書く。</p> <p>第3回 BBC Words in the News Topic1 reading BBC Words in the News Topic1 の英文を音読する。 【事前学修】プリントの本文の音読練習をする。 【事後学修】配布した英字新聞の記事を読む。 BBC Learning Englishの動画を視聴して abstractを書く。</p> <p>第4回 BBC Words in the News Topic1 retelling BBC Words in the News Topic1の内容を相手に伝えるように英語で話す。</p>

第5回	<p>【事前学修】プリント本文の音読練習をする。 【事後学修】BBC Podcast 『Lingohack』のEPISODEの視聴して内容をまとめる。 BBC Words in the News Topic1 interview グループで役割を決めて仮想インタビューをする。 【事前学修】課題文章の音読練習をする。 【事後学修】BBC Podcast 『Lingohack』のEPISODEを視聴して発表の準備をする。</p>
第6回	<p>Loud Speaker グループで役割を決め、英文を聞き、内容を把握してディスカッションをする。 BBC Podcast 『Lingohack』のRetellingをする。 【事前学修】視聴した映像の内容をまとめて、ペアに伝えられるように準備する。 【事後学修】BBC Podcast 『Lingohack』のEPISODEの視聴して内容をまとめる。</p>
第7回	<p>Great invention in the past 日常の機器の変換の説明の英文をリスニングすることにより内容を掴む。 【事前学修】課題文章の音読練習をする。 【事後学修】BBC Podcast 『Lingohack』のEPISODEの視聴して内容をまとめる。</p>
第8回	<p>MILLIONAIRE ,Chat MILLIONAIREの動画を視聴して内容を掴む。ペアで英語で雑談する。 【事前学修】視聴した映像の内容をまとめて発表できるようにする。 【事後学修】BBC Podcast 『Lingohack』のEPISODEの視聴して発表の準備をする。</p>
第9回	<p>BBC Words in the News Topic2 Group Work Reporting1 内容を掴み、自分で分かりやすく伝えられるように再構成して話す。 BBC Podcast 『Lingohack』のRetellingをする。 【事前学修】視聴した映像の内容をまとめて、ペアに伝えられるようにする。 【事後学修】英字新聞の記事を読む。</p>
第10回	<p>BBC Words in the News Topic2 Group Work Reporting2 Topic2の内容について「Show & Tell」の発表をする。 【事前学修】発表課題について練習する。 【事後学修】BBC Podcast 『Lingohack』のEPISODEの視聴し、内容をまとめる。</p>
第11回	<p>BBC Words in the News Topic3 listening BBC Words in the News Topic13を視聴して内容を理解する。 【事前学修】視聴した映像の内容をまとめる。 【事後学修】英字新聞の記事を読む。 BBC Podcast 『Lingohack』のEPISODEの視聴して発表の準備をする。</p>
第12回	<p>BBC Words in the News Topic3 reading BBC Words in the News Topic3の英文を音読する。 BBC Podcast 『Lingohack』のRetellingをする。 【事前学修】新出単語の復習をする。 【事後学修】プリントの本文の音読練習をする。</p>
第13回	<p>BBC Words in the News Topic3 retelling BBC Words in the News Topic3の内容が伝わるように英語で話す。 【事前学修】プリントの本文と重要表現の音読練習をする。 【事後学修】BBC Podcast 『Lingohack』のEPISODEの視聴し、内容をまとめる。</p>
第14回	<p>BBC Words in the News Topic3 interview グループで役割を決めて仮想インタビューをする。 【事前学修】インタビューの役について実技練習をする。 【事後学修】BBC Podcast 『Lingohack』のEPISODEの視聴し、内容をまとめる。</p>
第15回	<p>まとめ まとめと課題の指示 自分で選択したBBCニュースのretellingをする。 【事前学修】視聴した映像の内容をまとめる。 【事後学修】今後の英語学習継続のための計画を立てる。</p>

講義科目名称： 体育講義（P）

授業コード： 51102450

英文科目名称： Physical Education Theory

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	1	1	必修
担当教員			
村田 トオル			
開講曜限	授業形態		
火3	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■子ども教育学科■</p> <p>■1-1 子どもの発達に関する基本的知識を有し、子ども一人一人の特性や心身の状況を多面的に捉えることができる</p> <p>■3-1 獲得した知識・技能を活かして、自らの学びを常に省察し、課題を見つけて改善し続けることができる</p>
---------	---

科目の概要・目的	現代社会においては、健康・体力づくりの重要性が大きく指摘されている。特に子どもにおいては「運動能力や体力の二極化現象」が課題となっている。この授業では、まずは体育、スポーツの意義や価値にふれた上で、自分自身の体力の現状を知るとともに、生涯にわたって健康を維持・増進し、健康で文化的な、人間らしい生活を営むための基礎的な事柄を中心に学ぶ。
学習到達目標	①自身の健康観や運動の重要性に気づき日常の実践活動に生かすことができる。 ②子どもの発育発達の基礎を理解できるようになる。
授業の方法	【アクティブラーニングの取り入れ状況】 グループによる対話や発表などのワークショップを取り入れる。 【ICTを利用した双方向授業】 なし 【その他特記事項】 なし
成績評価の方法	【評価項目】 平常点（参加態度等）60% 課題レポート40%
教科書・テキスト	特に指定しない。必要に応じて適宜プリントを配布する。
参考書	文部科学省 学習指導要領（体育編）
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	授業で学んだことについて意識を深めること スポーツや体育、体力等に関する記事やニュース等を意識して読むようにすること。
履修上の留意事項	第1回目に示す、ルールを遵守すること
オフィスアワー	金以外の昼休み
課題に対するフィードバックの方法	授業内での質疑応答等による
実務経験	①スポーツ財団職員（管理職） ②健康運動指導士としての講演活動
その他	特になし

授業の内容	<p>第1回 オリエンテーション・健康について 授業の進め方の確認など 【事前学修】 シラバスをよく読んでおくこと 【事後学修】 授業の進め方について理解しておくこと</p> <p>第2回 現代の健康づくり① 栄養、運動、休養の視点から 【事前学修】 健康の意義について調べておく 【事後学修】 3分野からできることを実践すること</p> <p>第3回 現代の健康づくり② 医療費との関連 【事前学修】 日本の医療費について調べておく 【事後学修】 日本の健康保険制度についてまとめておく</p> <p>第4回 不定愁訴 生活動作の視点から 【事前学修】 不定愁訴について調べておく 【事後学修】 不調改善のための方法を実践すること</p> <p>第5回 ランニングとウォーキング 安全で効果的な方法を学ぶ</p>
-------	---

	<p>【事前学修】ウォーキングの効果について調べておく 【事後学修】軽運動を実践すること</p> <p>第6回 喫煙とアルコール 喫煙とアルコールによる身体への影響について学ぶ 【事前学修】受動喫煙, 飲酒について調べておく 【事後学修】児童への説明方法についてまとめておく</p> <p>第7回 子どもの発育発達 幼児期・児童期について学ぶ 【事前学修】幼児期, 児童期の特徴を調べておく 【事後学修】3~12歳までの発育発達についてまとめておく</p> <p>第8回 スポーツ活動における応急処置 教員として知っておくべきスポーツ障害について 【事前学修】熱中症について調べておく 【事後学修】熱中症の防止策についてまとめておく</p>
--	--

講義科目名称： 体育実技（P）

授業コード： 51102550 51102560

英文科目名称： Physical Education Practice

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	1	1	必修
担当教員			
村田 トオル			
開講曜限	授業形態		
火1、	実技		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■子ども教育学科■</p> <p>■3-1 獲得した知識・技能を活かして、自らの学びを常に省察し、課題を見つけて改善し続けることができる</p> <p>■3-2 社会で必要とされる対人関係スキルを身に付け、集団活動において、リーダーシップを発揮し、集団をまとめることができる</p>
---------	--

科目の概要・目的	<p>現代社会においては、健康・体力づくりの重要性が大きく指摘されている。特に子どもにおいては「運動能力や体力の二極化現象」が課題となっている。</p> <p>この授業では、まずは自分自身の体力の現状を知るとともに、小学校学指導要領、幼稚園教育要領、保育指針の内容に沿って実技をすすめる。</p>
学習到達目標	<p>①自身の健康観や運動の重要性に気づき日常の実践活動に生かすことができる。</p> <p>②授業の進め方の基礎を理解できるようになる。</p> <p>③初等教科教育法(体育)、子どもと健康、保育内容(健康)につながる基礎的内容を理解できるようになる。</p>
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 実技形式で行う。必要に応じてグループワーク等を行う。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 特になし</p> <p>【その他特記事項】 特になし</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】 平常点（参加態度等）70% レポート20% 実技テスト10%</p>
教科書・テキスト	特に指定しない。必要に応じて適宜プリントを配布する。
参考書	文部科学省 小学校学習指導要領解説（体育編）
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	授業で学んだことについて意識を深めること。特に体育における自分の得意不得意分野など。
履修上の留意事項	第1回目に話す、ルールを遵守すること。
オフィスアワー	金以外の昼休み
課題に対するフィードバックの方法	適宜に授業時間内で行う。
実務経験	<p>①スポーツ財団職員（管理職）</p> <p>②健康運動指導士としての講演活動</p>
その他	特になし
授業の内容	<p>第1回 オリエンテーション、アイスブレイク 授業の進め方の確認やグループづくりなど 【事前学修】 シラバスをよく読んでおくこと 【事後学修】 グループづくりの方法についてまとめておく</p> <p>第2回 体力測定① シャトルラン以外の種目を実施する 【事前学修】 測定方法を確認しておくこと 【事後学修】 実施した内容をまとめておく</p> <p>第3回 体力測定② シャトルランを実施する 【事前学修】 測定方法を確認しておくこと 【事後学修】 実施した内容をまとめておく</p> <p>第4回 自分の体力の分析 体力測定の結果を各自で分析して自己の課題を知る 【事前学修】 測定結果をまとめておくこと 【事後学修】 自己の課題の改善策を実践すること</p> <p>第5回 ラジオ体操 第1、第2を練習し、テストを実施する 【事前学修】 方法を確認しておくこと</p>

第6回	<p>【事後学修】不安がある部分を確認しておくこと 体づくり運動 器具を使った体づくり運動を行う。</p>
第7回	<p>【事前学修】体づくり運動についてまとめておく 【事後学修】自分がすぐにできそうな内容をまとめておく ボール運動①（ネット型） バレーボール</p>
第8回	<p>【事前学修】ルールを確認しておくこと 【事後学修】実施した内容をまとめておく ボール運動②（ネット型） バドミントン</p>
第9回	<p>【事前学修】ルールを確認しておくこと 【事後学修】実施した内容をまとめておく ボール運動③（ゴール型） バスケットボール</p>
第10回	<p>【事前学修】ルールを確認しておくこと 【事後学修】実施した内容をまとめておく ボール運動④（ゴール型） ミニサッカー</p>
第11回	<p>【事前学修】ルールを確認しておくこと 【事後学修】実施した内容をまとめておく 表現運動① ダンスの作成</p>
第12回	<p>【事前学修】オリジナルの振り付けを考えておく 【事後学修】適宜グループで振り付けの確認をしておく 表現運動② 発表と相互評価</p>
第13回	<p>【事前学修】発表できる準備をしておく 【事後学修】適宜グループで振り返りを行う 器械運動 マット、跳び箱、平均台の基礎を行う</p>
第14回	<p>【事前学修】低学年の種目について調べておくこと 【事後学修】自分の得意不得意を確認しておく ニュースポーツ 体育授業に活かせるニュースポーツを行う</p>
第15回	<p>【事前学修】ニュースポーツについて調べておく 【事後学修】実施した内容をまとめておく 学生企画 企画立案を行い実施する 【事前学修】進行やルールを確認しておくこと 【事後学修】各自振り返りを行う</p>

講義科目名称： ボランティア論

授業コード： 51102800

英文科目名称： Volunteer Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	1	2	選択
担当教員			
則武 立樹			
開講曜限	授業形態		
木1	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■子ども教育学科■</p> <p>■3-1 獲得した知識・技能を活かして、自らの学びを常に省察し、課題を見つけて改善し続けることができる</p> <p>■3-3 言葉遣い、挨拶、礼儀、マナーなどの社会的常識や、読み書き、プレゼンテーション力などの社会人として必要なリテラシーを身につけている</p>
---------	--

科目の概要・目的	<p>少子高齢化、人口減少の問題を抱える現代日本社会では、その抜本的な解決策を講じることもできないまま、「人との繋がり」が希薄な時代を長く続けている。さらに、2020年の新型コロナウイルスの感染爆発によって私たちの生活様式は一変し、人との関りがこれまで以上に失われたことは私たちの誰もが肌で感じていることであろう。このような時代に生きる私たちであるからこそ、日々の暮らしのなかで「共に支え合うことができる社会」の構築を目指すことが求められていると言える。</p> <p>そこで、本講義では「ボランティア活動」を通じて育まれる人との繋がりや支え合うことのできる社会の実現可能性を知ることを目的とし、災害、福祉、地域社会など数多くの具体的実践を学ぶことでボランティアの意義を知る。</p>
----------	--

学習到達目標	<p>1. ボランティアの具体的な意味、必要性について自分の言葉でまとめることができる。</p> <p>2. ボランティア活動が「共に支え合うことができる社会の構築」とどのように関係しているのかを説明できる。</p> <p>3. ボランティア活動の論理について、過去の具体的な実践例を交えて説明することができる。</p>
--------	--

授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 特になし</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 特になし</p> <p>【その他特記事項】 特になし</p>
-------	---

成績評価の方法	<p>【評価項目】 平常点：授業参加度、コメントカードの提出及びその内容 授業内試験：筆記試験</p> <p>【割合】 「平常点 (30%)」、「授業内試験 (70%)」</p>
---------	---

教科書・テキスト	特に指定なし。授業時、授業資料を配布する。
----------	-----------------------

参考書	<ul style="list-style-type: none"> 『ボランティア論「広がり」から「深まり」へ』、柴田謙治・原田正樹・名賀亨編（みらい、2010年） 『ボランティアってなんだっけ？』、猪瀬浩平著（岩波ブックレット、2020年） 『ボランティア活動論』、田中康雄・小口将典・竹下徹編著（ミネルヴァ書房、2023年）
-----	--

授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	シラバスに書かれている授業計画を参照し、各自、予習復習をすること。
---------------------------	-----------------------------------

履修上の留意事項	<p>そもそも「ボランティア」とは何を指すのか？なぜボランティア活動に参加する（しなければならない）のか？など、次世代を担う学生の皆さんのふとした疑問に答えられる授業を展開していく。なお、授業運営の説明を行うので第1回目の授業には必ず出席すること。授業中の私語については固く禁じる。</p>
----------	---

オフィスアワー	授業開始前、終了後に教室にて受ける。
---------	--------------------

課題に対するフィードバックの方法	コメントカードについては次回授業時にフィードバックを行う。
------------------	-------------------------------

実務経験	特になし
------	------

その他	特になし
-----	------

授業の内容	<p>第1回</p> <p>ガイダンス-ボランティアとは何か、そしてなぜ必要なのか。 大規模災害発生時の被災地支援等によく聞かれる「ボランティア」の単語がどのような意味を持つのか。その必要性に迫る。 【事前学修】「ボランティア」という言葉に対する自分の持つイメージを固めておくこと。 【事後学修】講義内容について自身の言葉で再整理すること。</p>
-------	--

第2回	<p>ボランティア活動の基本的性格、理念・理想</p> <p>ボランティア活動はどのような状況下で、どのような理念に基づき行われるのか。そのあるべき姿について学ぶ。</p> <p>【事前学修】 ボランティア活動についてのイメージを固め、疑問点をまとめておくこと。</p> <p>【事後学修】 講義内容について自身の言葉で再整理すること。</p>
第3回	<p>ボランティアとNPO</p> <p>ボランティアの活動主体としてのNPO（非営利団体）とは何か、その誕生経緯と役割、そして限界を知る。</p> <p>【事前学修】 NPOに関するインターネット上の記事を読み、疑問点をまとめておくこと。</p> <p>【事後学修】 講義内容について自身の言葉で再整理すること。</p>
第4回	<p>SDGsとは何か？</p> <p>SDGs（持続可能な開発目標）の具体的意味と歴史を学び、SDGsの目標達成に貢献するボランティアの役割について知る。</p> <p>【事前学修】 SDGsとボランティアに関するインターネット上の記事を読み、疑問点をまとめておくこと。</p> <p>【事後学修】 講義内容について自身の言葉で再整理すること。</p>
第5回	<p>企業における社会貢献活動—CSR：企業の社会的責任—</p> <p>CSRの理念と企業のあるべき姿を学び、CSRに基づく社会貢献活動の効果と限界について知る。</p> <p>【事前学修】 CSRに関するインターネット上の記事を読み、疑問点をまとめておくこと。</p> <p>【事後学修】 講義内容について自身の言葉で再整理すること。</p>
第6回	<p>ボランティア活動の実践例①女性支援</p> <p>貧困女性、ひとり親家庭支援の具体例について学ぶ。</p> <p>【事前学修】 貧困女性、ひとり親家庭支援に関するインターネット上の記事を読み、疑問点をまとめておくこと。</p> <p>【事後学修】 講義内容について自身の言葉で再整理すること。</p>
第7回	<p>ボランティア活動の実践例②LGBTQ+支援</p> <p>同性カップル、性別違和者支援の具体例について学ぶ。</p> <p>【事前学修】 同性間パートナーシップ、性自認に関するインターネット上の記事を読み、疑問点をまとめておくこと。</p> <p>【事後学修】 講義内容について自身の言葉で再整理すること。</p>
第8回	<p>ボランティア活動の実践例③子ども支援</p> <p>子ども食堂、フリースクール等の支援の具体例について学ぶ。</p> <p>【事前学修】 子ども食堂の仕組みやフリースクールに関するインターネット上の記事を読み、疑問点をまとめておくこと。</p> <p>【事後学修】 講義内容について自身の言葉で再整理すること。</p>
第9回	<p>ボランティア活動の実践例④路上生活者支援</p> <p>炊き出し、巡回支援等の具体例について学ぶ。</p> <p>【事前学修】 炊き出し、巡回支援に関するインターネット上の記事を読み、疑問点をまとめておくこと。</p> <p>【事後学修】 講義内容について自身の言葉で再整理すること。</p>
第10回	<p>ボランティア活動の実践例⑤外国籍住民支援</p> <p>親に対する就労相談や日本語を母語としない子どもに対する日本語学習支援の具体例について学ぶ。</p> <p>【事前学修】 外国籍住民に対する就労相談、学習支援に関するインターネット上の記事を読み、疑問点をまとめておくこと。</p> <p>【事後学修】 講義内容について自身の言葉で再整理すること。</p>
第11回	<p>ボランティア活動の実践例⑥災害/被災地支援</p> <p>ボランティア元年と呼ばれる阪神淡路大震災におけるボランティア活動と近年のボランティア活動の比較を通じて、日本におけるボランティア概念の変化を学ぶ。</p> <p>【事前学修】 被災地支援に関するインターネット上の記事を読み、疑問点をまとめておくこと。</p> <p>【事後学修】 講義内容について自身の言葉で再整理すること。</p>
第12回	<p>ボランティア活動の実践例⑦環境問題</p> <p>プラスチックごみ問題に対するボランティア活動について具体例を交えて学ぶ。</p> <p>【事前学修】 プラスチックごみ問題に関するインターネット上の記事を読み、疑問点をまとめておくこと。</p> <p>【事後学修】 講義内容について自身の言葉で再整理すること。</p>
第13回	<p>ボランティア活動の実践例【まとめ】諸外国と日本の違い①</p> <p>アメリカ、イギリス、ドイツ、フランス、スウェーデンにおける「ボランティア」の意味、役割、あり方の違いを実践例から学ぶ。</p> <p>【事前学修】 上記の国々のボランティア活動に関するインターネット上の記事を読み、疑問点をまとめておくこと。</p> <p>【事後学修】 講義内容について自身の言葉で再整理すること。</p>
第14回	<p>ボランティア活動の実践例【まとめ】諸外国と日本の違い②</p> <p>中国、韓国における「ボランティア」の意味、役割、あり方を実践例から学び、総括として、日本との明確な違いを探る。</p> <p>【事前学修】 上記の国々のボランティア活動に関するインターネット上の記事を読み、疑問点をまとめておくこと。</p>

【事後学修】講義内容について自身の言葉で再整理すること。

第15回

まとめと授業内試験
授業内試験（筆記試験）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	1	1	必修
担当教員			
田岡昌大、戸松玲子、永井正幸、佐藤琢志、高木典子、藤丸一郎、山田綾、村田トオル、桐山由香、黒澤祐介、西堂直子、服部太、林富公子、山口美穂、金川弘希、鈴木順子、徳留由貴			
開講曜限	授業形態		
水4	演習		
添付ファイル			

DPとの関連	<p>■子ども教育学科■</p> <p>■3-1 獲得した知識・技能を活かして、自らの学びを常に省察し、課題を見つけて改善し続けることができる</p> <p>■3-3 言葉遣い、挨拶、礼儀、マナーなどの社会的常識や、読み書き、プレゼンテーション力などの社会人として必要なリテラシーを身につけている</p>
科目の概要・目的	<p>この授業では、次の2つのことを目的とする。</p> <p>第1には、履修者の「キャリア」の意識を形成し高めることである。講義や演習を通じて、現時点での「大学で学ぶこと」から将来展望とを結びつけて考え、それによって大学での学びを自らの「キャリア」と結び付けて考えることを目指す。</p> <p>第2には、大学で学び、卒業後も学び続けるための基礎的なスキル（「アカデミック・スキルズ」）の習得である。大学で学ぶことも、卒業後に学び続けることも、いずれも自らのキャリアを実現する上では重要なことである。しかし、その学びを有益なものにするためには、それに応じたスキルが必要である。したがって、「キャリア」の認識を深めることを通じて、同時に、学び続けるための基礎的なスキルの修得を目指す。</p> <p>授業については、講義形式と少人数での演習（ゼミナール形式）を混合させて実施する。これらを重ねて行うことによって、上記2つの目的を達成することを目指す。</p>
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・大学での学修のための基礎的なスキルを身に付け、実践することができる。 ・「キャリア」の意味を理解し、その観点から思考することができる。 ・大学での学修を自身の将来展望と結びつけることができる。 ・自分らしい生き方としてのキャリアを構想し、適切に表現することができる。
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数での演習にて、ディスカッションや発表などを行う。 <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業回によって、学内グループウェアを使用して授業を実施する。何を、どのように使用するかは授業内にて指示と説明を行う。 <p>【その他特記事項】</p> <p>なし</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習での議論への参加、課題への取り組みなど ・中間 レポート ・まとめレポート <p>【割合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習での議論への参加、課題への取り組みなど (30%) ・中間 レポート (30%) ・まとめレポート (40%)
教科書・テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・指定なし。
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内にて適宜紹介する。
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	<ul style="list-style-type: none"> ・演習の際には、発表の準備や資料等を事前に読んでおくことが求められる。必ず、指定の課題に取り組んで出席すること。 ・文献の中身で分からない所は、調べておくなどして理解を深めておくこと。 ・本授業で身につけるスキルは、「学修基礎演習」と重なっている。「学修基礎演習」での学習を踏まえて受講すること。
履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・演習形式の際には、無断欠席や準備不足は他の出席者に迷惑がかかる。欠席する場合は、必ず、担当教員に事前に連絡すること。 ・ディスカッションに積極的に参加すること。また、そのための準備を怠らないこと。 ・本授業は、演習（ゼミ形式）であることを鑑み、ゼミ活動の点数が著しく低い場合は再試験を実施しないこともある。
オフィスアワー	<ul style="list-style-type: none"> ・各教員のオフィスアワーは、担当教員に直接確認すること。
課題に対するフィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> ・全体またはゼミ内で課された課題については、各ゼミにてフィードバックを行う。
実務経験	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし
授業の内容	

第1回	<p>オリエンテーション（全体）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本講義の目的、評価の方法について理解する。 ・「キャリア」概念について理解する。 <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバスを読んで、講義概要を理解しておくこと。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己理解に関する課題に、各自で取り組む。
第2回	<p>講義：大学での学びとキャリア（1）（全体）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学での学びとキャリア形成の関係について、講義を通じて理解する。 ・講義内容を踏まえて、自身のキャリア形成について考える。 <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自身のこれまでの学びの軌跡を振り返ってまとめておく。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容を要約し、感想等をまとめる。 ・講義時に配布された資料を読んでおく。
第3回	<p>演習：大学での学びとキャリア（1）（演習）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の講義内容を踏まえて、各演習グループに分かれてディスカッションを行う。 ・高校までの自身の学びの振り返り、大学での学びの展望についてディスカッションを行う。 <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の講義内容をまとめた資料を作成する。 ・前回の内容に関わる資料を読んでおく。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ディスカッションの要点を整理する。
第4回	<p>講義：大学での学びとキャリア（2）（全体）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学での学びとキャリア形成の関係について、講義を通じて理解する。 ・講義内容を踏まえて、自身のキャリア形成について考える。 <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自身のこれまでの軌跡を振り返り、大学の学びの意味を考えてまとめる。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容を要約し、感想等をまとめる。 ・講義時に配布された資料を読んでおく。
第5回	<p>演習：大学での学びとキャリア（2）（演習）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の講義内容を踏まえて、各演習グループに分かれてディスカッションを行う。 ・将来の展望を踏まえながら、大学での学びのデザインについてディスカッションを行う。 <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の講義内容をまとめた資料を作成する。 ・前回の内容に関わる資料を読んでおく。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ディスカッションの要点を整理する。 ・ディスカッションを踏まえて小レポートを作成する。
第6回	<p>講義：働くということ（1）（全体）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学の学びと「働く」ということについて、講義を通じて理解する。 ・講義内容を踏まえて、自身の大学での学びについて考える。 <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何のために働くのかについて、考えてまとめる。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容を要約し、感想等をまとめる。 ・講義時に配布された資料を読んでおく。
第7回	<p>演習：働くということ（1）（演習）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の講義内容を踏まえて、各演習グループに分かれてディスカッションを行う。 ・「働く」ということについてのイメージや実際について、ディスカッションを行う。 <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の講義内容をまとめた資料を作成する。 ・前回の内容に関わる資料を読んでおく。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ディスカッションの要点を整理する。
第8回	<p>講義：働くということ（2）（全体）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学の学びと「働く」ということについて、講義を通じて理解する。 ・講義内容を踏まえて、自身の大学での学びについて考える。 <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自身の将来展望と仕事の関係について、考えてまとめる。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容を要約し、感想等をまとめる。 ・講義時に配布された資料を読んでおく。
第9回	<p>演習：働くということ（2）（演習）</p>

	<p>・前回の講義内容を踏まえて、各演習グループに分かれてディスカッションを行う。 ・「働く」ということについて、具体的な話題に基づきながらディスカッションを行い、自らの将来展望と結びつける。</p> <p>【事前学修】 ・前回の講義内容をまとめた資料を作成する。 ・前回の内容に関わる資料を読んでおく。</p> <p>【事後学修】 ・ディスカッションの要点を整理する。 ・ディスカッションを踏まえて小レポートを作成する。</p> <p>第10回 講義：教育／保育／福祉を仕事にすること（1）（全体） ・教育／保育／福祉を仕事にすることについて、講義を通じて理解する。 ・講義内容を踏まえて、自身の大学での学びについて考える。</p> <p>【事前学修】 ・これらの職種をなぜ目指すのかについて、考えておく。</p> <p>【事後学修】 ・講義内容を要約し、感想等をまとめる。 ・講義時に配布された資料を読んでおく。</p> <p>第11回 演習：教育／保育／福祉を仕事にすること（1）（演習） ・前回の講義内容を踏まえて、各演習グループに分かれてディスカッションを行う。 ・「働く」を踏まえつつ、教育・保育・福祉に即したキャリアについてディスカッションを行う。</p> <p>【事前学修】 ・前回の講義内容をまとめた資料を作成する。 ・前回の内容に関わる資料を読んでおく。</p> <p>【事後学修】 ・ディスカッションの要点を整理する。</p> <p>第12回 講義：教育／保育／福祉を仕事にすること（2）（全体） ・教育／保育／福祉を仕事にすることについて、講義を通じて理解する。 ・講義内容を踏まえて、自身の大学での学びについて考える。</p> <p>【事前学修】 ・これらの職種を目指す上で求められる資質能力について、考えておく。</p> <p>【事後学修】 ・講義内容を要約し、感想等をまとめる。 ・講義時に配布された資料を読んでおく。</p> <p>第13回 演習：教育／保育／福祉を仕事にすること（2）（演習） ・前回の講義内容を踏まえて、各演習グループに分かれてディスカッションを行う。 ・教育・保育・福祉を仕事にすることと、そのための大学での学びについてディスカッションを行う。</p> <p>【事前学修】 ・前回の講義内容をまとめた資料を作成する。 ・前回の内容に関わる資料を読んでおく。</p> <p>【事後学修】 ・ディスカッションの要点を整理する。 ・ディスカッションを踏まえて小レポートを作成する。</p> <p>第14回 演習：まとめ（演習） ・各演習グループで、ここまでの学びの内容の報告、ディスカッションを行う。 ・特に「大学での学び」「働くこと」「教育・保育・福祉」を結び付けて、キャリアを展望する。</p> <p>【事前学修】 ・各講義の内容と、それを踏まえたディスカッションの内容を振り返って整理しておく。</p> <p>【事後学修】 ・全体を通じて明らかになったことを整理する。 ・それを踏まえて大学4年間をどうデザインするか考え、まとめられるよう準備する。</p> <p>第15回 講義：全体のふりかえり（全体） これまでの活動内容を振り返り、改めて「キャリア」について考える。</p> <p>【事前学修】 ・前回のまとめのディスカッションを踏まえて、まとめておく。</p> <p>【事後学修】 ・最終レポートに向けた準備を行う。</p>
--	--

講義科目名称： 学修基礎演習

授業コード： 51103300

英文科目名称： Basic Exercises for Learning

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	1	2	選択
担当教員			
田岡 昌大、高木 典子、服部 太、村田 トオル、金川 弘希、鈴木 順子			
開講曜限	授業形態		
月3	演習		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■子ども教育学科■</p> <p>■3-1 獲得した知識・技能を活かして、自らの学びを常に省察し、課題を見つけて改善し続けることができる</p> <p>■3-3 言葉遣い、挨拶、礼儀、マナーなどの社会的常識や、読み書き、プレゼンテーション力などの社会人として必要なリテラシーを身につけている</p>
---------	--

科目の概要・目的	<p>この授業の目的は、大学で学ぶ（学修）ためのスキルを理解し、また、身につけるためのトレーニングを行うことである。</p> <p>大学で学ぶ内容には、専門的な知識や技術が含まれる。これらの内容を学ぶためには、それに相応したスキルを必要とする。学ぶためのスキルは、高校までの学習を通じてすでに一定身につけているだろう。しかし、大学での学びに対応するためには、既に身につけているスキルだけで対応するのではなく、そのバージョンアップや新たなスキルの獲得が必要となる。</p> <p>この授業では、大学で学ぶためのスキルを「アカデミック・スキル」とする。その内容には複数のスキルが含まれるが、この授業では「読む」「書く」のスキルのトレーニングを中心とする。具体的には、テキストや参考書を読むため、主体的に学ぶためのスキル（「読む」）と、それをまとめ、レポートを書くためのスキル（「書く」）である。授業を通じて、これらの基礎的な考え方を理解すると共に、授業内外での課題を通じて基礎的なスキルを身につけることを目指す。</p>
----------	--

学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・大学での学修がどのようなものか理解し、実践することができる。 ・大学での学修に必要な資料の収集、整理、読解ができる。 ・適切にレポートを構想し、執筆することができる。
--------	--

授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内にて、グループワークや個人で取り組む課題等を課す。 <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に無し <p>【その他特記事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に無し
-------	--

成績評価の方法	<p>【評価項目】 【割合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿題、予習課題など (25%) ・授業内課題 (25%) ・定期試験（レポート） (50%)
---------	--

教科書・テキスト	<p>①上田紀行編 2020 『新・大学でなにを学ぶか』 岩波書店</p> <p>②「レポート／卒論の手引き」 （講義担当者による自作資料。講義時に配布する。）</p>
----------	--

参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・参考書については各授業内にて示すが、全体に関わるものとしては以下。 <p>佐藤望編2012『アカデミックスキルズ（第3版）』慶應義塾大学出版会 戸田山和久2022『最新版 論文の教室 レポートから卒論まで』NHKブックス</p> <p>その他、本授業に関わる参考書は図書館・メディアセンターに蔵書がある。</p>
-----	---

授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内で課題（宿題）を課すため、欠かさず取り組むこと。 また、そのためのスケジュールを自分で組んで計画的に課題に取り組むこと。 ・授業で学んだスキルは、本授業を受講するのみで身につくものではない。 他の講義を受講する際に実際に試すなどして、授業外でも意識して取り組むこと。 特に「キャリアデザイン」は、この科目と連動している科目である。この科目の内容を意識して受講すること。 ・本授業の内容に関連して分からないことなどは、担当教員や担任教員以外にもピア・リーダーやリテラシー・サポートセンター（本館2階）に相談することができる。 分からないことは放置せず、適宜相談などを行うこと。
---------------------------	---

履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で課された課題に取り組んだうえで受講すること。 ・原則として私語は厳禁だが、質問・意見等がある場合は内容を全体で共有するため、積極的な発言を求める。
----------	--

オフィスアワー	<ul style="list-style-type: none"> ・金曜3限（田岡） ・他教員については、授業内にて確認のこと。
---------	--

課題に対するフィードバックの	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内外での課題については、添削・採点等を行い返却する。
----------------	---

方法	
実務経験	該当なし
その他	特になし
授業の内容	<p>第1回 大学での「学び」とは何か</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この授業の概要を理解する。 ・大学での学びとは何かと、そのためのスキルはどのようなものか理解する。 <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバスを読んで授業概要を把握しておくこと。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内にて課題を指示する。 <p>第2回 スタディ・スキル（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アカデミックスキルについて理解する。 ・時間外学修の意義と方法について理解する。 <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書①の内、最低でも1章分を読んでおく。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内にて課題を指示する。 <p>第3回 スタディ・スキル（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学の学修方法について理解する。 ・要約の考え方について理解する。 <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2回に指示された予習課題に取り組んでおく。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内にて課題を指示する。 <p>第4回 スタディ・スキル（3）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学ぶために必要な技法（動機付けや目標設定、時間確保など）を学ぶ。 ・自らの学習状況を振り返り、学習計画の立て方を学ぶ。 <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第3回で指示された予習用課題に取り組んでおく。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内にて課題を指示する。 <p>第5回 スタディ・スキル（4） 図書館ガイダンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学図書館の活用方法（資料の探し方など）を学ぶ。 ・図書館に実際に行って、図書館の使い方を学ぶ。 <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第4回で指示された予習用課題に取り組んでおく。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内にて課題を指示する。 <p>第6回 リーディング・スキル（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「批判的思考」について学ぶ。 ・「批判的思考」を演習する。 <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第5回で指示された予習用課題に取り組んでおく。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内にて課題を指示する。 <p>第7回 リーディング・スキル（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章の読み方に関する基本的な技術を学ぶ。 ・基本的な文章の読み方を演習する。 <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第6回で指示された予習用課題に取り組んでおく。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内にて課題を指示する。 <p>第8回 リーディング・スキル（3）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の基本的な技術と「批判的思考」を踏まえて、応用的な「読む」技法を学ぶ。 ・応用的な文章の読み方を演習する。 <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第7回で指示された予習用課題に取り組んでおく。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内にて課題を指示する。 <p>第9回 ライティング・スキル（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「レポートとは何か」を理解する。 ・引用と出典について学び、その方法を理解する。 ・「良い／悪いレポート」の違いについて検討する。

	<p>【事前学修】 ・第8回で指示された予習用課題に取り組んでおく。</p> <p>【事後学修】 ・授業内にて課題を指示する。 ライティング・スキル（2） ・資料を踏まえて考える、書くことについて学ぶ。 ・論証の組み立て方について理解する。</p> <p>【事前学修】 ・第9回で指示された予習用課題に取り組んでおく。</p> <p>【事後学修】 ・授業内にて課題を指示する。 ライティング・スキル（3） ・説得力のあるレポートを書く方法について学ぶ。 ・意見文／主張文の構造と考え方を理解する。</p> <p>【事前学修】 ・第10回で指示された予習用課題に取り組んでおく。</p> <p>【事後学修】 ・授業内にて課題を指示する。 ライティング・スキル（4） ・レポートの構成について学ぶ。 ・レポートの取り組み方について理解する。</p> <p>【事前学修】 ・第11回で指示された予習用課題に取り組んでおく。</p> <p>【事後学修】 ・授業内にて課題を指示する。 ライティング・スキル（5） ・レポートのアウトラインの作り方について学ぶ。 ・アウトラインの作成を演習する。</p> <p>【事前学修】 ・第12回で指示された予習用課題に取り組んでおく。</p> <p>【事後学修】 ・授業内にて課題を指示する。 ライティング・スキル（6） ・実際にアウトラインを作って、レポートの構想を具体化する。</p> <p>【事前学修】 ・第13回で指示された予習用課題に取り組んでおく。</p> <p>【事後学修】 ・授業内にて課題を指示する。 大学での学びとその評価／全体まとめ ・レポートの採点基準を踏まえて、大学でどのような学びが求められるのか考える。 ・これまでの内容を振り返り、まとめる。</p> <p>【事前学修】 ・第14回で指示された予習用課題に取り組んでおく。</p> <p>【事後学修】 ・授業内にて課題を指示する。</p> <p>定期試験</p>
--	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	2	2	選択
担当教員			
太田 誠			
開講曜限	授業形態		
月3	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■子ども教育学科■</p> <p>■3-3 言葉遣い、挨拶、礼儀、マナーなどの社会的常識や、読み書き、プレゼンテーション力などの社会人として必要なリテラシーを身につけている</p>
---------	---

科目の概要・目的	<p>（Pクラス用）生活に必要なリテラシーの一部として、また、初等教育・保育・子ども福祉の実践に必要な子ども理解の基礎として、健康や人間行動の理解、心理学研究などに必要な統計学の基礎を身につけることをめざす。データの収集および分析・処理の基礎的方法を、実際のデータによる演習も交えて学ぶ。基礎的統計の知識に基づいてデータを主体的に読み取り考察することや、基礎的統計の知識に基づいて、適切な方法を自ら選択してデータを分析することの基礎を身につけることをめざす。</p>
----------	---

学習到達目標	<p>【知識・技能】</p> <p>数量化の水準に応じたデータの取り扱いができるようになる。 基礎的な統計表・グラフが作成できるようになる。 代表値が算出できる 標準偏差、標準得点、偏差値が算出できるようになる。 散布図（相関図）が作成できるようになる。 相関係数が算出できるようになる。 相関係数の解釈上の留意点が説明できるようになる。 統計的仮説検定の基礎的な用語を説明できるようになる。</p> <p>【態度】</p> <p>基礎的統計の知識に基づいてデータを主体的に読み取り考察することができるようになる。 基礎的統計の知識に基づいて、適切な方法を自ら選択してデータを分析することができるようになる。</p>
--------	--

授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習、演習：データの集計、分析処理の実習・演習を行います。 ・グループワーク：グループでデータの集計、分析処理の実習・演習、結果についてのディスカッションを行います。 <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <p>なし</p> <p>【その他特記事項】</p> <p>授業時に「復習課題プリント」を配布します。 提出用：授業時に指示に従って記入し、提出してください。 保存用：「提出用と同じ内容」と「自主的により理解を深めるための課題」から成る自習用課題です。持ち帰り、ノートや資料、テキストの内容を確認し記入してください。</p>
-------	--

成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 課題（各回提出：20%）、定期試験（筆記試験：80%）により評価します。 2. 各回授業で提出の課題は授業内容の理解を助けることを主眼とし、評価の割合としては定期試験を重視します。 3. 授業出席が授業回数$\frac{2}{3}$未満の者および受講に著しく問題のある者については単位を認定しません。 4. 詳細は初回の授業時に説明します。 <p>【割合】</p> <p>課題（各回提出：20%）、定期試験（筆記試験：80%）により評価します。</p>
---------	---

教科書・テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 1. 山田剛史・村井潤一郎 2004 よくわかる心理統計 ミネルヴァ書房 2. 資料プリント 3. 復習課題プリント（各回提出用、自習用） など
----------	--

参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 池田央 1976 統計的方法 1 基礎（社会科学・行動科学のための数学入門） 2. ダレル・ハフ 著 高木 秀玄 訳 1968 統計でウソをつく法—数式を使わない統計学入門 講談社ブルーバックスB120 統計の基本的事項が丁寧に書かれています。一部の内容を授業中に紹介します。 3. 今田 純雄 編 2005 食べることの心理学—食べる、食べない、好き、嫌い 有斐閣選書 4. スーパーマーケット及びコンビニエンスストア分野における気候リスク評価に関する調査報告書 平成 28 年 10 月気象庁 地球環境・海洋部 https://www.data.jma.go.jp/gmd/risk/pos_chousa.html 5. 食育白書 農林水産省 実際の研究事例として、授業中に内容の一部を紹介します。興味をもったら、さらに内容を検討してみましょう。 <p>その他は授業中に紹介します。</p>
-----	--

授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	<p>1. 復習課題プリントを使って復習しましょう。 授業時に「復習課題プリント」を配布します。提出用：授業時に指示に従って記入し、提出してください。 保存用：「提出用と同じ内容」と「自主的により理解を深めるための課題」から成る自習用課題です。持ち帰り、ノートや資料、テキストの内容を確認し記入してください。 疑問点はメモし、質問しましょう。</p> <p>2. 授業後、配布資料プリントの資料を読んで理解を深めましょう。 詳細は授業時に指示します。</p>
履修上の留意事項	データの処理の演習を交えて授業を進めます。
オフィスアワー	<p>月曜日5限（事前に連絡してから訪問してください。） その他の時間も可能な限り対応します。事前に連絡してから訪問してください。 授業内容についての質問をする際には、質問内容に関わるテキスト、ノート、プリント、筆記用具などを持参してください。</p>
課題に対するフィードバックの方法	<p>1. 授業時に提出されたカード：授業の参考にすると同時に、みなさんからの質問等で重要なものに対しては後の授業でコメントします。 2. 復習課題等：授業中に学生の質問を受けつけたり、答え合わせをしたり、学生の記入内容へのコメントなどをします。 3. 筆記試験：a-portal等でコメントします。</p>
実務経験	特記事項なし
その他	<p>授業開始時刻までに着席しましょう。 授業開始前に必要物（テキスト、ノート、筆記用具など）を準備し、配布物に目を通しましょう。 配布物をファイル等に整理しておきましょう。 授業中私語厳禁とします。授業中、携帯電話は電源を切り鞆の中にしまってください。 積極的に質問をしましょう。</p>
授業の内容	<p>第1回 ガイダンス 授業についての事前アンケートを実施した上で、授業の概要、授業計画、授業の方法、学習到達目標、成績評価の方法などについて確認する。</p> <p>【事前学修】事前準備：事前にシラバスを読んでおくこと 【事後学修】復習課題を使って、授業の概要、授業計画等について確認しておくこと。シラバスや配付資料を確認しながら記入すること。</p> <p>第2回 データの数量化 データ数量化の水準と、水準に応じた取り扱いについて学び、演習で理解を深める。</p> <p>【事前学修】シラバスと第1回授業で配布した資料を使って、この回の授業内容を確認しておくこと。 【事後学修】授業後： ・復習課題を使って、データの数量化の水準等についてまとめておくこと。テキストやノート資料などを確認しながら記入すること。</p> <p>第3回 統計表とグラフ（1）統計表 度数分布表の作成と使い方を中心に学ぶ データの集計、度数分布表の作成等の実習も実施する。</p> <p>【事前学修】シラバスと第1回授業で配布した資料を使って、この回の授業内容を確認しておくこと。前回の復習課題でデータの数量化の水準等についてまとめておくこと。 【事後学修】授業後： ・復習課題を使って、度数分布表等の作成と活用方法についてまとめておくこと。テキストやノート資料などを確認しながら記入すること。</p> <p>第4回 統計表とグラフ（2） 統計グラフの種類と使い分け、グラフ作成上の留意点について検討する。 様々なグラフの事例を検討しながら、グラフから読み取れることや適切なグラフが作成されているかという点などについてのディスカッションも実施する。</p> <p>【事前学修】シラバスと第1回授業で配布した資料を使って、この回の授業内容を確認しておくこと。前回の復習課題で度数分布表の作成について確認しておくこと。 【事後学修】授業後： ・復習課題を使って、度数分布表の作成と活用方法について再度確認するとともに実験結果のグラフの見方についてまとめておくこと。テキストやノート資料などを確認しながら記入すること。</p> <p>第5回 統計測度（1）代表値 代表値の種類と使い分けについて学ぶ。 データ処理の実習も実施する。</p> <p>【事前学修】シラバスと第1回授業で配布した資料を使って、この回の授業内容を確認しておくこと。基礎的な計算について確認しておくこと。詳細は事前の授業で説明する。 【事後学修】授業後： ・復習課題を使って、基本的用語やデータ処理の方法についてまとめておくこと。テキストやノート資料などを確認しながら記入すること。</p> <p>第6回 統計測度（2）散布度 分散、標準偏差の算出方法と使い方について学ぶ。 データ処理の実習も実施する。</p> <p>【事前学修】シラバスと第1回授業で配布した資料を使って、この回の授業内容を確認しておくこと。前回の復習課題で、代表値の算出方法と使い分けについて確認しておくこと。 【事後学修】授業後：</p>

	<p>・復習課題を使って、基本的用語やデータ処理の方法についてまとめておくこと。テキストやノート資料などを確認しながら記入すること。</p>
第7回	<p>統計測度（3）標準得点と偏差値 標準得点、偏差値の算出方法と意味について検討する。 データ処理の実習も実施する。</p> <p>【事前学修】シラバスと第1回授業で配布した資料を使って、この回の授業内容を確認しておくこと。前回の復習課題で、分散、標準偏差、標準得点等の算出方法について確認しておくこと。 【事後学修】授業後： ・復習課題を使って、基本的用語をまとめ、データ処理の方法について繰り返し練習しておくこと。テキストやノート資料などを確認しながら記入すること。</p>
第8回	<p>相関と連関（1）散布図と相関係数 散布図や相関係数による相関の見方について検討する。 データ処理の実習も実施する。</p> <p>【事前学修】シラバスと第1回授業で配布した資料を使って、この回の授業内容を確認しておくこと。前回までの復習課題で、分散、標準偏差等の算出方法について再度確認しておくこと。 【事後学修】授業後： ・復習課題を使って、基本的用語をまとめ、データ処理の方法について繰り返し練習しておくこと。テキストやノート資料などを確認しながら記入すること。</p>
第9回	<p>相関と連関（2）相関係数解釈上の留意点 相関係数解釈上の留意点について検討する。</p> <p>【事前学修】シラバスと第1回授業で配布した資料を使って、この回の授業内容を確認しておくこと。前回の復習課題で、散布図の書き方、相関係数の算出方法などについて確認しておくこと。 【事後学修】授業後： ・復習課題を使って、基本的用語や考えかたについてまとめておくこと。テキストやノート資料などを確認しながら記入すること。</p>
第10回	<p>相関と連関（3）連関 連関について学ぶ。 連関表活用の演習も実施する。</p> <p>【事前学修】シラバスと第1回授業で配布した資料を使って、この回の授業内容を確認しておくこと。 【事後学修】授業後： ・復習課題を使って、基本的用語をまとめ、データ処理の方法について繰り返し練習しておくこと。テキストやノート資料などを確認しながら記入すること。</p>
第11回	<p>統計的仮説検定（1）母集団と標本 標本調査の基本的な考え方 標本調査の基本的な考え方を学ぶ。 ・標本抽出の実習も行う。 ・標本抽出の実習でわかったことをまとめる。</p> <p>【事前学修】シラバスと第1回授業で配布した資料を使って、この回の授業内容を確認しておくこと。 【事後学修】授業後： ・復習課題を使って、基本的用語や考えかたについてまとめておくこと。テキストやノート資料などを確認しながら記入すること。 ・標本抽出の実習でわかったことをまとめておくこと。</p>
第12回	<p>統計的仮説検定（2）母集団と標本 標本から母集団について推測する方法 標本から母集団について推測する方法について、母集団の分布の推定を中心に学ぶ。</p> <p>【事前学修】シラバスと第1回授業で配布した資料を使って、この回の授業内容を確認しておくこと。前回の復習課題で、母集団と標本について基本的用語や考えかたについて確認しておくこと。 【事後学修】授業後： ・復習課題を使って、基本的用語や考えかたについてまとめておくこと。テキストやノート資料などを確認しながら記入すること。</p>
第13回	<p>統計的仮説検定（3）統計的仮説検定 統計的仮説検定の基本的な考え方 統計的仮説検定の基本的な考え方について学ぶ。</p> <p>【事前学修】シラバスと第1回授業で配布した資料を使って、この回の授業内容を確認しておくこと。 【事後学修】授業後： ・復習課題を使って、基本的用語や考えかたについてまとめておくこと。テキストやノート資料などを確認しながら記入すること。</p>
第14回	<p>統計的仮説検定（4）統計的仮説検定 統計的仮説検定の実際 統計的仮説検定の実際について学ぶ。</p> <p>【事前学修】前回の復習課題で、基本的用語や考えかたについて確認しておくこと。</p>

第15回	<p>【事後学修】授業後： ・復習課題を使って、基本的用語やデータ処理の方法についてまとめておくこと。テキストやノート資料などを確認しながら記入すること。 ・総復習の課題を配布するので、次回までに記入しておくこと。</p> <p>まとめ これまで学んだ内容を振り返り、授業の目標が達成されたか確認する。 授業アンケート</p> <p>【事前学修】 これまでに配布したレジュメ・資料・課題をまとめて持参すること。 総復習の課題を記入しておくこと。 【事後学修】 総復習の課題を自分で解答できるように練習し、基本的な事項を再度確認しておくこと</p> <p>定期試験</p>
------	---

講義科目名称： 総合的な学習の時間の指導（P）

授業コード： 51803950

英文科目名称： Teaching Method for the Period for Intergrated Learning

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	3	2	選択
担当教員			
服部 太、山田 綾、久田 敏彦			
開講曜限	授業形態		
月2	講義		
添付ファイル			

DPとの関連	<p>■子ども教育学科■</p> <p>■2-1 初等教育の教科等の内容に関する専門的知識を有し、教材の内容について分析・解釈し、適切な教材の準備を行うことや、場面に応じた適切な指導方法を工夫することができる</p> <p>■4-2 子どもの権利を理解し、それを尊重して、公平かつ受容的・共感的な態度で子どもと関わるることができる</p>
--------	---

科目の概要・目的	<p>新設時の「総合的な学習の時間」の特徴や新学習指導要領におけるその新たな特徴について、目標・内容・方法にわたって明らかにする。次に、学校の教育課程において果たす「総合的な学習の時間」の意義と役割を年間指導計画・単元計画とも関連づけて講ずる。さらに、実際の実践展開例をグループ討論をとおして検討する。最後に、「総合的な学習の時間」における評価方法を講ずる。</p>
学習到達目標	<p>1 学習指導要領の変遷のなかで「総合的な学習の時間」がどう捉えられてきたかを理解する。そのうえで、新学習指導要領における「総合的な学習の時間」の新たな特徴を目標・内容・方法にわたって理解する。</p> <p>2 探究的な見方・考え方を働かせた総合的な学習の年間指導計画・単元構成の考え方とその方法を身につける。</p> <p>3 実社会・実生活の課題を共同して探究する学びを実現するための指導方法に関する知識と技能を身につける。</p> <p>4 「総合的な学習の時間」における評価方法の視点を獲得する。</p>
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 第8回～第12回はグループワークとディスカッションによって実践事例を検討する。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 特になし</p> <p>【その他特記事項】 第1回～第7回および、第13回～第15回は講義形式による。</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】 授業内課題（実践事例課題、小レポート、小テストなど）、定期試験（レポート） ・ほぼ毎時間、授業内課題を提示する。できる限り欠席をしないように留意すること。</p> <p>【割合】 授業内課題（実践事例課題、小レポート、小テストなど）40%、定期試験（レポート）60%</p>
教科書・テキスト	<p>小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編、適宜資料を配布する。</p>
参考書	<p>小学校学習指導要領（平成29年告示、文部科学省告示）を参考</p>
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	<p>授業内容について課題を提示するので、その課題について考察しておくこと。</p>
履修上の留意事項	<p>授業中にわからないことがあればその都度質問すること。ただし、私語は慎むこと。</p>
オフィスアワー	<p>服部：授業後、研究室にて 山田：授業終了後、教室にて 久田：授業終了後、教室にて</p>
課題に対するフィードバックの方法	<p>学期中の小レポートに関しては、授業中に全般的な解説を行う。</p>
実務経験	<p>公立学校、附属学校勤務経験あり</p>
その他	<p>・授業中の携帯電話、スマートフォン等の使用を禁止する（学生便覧、p.28）。</p>
授業の内容	<p>第1回 オリエンテーション：本授業の概要と計画（久田・山田・服部）</p> <p> 【事前学修】小学校で学習した総合的な学習の時間の内容について想起しておく。 【事後学修】小学校時の総合的な学習の時間の内容と学習指導要領を照らし合わせ、再評価する。</p> <p>第2回 1998年に新設された「総合的な学習の時間」の特徴（久田）</p> <p> 【事前学修】総合的な学習の時間が新設された経緯を、配付資料を読み概要をとらえておく。 【事後学修】総合的な学習の時間が新設された経緯を、講義内容をふまえて整理する。</p>

第3回	2008年改訂学習指導要領における「総合的な学習の時間」の特徴（久田）
第4回	<p>【事前学修】 配付資料を読み、2008年改訂の総合的な学習の時間の特徴をとらえておく。 【事後学修】 1998年の総合的な学習の時間と比較することにより、2008年の総合的な学習の時間の特徴を明らかにする。</p> <p>2017年改訂学習指導要領の特徴と「総合的な学習の時間」の意義・役割（久田）</p> <p>【事前学修】 学習指導要領pp.1-7.を読み、改訂の経緯についておさえておく。 【事後学修】 2017年改訂の総合的な学習の時間の意義・役割について、講義内容を振り返り理解を深めておく。</p>
第5回	<p>「総合的な学習の時間」における「育成すべき資質・能力」の内容（久田）</p> <p>【事前学修】 学習指導要領pp.9-17.を読み、総合的な学習の時間で育成すべき資質・能力の概要について理解をしておく。 【事後学修】 総合的な学習の時間で育成すべき資質・能力について、講義内容を振り返り理解を深めておく。</p>
第6回	<p>学校の教育課程づくりの視点と「総合的な学習の時間」の位置と年間指導計画（山田）</p> <p>【事前学修】 学習指導要領pp.66-69, pp.89-98.を読み、総合的な学習の時間の全体計画、年間計画作成の概要について理解をしておく。 【事後学修】 総合的な学習の時間の全体計画、年間計画作成について、講義内容を振り返り理解を深めておく。子どもたちと探究したい現代的課題を探しておく。</p>
第7回	<p>「対話的・主体的で深い学び」の実現と「総合的な学習の時間」の単元構成の実際（山田）</p> <p>【事前学修】 学習指導要領pp.111-114.を読み、対話的・主体的で深い学びの概要について理解をしておく。 【事後学修】 総合的な学習の時間における対話的・主体的で深い学びについて、講義内容を振り返り理解を深めておく。グループごとに、子どもたちと探究したい現代的課題を決める。</p>
第8回	<p>「総合的な学習の時間」の実践展開の検討（1）－教材づくりを中心として（山田）</p> <p>【事前学修】 学習指導要領pp.29-31.を読み、総合的な学習の時間の学習内容について理解しておく。 【事後学修】 グループごとに、教材づくりを実施する課題について、意見交流を踏まえて調べ直しておく。</p>
第9回	<p>「総合的な学習の時間」の実践展開の検討（2）－教師の発問と子どもの「問い」を中心として（山田）</p> <p>【事前学修】 グループごとに、教材づくりを実施する課題を決定し、課題についてどのような論争的課題があるのか、調べてくる。 【事後学修】 課題に対して、子どもの「問い」となるだろうことがらを整理しておく。</p>
第10回	<p>「総合的な学習の時間」の実践展開の検討（3）－現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題とは（山田）</p> <p>【事前学修】 配付資料や講義内容をもとに、現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題について理解を深めておく。 【事後学修】 他グループの教材に関して解釈した上で、代替案を考えておく。</p>
第11回	<p>「総合的な学習の時間」の実践展開の検討（4）－地域や学校の特色に応じた課題とは（服部）</p> <p>【事前学修】 配付資料や講義内容をもとに、地域や学校の特色に応じた課題について理解を深めておく。 【事後学修】 他グループの教材に関して解釈した上で、代替案を考えておく。</p>
第12回	<p>「総合的な学習の時間」の実践展開の検討（5）－児童の興味・関心に基づく課題とは（服部）</p> <p>【事前学修】 配付資料や講義内容をもとに、児童の興味・関心に基づく課題について理解を深めておく。 【事後学修】 他グループの教材に関して解釈した上で、代替案を考えておく。</p>
第13回	<p>教育評価の種類・方法と「総合的な学習の時間」における教育評価（服部）</p> <p>【事前学修】 学習指導要領pp.124-128.を読み、総合的な学習の時間における評価のあり方について、概要を理解しておく。 【事後学修】 講義で提示された評価方法も踏まえ、総合的な学習の時間における評価のあり方について再整理する。</p>
第14回	<p>戦前・前後の総合学習と今後の「総合的な学習の時間」（服部）</p> <p>【事前学修】 配付資料をもとに、戦前・前後の総合学習の特徴をとらえておく。 【事後学修】 戦前・前後の総合学習から、1998年以降の総合的な学習の時間の関連を整理し、今後の総合的な学習の時間のあり方について考えを深める。</p>
第15回	<p>まとめ（久田・山田・服部）</p> <p>【事前学修】 今までの講義内容を振り返り、総合的な学習の時間の目的と意義について再整理する。 【事後学修】 今までの講義内容を振り返り、総合的な学習の時間の目的と意義について理解を深める。</p> <p>定期試験（レポート）</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	2	2	必修
担当教員			
田岡 昌大			
開講曜限	授業形態		
月1、2	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■子ども教育学科■</p> <p>■1-2 教育・保育に関する基本的な内容や歴史の変遷、制度などについての専門的知識を有している</p> <p>■4-1 初等教育・保育・子ども福祉における職務内容と役割を理解し、子どもと関わる専門的職業人としての強い使命感を有している</p>
---------	---

科目の概要・目的	<p>本講義の目的は、教育に関する理論的・歴史的な基礎知識の習得と、それを応用して教育について考えるための基礎の獲得にある。教育は、誰にとっても身近なもので、また、一定の思い入れのあるものでもある。しかし、経験に基づく限りの認識は、身近な範囲でかつ自分本位に偏ったものである危険性がある。それゆえ、教育について考える道具として、教育学的な素養は必須のものである。これは、狭義には教職を目指すための基礎教養として求められるものだが、より広義には自らの教育経験や学びのあり方を振り返ることと関わる。それゆえ、本授業では、原理的な観点から教育を問い直すことによって、自身の教育についての価値観（教育観）を問い直し、教育について広く・深く考えるための力量の獲得を目的とする。</p> <p>本講義の内容は、大きく前半と後半に分けられる。</p> <p>前半では現在の教育を念頭に、それに関する論点定義と、その論点を考えるための道具（概念）を扱う。また、そのうえで、発展的な論点を提示する。これを通じて、現代の教育に関する基本的な知識を獲得すると共に、それをめぐる論点や考え方を習得することを目指す。</p> <p>後半では、思想と学校の歴史を中心的に扱う。前半の構成とは異なり、少数の論点について思想と学校の歴史を用いながら複数回にわたって検討を重ねていく形を取る。これによって、原理的な観点から教育を考える力量の獲得を目指す。</p>
----------	--

学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育および教育学についての基礎的な知識を獲得する。また、それについて適切に説明することができる。 2. 講義にて言及する教育的な知見を用いて、それを応用しながら教育について考えることができる。 3. 教育学の知見を踏まえながら、自身の教育観・子ども観・社会観を豊かにし、表現する。
--------	---

授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に指定した課題に取り組んだうえで講義を受講する。 ・講義の中では、教員から発問を行う。 ・講義に関するリアクションペーパーの記入を課す。 <p>その内容は、必要に応じて次回の講義にて紹介すると共に、レスポンスを行う。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・teamsを利用し、講義外での質疑応答の機会を設ける。 ・teamsを利用し、講義資料の配布や補足資料等を配信する。 ・formsを利用し、宿題などの提出を行う。 <p>使用方法については、講義内にて説明する。</p> <p>【その他特記事項】 なし</p>
-------	--

成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内外での学修課題 ・中間テスト ・定期試験（レポート） <p>【割合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内課題など（20%） ・中間テスト（30%） ・定期試験（レポート）（50%） <p>※ 定期試験の実施形態は変更の可能性がある。これについては授業内にて指示する。</p>
---------	--

教科書・テキスト	・特に指定しない
----------	----------

参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・今井康雄編（2009）『教育思想史』有斐閣 ・古屋恵太（2017）『教師のための教育学シリーズ2 教育の哲学・歴史』学文社 ・井藤元編（2015）『ワークで学ぶ 教育学』ナカニシヤ出版 ・木村元・汐見稔幸編（2020）『アクティベート教育学① 教育原理』ミネルヴァ書房 <p>この他、本授業で用いる参考文献一覧を授業内で配布する。</p>
-----	---

<p>授業時間外の学修について（事前・事後学習について）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・可能な限り平易に講義を行うが、基本的にはただ「聴く」だけでは内容を完全に理解することは難しい。その前提で受講すること。また、必要な学修を時間外にて自身で補うこと。その際には、授業内で指示する参考書を講読することが望ましい。 ・授業で扱う論点やトピックについて、友人同士で議論したり、自分で調べるなどして、思考を深められるように準備することが望ましい。
<p>履修上の留意事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本授業は、ただ事象について説明し、それを暗記することを求めるものではない。理解し、考える道具として使えるようになることを目指すものである。それゆえ、授業では各回にて論点を設定し、教育的な知見を対照させることで授業を進めていく予定である。それゆえ、ただ「聴く」だけではなく、論点について自分なりに考えながら受講することを求める。 ・講義形式だが、講義内容に関わる発言には可能な範囲で応じたいと考えている。積極的な発言を求める。ただし、私語を含めて、周囲の人（担当教員も含む）の迷惑になる行動は慎むこと。 ・受講態度が著しく悪く、学修を伴っていないと判断される場合（スマホを終始触っている、過剰な居眠りなど）、出席を認定しないことや授業内外での課題に関する点数を下げることもある（時間外の課題は、講義の受講とセットであるため）。
<p>オフィスアワー</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・金曜3限
<p>課題に対するフィードバックの方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・リアクションペーパー、時間外課題などは次回授業時に必要に応じてレスポンスを行う。
<p>実務経験</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし
<p>授業の内容</p>	<p>第1回 ガイダンス／「教育」とは何か</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本講義の概要その他、「教育原理」を学ぶ意義を学ぶ。 ・「教育」という言葉、カテゴリーについて。 <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバスを事前に読み、本講義の目的や内容について把握しておくこと。 ・「なぜ教育は必要なのか？」という問いについて、自分なりに考えておくこと。また、講義内で他者に説明できる程度に整理しておくこと。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義終了時に課題を課す。 <p>第2回 教育はなぜ必要か？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育がなぜ必要とされるかについて。 ・野生児（アマラとカマラ）について。 <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育（あるいは保育）の必要性について他の講義で学んでいる場合は、その内容を復習しておくこと。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義終了時に課題を課す。 <p>第3回 教育の目的は何か？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育基本法について。 ・日本国憲法と教育基本法の関係について。 <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法で学んだ内容を復習しておくこと。 ・教育基本法について、一通り目を通しておくこと。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義終了時に課題を課す。 <p>第4回 公教育とは何か？ なぜ必要か？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公教育制度とは何で、どのような意義があるのか。 ・教育を受ける権利について。 <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公教育制度、教育を受ける権利について調べておく。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義終了時に課題を課す。 ・講義で指示したテキストを読む。 <p>第5回 道徳教育とは何か？ なぜ必要か？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育と人間形成について。 ・教育課程と道徳教育について。 <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育要領、学習指導要領の内容で、道徳に関わる内容を探し出し、内容を確認しておくこと。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義終了時に課題を課す。 <p>第6回 学力とは何か？ なぜ必要か？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学力」について。 ・「学力」と資質能力について。

	<p>【事前学修】 ・幼稚園教育要領、学習指導要領の内容で、学力に関わる内容を探し出し、内容を確認しておくこと。 ・現代に求められる「学力」について調べておくこと。</p> <p>【事後学修】 ・講義終了時に課題を課す。 ・講義で指示をしたテキストを読む。 教育と発達はどうに関わり合うか？ ・教育と学ぶことの関係について ・教育と「発達」の関係について</p> <p>【事前学修】 ・「発達」について他の講義で学んだ内容を復習しておくこと。 ・特にピアジェ、ヴィゴツキーについては復習しておくこと。</p> <p>【事後学修】 ・講義終了時に課題を課す。 ・講義で指示をしたテキストを読む。 中間まとめ／中間試験 ・ここまでの講義内容を振り返り、まとめる。 ・中間試験を実施する。</p> <p>【事前学修】 ・ここまでの講義内容を振り返り、まとめておく。</p> <p>【事後学修】 ・試験を踏まえて、理解が不十分であったことを各自で復習しておく。 教育と子ども：教育思想（1） ・教育思想における子ども観について。 ・特にコメニウス、ルソー、フレーベルの教育思想について。</p> <p>【事前学修】 ・コメニウス、ルソー、フレーベルについて事前に調べておく。 ・特にフレーベルについては保育原理で学んだ内容を復習しておく。</p> <p>【事後学修】 ・講義終了時に課題を課す。 ・講義で指示をしたテキストを読む。 教育と社会：教育思想（2） ・教育思想に対する社会の関係について。 ・前回に続いてコメニウス、ルソーに加えて、デューイの教育思想について。</p> <p>【事前学修】 ・前回の講義内容を復習しておく。 ・デューイについて事前に調べておく。</p> <p>【事後学修】 ・講義終了時に課題を課す。 ・講義で指示をしたテキストを読む。 教育関係：教育思想（3） ・教えることと学ぶことの関係について。</p> <p>【事前学修】 ・講義で指示をしたテキストを事前に読み、理解を深めておく。</p> <p>【事後学修】 ・講義終了時に課題を課す。 ・講義で指示をしたテキストを読む。 学校の成り立ちと展開（1） ・学校は、なぜ必要なのかについて ・近代社会と学校について</p> <p>【事前学修】 ・歴史に関する内容を含むため、特に近代化に関わる歴史について予備的に復習しておくこと。 ・他の講義で学んでいる場合は、関連する内容について復習しておくこと。</p> <p>【事後学修】 ・講義終了時に課題を課す。 学校の成り立ちと展開（2） ・学校の制御システムについて ・モニトリアル・システムについて</p> <p>【事前学修】 ・自身の学校の経験を思い返し、学校／教室を成り立たせていた仕組みについて考えておくこと。 分からない場合は、自身で調べておくこと。</p> <p>【事後学修】 ・講義終了時に課題を課す。</p>
--	--

	<p>第14回 学校の成り立ちと展開（3）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本における学校教育制度の誕生と展開について ・戦後日本における学校教育制度の転換と展開について ・現代の学校を巡る状況について <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に近現代日本史の内容になるため、その点について予備的に復習しておくこと。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義終了時に課題を課す。 <p>第15回 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・15回の内容を振り返ると共に、改めて教育を学ぶ／考える教育実践上の意味について考える。 <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義全体のまとめであるため、全体の流れと一貫して検討してきた論点について再度見直しておくこと。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義終了時に課題を課す。 <p>定期試験</p>
--	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	2	1	選択
担当教員			
林 富公子			
開講曜限	授業形態		
金3、4	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■子ども教育学科■</p> <p>■2-2 保育内容に関する専門的知識を有し、教材となる素材の内容について分析・解釈し、適切な教材の準備を行うことや、子どもの興味関心などを踏まえて、保育の内容に即した適切な保育の計画を工夫することができる。</p> <p>■4-1 初等教育・保育・子ども福祉における職務内容と役割を理解し、子どもと関わる専門的職業人としての強い使命感を有している</p>
科目の概要・目的	<p>保育内容の各領域は、全ての領域が相互に密接な関連を持っていることを踏まえ以下の内容の講義を行う。</p> <p>1. 各領域をそれぞれの子どもの育ちを見る視点ととらえ、子どもの活動を総合的に考える。</p> <p>2. これからの幼児教育・保育の在り方について考え、実践する力につながる素地を培う。</p>
学習到達目標	<p>1. 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における「育みたい資質・能力」、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育内容領域」の関連を説明できるようになる。</p> <p>2. 保育の内容各領域のつながりを読み取り、保育の構造を理解できる。</p> <p>3. 環境を通した保育とその方法について理解し、簡易版保育案を作成できる。</p> <p>4. 様々な遊びを研究し実践することで、保育の多様な展開について具体的に理解し、省察できる。</p>
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <p>こいのぼりの作成及び模擬保育をグループで行う。(第3回・第14回)</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <p>特になし</p> <p>【その他特記事項】</p> <p>特になし</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目・割合】</p> <p>小テスト合計50%、指導案・記録を含むレポート40%、名札10%</p>
教科書・テキスト	<p>文部科学省 2018 幼稚園教育要領解説 フレーベル館 厚生労働省 2018 保育所保育指針解説 フレーベル館 内閣府 文部科学省 厚生労働省 2018 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説 フレーベル館 (幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説は1年次後期の保育原理の教科書と同一のものです)</p>
参考書	適宜指示をします。
授業時間外の学修について(事前・事後学習について)	各授業計画に記載しています。
履修上の留意事項	授業に積極的に参加し、授業時の課題提出などを確実にすること。
オフィスアワー	水曜日の昼休み
課題に対するフィードバックの方法	各授業の中で授業シートを配布し翌週フィードバックを行う。
実務経験	幼稚園教諭
その他	特になし。
授業の内容	<p>第1回 オリエンテーション、保育内容の基本 【事前学修】保育原理で習った保育内容の基本(歴史的変遷を含む)をふり返しておくこと。 【事後学修】保育原理で習ったことと、保育内容総論で学ぶことの共通点について理解しておくこと。</p> <p>第2回 保育内容の実践的理解①こいのぼりの製作(個人) 【事前学修】こいのぼりの製作を行うので子どもの活動を考えながら素材を用意すること。 【事後学修】こいのぼりの製作過程の記入を行うこと。</p> <p>第3回 保育内容の実践的理解②こいのぼりの製作(グループ) 【事前学修】保育原理で習った計画と子どもの活動の関係について見直しておくこと。 【事後学修】子どもの活動と環境構成の関係について復習すること。</p> <p>第4回 保育内容の実践的理解①・②から考える保育内容の基本、小テスト① 【事前学修】第1回～第3回までの内容を復習しておくこと 【事後学修】小テストを行うので間違った問題については見直しを行うこと。</p> <p>第5回 乳児保育に関わるねらい及び内容 【事前学修】保育所保育指針解説(p89-90)</p>

第6回	<p>【事後学修】 本時の学習内容について自分の言葉で説明できるようにまとめておくこと。</p> <p>1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容</p>
第7回	<p>【事前学修】 保育所保育指針解説 (p121-122)を読み、分からない語彙を調べておくこと。</p> <p>【事後学修】 本時の学習内容について自分の言葉で説明できるようにまとめておくこと。</p> <p>3歳以上児の保育に関するねらい及び内容</p>
第8回	<p>【事前学修】 幼稚園教育要領解説(p142-144)を読み、分からない語彙を調べておくこと。</p> <p>【事後学修】 本時の学習内容について自分の言葉で説明できるようにまとめておくこと。</p> <p>子ども理解と記録、小テスト②</p>
第9回	<p>【事前学修】 第4回～第7回までの復習を行うこと。</p> <p>【事後学修】 小テストを行うので間違った問題については見直しを行うこと。</p> <p>指導計画の基本的理解</p>
第10回	<p>【事前学修】 幼稚園教育要領解説(p96-101)を読み、分からない語彙を調べておくこと。</p> <p>【事後学修】 保育において計画がなぜ必要であるかという事について纏めておくこと。</p> <p>保育内容の実践的理解③子ども理解と保育内容の関連</p>
第11回	<p>【事前学修】 今までに会った子どもの姿について具体的に思い出しておくこと。</p> <p>【事後学修】 子どもの姿と保育内容のつながりについて今一度考えること。</p> <p>保育内容の実践的理解④環境構成について考える、小テスト③</p>
第12回	<p>【事前学修】 第8回から第10回までの内容の小テストを行うので内容の見直しを行っておくこと。</p> <p>【事後学修】 間違った問題について再度確認をしておくこと</p> <p>保育内容の実践的理解⑤簡易版部分案の作成</p>
第13回	<p>【事前学修】 簡易版の部分案の作成を行うので今までの授業内容をふりかえっておくこと。</p> <p>【事後学修】 部分案の作成が終わらなければ終わらせること。</p> <p>保育内容の実践的理解⑥遊びに関する部分案の作成</p>
第14回	<p>【事前学修】 模擬保育の準備を行うこと。</p> <p>【事後学修】 グループで話し合い模擬保育の確認を行うこと。</p> <p>保育内容の実践的理解⑦模擬保育</p>
第15回	<p>【事前学修】 模擬保育の準備を行うこと。</p> <p>【事後学修】 記録の作成を行うこと。</p> <p>模擬保育の省察</p>
	<p>【事前学修】 模擬保育及び記録の作成を行うこと。</p> <p>【事後学修】 他グループの省察を聞いたことを踏まえながら保育における子どもの活動について考えること。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	1	1	必修
担当教員			
永井 正幸			
開講曜限	授業形態		
木2、3	演習		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■子ども教育学科■</p> <p>■2-1 初等教育の教科等の内容に関する専門的知識を有し、教材の内容について分析・解釈し、適切な教材の準備を行うことや、場面に応じた適切な指導方法を工夫することができる</p> <p>■2-2 保育内容に関する専門的知識を有し、教材となる素材の内容について分析・解釈し、適切な教材の準備を行うことや、子どもの興味関心などを踏まえて、保育の内容に即した適切な保育の計画を工夫することができる。</p>
---------	---

科目の概要・目的	幼稚園教諭・保育士・小学校教諭として音楽表現活動や音楽教育を実践するにあたり、欠かすことのできない音楽の基礎理論（楽典）について実技をとり入れながら教授する。読譜力（楽譜を読む力）を身につけることを目的に、音符・休符の種類、音の高低、拍子、リズム、調性などの楽典項目について説明する他、楽譜と鍵盤上の音配置の関係を理解し、歌唱（子どもの歌）や伴奏実技の基礎につなげるための授業を行う。
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 基礎的な読譜力が身につく。 ◇ 楽譜と鍵盤上の音配置の関係を理解できるようになる。 ◇ 子どもの歌の旋律を正しい音程とリズムで歌うことができる。
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 特になし <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 特になし <p>【その他特記事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 講義と実技を交えた演習形式となる。ML（ミュージックラボラトリー）教室のシステムにより、双方向形式で授業を行うことがある。
成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 定期試験（実技） ◇ 授業内ペーパーテスト ◇ 授業内課題小テスト ◇ 平常点 <p>【割合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 定期試験（実技）50% ◇ 授業内ペーパーテスト30% ◇ 授業内課題小テスト10% ◇ 平常点10%
教科書・テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 「改訂版 最新・幼児の音楽教育 幼児教育教員・保育士養成のための音楽的表現の指導」井口太 水崎誠 編著 朝日出版社 ◇ 「ミュージックファイル」大阪青山大学
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 「やさしく学べるピアノ100」 関西地区大学音楽教育学会編著 音楽之友社
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 音楽の基礎理論修得のために、各授業回の予習と復習を欠かさないこと。 ◇ 楽譜を見て、すぐに音を鳴らすのではなく、予見（弾く前に音を鳴らさずに楽譜を読み込むこと）の練習をとり入れる。
履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 理論として学んだことを鍵盤楽器を使って音として鳴らし、理論と実際の音との関係性を確認する作業を怠らないこと。
オフィスアワー	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 月曜日3限
課題に対するフィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> ◇ ペーパーテストや授業内課題小テストの結果を授業内で返却し、振り返りを行う。
実務経験	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 特になし
その他	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 特になし
授業の内容	<p>第1回 本科目の説明、音楽の三要素（リズム・メロディー・ハーモニー）について本科目の内容および学修目標の説明。音楽の三要素について学ぶ。 【事前学修】音楽の三要素について、下調べをしておく。 【事後学修】音楽の三要素について復習する他、五線譜の仕組みについて下調べをしておく。</p> <p>第2回 音の高低に関すること（五線譜の仕組みと鍵盤上の音配置について） 楽譜と鍵盤の関係を覚える。各種音名を覚える。 【事前学修】五線譜の仕組み、各部の名称を下調べしておく。</p>

第3回	<p>【事後学修】鍵盤上の音の位置を復習するとともに、半音・全音について理解を深める。音の高低に関すること（オクターブおよび変化記号について） 変化記号の音名と、オクターブを区別する音名を覚える。</p> <p>【事前学修】鍵盤上の音の配置を復習し、高低を間違えないよう練習しておく。 【事後学修】本授業回で取り組んだ変化記号（シャープ・フラット・ナチュラル）を鍵盤上で確認しておく。</p>
第4回	<p>音の高低に関すること（音程について）、授業内課題小テスト① 音程の数え方と種類について学ぶ。授業内課題小テスト①を実施する。</p> <p>【事前学修】音程の数え方について下調べをしておく。 【事後学修】本授業回で取り組む「完全・長・短・増・減」の各種音程について理解を深める。授業内課題小テスト①の結果を振り返る。</p>
第5回	<p>音の長短と拍子に関すること（音符・休符の種類について） 音符・休符の名称と長さを覚え、演習を行う。</p> <p>【事前学修】音符・休符の種類と、その長短について下調べをしておく。 【事後学修】音符や休符の種類を覚え、五線紙に書き出す練習をしておく。</p>
第6回	<p>音の長短と拍子に関すること（拍子記号について） 拍子記号の仕組みと数え方を学ぶ。</p> <p>【事前学修】音符や休符の種類について復習しておく他、拍子の種類について下調べをしておく。 【事後学修】2拍子・3拍子など拍子の異なる楽曲を歌う。</p>
第7回	<p>リズムに関すること 拍子とリズムの関係を理解し、リズムの練習（リズムソルフージュ）を行う。</p> <p>【事前学修】音符・休符の種類と、その長短について復習しておく。 【事後学修】拍子を正確に数えながら、数種類の異なるリズムを練習する。</p>
第8回	<p>調に関すること（長調と短調について、音階について）、授業内課題小テスト② 音階の仕組み、および長調と短調の違いについて学ぶ他、移動ドと固定ドについて学ぶ。授業内課題小テスト②を実施する。</p> <p>【事前学修】調性とは何かについて、下調べをしておく。 【事後学修】音階の仕組みを復習し、音階を歌う練習をとり入れる。授業内課題小テスト②の結果を振り返る。</p>
第9回	<p>調に関すること（複数の調を例に） 複数の調を例に挙げながら、響きの違いを学ぶ。</p> <p>【事前学修】ハ長調・イ短調など調の種類について下調べをしておく。 【事後学修】音階を正しい音程で歌う練習と、正しい指番号で弾く練習をする。</p>
第10回	<p>和音に関すること（主要三和音について） 和音の仕組みと種類を学ぶ（主要三和音を中心に）。また、子どもの歌における旋律（メロディー）と主要三和音の関係について学ぶ。</p> <p>【事前学修】和音とは何か、について下調べをしておく。 【事後学修】主要三和音による伴奏を練習する。</p>
第11回	<p>音楽用語・記号に関すること 速度・強弱・発想などを示す音楽用語・記号を学ぶ。</p> <p>【事前学修】これまで学修した楽曲に書いてある音楽用語・記号について調べておく。 【事後学修】本授業回で学修した音楽用語・記号を覚える。</p>
第12回	<p>楽典ペーパーテスト これまで学修した楽典の修得度を確認するため、ペーパーテストを実施する。</p> <p>【事前学修】これまで学んだ楽典項目を復習しておく。 【事後学修】ペーパーテストの結果を振り返り、課題箇所を整理する。</p>
第13回	<p>弾き歌い（歌唱パートについて） 弾き歌いにおける歌唱パート（旋律）を、正しい音程とリズムで歌えるように学ぶ。</p> <p>【事前学修】「ドレミ・・・」など各音について、正しい音程で歌うことができるよう、ピアノに合わせながら練習しておく。 【事後学修】テキストから複数選択した弾き歌い曲の旋律を正しいリズムと音程で歌うことができているかどうか確認する。</p>
第14回	<p>弾き歌い（旋律の表現について） 片手で旋律を弾きながら歌う。曲の速度や声の強弱など表現についても学ぶ。実技試験曲を選定する。</p> <p>【事前学修】「ドレミ・・・」など各音について、正しい音程で歌うことができるよう、ピアノに合わせながら練習しておく。 【事後学修】実技試験曲として選定した弾き歌い曲の旋律を正しいリズムと音程で歌うことができているかどうか確認する。また、正しい指番号で旋律を弾いているかどうか確認する。</p>
第15回	<p>弾き歌い（実技試験曲の試演） 実技試験曲として選定した弾き歌い曲の試演（ピアノは旋律の片手奏のみ）を行う。</p> <p>【事前学修】実技試験曲を暗譜しておく。 【事後学修】試演を通して見出された課題点を、各自整理する。</p> <p>定期試験</p>

講義科目名称： 教育相談（P）

授業コード： 52203000 52203010

英文科目名称： Educational Counseling

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	2	2	選択
担当教員			
佐藤 琢志			
開講曜限	授業形態		
水3、木1	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■子ども教育学科■</p> <p>■1-1 子どもの発達に関する基本的知識を有し、子ども一人一人の特性や心身の状況を多面的に捉えることができる</p> <p>■4-2 子どもの権利を理解し、それを尊重して、公平かつ受容的・共感的な態度で子どもと関わることができる</p>
---------	--

科目の概要・目的	<p>不登校やいじめ、非行など、今日の子ども、保護者、教師を取り巻く環境・問題を考察しながら、子どもを正しく理解し、問題を抱えた子どもにどのように指導・援助していけばよいのか臨床心理学の知見をふまえて幅広く学ぶ。</p> <p>また、基本的なカウンセリングの知識や技術を習得するとともに、教師が行う「学校における」カウンセリングのあり方、及び、校内や地域、関係機関との連携について理解を深め、その基本的な態度を身につけ、教育現場で活用できる力を養う。</p>
学習到達目標	<p>1) 学校教育における教育相談の重要性を認識し、教育相談の方法や教育相談の実際について説明することができる。</p> <p>2) 「学校における」教師の相談のあり方として、基本的なカウンセリングの技法を使用することができる。</p> <p>3) 様々な子どもの問題行動について、教師としてどのように対応するべきか、連携も視野に含めて見通しを立てることができる。</p>
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 適宜、ロールプレイ並びにグループワークを取り入れる。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 なし</p> <p>【その他特記事項】 なし</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】 定期試験(筆記)、授業中の課題、受講態度</p> <p>【割合】 定期試験(筆記) (55%)、授業中の課題 (30%)、受講態度 (15%)</p>
教科書・テキスト	向後礼子・山本智子 2014 「ロールプレイで学ぶ 教育相談ワークブック第2版」 ミネルヴァ書房
参考書	吉田武男監修 2019 「教育相談」 ミネルヴァ書房
授業時間外の学修について(事前・事後学習について)	教員になるという強い自覚のもと、現代の教育上の諸問題について書籍やニュース等を通じて興味・関心を向けておくこと。
履修上の留意事項	「教育心理学」を履修し、単位を取得していることが望ましい。
オフィスアワー	火曜日の昼休み(12:15~12:55)
課題に対するフィードバックの方法	採点をして返却する。
実務経験	高等学校教諭
その他	特になし
授業の内容	<p>第1回 教育相談の基礎知識について 教育相談の学校における意義と課題を理解する。同時に教育相談の3つの機能について理解する。</p> <p>【事前学修】テキスト第1章を事前に熟読しておくこと。 【事後学修】授業中に実施した課題について振り返りを行うこと。</p> <p>第2回 価値観の多様性について 自分とは異なった意見を受け止め、多様な価値観を理解する。</p> <p>【事前学修】テキスト第2章を事前に熟読しておくこと。 【事後学修】授業中に実施した課題について振り返りを行うこと。</p>

第3回	<p>カウンセリングにおける受容・共感・傾聴について 話を聴くための基本的な姿勢を理解する。また、傾聴のスキルについて学ぶ。</p> <p>【事前学修】テキスト第3章を事前に熟読しておくこと。 【事後学修】授業中に実施した課題について振り返りを行うこと。</p>
第4回	<p>子どもたちのSOSサインについて 子どもたちが発するサインとカウンセリングマインドについて理解する。それと同時に学校と家庭の連携について学ぶ。</p> <p>【事前学修】テキスト第4章を事前に熟読しておくこと。 【事後学修】授業中に実施した課題について振り返りを行うこと。</p>
第5回	<p>自己理解について 相談場面における自己理解の重要性とその視点について学ぶ。</p> <p>【事前学修】テキスト第5章を事前に熟読しておくこと。 【事後学修】授業中に実施した課題について振り返りを行うこと。</p>
第6回	<p>不登校に対する対応（その1）不登校に関する基礎知識 不登校に関する基本的な知識を身につける。</p> <p>【事前学修】テキスト第6章を事前に熟読しておくこと。 【事後学修】授業中に実施した課題について振り返りを行うこと。</p>
第7回	<p>不登校に対する対応（その2）不登校対応へのポイント 不登校に対する基本的な姿勢と対応について学ぶ。また、学校内外の連携について学ぶ。</p> <p>【事前学修】テキスト第7章を事前に熟読しておくこと。 【事後学修】授業中に実施した課題について振り返りを行うこと。</p>
第8回	<p>いじめに対する対応（その1）いじめに関する基礎知識 いじめに関する基本的な知識を身につける。また、いじめに対する対応の基本的流れについて理解する。</p> <p>【事前学修】テキスト第8章を事前に熟読しておくこと。 【事後学修】授業中に実施した課題について振り返りを行うこと。</p>
第9回	<p>いじめに対する対応（その2）いじめの多様性を事例から理解する いじめの様態を理解するとともに、基本的対応の留意点について学ぶ。</p> <p>【事前学修】テキスト第9章を事前に熟読しておくこと。 【事後学修】授業中に実施した課題について振り返りを行うこと。</p>
第10回	<p>発達障がいのある児童生徒への対応について（その1）発達障がいの理解 発達障がいについての基礎的な知識について学ぶ。</p> <p>【事前学修】テキスト第10章を事前に熟読しておくこと。 【事後学修】授業中に実施した課題について振り返りを行うこと。</p>
第11回	<p>発達障がいのある児童生徒への対応について（その2）発達障がいの児童・生徒の理解 発達障がいを背景とした相談における基本的な姿勢と対応について学ぶ。</p> <p>【事前学修】テキスト第11章を事前に熟読しておくこと。 【事後学修】授業中に実施した課題について振り返りを行うこと。</p>
第12回	<p>保護者を対象とした教育相談について（その1）保護者対応の重要性とポイント 教育現場における保護者対応の重要性とその視点について理解する。</p> <p>【事前学修】テキスト第12章を事前に熟読しておくこと。 【事後学修】授業中に実施した課題について振り返りを行うこと。</p>
第13回	<p>保護者を対象とした教育相談について（その2）保護者対応の基本的な流れと事例 学校における保護者対応の基本的な流れについて理解する。また、他機関との連携について学ぶ。</p> <p>【事前学修】テキスト第13章を事前に熟読しておくこと。 【事後学修】授業中に実施した課題について振り返りを行うこと。</p>
第14回	<p>教員のメンタルヘルスについて 教員のメンタルヘルスの現状とその不調について理解する。</p> <p>【事前学修】テキスト第14章を事前に熟読しておくこと。 【事後学修】授業中に実施した課題について振り返りを行うこと。</p>
第15回	<p>反社会的行動の理解と対応、まとめ 非行や不良行為に対する基本的な姿勢と対応について学ぶ。全体のまとめ。</p> <p>【事前学修】反社会的行動と非社会的行動について調べておくこと。 【事後学修】授業中に実施した課題について振り返りを行うこと。</p>
定期試験	

講義科目名称： カウンセリング演習

授業コード： 52203100

英文科目名称： Counseling Practice

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	3	1	選択
担当教員			
梅林 厚子			
開講曜限	授業形態		
金4	演習		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■子ども教育学科■</p> <p>■3-2 社会で必要とされる対人関係スキルを身に付け、集団活動において、リーダーシップを発揮し、集団をまとめることができる</p> <p>■4-2 子どもの権利を理解し、それを尊重して、公平かつ受容的・共感的な態度で子どもと関わることができる</p>
---------	---

科目の概要・目的	こころと人間関係の理解には様々な方法や見方があるが、心理カウンセリングの視点からこころの理解を深めることが重要視されています。本授業においては、カウンセリングの意義や歴史的展開、基本的な知識や態度等、カウンセリングに関する専門的知見や技術を習得するよう授業を進めていきます。その際、主として保育・教育現場での相談過程や各過程における傾聴技法の実習を行うことによって、実際場面でのカウンセリングのあり方について理解が深まるようになります。また、ロールプレイやグループワークなどの演習を多面的に実践することにより、カウンセリングの体験的理解を図ることができます。
学習到達目標	1) カウンセリングについての基本的な理論を理解し、積極的傾聴の基本的な考え方や相談の流れについて説明することができる。 2) 積極的傾聴の基本的な技能や相談過程に必要な基礎的技法を使用することができる。 3) 保育・教育領域で役立つカウンセリングを実践していく力を身につける。
授業の方法	【アクティブラーニングの取り入れ状況】 第3回、6回、7回、8回、12回にグループワークを行い、第14回、15回ではロールプレイを実施する。 【ICTを利用した双方向授業】 なし 【その他特記事項】 なし
成績評価の方法	【評価項目】【割合】 レポート課題（50%）、授業の中で実施した課題（30%）、受講態度（20%）を総合的に評価します。
教科書・テキスト	毎回、授業中に資料のプリントを配布します。
参考書	武田 建 「人間関係を良くするカウンセリング」 2011 誠信書房 古宮 昇 「プロが教える共感的カウンセリングの面接術」 2019 誠信書房 諸富 祥彦 「はじめてのカウンセリング入門」（上巻・下巻） 2021 誠信書房
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	日常生活の中でも人の悩みを聴いたり、相談を受けたりする機会があると思われませんが、その際、本授業で習得した積極的傾聴の態度や技法を大切にし、それを活かしていくように心がけることが望ましいです。
履修上の留意事項	「教育相談」で学習した内容も含まれますので、「教育相談」の単位を取得していることが望ましいです。
オフィスアワー	授業終了後に教室で行います。
課題に対するフィードバックの方法	提出物は添削して返却します。
実務経験	小学校教員、カウンセラー（臨床心理士・学校心理士） *保育・教育現場での実際的な相談について、応用的な内容を取り上げていきます。
その他	各回の授業は前時の内容と関連が深いです。欠席した回の資料は次の出席時に必ず配布していますし、毎回前時の振り返りを行っていますので、理解を深めるよう努めて下さい。わからない点は気軽に質問していただければありがたいです。
授業の内容	第1回 オリエンテーション（授業の進め方、成績評価の説明等）、カウンセリングについて カウンセリングの意義と内容、機能などについて解説する。 【事前学修】 シラバスを事前に読み、授業の概要を捉えておくこと 【事後学修】 「カウンセリングと相談の違い」を復習し、カウンセリングの意義をまとめておくこと 第2回 カウンセリングの理論（来談者中心療法）について 代表的なカウンセリング理論である来談者中心療法やカウンセリング過程について解説する。 【事前学修】 2年次の「教育相談」でも来談者中心療法について学んでいるので、再度復習しておくこと 【事後学修】 「カウンセリング・マインド」は次回さらに詳しく学習するので、しっかり復習しておくこと 第3回 カウンセリングの基本的な態度について 積極的傾聴の基本的な考え方（無条件の肯定的配慮、共感的理解など）を解説し、実習すると共

	<p>に、多様な価値観を探るグループワークを取り入れ、自己理解や他者理解の認識を深める。 【事前学修】2年次の「教育相談」でも積極的傾聴の基本的な考え方について、初歩的事項は学んでいるので、再度復習してから本時に臨むこと 【事後学修】「積極的傾聴の基本的な考え方」は次回の「基本的な技法」にも繋がるので、まとめておくこと</p>
第4回	<p>積極的傾聴の基本的な技法について（1）－あいづちや明確化など－ あいづち、繰り返し、内容の明確化、感情の明確化などを解説し実習を取り入れながら授業を進める。 【事前学修】2年次の「教育相談」でも積極的傾聴の基本的技法について、初歩的事項は学んでいるので、再度復習してから本時に臨むこと 【事後学修】積極的傾聴のスキルは次回の「わかってほしいこと」の伝え返しと関連しているので、しっかり復習しておくこと</p>
第5回	<p>積極的傾聴の基本的な技法について（2）－「わかってほしいこと」の伝え返し－ 話し手の語りの中にある「気持ち（感情）」や「わかってほしいこと」の伝え返しを解説し、実習を取り入れながら授業を進める。 【事前学修】第3回の「カウンセリングの基本的な態度」や第4回の「積極的傾聴の基本的な技法」の内容が、本時の内容と関連が深いので再度復習をしておくこと 【事後学修】日常生活で人の話を傾聴する時、本時の学びを役立てていくよう試みること</p>
第6回	<p>積極的傾聴における言葉とイメージについて 絵本を用いて、心の中で感じたことを言葉に置き換えるグループワークを行い、「イメージをつかみ言語化すること」の理解を深める。 【事前学修】前時（第5回）の内容が本時への発展となり関連が深まるので、振り返りをしておくこと 【事後学修】他の絵本についても心に感じたことを言語化することを薦める。</p>
第7回	<p>カウンセリングの実際場面について 実際のカウンセリング場面をDVDで視聴し、カウンセリングの認識を深める。（グループワークを行う） 【事前学修】カウンセリングの実際場面を理解するために、積極的傾聴の基本的な考え方や技法について再度復習しておくこと 【事後学修】DVDを視聴した気づきを振り返り、今後のロールプレイでも役立てるよう努めること</p>
第8回	<p>カウンセリングの事例検討 カウンセリング事例を個別やグループで検討しながら、積極的傾聴の基本的な態度や技法を深める。 【事前学修】第3回、第4回、第5回の内容を応用するので、復習しておくこと 【事後学修】本時の内容はカウンセリングの実際場面にも繋がるので、十分振り返りを行っておくこと</p>
第9回	<p>相談（指導）の流れについて 相談過程全般を通しての留意点を解説する。 【事前学修】カウンセリングについての基本的事項やその応用的な内容を取り上げるので、これまでの復習をしておくこと 【事後学修】次回から相談過程の各場面を詳しく取り上げるので、全体の流れについてまとめておくこと</p>
第10回	<p>相談過程の「情報収集や質問の仕方」について 「閉じられた質問」、「開かれた質問」などを解説し、実習を取り入れながら授業を進める。 【事前学修】前時（第9回）の相談過程における「承」の場面を取り上げるので、復習しておくこと 【事後学修】次時（第11回）に繋がる内容なので、しっかり復習しておくこと</p>
第11回	<p>相談過程の「解決志向の問題把握」について（1）－解決志向アプローチ－ 解決志向アプローチを解説し、実習を取り入れながら授業を進める。 【事前学修】第9回の相談過程における「転」の場面を取り上げるので、復習しておくこと 【事後学修】次時（第12回）に繋がる内容なので、まとめを行っておくこと</p>
第12回	<p>相談過程の「解決志向の問題把握」について（2）－リソース探し－ 「リソース探し」、「例外さがし」などのグループワークを通して、「解決志向の問題把握」の理解を深める。 【事前学修】解決志向アプローチの発展課題として取り組むので、前時（第11回）の復習をしておくこと 【事後学修】第9回から本時まで、相談（指導）の流れについて学んだので、総合的な振り返りをしておくこと</p>
第13回	<p>積極的傾聴の総合練習 積極的傾聴の基本的な態度や技法を用いて、実際に演習を行う。 【事前学修】これまで学んだことの総合的な実践を行うので、総復習を行っておくこと 【事後学修】次時（第14回）でもロールプレイを行うので、本時での積極的傾聴の振り返りをしておくこと</p>
第14回	<p>ロールプレイ①－保護者と育児相談員－ 実際の相談場面を設定し、総合的な演習を行う。 【事前学修】これまで学んだ積極的傾聴の態度や技法の総復習を行っておくこと 【事後学修】次時（第15回）でもロールプレイを行うので、本時の相談場面での気づきを確認しておくこと</p>
第15回	<p>ロールプレイ②－保護者と保育士・教師など－振り返りとまとめ 実際の相談場面を設定し総合的な演習を行うと共に、これまでの学びを振り返り、まとめる。 【事前学修】前時の応用場面も取り上げるので、復習に取り組んでおくこと。また、これまでの学びの振り返りを行うので、資料やワークシートなどをまとめておくこと 【事後学修】積極的傾聴は日常生活でも実践できるので、これまでの学びを活かすよう心がけること</p>

講義科目名称： 食育論

授業コード： 52203500 52203510

英文科目名称： Dietary Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	2	2	必修
担当教員			
國末 直宏			
開講曜限	授業形態		
金1、2	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■子ども教育学科■</p> <p>■1-1 子どもの発達に関する基本的知識を有し、子ども一人一人の特性や心身の状況を多面的に捉えることができる</p> <p>■2-4 子ども・家庭をめぐる今日的・社会的諸課題について多面的に捉えることができる</p>
---------	--

科目の概要・目的	<p>1. 人が生きる上で重要視されることとして、心身ともに健康で、意欲的に生きる力を身に付けていることがある。特に幼児期、学童期における食行動は、毎日の健康づくり及び生涯にわたる健康的な食習慣の基礎となることを十分に理解し、食育を実践できる知識と技術を習得する。</p> <p>2. 食についての現代の課題を知り、その原因や解決方法を探る。食を中心に、子どもを取り巻く環境や家庭生活の様子など、社会の変化に伴う生活様式や生活リズムの急激な変化が与える子どもへの影響など、具体的な事例について検証し、指導者になったときに生かす解決方法を探る。</p> <p>3. 食育を実践する教育者として、食に関する基本的知識を身に付け、食文化の継承者としての認識を持つ</p>
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育、保育等における食育の重要性を知り、積極的に子どもの食育の推進に関する活動に取り組むことのできるスキルを身に付ける ・多面的、総合的に現代の食に関する課題を知る ・食育の実践を行うものとして、基本的な栄養、調理、食文化、マナーなどの知識を習得する ・食への感謝の気持ちを育む
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 食育媒体の制作</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 制作物の解説</p> <p>【その他特記事項】 学修の理解度を確保するため、フォームを活用した確認テストの実施</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】 定期試験(筆記)、提出物、平常点</p> <p>【割合】 定期試験(筆記) (70%) 提出物 (20%) 平常点 (10%)</p>
教科書・テキスト	特に指定なし
参考書	財団法人児童育成協会児童給食事業部発行、保育所における食育研究会編「乳幼児の食育実践へのアプローチ」
授業時間外の学修について(事前・事後学習について)	事前学修では、各回講義テーマについての調べ学習をしておく。 事後学修では、講義に関連した食情報の収集に努め、まとめる
履修上の留意事項	日常との深い関わりがある「食」について興味、関心を抱くように努める。
オフィスアワー	月曜9:00～12:00 水曜9:00～12:00
課題に対するフィードバックの方法	提出物による質問をもとに、全体的に解説が必要な項目に関しては講義内容にて説明する
実務経験	日本料理専門調理師認定 給食用特殊料理専門調理師認定 専門調理食育推進員認定 管理栄養士
その他	特になし
授業の内容	<p>第1週 オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の進め方、シラバス、成績評価等について ・食育とは ・食育を実践するうえで必要となる基礎的教養の確認 <p>【事前学修】シラバスを読み、授業の概要と目的を理解する 【事後学修】自身が今までに受けたことのある食育を振り返り、理解ができていない項目についてまとめ、理解をする</p> <p>第2週 食育の意義、食育基本法について知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食育基本法が制定された社会的背景 ・食育基本法の目的、基本理念、責務

第3週	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度食育推進施策（食育白書）の要点 【事前学修】日本の食の現状や課題を知り、食育基本法の成立と内容を理解する。 【事後学修】「幼稚園教育要領」「保育所における食育に関する指針」における食育の位置付けを捉え、就学前機関での果たすべき役割を理解する <p>栄養バランスと食生活の基本①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食育の実践者として求められる食育スキルを学習する ・第1週に実施した確認問題の要点についての解説 ・年中行事の継承 ・1月の行事食（おせち）
第4週	<ul style="list-style-type: none"> 【事前学修】食育の意義を理解したうえで、食育実践者として求められる食事の在り方を検討する 【事後学修】授業で実施した確認テストと解説を理解し、全ての問題を正解できるようにしたうえで、再度、問題に取り組み提出する。 <p>栄養バランスと食生活の基本②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・五大栄養素とその役割 ・食事のバランス（三食食品群） ・和食の構成 ・1月の行事食（七草がゆ、鏡開き）
第5週	<ul style="list-style-type: none"> 【事前学修】就学前、小中学校で行われている食育内容を調べ、理解が足りていない項目についての事前学修を行う 【事後学修】講義で学修した内容を食育実践者としての認識を持ち十分に理解し、他者へのレクチャーができるようにする <p>旬の意味と食材を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旬について ・旬の食材を使うことの利点 ・2月の行事食（節分）
第6週	<ul style="list-style-type: none"> 【事前学修】生鮮食品売り場に並ぶ食材の旬を調べ、自身がどれだけの食材の旬が把握できているのかを自覚する 【事後学修】露地栽培野菜とハウス栽培食材との栄養価、コスト、味覚についての違いについて調査し表にまとめる <p>若年層の食生活課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国民運動「早寝」「早起き」「朝ごはん」 ・共食と孤食 ・よく噛んで食べることを教える ・食塩、糖分の過剰摂取 ・上手なおやつのかき方 ・3月の行事食（ひなまつり）
第7週	<ul style="list-style-type: none"> 【事前学修】自身の生活習慣と食事内容を記録する 【事後学修】自身の生活習慣の改善目標を立て、規則正しい生活習慣の実践に繋げる <p>食育媒体を知る。食育ポスターの素案作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育期間での食育において活用される媒体と狙いを知る ・対象者、年齢に応じた食育の進め方 ・園児を対象とした食育ポスターのテーマと案を検討する
第8週	<ul style="list-style-type: none"> 【事前学修】食育に活用される媒体を調査し、その目的と伝え方の工夫を検討する 【事後学修】食育ポスターの素案を完成させる。園児に合った食育項目とその伝え方について検討する <p>食育媒体の制作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園に掲示する食育ポスターの制作を行う ・食育ポスターを制作したうえでの工夫を伝える
第9週	<ul style="list-style-type: none"> 【事後学修】授業内で完成しなかった食育ポスターを仕上げ提出する <p>こどもの味覚を育てる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本五味とその特性 ・味覚形成と年齢 ・偏食への理解と食育の進め方 ・偏食が起こる環境要因 ・5月の行事食（端午の節句）
第10週	<ul style="list-style-type: none"> 【事前学修】自身の好き嫌いとその発生理由について考えてみる。日頃の食生活で感じる味覚について意識しながら食事をする 【事後学修】自分が嫌いな食べ物克服方法を検討し、実践してみる。その対策方法についての効果を検証する <p>授業内で学修した味覚の感じ方について体感してみる</p> <p>ユネスコ無形文化遺産に登録された「和食」と「出汁」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ「和食」がユネスコ無形文化遺産に登録されたのか？ ・和食文化の継承と課題について考える ・出汁のうまみと食嗜好の形成について知る ・和食の特徴
第11週	<ul style="list-style-type: none"> 【事前学修】自身の家庭での出汁の取り方について知っておく。 【事後学修】若者を中心とした和食離れの傾向と食育の果たす役割と方策を検討する <p>食事マナーの基本と伝え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事マナーを教える意義 ・お箸の使い方とマナー ・「いただきます」「ごちそうさま」から育む感謝の気持ち ・7月の行事食（七夕、土用丑の日）
第12週	<ul style="list-style-type: none"> 【事前学修】家庭でのしつけが与える食事への感謝の気持ちへの影響について調べる 【事後学修】講義内では日常でのマナーについて学ぶが、外食時の和洋中で気を付けたい大人としてのマナーを調べる <p>食育から取り組むSDGS</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・食に関連するSDGS ・気候変動と私たちの食 ・食料廃棄率の現況と私たちにできること ・日本の水産業とこれからの食 【事前学修】食育にできるSDGS項目を検討し具体的な実践案を検討する 【事後学修】授業で学んだ自身にできるSDGS活動と今後の取り組みについての考えを記述する <p>第13週 地域の食文化と食育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の食文化を知り育む郷土への思い ・郷土料理の成り立ち ・代表的な郷土料理 【事前学修】全国の郷土料理とその成り立ちについて調べる 【事後学修】自身の故郷における郷土料理を知り、他者に紹介ができるようにまとめる <p>第14週 クッキング体験を通じた食育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クッキング体験から得られる食育効果 ・食育推進のためのPDCAサイクル ・農業体験から繋げるクッキング体験 【事前学修】年齢に応じ可能な調理作業を調べたものを一覧としてまとめる 【事後学修】 <p>第15週</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回までの講義内容の振り返り ・食育についての学びから得たこと、今後の生活に生かすことをまとめる。 【事前学修】前回までの配布物の整理。、講義の目標としている項目についての達成度の確認を行う 【事後学修】全15回の振り返りを行い、食育実践者として備えるべき知識や技術の課題を設定し、引き続き学びを深めるように努める <p>定期試験</p>
--	--

講義科目名称： 社会福祉

授業コード： 52204300 52204310

英文科目名称： Social Welfare

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	1	2	必修
担当教員			
黒澤 祐介			
開講曜限	授業形態		
木2、3	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■子ども教育学科■</p> <p>■1-3 社会的養護に関する基本的な内容や子ども家庭をめぐる諸問題の歴史の変遷と各種法制度などについての専門的知識を有している</p> <p>■4-1 初等教育・保育・子ども福祉における職務内容と役割を理解し、子どもと関わる専門的職業人としての強い使命感を有している</p>
---------	---

科目の概要・目的	社会福祉とは、広く人びとの幸せな社会生活を支援する考え方や具体的な方法、およびそれらを実現するさまざまな施策の総称である。本科目では、社会福祉の歴史や理念、法制度を学ぶことにより、社会福祉の実現にむけた担い手としての理解を深めることを目的とする。実践で求められる諸領域（児童福祉・障害者福祉・高齢者福祉など）の基礎的知識を学び、保育士に必要な力を養うことを目指す。
----------	--

学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉の歴史や理念、法制度を理解する。 ・社会福祉の担い手としての知識や技術を体得する。 ・保育士に必要な諸領域の基礎的知識を身につける。 <p>以上のことを通して、社会福祉にかかわる保育専門職としての価値・知識・技術を習得する。</p>
--------	---

授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 講義では必要に応じてグループワーク・発表を行う</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 必要に応じて学内システム等を利用し、教員と学生、また学生同士が意見を交流できるようにする</p> <p>【その他特記事項】 特になし</p>
-------	--

成績評価の方法	<p>【評価項目】 授業ごとの小課題 定期試験（筆記）</p> <p>【割合】 授業ごとの小課題（20%） 定期試験（筆記）（80%）</p>
---------	---

教科書・テキスト	志濃原亜美編（2020）『みらい×子どもの福祉ブック 社会福祉』株式会社みらい
----------	---

参考書	特に指定しない
-----	---------

授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	社会福祉に関するニュースなどに関心を持ち、毎回講義後に小レポートを行うので、予習・復習をしておくこと。
---------------------------	---

履修上の留意事項	主体的な姿勢での受講を望みます。
----------	------------------

オフィスアワー	水曜日 3時限目
---------	----------

課題に対するフィードバックの方法	課題については、メール、学内システム等により添削を行う
------------------	-----------------------------

実務経験	介護職員
------	------

その他	特になし
-----	------

授業の内容	<p>第1回 現代社会の動向 少子高齢化や人口減少の現状と見通しを知り、現代社会の変容に伴う、都市化、過疎化、核家族、ひとり親家庭などについて学ぶ。 【事前学修】テキスト11頁から18頁を熟読し、専門用語について下調べをしておくこと 【事後学修】授業の資料を整理し、現代社会の動向についてノートにまとめる</p> <p>第2回 社会福祉の理念と概念 ノーマライゼーションやソーシャルインクルージョンなどの社会福祉の理念と概念を知り、人間・社会の幸福の実現のための、ウェルビーイングの観点の重要性を理解する。また、保育者と社会福祉の関わりについて学ぶ。 【事前学修】テキスト19頁から26頁を熟読し、専門用語について下調べをしておくこと 【事後学修】授業の資料を整理し、社会福祉の理念と概念についてノートにまとめる</p> <p>第3回 社会福祉の歴史 生活上の問題解決や予防のための社会保障や社会福祉サービスが、歴史的につくられてきたことを知り、制度の成り立ちを知るとともに、現代の社会福祉の意義を考える。また、公的及び民間による救済活動が早くから展開されてきたイギリス・アメリカの社会福祉の歩みについて理解</p>
-------	--

	し、近代以降の日本の社会福祉の歩みについて考える。 【事前学修】テキスト27頁から40頁を熟読し、専門用語について下調べをしておくこと 【事後学修】授業の資料を整理し、社会福祉の歴史についてノートにまとめる
第4回	福祉分野の法律 日本国憲法、社会福祉法、福祉六法など、様々な福祉分野の法律について学び、保育者が法律を学ぶ意義について考える。 【事前学修】テキスト41頁から48頁を熟読し、専門用語について下調べをしておくこと 【事後学修】授業の資料を整理し、福祉分野の法律についてノートにまとめる
第5回	社会福祉基礎構造改革と福祉サービス利用の仕組み 社会福祉制度全般について抜本的な見直しを行った「社会福祉基礎構造改革」と、関連する福祉サービスの利用の仕組みについて知り、措置制度と契約制度、応能負担と応益負担について考える。 【事前学修】テキスト49頁から54頁を熟読し、専門用語について下調べをしておくこと 【事後学修】授業の資料を整理し、福祉サービス利用の仕組みについてノートにまとめる
第6回	社会福祉の実施体系 社会福祉の実施に関する業務を担う社会福祉の行政機関である、厚生労働省や社会保障審議会、さらに福祉事務所や児童相談所について知る。また、国や地方公共団体における社会福祉の財源と社会福祉に関する費目である社会保障関係費と民生費について学ぶ。 【事前学修】テキスト55頁から68頁を熟読し、専門用語について下調べをしておくこと 【事後学修】授業の資料を整理し、社会福祉の実施体系についてノートにまとめる
第7回	社会福祉の施設と専門職 社会福祉に関する各法に定められている社会福祉施設について、施設の形態や種類、設備や運営について理解する。また、社会福祉領域の多様な専門職と、医療や保健、教育など様々な分野の専門職の連携・協働について学ぶ。 【事前学修】テキスト69頁から81頁を熟読し、専門用語について下調べをしておくこと 【事後学修】授業の資料を整理し、社会福祉施設と専門職についてノートにまとめる
第8回	社会保障制度 病気・けが、失業等の私たちの暮らしを保障する社会保障制度について、その概念や体系、機能について理解する。また、医療保険・介護保険・労働保険などの社会保険について、その制度や対象者、授業方法などを知り、さらに日本の公的扶助の柱である生活保護制度や低所得者支援施策について考える。 【事前学修】テキスト82頁から99頁を熟読し、専門用語について下調べをしておくこと 【事後学修】授業の資料を整理し、社会保障制度についてノートにまとめる
第9回	子ども家庭福祉の法と制度 子どもの権利条約や児童福祉法、子どもの最善の利益などについて知り、子ども家庭福祉の理念を理解する。また、少子化対策や虐待問題など、子育て支援にかかる今日的動向について学ぶ。 【事前学修】テキスト100頁から117頁を熟読し、専門用語について下調べをしておくこと 【事後学修】授業の資料を整理し、子ども家庭福祉の法と制度についてノートにまとめる
第10回	高齢者福祉の法と制度 高齢化の現状や高齢者を取り巻く状況について理解し、高齢者の尊厳や生活を保障する主な法律、高齢者の介護を社会全体で支え合う仕組みである介護保険制度について学ぶ。さらに、高齢者がいつまでも地域の中で自分らしく暮らし続けられるための地域包括ケアシステムについて考える。 【事前学修】テキスト118頁から130頁を熟読し、専門用語について下調べをしておくこと 【事後学修】授業の資料を整理し、高齢者福祉の法と制度についてノートにまとめる
第11回	障害者福祉の法と制度 障害者福祉の基本理念等について、障害者権利条約や合理的配慮を理解し、障害者を支える障害福祉サービスの体系について学ぶ。 【事前学修】テキスト131頁から146頁を熟読し、専門用語について下調べをしておくこと 【事後学修】授業の資料を整理し、障害者の法と制度についてノートにまとめる
第12回	ソーシャルワークの体系 ソーシャルワークの体系やバイスティックの7原則などケースワークの原則、展開過程について理解し、保育士に求められるソーシャルワークに関する基本的事項について学ぶ。 【事前学修】テキスト147頁から157頁を熟読し、専門用語について下調べをしておくこと 【事後学修】授業の資料を整理し、ソーシャルワークの体系についてノートにまとめる
第13回	ソーシャルワークのモデルと視点 医学モデルと生活モデル、ストレングス、エンパワメント、アドボカシーなど、ソーシャルワークのモデルやアプローチを理解し、保育士に求められるソーシャルワークの視点について考える。 【事前学修】テキスト157頁から162頁を熟読し、専門用語について下調べをしておくこと 【事後学修】授業の資料を整理し、ソーシャルワークのモデルと視点についてノートにまとめる
第14回	福祉サービスの利用支援と権利擁護 利用者が福祉サービスを安心して利用できるようなするための支援として、権利擁護や苦情解決、第三者評価、成年後見制度など、利用者を守る仕組みを理解する。 【事前学修】テキスト163頁から179頁を熟読し、専門用語について下調べをしておくこと 【事後学修】授業の資料を整理し、福祉サービスの利用支援についてノートにまとめる
第15回	地域福祉の推進 地域福祉の担い手である社会福祉協議会、民生委員・児童委員などについて理解し、地域福祉を推進していくための計画について考える。 【事前学修】テキスト180頁から188頁を熟読し、専門用語について下調べをしておくこと 【事後学修】授業の資料を整理し、地域福祉についてノートにまとめる
定期試験	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	2	2	選択
担当教員			
徳留 由貴			
開講曜限	授業形態		
水2、3	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■子ども教育学科■</p> <p>■1-1 子どもの発達に関する基本的知識を有し、子ども一人一人の特性や心身の状況を多面的に捉えることができる</p> <p>■2-2 保育内容に関する専門的知識を有し、教材となる素材の内容について分析・解釈し、適切な教材の準備を行うことや、子どもの興味関心などを踏まえて、保育の内容に即した適切な保育の計画を工夫することができる。</p>
科目の概要・目的	<p>乳児保育が対象とする子どもは0・1・2歳児である。この時期は、心身ともに著しく発達がなされる時期であり、身近な大人との心地よい関わりをもとに、豊かな生活や遊びを営んでいくことが求められる。したがって、本授業では、乳児保育が対象とする0・1・2歳児の発達に関する基礎的知識を修得し、養護と教育が一体となって展開される3歳未満児の保育内容の実際について理解することを目指す。</p> <p>また、3歳未満児の保育ニーズが高まる今、その背景にある子育てをめぐる課題と社会的支援ニーズの理解は乳児保育の役割を理解する上で欠かせない。よって、乳児保育の意義・目的と歴史の変遷について学ぶとともに、保護者・保育者間・関係機関との協働・連携について理解することを目指す。</p>
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現代における乳児保育の社会的意義を知り、保育士の役割を理解する。 ・乳児保育を担当する保育者として必要な、知識・技能を身につける。 ・乳児期の子どもの発達の道筋を学び、具体的な子どもの姿を理解する。 ・発達過程に応じた保育士の適切な対応や援助方法について理解する。
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容をもとにグループディスカッションを行うとともに、その討議内容をまとめ・発表する。 <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・teamsを利用する。 <p>【その他特記事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし
成績評価の方法	<p>【評価項目】 【割合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内課題 (40%) ・定期試験 (授業内筆記) (60%)
教科書・テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・小山朝子編著 2019 『講義で学ぶ乳児保育』 わかば社
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・厚生労働省 2018 『保育所保育指針解説』 フレーベル館 ・内閣府・文部科学省・厚生労働省 2018 『幼保連携型認定こども園教育・保育解説』 フレーベル館
授業時間外の学修について(事前・事後学習について)	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児に関するニュース・記事に目を通しておく。 ・日常生活で遭遇する親子の姿に目を向けるようにする。
履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・グループをつくり授業を進めていく為、欠席はしないようにすること。
オフィスアワー	1号館308研究室 月～金のお昼休み
課題に対するフィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> ・各授業内で提示した課題については、その後添削・採点し、学生に返却する。 ・各自で取り組んだ課題をもとに、再度グループで討議することもある。
実務経験	保育士
その他	特になし
授業の内容	<p>第1回 オリエンテーション／乳児保育の意義・目的と歴史の変遷 乳児保育 I の概要や目標、具体的な授業内容を確認する。 今日の乳児保育がどのような歴史的流れの中で展開されてきたのか、テキストや資料をもとに検討する。</p> <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト(p18～p27) を読んでおく。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容を振り返り、整理する。 <p>第2回 乳児保育の役割と機能 第1回の内容を踏まえた上で、乳児保育の目的と役割、養護と教育の一体性について理解する。</p> <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト(p10～p17) を読んでおく。 <p>【事後学修】</p>

第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容を振り返り、整理する。 <p>乳児保育の実際</p> <p>第1回、第2回の内容を踏まえた上で、保育所における乳児保育と保育所以外の児童福祉施設（乳児院等）や家庭的保育等における乳児保育の実際について理解する。その上で、3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場について学ぶ。</p> <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト(p23～p27)を読んでおく。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容を振り返り、整理する。
第4回	<p>0・1・2歳児の発達</p> <p>0～2歳児の社会性の発達について、人やモノとの関わりをもとに理解する。</p> <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト(p28～p35)を読んでおく。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容を振り返り、整理する。
第5回	<p>乳児（0歳児）の保育内容</p> <p>乳児（0歳児）の発達特徴について理解する。その上で、乳児（0歳児）の保育内容について検討する。</p> <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト(p36～p47)を読んでおく。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容を振り返り、整理する。
第6回	<p>1歳以上3歳未満児の保育内容</p> <p>1歳以上3歳未満児の発達特徴について理解する。その上で、1歳以上3歳未満児の保育内容について検討する。</p> <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト(p48～p63)を読んでおく。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容を振り返り、整理する。
第7回	<p>乳児の生活の基本</p> <p>0歳児、1歳児、2歳児の基本的な生活（食事、睡眠・休息、排泄、着脱、清潔）について理解する。また、そこでの保育について検討する。</p> <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト(p82～p101)を読んでおく。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容を振り返り、整理する。
第8回	<p>乳児の遊び①0歳児</p> <p>0歳児の遊びについて、発達との関連で理解する。その上で、この時期に合わせた具体的保育を検討する。</p> <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト(p102～p104)を読んでおく。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容を振り返り、整理する。
第9回	<p>乳児の遊び②1歳児</p> <p>1歳児の遊びについて、発達との関連で理解する。その上で、この時期に合わせた具体的保育を検討する。</p> <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト(p105～p107)を読んでおく。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容を振り返り、整理する。
第10回	<p>乳児の遊び③2歳児</p> <p>2歳児の遊びについて、発達との関連で理解する。その上で、この時期に合わせた具体的保育を検討する。</p> <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト(p109～p111)を読んでおく。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容を振り返り、整理する。
第11回	<p>乳児保育の環境構成</p> <p>0～2歳児の保育に必要な環境構成について、発達や生活を踏まえた上で理解する。また、保育室の環境図を実際に作成し、各年齢に合わせた室内環境を考える。</p> <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト(p116～p123)を読んでおく。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容を振り返り、整理する。
第12回	<p>乳児保育における全体的な計画</p> <p>乳児保育における計画の必要性と指導計画に基づいた保育実践のあり方について理解する。</p> <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト(p124～p133)を読んでおく。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容を振り返り、整理する。
第13回	<p>乳児保育における子育て支援</p> <p>乳児と保護者の生活にみえる課題を理解する。その上で、子どもの育ちを保障していくために必要な、保護者との相互理解と連携、支援について考え、知識を深める。</p> <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト(p134～p143)を読んでおく。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容を振り返り、整理する。
第14回	<p>乳児保育における連携・協働</p> <p>乳児保育を行うにあたって、職員間、家庭、地域との連携を行うことの必要性について理解する。また、その上での保育者の役割について考える。</p>

第15回	<p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none">・テキスト(p144～p147)を読んでおく。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none">・授業内容を振り返り、整理する。 <p>乳児期の発達のとまとめと保育のポイント 定期試験</p> <p>これまでの講義をふり返りながら、乳児期の発達と保育のあり方についてグループで検討する。</p> <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none">・テキスト(p148～p153)を読んでおく。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none">・授業内容を振り返り、整理する。
------	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	2	1	選択
担当教員			
津村 樹理			
開講曜限	授業形態		
月1、2	演習		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■子ども教育学科■</p> <p>■2-2 保育内容に関する専門的知識を有し、教材となる素材の内容について分析・解釈し、適切な教材の準備を行うことや、子どもの興味関心などを踏まえて、保育の内容に即した適切な保育の計画を工夫することができる。</p> <p>■4-1 初等教育・保育・子ども福祉における職務内容と役割を理解し、子どもと関わる専門的職業人としての強い使命感を有している</p>
科目の概要・目的	<p>○概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児の発達に環境が重要な役割を果たしていること、保育者自身も環境の一部であることを理解する。 ・その上で、幼稚園教育要領の領域「環境」について、乳幼児期の環境とのかかわりの実際とそれに伴う発達の諸側面の特徴をふまえ、保育における環境との豊かなかかわりを育むための保育内容と実際の指導法を理解する。 <p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育において幼児が自発的に自身を取り巻く環境に関わり、それらを生活に取り入れようとする力を養うための援助・指導法を学ぶ。 ・領域「環境」の意義を捉えることとその指導法を習得する。
学習到達目標	<p>○幼稚園教育要領の領域「環境」の内容とねらいを知った上で実行することができる。</p> <p>○幼児の自発性、好奇心、探究心を刺激するような環境設定や指導計画について考えることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育要領の領域「環境」の目標に即した保育計画を立案し、基礎的な知識と技能を身につけた上で保育を行うことができる。 ・「関心・意欲・態度」：幼稚園教育要領の領域「環境」に関心をもち、授業設計や、実際の活動に意欲的に取り組む。また、よりよい保育内容の計画や評価に対する能動的な態度を身につける。 ・「思考・判断・表現」：保育内容の領域「環境」の保育の基本的な知識に基づいてよりよい学習のあり方について、自分の考えを深め、具体的な授業設計として表現することができる。 ・「技能」：保育内容の領域「環境」の活動に必要な技能を修得し、保育者として必要な技能を修得する。 ・「知識・理解」：保育内容の領域「環境」の目標・内容を理解するとともに具体的な授業設計に必要な知識を修得する。
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内でフィールドワークやグループワークなどを取り入れ、体験を基にした理解につながるようにする。 <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容に関するスライドを基に、OHCやDVDなどの利用、パソコンを使った保育指導計画の作成や発表などを行う。 <p>【その他特記事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の状況によって内容や方法の変更を行うこともある。
成績評価の方法	<p>【評価項目・割合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各回のワークシート：45% ・授業への参加度：15% ・課題、レポート、小テスト：40%
教科書・テキスト	特に指定しない
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省 「幼稚園教育要領解説」 2018 フレーベル館 ・厚生労働省 「保育所保育指針」 2018 フレーベル館 ・内閣府 文部科学省 厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」 2018 フレーベル館
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	<p>【事前学修】</p> <p>該当内容を調べて自分の考えをまとめておく。</p> <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容や資料と共に復習し、ノートを整理しておく。また、自分の考えをまとめておく。 ・必要に応じて適宜資料を配布するので、テキストや自身のノート共にファイリングをしてまとめておく。
履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・本授業専用のファイルやノートを準備し配布資料やノートをまとめておく。 ・授業環境（明るさ、温度、音の大きさ）などは適宜対応しますのでお知らせ下さい。また個人的な対応も相談にのりますので事前にお知らせ下さい。
オフィスアワー	授業の前後に対応

課題に対するフィードバックの方法	各回の授業の質問や小テストや課題のフィードバック方法については、授業内で解説やコメントをし適宜対応する。
実務経験	国内外における幼稚園、保育所、病院での幼稚園教諭、保育士としての勤務経験を有する。子どもを取り巻く様々な環境を保育の視点から具体的な事例をもとに考える機会を提供する。
その他	特になし
授業の内容	<p>第1回 オリエンテーション、保育における環境についての概要 など ・ 授業概要の説明、受講にあたっての留意点、授業の進め方、成績評価の説明等 ・ 幼児教育の基本と保育内容「環境」、保育における環境の内容や重要性</p> <p>【事前学修】 ファイルやノートの準備。 【事後学修】 資料と共に復習し、ノートを整理しておく。また、自分の考えをまとめておく。</p> <p>第2回 子どもの発達と領域「環境」 ・ 保育内容の基本的構造と領域「環境」のねらい、内容について ・ 「“幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（“10の姿”）」の各々を知り、繋げて考える。 ・ 幼児期に望ましい環境と環境構成の実際、子どもの行動への理解と対応、環境設定や調整</p> <p>【事前学修】 該当内容を調べて自分の考えをまとめておく。 【事後学修】 授業内容や資料と共に復習し、ノートを整理しておく。また、自分の考えをまとめておく。</p> <p>第3回 領域「環境」のねらい、内容と、その展開の実際（園内活動、園外活動） ・ 園内や園外で行われる幼児遊びや活動の事例から身近な環境における保育との繋がりを知る、春の自然に関わる活動など</p> <p>【事前学修】 該当内容を調べて自分の考えをまとめておく。 【事後学修】 授業内容や資料と共に復習し、ノートを整理しておく。また、自分の考えをまとめておく。</p> <p>第4回 身近な自然を用いた教材研究（1） ・ 身近な素材（廃材や自然物 など）の活用と収集 ・ 大学等の周辺の季節の自然物の探索、収集、分類整理</p> <p>【事前学修】 該当内容を調べて自分の考えをまとめておく。 【事後学修】 授業内容や資料と共に復習し、ノートを整理しておく。また、自分の考えをまとめておく。</p> <p>第5回 身近な自然を用いた教材研究（2） 自然に親しみ、植物に触れる保育の実際</p> <p>【事前学修】 該当内容を調べて自分の考えをまとめておく。 【事後学修】 授業内容や資料と共に復習し、ノートを整理しておく。また、自分の考えをまとめておく。</p> <p>第6回 身近な自然を用いた教材研究（3） 身近な素材や自然物を用いた遊具製作</p> <p>【事前学修】 該当内容を調べて自分の考えをまとめておく。 【事後学修】 授業内容や資料と共に復習し、ノートを整理しておく。また、自分の考えをまとめておく。</p> <p>第7回 身近な自然を用いた教材研究（4） ・ 保育での生物（小動物や虫、昆虫など）の飼育、保育との関連</p> <p>【事前学修】 該当内容を調べて自分の考えをまとめておく。 【事後学修】 授業内容や資料と共に復習し、ノートを整理しておく。また、自分の考えをまとめておく。</p> <p>第8回 生活や身近な社会に気付く教材研究（1） ・ 園生活や活動、遊びの中で標識、文字、情報等に触れる活動</p> <p>【事前学修】 該当内容を調べて自分の考えをまとめておく。 【事後学修】 授業内容や資料と共に復習し、ノートを整理しておく。また、自分の考えをまとめておく。</p> <p>第9回 生活や身近な社会に気付く教材研究（2） ・ 園生活や遊びの中で、数量・図形等への関心・感覚を豊かにする活動内容 ・ 生活や遊びとの関わり</p> <p>【事前学修】 該当内容を調べて自分の考えをまとめておく。 【事後学修】 授業内容や資料と共に復習し、ノートを整理しておく。また、自分の考えをまとめておく。</p> <p>第10回 生活や身近な社会に気付く教材研究（3） ・ 生活に関係の深い情報や施設に関わる保育の実際 ・ 園生活や遊びの中で身近な情報、日本文化や異文化に触れる活動</p> <p>【事前学修】 該当内容を調べて自分の考えをまとめておく。 【事後学修】 授業内容や資料と共に復習し、ノートを整理しておく。また、自分の考えをまとめておく。</p> <p>第11回 身近な自然を用いた教材研究（5） 光、空気、水 など</p> <p>【事前学修】 該当内容を調べて自分の考えをまとめておく。 【事後学修】 授業内容や資料と共に復習し、ノートを整理しておく。また、自分の考えをまとめておく。</p>

第12回	<p>身近な自然を用いた教材研究（6）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近にあるものの利用や廃材の再利用 ・保育の遊びや生活との関連からの環境構成や教材研究の工夫 <p>【事前学修】 該当内容を調べて自分の考えをまとめておく。 【事後学修】 授業内容や資料と共に復習し、ノートを整理しておく。また、自分の考えをまとめておく。</p>
第13回	<p>生活や身近な社会に気付く教材研究（4）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人的環境、社会環境、自然環境と子どもの育ちとの関わり ・園の環境作りについて考え、保育環境構成や保育計画の立案 ・人的環境としての保育者の役割 <p>【事前学修】 該当内容を調べて自分の考えをまとめておく。 【事後学修】 授業内容や資料と共に復習し、ノートを整理しておく。また、自分の考えをまとめておく。</p>
第14回	<p>身近な自然を用いた教材研究（7）</p> <p>収穫、食育</p> <p>【事前学修】 該当内容を調べて自分の考えをまとめておく。 【事後学修】 授業内容や資料と共に復習し、ノートを整理しておく。また、自分の考えをまとめておく。</p>
第15回	<p>振り返りとまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の子ととも達と環境、 ・ユニバーサルデザイン、インクルーシブ保育 ・環境に関わる現代的課題 <p>【事前学修】 該当内容を調べて自分の考えをまとめておく。 【事後学修】 授業内容や資料と共に復習し、ノートを整理しておく。また、自分の考えをまとめておく。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	2	1	選択
担当教員			
櫻井 美佐子			
開講曜限	授業形態		
金1、2	演習		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■子ども教育学科■</p> <p>■2-2 保育内容に関する専門的知識を有し、教材となる素材の内容について分析・解釈し、適切な教材の準備を行うことや、子どもの興味関心などを踏まえて、保育の内容に即した適切な保育の計画を工夫することができる。</p> <p>■4-1 初等教育・保育・子ども福祉における職務内容と役割を理解し、子どもと関わる専門的職業人としての強い使命感を有している</p>
---------	---

科目の概要・目的	保育における「言葉」について理解を深め、子どもが言葉を豊かに育めるよう、保育者としての関わり方や支援方法について考える。
学習到達目標	「言葉」の文化財を理解したうえで、子どもの発達過程に即して具体的な保育場面が想定できる。 保育内容「言葉」について理解する。 子どもの言葉を育む保育方法について学び、実際の保育場面を想定し、製作・発表できる。
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 言葉遊びを各自発表。 絵本の読み聞かせを実習。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 なし</p> <p>【その他特記事項】 なし</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】 授業への参加度（授業への取り組み・姿勢・提出物）・制作発表及び模擬保育</p> <p>【割合】授業への参加度50%（内訳：授業への取り組み20%姿勢10%提出物20%）・制作発表及び模擬保育50%</p>
教科書・テキスト	保育内容 ことば（第3版） 赤羽根有里子・鈴木穂波編（株）みらい
参考書	「子どもとことば」（岡本夏木著 岩波新書） 「絵本から学ぶ子どもの文化」（浅木尚美編著）同文書院
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	絵本への関心を高めるため、絵本に触れる機会を増やすこと。 事後学修として、授業で学習したことを振り返り、要点を確認し、課題を整理しておく。
履修上の留意事項	授業への参加度を重視するので、積極的に授業に参加し、発表や課題提出を確実にすること。 提出物は、試験実施と同じ扱いとし、未提出者は試験欠席とみなす。
オフィスアワー	授業終了後、教室で
課題に対するフィードバックの方法	レポート等の添削、返却 制作した絵本を評価、返却
実務経験	神戸市立小学校で、教員として勤務。 図書館・保育所・幼稚園、子育て支援活動の現場で、講演、執筆。
その他	特になし
授業の内容	<p>第1回 保育内容「言葉」とはどのようなものか 授業の進め方 成績評価の説明など 【事前学修】シラバスを事前に読んでおくこと。 教科書P11～21を読んでくる。 【事後学修】言葉遊びを発表・提出</p> <p>第2回 他領域との関わり 保育内容「言葉」と他領域との関りを解説する。 【事前学修】教科書P24～P34を読んでくる。 【事後学修】言葉遊びを発表・提出</p> <p>第3回 子どもの言葉の発達（1） 子どもの言葉の発達（胎児・新生児期・乳児期）について解説する。 【事前学修】教科書P35～P39を読んでくる。 【事後学修】言葉遊びを発表・提出</p> <p>第4回 子どもの言葉の発達（2） 子どもの言葉の発達（乳児期）について解説する。赤ちゃん絵本について解説する。</p>

第5回	<p>【事前学修】教科書P40～43を読んてくる。P55～57に出ている絵本を見ておく。 【事後学修】言葉遊びを発表・提出</p> <p>子どもの言葉の発達（3） 子どもの言葉の発達（幼児期前期）について解説する。 【事前学修】教科書P48～51を読んてくる。P58～59に出ている絵本を見ておく。 【事後学修】言葉遊びを発表・提出</p>
第6回	<p>子どもの言葉の発達（4） 子どもの言葉の発達と絵本について解説する。 【事前学修】教科書P52～54を読んてくる。P60～63に出ている絵本を見ておく。 【事後学修】言葉遊びを発表・提出</p>
第7回	<p>ことばの環境と文化財（1） 絵本にはどのようなものがあるのか、について解説する。たくさんの絵本に触れる。 【事前学修】教科書P138～P147を読んてくる。P64～P73保育案にでてくる絵本に着目する。 【事後学修】言葉遊びを発表・提出</p>
第8回	<p>ことばの環境と文化財（2） 言葉の文化財（童話・昔話・素話）について解説し、小学校との連携について説明する。 【事前学修】教科書P129～P133を読んてくる。 【事後学修】言葉遊びを発表・提出</p>
第9回	<p>ことばの環境と文化財（3） ことばで遊ぶことについて解説する。日本語の音はどのようなものかを解説する。 【事前学修】教科書P171～P182、P191～194を読んてくる。 【事後学修】言葉遊びを発表・提出</p>
第10回	<p>ことばの環境と文化財（4）絵本制作 絵本の資料を参考に、各自の絵本制作につなげる。 *資料：「絵本から学ぶ子どもの文化」（浅木尚美編著）同文書院 【事前学修】自作絵本の準備</p>
第11回	<p>ことばの環境と文化財（5）絵本制作 絵本制作の実習をする。</p>
第12回	<p>ことばの環境と文化財（6）紙芝居・パネルシアター ペープサートや紙芝居、パネルシアターなどについて解説する。 【事前学修】教科書P134～P135、P157～P169を読んてくる。 【事後学修】言葉遊びを発表・提出</p>
第13回	<p>読み聞かせ実技発表 制作した絵本を、読み聞かせ実践につなげる。 【事前学修】自作絵本準備。教科書P148～156を読んてくる。 【事後学修】自作絵本提出</p>
第14回	<p>言葉の発達と課題 現代社会と保育について解説。その課題を考える。 【事前学修】教科書P95～P107 を読んてくる。 【事後学修】言葉遊びを発表・提出</p>
第15回	<p>保育者は子どもにどう働きかけていくか 保育者の援助について概説する 【事前学修】教科書P108～P127を読んてくる。 【事後学修】言葉遊びを発表・提出</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	3	1	選択
担当教員			
藤丸 一郎			
開講曜限	授業形態		
水3	演習		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■子ども教育学科■</p> <p>■2-2 保育内容に関する専門的知識を有し、教材となる素材の内容について分析・解釈し、適切な教材の準備を行うことや、子どもの興味関心などを踏まえて、保育の内容に即した適切な保育の計画を工夫することができる。</p> <p>■4-1 初等教育・保育・子ども福祉における職務内容と役割を理解し、子どもと関わる専門的職業人としての強い使命感を有している</p>
科目の概要・目的	子どもが、造形表現を通して自分の想いを表現する楽しみを見つけることは、将来にわたって創造的な生活を楽しむ姿勢に繋がる。授業では、造形の実技を中心に材料・用具や様々な環境に実際に触れ、自らイメージを膨らませてつくり出す楽しい経験を体感する。その経験と知識をもとに、指導者としての援助や支援に必要な専門的知識と技術や判断力について、体感とともに整理しながら学ぶことができる。
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・造形表現活動を体感する中で、造形教育の意義を理解するとともに、幼児・児童の指導者として必要な知識・能力を身につけることができる。 ・造形活動で扱う材料・用具の特性を理解し、環境構成とともに効果的に活用できるようになる。 ・子どもの造形活動を援助・支援する方法を習得し、子どもの成長に積極的に関わる意欲を持つ。
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <p>グループワーク：第3・4回に予定の共同で制作する活動で、イメージを共有したり、協働してつくり出したる良さを体験をする。</p> <p>ディスカッション：作品や制作過程についての鑑賞時間を設定し、意見交流で多様な考えを共有する。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <p>制作過程や完成作品の映像を共有し、今後の保育・授業のためのデータバンクとして活用できるようにする。</p> <p>【その他特記事項】</p> <p>特になし</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <p>①課題作品と制作への意欲・態度</p> <p>②ワークシートの記述</p> <p>③授業への積極性（発言・姿勢・準備・片付けなど）</p> <p>【割合】</p> <p>①60% ②30% ③10%</p> <p>※ 制作と交流中心の演習となるため、「再試」は実施しない。</p>
教科書・テキスト	随時プリントを配布する。
参考書	『幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 文部科学省、厚生労働省、内閣府 チャイルド本社 2017
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	<ul style="list-style-type: none"> ・時間外に課題が完成しない場合は、担当教員と相談の上、空き時間などに別途時間をとって制作・完成を心がける。 （事前・事後学習については、授業内容欄に掲載）
履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・実習に際しては、動きやすく、汚れに対応できる服装で参加する。 ・事前に指示された「準備物」は、前日までに点検し、忘れず持参する。 ・貸出用具・机上・床などの片付けや掃除は、自覚と責任を持って行うこと。
オフィスアワー	<ul style="list-style-type: none"> ・質問や相談がある場合は、上欄の「連絡方法」を参考に声をかけ、日時を相談すること。調整した後、別途時間を設けて対応します。 少しでもわからないことなどがあれば、気軽に相談してください。
課題に対するフィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実技中心のため、活動時に個別のアドバイスやコメントで対応する。 ・各課題の終了時に鑑賞・交流を行い、共通のポイントについてコメントをする。 ・ワークシートに必要なコメントをつけて、作品と共に返却する。
実務経験	<ul style="list-style-type: none"> ・国公立小学校（教諭・教頭・副校長・校長）、公立中学校（美術科教諭） ・経験を生かして、造形・図画工作・美術教育に関わる教育現場の現状と課題、保幼小中の連携などの情報を取り入れ、具体的なイメージを持って学修が進められるようにします。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・課題作品は、内容によって保存や返却が難しいものがあります。 スマートフォンやタブレットを活用して完成作品の映像を「資料バンク」として残すように心がけましょう。制作過程の様子も残しておくとう便利です。 ・友達の作品などを例として撮影する場合には、必ず許可を得るようにし、その後の取り扱いにも十分配慮し

	ましよう。(SNS等へのアップは、不可)	
授業の内容	第1回	<p>オリエンテーション：子どもの表現について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども(幼児)の表現と造形表現について学ぶ意義を考察する。 ・授業の概要(進め方、約束、評価方法、全体の構成など)について確認する。 <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の「表現」に関わる部分から、特に【造形表現】に関わると考えられる部分に注目して読んでおく。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの表現(造形表現)について、ワークシートの設問をもとに学びや考えをまとめる。
	第2回	<p>描画 1 点・線を遊ぶ(パス・ペンを使って)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パスやペンを使って様々な「点や線」を描きながら、幼児の発達と絵遊びの基礎や応用とその実践について学ぶ。 <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが使う描画材料について関心を持って、パスやペンを中心に種類や特徴などについて調べておく。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに従って学習内容や考えを整理する。
	第3回	<p>描画 2 色を遊ぶ(絵の具と手・筆・ローラーを使って)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水彩絵の具による混色や描画を筆・筆・ローラー・スタンプなどを用いて体験し、混色や濃淡などの絵の具の性質や魅力を体感とともに、色に関わって暮らすことの楽しさを学ぶ。 ・着色した紙を素材として、共同で「鯉のぼり」をつくり、季節や行事と関わる造形の楽しさを体感する。 <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色を楽しむ描画材料について関心を持ち、絵の具を中心に種類や特徴などについて調べておく。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに従って「色について、絵の具について」の学習内容や考えを整理する。
	第4回	<p>描画 3 形を遊ぶ(形と意味を考える)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アニメやイラストなどを参考にして描いた様々な表情の中に、共通する形(表現)を見つけて整理することを通して、形と意味について考察する。 <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気持ちが表れる表情について、自らも試しながら、その特徴について考える。身の回りのアニメやイラストについてもそれが当てはまるかなどを確かめて、メモしておく。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各グループの発表交流を参考に、ワークシートをまとめ気づきと考えを整理する。
	第5回	<p>描画 4 時間を遊ぶ(身の回りの材料を使って)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習の描画材以外にも身の回りには形や色を描けるものがある。紙を古く、時間が経過したものにするのをテーマに、その為の描画材と方法を探すことを通して既成概念を除いて、用具と方法の自由度を体感する。 <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・造形、図工、美術の時間などの造形体験の中で、これまでに使った経験のある「材料や用具」について、振り返って整理しておく。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品の鑑賞交流を参考に、身近な材料の可能性について、気づきや考えをまとめる。
	第6回	<p>製作 1 形をつくる(ハサミ・カッターを使って)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙を折って切り込みを入れた後に、開くと連続した形や花びらのような形などが浮かび上がる。折り方や切り方を工夫して、新たな形をつくり出すことを楽しむと同時にはさみやカッターなどの扱いの基本と安全指導の大切さについて学ぶ。 <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児の造形活動における安全管理について、場面や方法の具体例を調べておく。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業で試した方法と結果について、ワークシートに整理する。 ・鑑賞交流した作品をもとに行事や掲示(壁面構成)に活用する可能性と方法について考える。
	第7回	<p>製作2 動きを生かす①(構想と作成)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙を切り折してできる簡単な仕組みをもとに動きから発想を広げてメッセージカードをつくる。 <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットや書籍から記念日などのメッセージカードの例を集める。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色々なポップアップカードから動きと仕組みを確認する。
	第8回	<p>製作2 動きを生かす②(作成と交流)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カードを仕上げ、交換しながら鑑賞交流を楽しむ。 ・ポップアップカードの仕組みを学び、メッセージカードの可能性と生活につながる造形を考察する。 <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活の中で使える場面や方法の具体例を考える。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポップアップカードの仕組みと活用法について整理する。メッセージやプレゼントを通した人との関わりについて考察する。
	第9回	<p>製作3 身近な材料から①(ペットボトルを使って)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペットボトルに装飾を加え、「羽ばたく鳥」を製作する。動く羽根を「試しながら」工夫してつくる大切さを体感する。 <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペットボトルを使った保育や題材について調べ、使い方の種類に分けて整理する。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近なものの中から装飾のために使える材料を検討し、準備する。
	第10回	<p>製作3 身近な材料から②(仕上げと展示について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鳥を装飾し、完成後の意図に合わせた展示について場所や方法を考える。 <p>【事前学修】</p>

第11回	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の展示の場所や方法の工夫とその価値について考える。 【事後学修】 ・展示の場所や方法の工夫についてワークシートにまとめる。 <p>生活を楽しむ1 見る・見つけるから（鑑賞と表現について）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの物や物の部分の形から「まるで〇〇みたい」を発見する。 ・「見る・見つける」を楽しむ姿勢と「造形表現」へのつながりを考察する。 【事前学修】 ・これまでの鑑賞の授業を振り返り、鑑賞の意義について考えておく。 【事後学修】 ・「見る・見つける」や「鑑賞する活動」のあり方についてワークシートの設問に合わせて考えを述べる。
第12回	<p>生活を楽しむ2 粘土で遊ぶ①（粘土の魅力について）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・粘土の魅力と取り扱いについて整理する。 ・軽量粘土を主材料に「おいしそうなお弁当」づくりをする。 【事前学修】 ・お弁当や食べ物の写真・映像を集め資料づくりをする。 【事後学修】 ・学んだこと元に、粘土のワークシートで魅力や価値をまとめる。
第13回	<p>生活を楽しむ2 粘土で遊ぶ②（粘土と用具の取り扱いについて）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活体験を振り返りながら質感と形に注目して、用具の使い方を工夫してつくる。 【事前学修】 ・思い通りの質感を出すための用具を身の回りのものから探し、準備する。 【事後学修】 ・自分の表し方の工夫や友達の方法とよさ・面白さを整理して記録に残す。
第14回	<p>生活を楽しむ2 粘土で遊ぶ③（鑑賞交流・ごっこ遊びについて）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体のバランスを整えて仕上げる。 ・鑑賞交流をしながら、ごっこ遊び等への活用について考える。 【事前学修】 ・幼児の様々な遊びとその内容について調べる。 【事後学修】 ・保育の中の「〇〇遊び」と造形の関係について整理しまとめる。
第15回	<p>総括 振り返りと質疑応答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・造形活動の魅力と必要性について体験をもとに考察する。 【事前学修】 ・これまでの活動と作品の写真映像を振り返り、質問等を見つける。 【事後学修】 ・造形表現Ⅱの受講に向けて、「表現」に関わる他の授業の学びも合わせて、15回の体験と学びを振り返りまとめておく。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	2	1	選択
担当教員			
桐山 由香、永井 正幸、安本 雅子、青谷 理子、辛島 則子、岩田 陽子、山岡 真弓、林 典子、活田 真理、大田黒 真紀			
開講曜限	授業形態		
金3、4	演習		
添付ファイル			

DPとの関連	<p>■子ども教育学科■</p> <p>■2-2 保育内容に関する専門的知識を有し、教材となる素材の内容について分析・解釈し、適切な教材の準備を行うことや、子どもの興味関心などを踏まえて、保育の内容に即した適切な保育の計画を工夫することができる。</p> <p>■4-1 初等教育・保育・子ども福祉における職務内容と役割を理解し、子どもと関わる専門的職業人としての強い使命感を有している</p>
科目の概要・目的	<p>幼稚園教育要領・保育所保育指針の「表現」に関する内容を理解し、子どもの心を豊かにするための音楽表現技術や専門的知識の修得を目的とする。</p> <p>保育現場では多様な音楽表現活動が実践されているが、本科目では、わらべうたや季節の歌、生活の歌などの歌唱の他、弾き歌いの基礎、音遊び、簡易楽器による器楽合奏などの音楽表現方法について教授する。</p> <p>また、少人数のグループに分かれた模擬保育（歌遊び・音遊び）をとり入れ、指導案の作成から模擬保育まで実際の流れを想定した授業を展開する。模擬保育後には討論を行い、振り返りのレポートを作成する。</p>
学習到達目標	<p>◇ 歌詞表現や歌遊び、発声を通して聞きやすい声・伝わりやすい言葉を表現することができる。</p> <p>◇ 簡易楽器の演奏法を修得し、器楽合奏につなげることができる。</p> <p>◇ 弾き歌いの基礎を修得できる。</p> <p>◇ 幼稚園教育要領、保育所保育指針の「表現」に関する内容を理解できる。</p> <p>◇ 模擬保育の振り返りを通して、保育への理解を深め、実際の保育現場における実践につなげる力を身につけることができる。</p>
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <p>◇ グループワーク：第11回の授業では、模擬保育計画を作成するためグループワークを行う。</p> <p>◇ ディスカッション：第12/13回の授業では模擬保育発表を行い、その後のディスカッションを通して振り返りを行う。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <p>◇ 特になし</p> <p>【その他特記事項】</p> <p>◇ 15回の授業を歌唱・音遊び・簡易楽器の使用法・模擬保育を行う授業回と、子どものうたの歌唱表現・ピアノ表現を学ぶ授業回に分けて行う。※の週は、90分の授業を歌唱グループ（担当教員は1名）とピアノグループ（担当教員は複数名）に分け、複数教室を使用する。</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <p>◇ 定期試験（実技）</p> <p>◇ レポート</p> <p>◇ 平常点</p> <p>【割合】</p> <p>◇ 定期試験（実技）80%</p> <p>◇ レポート10%</p> <p>◇ 平常点10%</p>
教科書・テキスト	◇ 「最新・幼児の音楽教育 幼児教育教員・保育士養成のための音楽的表現の指導」井口太 編著 朝日出版社
参考書	◇ 幼稚園教育要領（文部科学省） ◇ 保育所保育指針（厚生労働省）
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	<p>◇ 授業の予習として、音取りだけでなく、歌詞の内容も調べて授業に臨むこと。</p> <p>◇ 弾き歌いでは、楽曲表現を大切に、歌とピアノパートのバランス（音量など）を意識しながら練習すること。</p> <p>◇ 模擬保育ではグループ作業などがあるため、事前の準備を怠らないこと。</p> <p>◇ 幼稚園教育要領や保育所保育指針を熟読しておくこと。</p>
履修上の留意事項	◇ 毎回の学修内容を振り返るための「リフレクションシート」および「レッスンカルテ」の記入を忘れないこと。
オフィスアワー	◇ 桐山 水曜日5限 ◇ 永井 月曜日3限
課題に対するフィードバックの方法	◇ 毎回の授業内容を記入した「レッスンカルテ」を全15回の授業終了後に提出する。提出された「レッスンカルテ」は、教員確認後、返却される。
実務経験	<p>【桐山】</p> <p>◇ 小学校教諭</p> <p>◇ 中学校 音楽科講師</p>

	◇ 高等学校 音楽科講師
その他	◇ 特になし
授業の内容	<p>第1回 本科目の説明、幼稚園教育要領・保育所保育指針のねらい及び内容（表現）について 授業の進め方、学習到達目標の説明。平成29年告示「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」のねらい及び表現に関する内容について学ぶ。 【事前学修】「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」の領域「表現」について熟読しておく。 【事後学修】「幼稚園教育要領」や「保育所保育指針」の表現領域の「ねらい」や「内容」を復習し、子どもの心を豊かにする音楽表現活動の方法について下調べをする。</p> <p>第2回 乳幼児の音楽的成長と表現について、わらべうたの歌唱・歌詞表現及び発声 乳幼児の成長に伴う音楽的表現の広がりについて学ぶ。保育における音楽表現活動のひとつである「わらべうた」について、その特徴を知り「お寺のおしょうさん」「あんたがたどこさ」を題材として演習を行う。 【事前学修】乳幼児の成長と音楽・音聴取の関係について調べておく。 【事後学修】乳幼児の成長に沿った音楽表現活動の方法について復習する。また、本授業回で取り組んだ「わらべうた」を復習する。</p> <p>第3回 わらべうた及び生活の歌の歌唱・歌詞表現及び発声、弾き歌いピアノパート演習 ※ 「わらべうた」や「生活の歌」の演習を通して、発声及び歌詞・歌唱表現を学ぶ。弾き歌いでは、弾き歌いを行う上で重要な基本的事項（歌唱との音量バランスや演奏速度など）について解説する。 【事前学修】「わらべうた」の歴史を調べておくとともに、弾き歌い曲「こいのぼり」の譜読みをする。 【事後学修】本授業回で取り組んだ「わらべうた」を復習する。また、弾き歌いでは、歌唱と伴奏の音量バランスを意識しながら「こいのぼり」を復習する。</p> <p>第4回 生活の歌、歌遊びの表現学習、楽典（音楽基礎知識）の理解、弾き歌いピアノパート演習 ※ 保育における歌遊びの役割を知り、その表現効果について考察する。楽典では音符・休符・音程・調号・楽語などの音楽基礎知識の確認を行う。弾き歌いでは、ピアノ伴奏が楽曲の曲想表現に与える効果について解説する。 【事前学修】楽典の基礎（音符・休符の種類、音程など）を復習しておく。弾き歌い曲「ちゅうりっぷ」を譜読みする。 【事後学修】本授業回で取り組んだ「歌遊び」の表現方法を復習する。また、弾き歌いでは、曲想表現を重視しながら「ちゅうりっぷ」を復習する。</p> <p>第5回 季節の歌、歌遊びの表現学習、弾き歌いピアノパート演習（こいのぼり・ちゅうりっぷ・手をたたきましょう・むすんでひらいて）※ 弾き歌いでは季節の歌である「こいのぼり」「ちゅうりっぷ」を中心に4曲を学ぶ。楽曲の曲想を効果的に表現するために必要な基礎技術・譜読みの方法について学ぶ。歌遊びでは、歌詞の発音や歌唱表現を学ぶ。 【事前学修】本授業回で取り組む弾き歌い楽曲4曲を譜読みする。 【事後学修】弾き歌い曲の歌詞の意味や音の強弱を意識しながら復習する。</p> <p>第6回 音遊び、簡易楽器の演奏法 保育現場で使われる簡易楽器（打楽器）の特徴を知り、使用法を学ぶ。また、簡易楽器を使用した音遊びについても考察する。 【事前学修】保育現場で使用する簡易楽器の種類について調べておく。 【事後学修】簡易楽器を使用した音遊びの広がりについて考察する。</p> <p>第7回 季節の歌、歌遊びの表現学習、弾き歌いピアノパート演習（あめふりくまのこ・おつかいありさん・うみ・たなばたさま）※ 弾き歌いでは「あめふりくまのこ」「おつかいありさん」「うみ」「たなばたさま」の4曲を学ぶ。曲想表現に必要な基礎技術・知識を学ぶ。歌遊びでは、即興を含めた応用的な表現方法について考察する。 【事前学修】表現における「即興」について調べておく他、本授業回で取り組む弾き歌い曲を譜読みしておく。 【事後学修】本授業回で学修した弾き歌い4曲の曲想を的確に表現できるよう練習する。</p> <p>第8回 音遊び・簡易楽器を使用した器楽合奏 簡易楽器を使い、器楽合奏を行う。楽曲のイメージに沿った響きとなるための楽器編成について学ぶ他、アンサンブルにおいて重要なポイントである「他者の音を聴くこと」に重点を置いて、授業を進める。 【事前学修】簡易楽器の使用法を復習しておく。 【事後学修】保育における器楽アンサンブルの意義について振り返る。</p> <p>第9回 季節の歌、歌唱に体の動きを加えた表現学習、弾き歌いピアノパート演習（とんぼのめがね・まっかな秋・いっぽんばし にほんばし・チョット グット パー）※ 歌唱に体の動きを加えた表現方法について「いっぽんばし にほんばし」「チョット・グット・パー」を題材として学ぶ。弾き歌いでは、季節の歌である「とんぼのめがね」「まっかな秋」を学ぶ。歌唱表現及びピアノ伴奏表現上必要な音の強弱やフレージングの扱い方など、より細かな表現方法について学ぶ。 【事前学修】本授業回で取り組む身体表現を伴う「歌遊び」の曲の内容について、下調べをしておく。 【事後学修】「歌遊び」のレパートリーを増やす。また、弾き歌いでは、楽曲のフレーズを意識しながら練習する。</p> <p>第10回 季節の歌、歌唱に体の動きを加えた表現学習、弾き歌いピアノパート演習（弾き歌い既習曲のまとめ・カレーライスのうた・ちいさな畑）※ 歌唱に体の動きを加えた表現方法について「カレーライスのうた」「ちいさな畑」を題材として学ぶ。弾き歌いでは、これまで取り組んだ楽曲のまとめとして、習熟度を確認する。 【事前学修】本授業回で取り組む身体表現を伴う「歌遊び」の曲の内容について、下調べをしておく。 【事後学修】これまで取り組んだ弾き歌い曲を復習する中で、各自の課題点を整理する。</p> <p>第11回 模擬保育 指導案作成（少人数のグループに分かれて取り組む） 保育現場における音楽表現活動に繋げる力を身につけるため、模擬保育を行う。本授業回では、少人数のグループに分かれ、これまで学修した音楽表現方法を基に指導案を作成する。 【事前学修】模擬保育の意義について、下調べをしておく。 【事後学修】本授業回で作成した模擬保育計画を各グループで共有し、変更などがある場合は次</p>

	<p>回までに整理しておく。</p> <p>第12回 模擬保育 グループディスカッション グループごとに模擬保育（約15分）を行う。各グループの模擬保育後に、グループディスカッションを行い、改善点などについて意見をまとめる。 【事前学修】 模擬保育発表の練習を事前に行っておく。 【事後学修】 模擬保育発表後の各グループにおける振り返りについて、次回発表できるようまとめておく。</p> <p>第13回 模擬保育 グループディスカッション及び振り返り（レポート作成） グループごとに模擬保育（約15分）を行う。各グループの模擬保育後に、グループディスカッションを行い、改善点などについて意見をまとめる。その後、討論内容をグループごとに発表する。また模擬保育について、振り返りレポートの作成に取り組む。 【事前学修】 模擬保育発表の練習を事前に行っておく。 【事後学修】 模擬保育発表後の各グループにおける振り返りをまとめ、グループ内で共有する。</p> <p>第14回 季節の歌、子どもの歌のレパートリー拡大、弾き歌い演習（お正月・ジングルベル・やきいもグーチーパー）※ 弾き歌いでは「お正月」などの季節の行事の歌を中心に学び、子どもの歌のレパートリーの拡大を図るとともに、これまで学修した弾き歌い楽曲の中から実技試験曲を選定する。 【事前学修】 本授業回で取り組む弾き歌い曲を譜読みする。 【事後学修】 弾き歌い曲のレパートリーを構築するとともに、実技試験曲の練習を進める。</p> <p>第15回 子どもの歌のレパートリー拡大、弾き歌い演習（おはながわらった・みんなともだち・山の音楽家）※ 弾き歌いでは「おはながわらった」「みんなともだち」「山の音楽家」の3曲を学ぶ。子どもの歌のレパートリーの拡大を図るとともに、弾き歌い実技試験曲の歌唱表現・演奏表現を確立させ、暗譜演奏に取り組む。 【事前学修】 本授業回で取り組む弾き歌い曲を譜読みするとともに、実技試験曲の練習を進めておく。 【事後学修】 実技試験曲を暗譜で演奏できるよう、練習を進める。</p> <p>定期試験</p>
--	---

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	3	1	選択
担当教員			
徳留 由貴			
開講曜限	授業形態		
火3	演習		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■子ども教育学科■</p> <p>■2-2 保育内容に関する専門的知識を有し、教材となる素材の内容について分析・解釈し、適切な教材の準備を行うことや、子どもの興味関心などを踏まえて、保育の内容に即した適切な保育の計画を工夫することができる。</p> <p>■4-1 初等教育・保育・子ども福祉における職務内容と役割を理解し、子どもと関わる専門的職業人としての強い使命感を有している</p>
---------	---

科目の概要・目的	本授業では、幼稚園教育要領等における領域「人間関係」について、そもそもの「人間関係」とは何かという人間関係論の考え方を学ぶとともに、乳幼児期の「人とかかわる力」の発達と保育について理解することを目指す。また、具体的保育過程の検討を通して、どのように「人とかかわる力」を育てていくか、実践的・理論的に考察し、人とかかわりを育むための保育内容の実際とその指導法について理解することを目指す。
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「人とかかわる力」をどのように育てていくか、乳幼児期の発達に即して記述できる。 ・保育者として子ども同士のかかわりを育てていくための保育方法とその指導法を習得する。
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容をもとにグループディスカッションを行うとともに、その討議内容をまとめ・発表する。 <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・teamsを利用する。 <p>【その他特記事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし
成績評価の方法	<p>【評価項目】 【割合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内課題 (40%) ・模擬保育 (20%) ・指導案 (40%)
教科書・テキスト	・柏まり・小林みどり編著 2023 『新・保育と人間関係』 嵯峨野書院
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省 2018 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 ・厚生労働省 2018 『保育所保育指針解説』 フレーベル館 ・内閣府・文部科学省・厚生労働省 2018 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修として保育実習ⅠAの実習ノートを見返し振り返りを行う。 ・事後学修として、授業で学習したことを振り返り、要点を確認し、課題を整理しておくこと。
履修上の留意事項	・グループをつくり授業を進めていく為、欠席はしないようにすること。
オフィスアワー	1号館308研究室 月～金の昼休み
課題に対するフィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> ・各授業内で提示した課題については、その後添削・採点し、学生に返却する。 ・各自で取り組んだ課題をもとに、再度グループで討議することもある。
実務経験	保育士
その他	特になし
授業の内容	<p>第1回 オリエンテーション／領域「人間関係」とは 「保育内容・人間関係Ⅱ」の概要や目標、具体的な授業内容を確認する。 領域「人間関係」における乳幼児期の発達と保育について、テキストをもとにその基本を理解するとともに、グループ及び全体での討議をもとに深める。 【事前学修】 ・シラバスを読んでおく。 ・テキストpp3～pp36を読んでおく。 【事後学修】 ・授業内容を振り返り、整理する。</p> <p>第2回 乳幼児期の発達と仲間関係-依存と自立- 乳幼児期の発達と仲間関係について、依存から自立への発達を軸に、テキストや実践記録の検討をし、その保育のあり方について考察する。 【事前学修】 ・テキストpp37～pp48を読んでおく。 【事後学修】 ・授業内容を振り返り、整理する。</p>

第3回	<p>幼児期の発達と仲間関係-道徳性・規範意識の芽生えと保育-</p> <p>幼児期の発達と仲間関係について、幼児期の道徳性や規範意識の芽生えを軸に、テキストや実践記録の検討をし、その保育のあり方について考察する。</p> <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストpp49～pp61を読んでおく。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容を振り返り、整理する。
第4回	<p>幼児期の発達と仲間関係-協同性を育む保育-</p> <p>幼児期の発達と仲間関係について、幼児期の協同性の発達を軸に、テキストや実践記録の検討をし、その保育のあり方について考察する。</p> <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストpp62～pp72を読んでおく。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容を振り返り、整理する。
第5回	<p>保育の計画と検討①</p> <p>長期指導計画、短期指導計画の具体案を分析し、「人とかかわる力」を育む保育内容について理解する。</p> <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト「実習の記録と指導案」を読み、指導計画立案の方法について復習しておく。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容を振り返り、整理する。
第6回	<p>保育の計画と検討②</p> <p>長期指導計画をもとにグループで週案を作成する。その週案から各自どの日の指導案を担当するか検討する。</p> <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト「実習の記録と指導案」を読み、指導計画立案の方法について復習しておく。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業で決定した日の模擬保育を構想しておく。
第7回	<p>保育の計画と検討③</p> <p>第6回で決定したテーマをもとに指導案を作成する。</p> <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に選択したテーマに関する実践例を探しておく。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導案作成を進める。
第8回	<p>保育の計画と検討④</p> <p>第7回で作成した指導案を持ち寄り、グループで検討する。</p> <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導案の見直し・修正をしておく。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題となった点を修正しておく。
第9回	<p>保育の計画と検討⑤</p> <p>第8回のグループ検討した内容をもとに、再度修正を行う。また、模擬保育の準備をする。</p> <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導案の見直し、模擬保育に必要な材料を準備しておく。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題となった点を修正しておく。
第10回	<p>模擬保育①</p> <p>第5回～第9回で立案した指導案をもとに、模擬保育を行う。</p> <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第9回授業内で指示を出す。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参観した模擬保育に対する良かった点・改善点を考えておく。
第11回	<p>模擬保育②</p> <p>第5回～第9回で立案した指導案をもとに、模擬保育を行う。</p> <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第10回授業内で指示を出す。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参観した模擬保育に対する良かった点・改善点を考えておく。
第12回	<p>模擬保育③</p> <p>第5回～第9回で立案した指導案をもとに、模擬保育を行う。</p> <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第11回授業内で指示を出す。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参観した模擬保育に対する良かった点・改善点を考えておく。
第13回	<p>模擬保育④</p> <p>第5回～第9回で立案した指導案をもとに、模擬保育を行う。</p> <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第12回授業内で指示を出す。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参観した模擬保育に対する良かった点・改善点を考えておく。
第14回	<p>模擬保育の省察と評価</p> <p>第10回～第13回で実施した模擬保育をグループで振り返り、実践課題を見出す。その上で、指導案の見直し・修正を行う。</p> <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第10回～第13回までの模擬保育を振り返っておく。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容を振り返り、整理する。
第15回	<p>まとめ</p> <p>「保育内容・人間関係Ⅱ」をふり振り返り、領域「人間関係」における「人とかかわる力」を育む保</p>

育内容と指導法について検討・考察する。

【事前学修】

・第14回授業内で指示を出す。

【事後学修】

・授業内容を振り返り、整理する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	3	1	選択
担当教員			
桐山 由香、永井 正幸、安本 雅子、小林 里佳、青谷 理子、阪口 聖子、中川 美穂			
開講曜限	授業形態		
火2	演習		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■子ども教育学科■</p> <p>■2-2 保育内容に関する専門的知識を有し、教材となる素材の内容について分析・解釈し、適切な教材の準備を行うことや、子どもの興味関心などを踏まえて、保育の内容に即した適切な保育の計画を工夫することができる。</p> <p>■4-1 初等教育・保育・子ども福祉における職務内容と役割を理解し、子どもと関わる専門的職業人としての強い使命感を有している</p>
科目の概要・目的	<p>「保育内容・音楽表現Ⅰ」に続き、保育現場で活用できる多様な音楽表現技術や専門的知識の修得を目的とする。</p> <p>子どもの歌では、楽曲ごとに異なる曲想を的確に歌い分け、弾き分けるための歌唱表現やピアノ伴奏表現方法を教授する他、童謡・唱歌の歴史についても説明する。</p> <p>器楽合奏や楽器遊びでは、様々な楽器が奏でる音の楽しさを子どもに伝えるための方法や、楽器のアンサンブルについて教授する。</p> <p>リズム表現学習では、即興も含めたリズム遊びについて具体例を挙げながら説明する。</p> <p>また、少人数のグループに分かれた模擬保育（楽器遊び）では、指導案の作成から模擬保育まで実際の流れを想定した授業を展開する。模擬保育後には討論を行い、振り返りのレポートを作成する。</p>
学習到達目標	<p>◇ 子どもの歌の発展的な歌唱表現やピアノ伴奏表現ができるようになる。</p> <p>◇ 器楽合奏の学びを通して、各楽器の響きの特長を知り、曲想表現に適した楽器編成について理解を深めることができる。</p> <p>◇ 模擬保育の振り返りを通して、保育への理解を深め、実際の保育現場における実践につなげる力を身につけることができる。</p>
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <p>◇ グループワーク：第10回の授業では、模擬保育計画を作成するためグループワークを行う。</p> <p>◇ ディスカッション：第12/14回の授業では模擬保育発表を行い、その後のディスカッションを通して、振り返りを行う。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <p>◇ 特になし</p> <p>【その他特記事項】</p> <p>◇ 15回の授業を器楽合奏・模擬保育などを行う授業回と、子どもの歌の歌唱表現・リズム表現学習・ピアノ表現を学ぶ授業回に分けて行う。授業内容に「※」が記載されている週については、90分の授業を歌唱グループ（担当教員は1名）とピアノグループ（担当教員は複数名）に分け、複数教室を使用する。</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <p>◇ 定期試験（実技）</p> <p>◇ 器楽合奏発表</p> <p>◇ レポート</p> <p>◇ 平常点</p> <p>【割合】</p> <p>◇ 定期試験（実技）60%</p> <p>◇ 器楽合奏発表20%</p> <p>◇ レポート10%</p> <p>◇ 平常点10%</p>
教科書・テキスト	◇ 「最新・幼児の音楽教育 幼児教育教員・保育士養成のための音楽的表現の指導」井口太 編著 朝日出版社
参考書	◇ 幼稚園教育要領（文部科学省） ◇ 保育所保育指針（厚生労働省）
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	<p>◇ 学修する楽曲について、譜面に書いてあることを十分に予習した上で授業に臨むこと。</p> <p>◇ 授業でとり上げる音楽表現方法について、幅広く資料収集を行うこと。</p> <p>◇ 模擬保育ではグループ作業などがあるため、事前の準備を怠らないこと。</p> <p>◇ 幼稚園教育要領や保育所保育指針を熟読しておくこと。</p>
履修上の留意事項	◇ 毎回の学修内容を振り返るため「リフレクションシート」および「レッスンカルテ」の記入を忘れないこと。
オフィスアワー	◇ 桐山 水曜日5限 ◇ 永井 月曜日3限
課題に対するフィードバックの方法	◇ 毎回の授業内容を記入した「レッスンカルテ」を全15回の授業終了後に提出する。提出された「レッスンカルテ」は、教員確認後、返却する。

実務経験	【桐山】 ◇ 小学校教諭 ◇ 中学校 音楽科講師 ◇ 高等学校 音楽科講師
その他	◇ 特になし
授業の内容	<p>第1回 本科目の説明、幼児音楽教育の歴史について 授業の進め方、学習到達目標の説明。幼児音楽教育の歴史を概説する他、幼稚園教育要領・保育所保育指針のねらい及び内容（表現）について復習する。 【事前学修】「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」の領域「表現」について熟読・復習しておく。 【事後学修】幼児音楽教育の歴史に関する文献を調べ、理解を深める。</p> <p>第2回 子どもの歌の歌唱・歌詞表現、リズム表現学習（ボディパーカッション）、楽器遊び、弾き歌いピアノパート練習（大きなくりの木の下で・せかいじゅうのこどもたちが） ※ 子どもの歌では「大きなくりの木の下で」「せかいじゅうのこどもたちが」の2曲を学び、ピアノパート演習も行う。リズム表現学習では、手拍子・足踏みを中心に、子どもが楽しめるボディパーカッションについて学ぶ。また、楽器遊びでは簡易楽器による遊びの他に、手作り楽器を使用した遊びに向けて学びを進める。 【事前学修】ボディパーカッションについて下調べをする。本授業回で取り組む弾き歌い2曲を譜読みする。 【事後学修】簡易楽器や手作り楽器を使用した表現活動の広がり調べる。</p> <p>第3回 子どもの歌の歌唱・歌詞表現、リズム表現学習（言葉・簡易楽器）、楽器遊び 子どもの歌では「どんぐりころころ」「やぎさんゆうびん」の2曲を学ぶ。リズム表現学習・楽器遊びでは、言葉をリズムとして考え、表現する方法を学ぶ他、簡易楽器・手作り楽器を使用したリズム遊びについて演習を行う。 【事前学修】本授業回で取り組む弾き歌い2曲を譜読みする。第6回・7回の模擬保育発表で手作り楽器を使用する場合は、製作にとりかかる。 【事後学修】ボディパーカッションや簡易楽器を使用したリズム表現方法を復習する。</p> <p>第4回 子どもの歌の歌唱・歌詞表現、リズム表現学習（即興表現）、楽器遊び、弾き歌いピアノパート練習（おもちゃのチャチャチャ・とんでったバナナ） ※ 子どもの歌では「おもちゃのチャチャチャ」「とんでったバナナ」の2曲を学び、ピアノパート演習も行う。リズム表現学習・楽器遊びでは、ボディパーカッションや簡易楽器・手作り楽器を使用して、即興的なリズム表現に取り組む。 【事前学修】本授業回で取り組む弾き歌い曲2曲を譜読みする他、楽器を使用した「即興」について調べておく。 【事後学修】即興的なリズム表現方法の広がりについて考察を進める。</p> <p>第5回 簡易楽器を使用した器楽合奏 保育現場における器楽合奏の意義、及び各種簡易楽器の使用法を確認する。パート練習や全体練習を通して、楽曲のイメージを表現するための技法について学ぶ。 【事前学修】保育における器楽合奏の意義について下調べしておく。 【事後学修】簡易楽器の特長を理解した上で、アンサンブルへの理解を深める。</p> <p>第6回 わらべうた、童謡・唱歌について（歴史や楽曲）、弾き歌い演習 ※ 「童謡・唱歌」や「わらべうた」の歴史を学ぶ。弾き歌いでは、本科目において取り組んできた弾き歌い楽曲のコード演習を行う。 【事前学修】「わらべうた」「童謡」「唱歌」の歴史について下調べしておく。 【事後学修】「わらべうた」「童謡」「唱歌」の楽曲内容や違いについて理解を深める。本授業回で取り組んだ弾き歌いのコード奏を復習する。</p> <p>第7回 子どもの歌の歌唱表現及びピアノパート演習 ※ 子どもの歌では、本科目において取り組んできた弾き歌い楽曲を振り返り、習熟度を確認する。 【事前学修】本科目においてこれまで取り組んできた弾き歌い楽曲を復習する。 【事後学修】弾き歌い曲の曲想表現・技術表現上の課題を整理し、練習する。</p> <p>第8回 器楽合奏（応用編 使用する楽器を工夫しながらアンサンブルに取り組む） 器楽合奏による楽曲表現の広がりや学ぶ。組み合わせる楽器の違いによる響きの変化を学ぶ他、リズムや強弱などの表現方法を工夫しながら、合奏に取り組む。 【事前学修】器楽合奏の意義を復習する他、組み合わせる楽器の違いによる表現効果について下調べしておく。 【事後学修】器楽合奏の発表に向けて、各自の課題点を整理しておく。</p> <p>第9回 器楽合奏（授業内発表） 器楽合奏曲の授業内発表を行う。 【事前学修】使用する楽器の奏法および楽曲における各自のパートを確認しておく。 【事後学修】保育におけるアンサンブル表現の効果と課題点について振り返る。</p> <p>第10回 模擬保育（楽器遊びを中心に） 指導案作成（少人数のグループに分かれて取り組む） 保育現場における実践に繋げるべく、模擬保育を行う。本授業回では、少人数のグループに分かれ、「楽器遊び」を中心とした指導案を作成する。 【事前学修】楽器を使用した模擬保育の意義について、調べておく。 【事後学修】本授業回で作成した模擬保育計画を各グループで共有し、変更などがある場合は次回までに整理しておく。</p> <p>第11回 子どもの歌の歌唱表現及びピアノパート演習（オバケなんてないさ・線路はつづくよどこまでも・Happy Birthday to you） ※ 子どもの歌では、レパートリーを広げるために「オバケなんてないさ」「線路はつづくよどこまでも」「Happy Birthday to you」の3曲を学び、ピアノパート演習も行う。また、これまで学習した弾き歌い楽曲の中から、実技試験曲を選定し、うたあそびなどを組み合わせる表現する演習を行う。 【事前学修】本授業回で取り組む弾き歌い曲を譜読みする他、弾き歌い曲と組み合わせることが可能な「歌遊び・手遊び」の曲について下調べしておく。 【事後学修】実技試験曲として選定した楽曲を練習した上で、歌遊びや手遊びと組み合わせた時の全体の流れを練習する。</p> <p>第12回 模擬保育（楽器遊びを中心に） グループディスカッション 少人数に分かれたグループごとに、模擬保育（約20分）を行う。各グループの模擬保育後に、グ</p>

	<p>ループディスカッションを行い、改善点などをまとめる。その後、討論内容をグループごとに発表する。</p> <p>【事前学修】模擬保育発表の練習を事前に行っておく。</p> <p>【事後学修】レポート作成に向けて、グループディスカッションの内容をまとめておく。</p> <p>第13回 子どもの歌の歌唱表現及びピアノパート演習（あわてんぼうのサンタクロース・犬のおまわりさん・思い出のアルバム）※</p> <p>子どもの歌では、レパートリーを広げるために「あわてんぼうのサンタクロース」「犬のおまわりさん」「思い出のアルバム」の3曲を学び、ピアノパート演習も行う。実技試験曲の暗譜に取り組む。</p> <p>【事前学修】本授業回で取り組む弾き歌い曲を譜読みする。実技試験曲として選定した弾き歌い曲の歌詞表現・技術表現練習を積み重ねておく。</p> <p>【事後学修】弾き歌い曲のレパートリーを構築する。「歌遊び・手遊び」を含めた実技試験曲を暗譜で練習する。</p>
	<p>第14回 模擬保育（楽器遊びを中心に）グループディスカッション及び振り返り（レポート作成）</p> <p>少人数に分かれたグループごとに、模擬保育（約20分）を行う。各グループの模擬保育後に、グループディスカッションを行い、改善点などをまとめる。その後、討論内容をグループごとに発表する。また模擬保育について、振り返りレポートを作成する。</p> <p>【事前学修】模擬保育発表の練習を事前に行っておく。</p> <p>【事後学修】グループディスカッション、レポート作成を通して、模擬保育発表内容の課題点を整理する。</p>
	<p>第15回 子どもの歌の歌唱表現及びピアノパート演習（一年生になったら・大きな古時計・ぞうさん）※</p> <p>子どもの歌では、レパートリーを広げるために「一年生になったら」「大きな古時計」「ぞうさん」の3曲を学び、ピアノパート演習も行う。うたあそびなどの表現活動を組み合わせた実技試験曲の全体構成をまとめる。</p> <p>【事前学修】本授業回で取り組む弾き歌い曲を譜読みする。実技試験曲として選定した弾き歌い曲を暗譜で練習しておく。</p> <p>【事後学修】弾き歌い曲のレパートリーを構築する。「歌遊び・手遊び」を含めた実技試験曲の曲想を豊かに表現できるよう練習する。</p> <p>定期試験</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	1	1	必修
担当教員			
永井 正幸、青谷 理子、辛島 則子、阪口 章子、岩田 陽子、山岡 真弓、林 典子、活田 真理、木村 直美			
開講曜限	授業形態		
金1、2	演習		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■子ども教育学科■</p> <p>■2-1 初等教育の教科等の内容に関する専門的知識を有し、教材の内容について分析・解釈し、適切な教材の準備を行うことや、場面に応じた適切な指導方法を工夫することができる</p> <p>■2-2 保育内容に関する専門的知識を有し、教材となる素材の内容について分析・解釈し、適切な教材の準備を行うことや、子どもの興味関心などを踏まえて、保育の内容に即した適切な保育の計画を工夫することができる。</p>
科目の概要・目的	<p>保育・教育現場において重要な役割を担うピアノ実技に関する基礎知識と技術の修得を目的とした授業を行う。</p> <p>本学独自のグレード制に基づき、ピアノ初学者グループ（グレード1及び2）と既習者グループ（グレード3以上）の2グループに分けて授業を行う。</p> <p>初学者グループでは、音楽の基礎理論（楽典）の確認を行いながら、正確な読譜と基礎的な演奏ができるよう教授する。</p> <p>既習者グループでは、リズム曲を学ぶ週（リズム曲週）とグレード別課題曲を学ぶ週（ピアノ週）を交互に設定し、授業を行う。リズム曲週では保育現場で活用できるリズム曲を、ピアノ週ではグレード別課題曲（バイエル・ブルクミュラー・ソナチネアルバム）を、それぞれ個々の進度に応じて教授し、技術的基礎を固めると同時に、表現力の向上を図ることを目的とする。</p>
学習到達目標	<p>◇ 大譜表形式の楽譜を正確に読むことができるようになる。</p> <p>◇ 拍子や基礎的なリズムを理解し、表現できるようになる。</p> <p>◇ 正しい指番号で弾くことができるようになる。</p>
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <p>◇ 特になし</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <p>◇ 特になし</p> <p>【その他特記事項】</p> <p>◇ 4～5名の学生を1グループとして履修者全体を分け、各グループに教員1人を配置して授業を行う。</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <p>◇ グレード1及び2のグループ「定期試験（実技）」「実技小テスト」「平常点」</p> <p>◇ グレード3以上のグループ「定期試験（実技）」「リズム曲試験」「平常点」</p> <p>【割合】</p> <p>◇ グレード1及び2のグループ「定期試験（実技）80%」「実技小テスト10%」「平常点10%」</p> <p>◇ グレード3以上のグループ「定期試験（実技）60%」「リズム曲試験30%」「平常点10%」</p>
教科書・テキスト	<p>◇ (グレード1及び2のグループ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「全訳バイエルピアノ教則本」全音 <p>◇ (グレード3以上のグループ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「全訳バイエルピアノ教則本」全音 ・「ブルクミュラー 25の練習曲」全音 ・「ソナチネアルバム1 標準版」全音 ・「保育用 ピアノマーチ集」一宮道子編 全音 <p>◇ (両グループ共通)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「やさしく学べるピアノ100」 関西地区大学音楽教育学会編著 音楽之友社
参考書	◇ 特に指定しない。
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	<p>◇ 課題曲の予習曲数を2曲以上とすること。</p> <p>◇ 基礎的な知識・技術を繰り返し学修・練習すること。</p>
履修上の留意事項	◇ 毎回の学修内容をレッスンカルテに記入すること（授業内、または授業終了後の早い段階で）。
オフィスアワー	◇ 月曜日3限
課題に対するフィードバックの方法	◇ 毎回の学修内容を記入した「レッスンカルテ」を全15回の授業終了後に提出する。提出された「レッスンカルテ」は、教員確認後、返却する。
実務経験	◇ 特になし
その他	◇ 特になし

授業の内容	<p>第1回 本科目の説明、G1～2：楽譜の読み方（五線譜について） G3以上(ML週)：リズム曲の説明 授業の進め方について、学習目標の説明。 本科目では、以下の本学ピアノグレード課題曲及びリズム曲を、進度に合わせて学ぶ。 (ピアノグレード課題曲の範囲) グレード1～4：バイエル3番～105番まで複数曲 グレード5～7：ブルクミュラー、ソナチネアルバムⅠ巻・Ⅱ巻から複数曲 グレード8～9：ソナタアルバムⅠ巻・Ⅱ巻から 複数曲 グレード10：自由曲 (リズム曲・主要課題曲) きらきら星、気のいいあひる みつばちマーチ、ジャバマーチ、かわいいオーガスティン等 【事前学修】(G1～2)「ちょうちょう」の楽譜を読み、わからないところをチェックする。 (G3以上)リズム曲「きらきら星」の譜読みを行う。 【事後学修】(G1～2)五線譜に書いている音の位置を確認しながら、「ちょうちょう」を練習する。 (G3以上)「きらきら星」の指番号やリズムを復習する。</p> <p>第2回 G1～2：ピアノ演奏時の姿勢、楽譜の読み方（大譜表形式、拍子、音名など） G3以上(ピアノ週)：課題曲(正確な譜読み) G1～2：ピアノを弾くにあたり重要な演奏時の姿勢・手の形などを学ぶ。 G3以上：進度に合わせて選択されたグレード課題曲の譜読みを行う。 【事前学修】(G1～2)バイエルに掲載されている楽典項目（音名や拍子など）を熟読しておく。 (G3以上)各自のグレード開始曲の譜読みを行う。 【事後学修】(G1～2)楽典項目を確認しながら、本授業回で取り組んだバイエルを復習する。 (G3以上)本授業回で取り組んだ楽曲のリズムや指番号を正確に表現できるよう復習する。</p> <p>第3回 G1～2：課題曲、楽譜の読み方（音符・休符） G3以上(ML週)：リズム曲複数曲(譜読み・練習方法) G1～2：楽譜の基礎事項を学ぶ。 G3以上：リズム学習曲の譜読み、曲想表現を考えた練習方法を学ぶ。 【事前学修】(G1～2)楽典項目（音符と休符の種類）を熟読し、その名前を覚える。 (G3以上)リズム課題曲「気のいいあひる」「かわいいオーガスティン」の譜読みを行う。 【事後学修】(G1～2)楽典項目や弾くときの手の形を確認しながら、本授業で各自が取り組んだバイエルを練習する。 (G3以上)本日取り組んだリズム曲の音の強弱をやリズムを意識しながら復習する。</p> <p>第4回 G1～2：課題曲、楽譜の読み方(リズム) G3以上(ピアノ週)：課題曲(指使いについて) G1～2：楽譜の基礎事項を学ぶ。 G3以上：楽曲を学ぶにあたり重要事項のひとつである運指法について、学びを深める。 【事前学修】(G1～2)楽典項目（リズムの種類）を熟読しておく。 (G3以上)新しく2曲のグレード課題曲を譜読みしておく。 【事後学修】(G1～2)リズムや音の長さを意識しながら、本日取り組んだバイエルを復習する。 (G3以上)指番号を正確に覚え、拍子感やリズムを意識しながら練習する。</p> <p>第5回 G1～2：課題曲、楽譜の読み方(指使い) G3以上(ML週)：リズム曲複数曲(譜読み終了) G1～2：楽譜の基礎事項（運指法）を学ぶ。 G3以上：リズム学習曲の譜読みを終え、楽曲表現方法について学ぶ。 【事前学修】(G1～2)新しくバイエル2～3曲を譜読みする。 (G3以上)「うつくしいながれ」「ジャバマーチ」「ロングロングアゴー」を譜読みする。 【事後学修】(G1～2)指番号に気をつけながら、本日取り組んだバイエルを練習する。 (G3以上)本日取り組んだ3曲のリズム曲を含め、リズム課題曲6曲すべての譜読みを確認する。</p> <p>第6回 G1～2：課題曲(大譜表形式の練習) G3以上(ピアノ週)：課題曲(拍子・リズムの研究) G1～2：大譜表形式の楽譜に慣れる。 G3以上：拍子やリズムの表現方法について学ぶ。 【事前学修】(G1～2)新しくバイエル2～3曲の譜読みを行う他、へ音記号について調べておく。 (G3以上)各自の進度に合わせて、グレード課題曲2曲を譜読みしておく。 【事後学修】(G1～2)指番号に気をつけながら、本日取り組んだバイエルを練習する。 (G3以上)グレード課題曲のリズムや強弱を正確に表現できるよう練習する。</p> <p>第7回 G1～2：課題曲(大譜表形式の練習) G3以上(ML週)：リズム曲複数曲(曲想表現) G1～2：課題曲を進める。 G3以上：リズム学習曲の曲想表現について、拍子・演奏速度・強弱などを工夫しながら学ぶ。 【事前学修】(G1～2)新しくバイエル2～3曲を譜読みする。 (G3以上)リズム課題曲6曲の速度や強弱について練習しておく。 【事後学修】(G1～2)大譜表形式の楽譜に慣れるよう、両手練習を積み重ねる。 (G3以上)リズム課題曲6曲の曲想を豊かに表現できるよう復習する。</p> <p>第8回 G1～2：バイエル実技小テストに向けて（仕上げ） G3以上(ピアノ週)：課題曲(速度記号/標語の研究) G1～2：バイエル実技小テスト曲の暗譜演奏に向けて準備する。 G3以上：楽曲演奏に必要な音楽用語について学ぶ。 【事前学修】(G1～2)新しくバイエル2～3曲を譜読みする。</p>
-------	--

	<p>(G3以上)新しくグレード課題曲2曲の譜読みを行う、但し楽曲の規模によっては1曲でもよい。 【事後学修】 (G1~2)次回の実技小テストに向けて、テスト曲の通し練習を行う。 (G3以上)取り組んでいる楽曲の曲想に合った速度で練習する他、学修した音楽用語について復習する。</p>
第9回	<p>G1~2: バイエル実技小テスト G3以上(ML週): リズム曲複数曲(暗譜・通し練習) G 1 ~ 2 : バイエル実技小テスト G 3 以上 : リズム曲テストに向けて、課題曲の暗譜演奏ができるように準備する。 【事前学修】 (G1~2)バイエル小テスト曲の暗譜を確認しておく。 (G3以上)リズム課題曲6曲の通し練習を行う。 【事後学修】 (G1~2)小テストの振り返りを行うとともに、バイエル2~3曲の譜読みを進める。 (G3以上)リズム課題曲6曲の暗譜練習を行う。</p>
第10回	<p>G1~2: 課題曲(拍子・リズム) G3以上(ピアノ週): 課題曲(左右の強弱バランスについて) G 1 ~ 2 : 拍子やリズムの理論的な学びを通して、演奏の正確性を向上させる。 G 3 以上 : 楽曲演奏における左右の音量や表現バランスを学ぶ。 【事前学修】 (G1~2)新しくバイエル2~3曲の譜読みを行う。 (G3以上)新しくグレード課題曲2曲の譜読みを行う、但し楽曲の規模によっては1曲でもよい。 【事後学修】 (G1~2)拍子やリズムの正確性を意識しながら、練習を進める。 (G3以上)楽曲の左右の強弱バランスについて、コントロールできるよう練習する。</p>
第11回	<p>G1~2: 課題曲(左右のバランスについて) G3以上(ML週): リズム学習曲実技試験 G 1 ~ 2 : 楽曲演奏における左右の音量バランスについて学ぶ。 G 3 以上 : リズム学習曲実技試験 【事前学修】 (G1~2)新しくバイエル2~3曲を譜読みする。 (G3以上)リズム課題曲の曲想、速度などを確認しながら、暗譜練習を進めておく。 【事後学修】 (G1~2)旋律パートと伴奏パートの強弱の違いについて復習する。 (G3以上)リズム課題曲試験の振り返りを行う。</p>
第12回	<p>G1~2: 課題曲(実技試験曲の譜読みを含む) G3以上(ピアノ週): 課題曲(実技試験曲譜読み) G 1 ~ 2 : 前期定期試験に向けて、課題曲を選択する。 G 3 以上 : 前期定期試験に向けて、課題曲を選択する。 【事前学修】 (G1~2)新しくバイエル2~3曲を譜読みする。 (G3以上)グレード課題曲の譜読みを進めておく。 【事後学修】 (G1~2)定期試験曲の楽典項目を確認し、ゆっくりとした速度で両手練習する。 (G3以上)定期試験曲の指番号やリズムなどを確認しながら、ゆっくりとした速度で両手練習する。</p>
第13回	<p>G1~2: 実技試験曲(譜読み・練習方法) G3以上(ピアノ週): 実技試験曲(練習方法) G 1 ~ 2 : 試験曲の譜読みを進め、演奏技術向上のための効果的な練習方法について学ぶ。 G 3 以上 : 試験曲の演奏技術向上に必要な効果的な練習方法について学ぶ。 【事前学修】 (G1~2)定期試験曲の指番号やリズムを確認しながら、譜読みを終えておく。 (G3以上)定期試験曲の譜読みを終えておく。 【事後学修】 (G1~2)試験曲学修の中で見出された技術的課題・表現上の課題を解決するために、各課題の内容に合わせた練習方法を取り入れる。 (G3以上)試験曲学修の中で見出された技術的課題・表現上の課題を解決するために、各課題の内容に合わせた練習方法を取り入れる。</p>
第14回	<p>G1~2: 実技試験曲(通し練習) G3以上(ピアノ週): 実技試験曲(曲想表現) G 1 ~ 2 : 試験曲に必要な技術的学びを深め、通し練習を行う。 G 3 以上 : 試験曲の曲想表現を工夫する。 【事前学修】 (G1~2)定期試験曲の曲想表現について予習する。 (G3以上)定期試験曲の曲想表現について予習する。 【事後学修】 (G1~2)試験曲の速度、リズム、強弱などを正確に表現し、通し練習を行う。 (G3以上)試験曲の曲想を豊かに表現するための技術練習を行う。</p>
第15回	<p>G1~2: 実技試験曲の仕上げ(暗譜を含む) G3以上(ピアノ週): 実技試験曲の仕上げ(暗譜を含む) G 1 ~ 2 : 試験曲を暗譜で演奏できるようにする。 G 3 以上 : 試験曲を暗譜で演奏できるようにする。 【事前学修】 (G1~2)定期試験曲を暗譜して弾けるよう練習しておく。 (G3以上)定期試験曲を暗譜して弾けるよう練習しておく。 【事後学修】 (G1~2)曲想表現が伴った暗譜練習を行う。 (G3以上)曲想表現が伴った暗譜練習を行う。</p>
	定期試験

講義科目名称： 声楽 I

授業コード： 52207700 52207710

英文科目名称： Vocal Music I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	2	1	必修
担当教員			
桐山 由香			
開講曜限	授業形態		
水2、木2	演習		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■子ども教育学科■</p> <p>■2-1 初等教育の教科等の内容に関する専門的知識を有し、教材の内容について分析・解釈し、適切な教材の準備を行うことや、場面に応じた適切な指導方法を工夫することができる</p> <p>■2-2 保育内容に関する専門的知識を有し、教材となる素材の内容について分析・解釈し、適切な教材の準備を行うことや、子どもの興味関心などを踏まえて、保育の内容に即した適切な保育の計画を工夫することができる。</p>
科目の概要・目的	歌唱における発声の基礎を学び、保育や教育の現場において役立つ歌唱の技能を修得するための授業を実施する。 楽曲の解釈に必要な、音楽理論を修得するための講義も実施する。
学習到達目標	音程を正しく、言葉を明瞭に表現できる歌唱技能を修得する。 歌唱表現に必要な、楽曲を解釈するための音楽理論を修得する。 保育や教育の現場で必要な、歌唱表現活動について理解する。
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 グループワーク：グループでの重唱や合唱の活動を実施する。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 録音機器により、演奏表現の振り返りを行う。 リモートで授業を実施する場合は、ZOOMやA-portalを使用する。</p> <p>【その他特記事項】 授業内容に応じて複数教室に分かれ、各自の課題に取り組む。</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】 授業内での発表、授業への取り組み、授業内レポート</p> <p>【割合】 授業内での発表 60% 授業への取り組み 30% 授業内レポート 10%</p>
教科書・テキスト	「新・声楽指導教本」 教育芸術社 「たのしいポケット歌集」 教育研究社
参考書	授業時に、適宜指示します。
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	前時に履修した楽曲は、次時には演奏できるよう事後学修に努めること。
履修上の留意事項	子どもの歌のレパートリーを増やしましょう。
オフィスアワー	水曜日5限
課題に対するフィードバックの方法	リフレクションシートの記入により、毎回の振り返りを実施する。
実務経験	小学校教諭 中学校 音楽科講師 高等学校 音楽科講師
その他	特になし
授業の内容	<p>第1回 オリエンテーション オリエンテーション 授業概要の説明（授業の進め方や成績評価の説明等） 【事前学修】前年度に学習した楽曲を振り返る。 【事後学修】本時に学習した楽曲を練習する。</p> <p>第2回 歌唱実技(1) 生活の歌1、発声の基礎1：腹式呼吸 保育や教育の現場で歌われる生活の歌を中心に歌唱する。 発声の基礎として、腹式呼吸について解説する。 【事前学修】前時に学習した楽曲を振り返る。 【事後学修】本時に学習した楽曲を練習する。</p>

第3回	歌唱実技(2) 生活の歌 2、発声の基礎 2：姿勢 保育や教育の現場で歌われる生活の歌を中心に歌唱する。 発声の基礎として、姿勢について解説する。 【事前学修】前時に学習した楽曲を振り返る。 【事後学修】本時に学習した楽曲を練習する。
第4回	歌唱実技(3) 行事の歌 1、発声の基礎 3：口形、表情 保育や教育の現場で歌われる行事の歌を中心に歌唱する。 発声の基礎として、口形、表情について解説する。 【事前学修】前時に学習した楽曲を振り返る。 【事後学修】本時に学習した楽曲を練習する。
第5回	歌唱実技(4) 行事の歌 2、発声の基礎 4：響き他 保育や教育の現場で歌われる行事の歌を中心に歌唱する。 発声の基礎として、響き他について解説する。 【事前学修】前時に学習した楽曲を振り返る。 【事後学修】本時に学習した楽曲を練習する。
第6回	歌唱実技(5) 季節の歌 1 保育や教育の現場で歌われる季節の歌を中心に歌唱する。 【事前学修】前時に学習した楽曲を振り返る。 【事後学修】本時に学習した楽曲を練習する。
第7回	歌唱実技(6) 季節の歌 2 保育や教育の現場で歌われる季節の歌を中心に歌唱する。 【事前学修】前時に学習した楽曲を振り返る。 【事後学修】本時に学習した楽曲を練習する。
第8回	歌唱実技(7) 歌唱共通教材 1：小学校低学年 小学校で歌われる歌唱共通教材を中心に歌唱する。 【事前学修】前時に学習した楽曲を振り返る。 【事後学修】本時に学習した楽曲を練習する。
第9回	歌唱実技(8) 歌唱共通教材 2：小学校高学年 保育や教育の現場で歌われる行事の歌を中心に歌唱する。 【事前学修】前時に学習した楽曲を振り返る。 【事後学修】本時に学習した楽曲を練習する。
第10回	独唱まとめ 発表とふりかえり 発表を通して、保育や教育の現場で歌われる季節の歌や行事の歌について振り返る。 【事前学修】前時に学習した楽曲を振り返る。 【事後学修】本時に学習した楽曲を練習する。
第11回	重唱実技(1) ハーモニーの基礎 1：カデンツ等 重唱や合唱を通してハーモニーの美しさを味わう。 カデンツ等について解説する。 【事前学修】前時に学習した楽曲を振り返る。 【事後学修】本時に学習した楽曲を練習する。
第12回	重唱実技(2) ハーモニーの基礎 2：3度音程等 重唱や合唱を通してハーモニーの美しさを味わう。 3度音程等について解説する。 【事前学修】前時に学習した楽曲を振り返る。 【事後学修】本時に学習した楽曲を練習する。
第13回	重唱実技(3) ハーモニーの基礎 3：交互唱等 重唱や合唱を通してハーモニーの美しさを味わう。 交互唱等について解説する。 【事前学修】前時に学習した楽曲を振り返る。 【事後学修】本時に学習した楽曲を練習する。
第14回	重唱実技(4) ハーモニーの基礎 4：ダイナミクス等 重唱や合唱を通してハーモニーの美しさを味わう。 ダイナミクス等について解説する。 【事前学修】前時に学習した楽曲を振り返る。 【事後学修】本時に学習した楽曲を練習する。
第15回	重唱まとめ 発表とふりかえり

	<p>グループで、重唱や合唱の発表をする。 「声楽 I」の授業の振り返りをする。 【事前学修】 前時に学習した楽曲を振り返る。 【事後学修】 本時に学習した楽曲を練習する。</p>
--	--

講義科目名称： 保育実習 I B

授業コード： 52208700

英文科目名称： Nurturing Practice IB

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	3	2	選択
担当教員			
黒澤 祐介			
開講曜限	授業形態		
	実習		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■子ども教育学科■</p> <p>■2-3 一人一人の子どものケア・ニーズの背景を理解し、社会的養護を展開することができる</p> <p>■4-2 子どもの権利を理解し、それを尊重して、公平かつ受容的・共感的な態度で子どもと関わることができる</p>
---------	--

科目の概要・目的	保育実習は、その習得した教科全体の知識、技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うため、児童に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について習熟させることを目的とする。保育実習 I Bでは保育所等以外の児童福祉施設等での実習を行う。乳幼児を対象に主に日中の保育を担う保育所等と異なり、児童福祉施設等での実習では施設種別の多様性を理解し、配属される施設の機能や多様な専門性をもつ職員の専門性などについて理解する。配属先の状況について理解を深めたうえで指導担当職員の指導の下に実習を進めていく。
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する 2. 観察や子どもとの関りを通して子どもへの理解を深める 3. 既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する 4. 保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <p>臨地実習における実習</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <p>なし</p> <p>【その他特記事項】</p> <p>児童福祉施設（保育所以外）における実習に参加</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <p>実習施設からの評価票 訪問指導担当教員からの評価</p> <p>【割合】</p> <p>実習施設からの評価票（90%） 訪問指導担当教員からの評価（10%）</p>
教科書・テキスト	大阪青山大学子ども教育学科教育・保育実習ハンドブック 保育所・幼稚園・児童福祉施設実習用 大阪青山大学 子ども教育学科 保育実習ノート
参考書	特に指定しない
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	施設実習に参加するにあたって、厚生労働省が定めた社会的養護関連施設の「指針」および「運営ハンドブック」を参照しておくこと
履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に学ぶ姿勢をもって実習に参加すること ・実習参加条件を満たさない場合には、参加できない ・実習ハンドブックをよく読むこと
オフィスアワー	水曜 3 限
課題に対するフィードバックの方法	訪問担当者による事後指導において行う
実務経験	特記事項なし
その他	特になし
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 施設の役割と機能 <ol style="list-style-type: none"> (1) 施設における子どもの生活と保育士の援助やかかわり (2) 施設の役割と機能 2 子どもの理解 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの観察とその記録 (2) 個々の状態に応じた援助や関わり 3 施設における子どもの生活と環境 <ol style="list-style-type: none"> (1) 計画に基づく活動や援助 (2) 子どもの心身の状態に応じた生活と対応 (3) 子どもの活動と環境

	<ul style="list-style-type: none">(4) 健康管理、安全対策の理解
4	計画と記録 <ul style="list-style-type: none">(1) 支援計画の理解と活用(2) 記録に基づく省察・自己評価
5	専門職としての保育士の役割と倫理 <ul style="list-style-type: none">(1) 保育士の業務内容(2) 職員間の役割分担や連携(3) 保育士の役割と倫理

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 後期・前期	3・4	2	選択
担当教員			
鈴木 順子			
開講曜限	授業形態		
	実習		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■子ども教育学科■</p> <p>■2-2 保育内容に関する専門的知識を有し、教材となる素材の内容について分析・解釈し、適切な教材の準備を行うことや、子どもの興味関心などを踏まえて、保育の内容に即した適切な保育の計画を工夫することができる。</p> <p>■4-1 初等教育・保育・子ども福祉における職務内容と役割を理解し、子どもと関わる専門的職業人としての強い使命感を有している</p>
科目の概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの既習科目と保育実習Ⅰを始めとする実習経験を踏まえて、総合的に保育をとらえる意識をもって実習を行う ・子どもとの関わりにおいて、より深い子ども理解が求められるように、ある程度同一のクラスで実習を行う ・養護と教育が一体的に行われるという保育の基本理念や社会的役割を具体的実践から学ぶ ・実習生自身が自ら保育現場での実習を通して保育士の役割（保護者支援や子育て支援、地域連携などを含む）を理解する ・指導案を作成し、保育実践をする中でPDCAサイクルの重要性を理解する
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深めることができる。 ・子ども理解を深めるための子どもとの関わりについて述べるができる。 ・これまでの既習科目と保育実習ⅠAを始めとする実習経験を踏まえて、保育士の役割について総合的に理解できる。 ・指導案を作成する中で、PDCAサイクルについて理解を深め省察できる。 ・実習における自己課題を明確化し、論じることができる。
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 臨地実習における実習</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 特になし</p> <p>【その他特記事項】 保育所又は認定こども園での実習に参加</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目・割合】 実習園による評価（90%）、実習ノートの内容、面談内容など（10%）を総合的に評価する。</p>
教科書・テキスト	<p>大阪青山大学 子ども教育学科 教育・保育実習ハンドブック</p> <p>大阪青山大学 子ども教育学科 保育実習ノート</p>
参考書	<p>厚生労働省 2018 保育所保育指針解説 フレーベル館</p> <p>内閣府 文部科学省 厚生労働省 2018 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 フレーベル館</p>
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	<ul style="list-style-type: none"> ・保育実習に参加するにあたって、子どもの発達や興味・関心などについて調べておくこと。 ・実習参加に向けての心構えや準備の確認を行うこと。
履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に学ぶ姿勢をもって実習に参加すること ・参加条件を満たさない場合は、参加できない ・実習ハンドブックをよく読むこと
オフィスアワー	初回の授業でお知らせします
課題に対するフィードバックの方法	保育実習Ⅱ事後指導においてフィードバックを行う
実務経験	幼稚園教諭、保育士
その他	このシラバスは下記の文献を参考に作成した。 一般社団法人全国保育士養成協議会編集 2018 保育実習指導のミニマムスタンダードVer2 「協働」する保育士養成 中央法規
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> 保育所の役割や機能の具体的展開 <ul style="list-style-type: none"> ・養護と教育が一体となって行われる保育の具体的理解 ・保育所の社会的役割と責任を知ること 【事前学修】保育所保育指針解説p13-29を読みその内容について理解しておく 【事後学修】実際の保育に参加する中で保育所保育の実際を知る。 参加実習における保育の理解 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの姿についての観察および理解 ・環境構成に対する理解および配慮 ・保育士の援助や配慮

<p>3.</p> <p>4.</p> <p>5.</p> <p>6.</p>	<p>【事前学修】保育所保育指針解説 p285-293を読むこと。 また、実習に参加するクラスに応じて次のページも読んでおくこと。 乳児：保育所保育指針解説 p89-120 1歳以上3歳未満児：保育所保育指針解説 p121-181 3歳児以上：保育所保育指針解説 p182-284</p> <p>【事後学修】日々の実習に参加する中で、子どもの姿や保育者の保育における援助・配慮などをふまえながら日誌の記載を行う。</p> <p>保護者・家庭への支援と地域社会などとの連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入所している子どもの保護者及び地域の保護者に対する子育て支援 ・関係機関や地域社会との連携・協働 <p>【事前学修】保育所保育指針解説 p329-342を読むこと。 【事後学修】保育に参加する中で、保育者と保護者とのかかわりの場面に関心を向け感想や質問等を書いてみようとする。</p> <p>指導計画の作成・実践・観察・記録・評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作成した指導計画に基づく実践と評価 <p>【事前学修】様々な授業で習った子どもの姿を踏まえた指導計画の書き方を見返すこと。 【事後学修】子どもの姿を踏まえた指導計画を作成し、実践・省察を行い指導案の感想にその内容を記載する。</p> <p>保育士の業務と職業倫理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な保育の展開と保育士の業務 ・多様な保育の展開と保育士の職業倫理 <p>【事前学修】保育所保育指針解説p344-347を読むこと。 【事後学修】日々保育の省察を行う中で、保育士の業務の多様性と職業倫理について考えること。</p> <p>自己課題の明確化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々の保育に参加する中で保育士として働く上での自身の課題について考える。 <p>【事前学修】日誌の書き方を再確認すること。 【事後学修】日々の日誌の記載を通して、保育実習を終えた感想を記し、自身の保育をする上での課題を考えること。</p>
---	--

講義科目名称： 保育実習Ⅲ

授業コード： 52208900

英文科目名称： Nurturing Praticice III

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	3	2	選択
担当教員			
黒澤 祐介			
開講曜限	授業形態		
	実習		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■子ども教育学科■</p> <p>■2-3 一人一人の子どものケア・ニーズの背景を理解し、社会的養護を展開することができる</p> <p>■4-1 初等教育・保育・子ども福祉における職務内容と役割を理解し、子どもと関わる専門的職業人としての強い使命感を有している</p>
---------	--

科目の概要・目的	<p>保育実習は、その習得した教科全体の知識、技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うため、児童に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について習熟させることを目的とする。保育実習Ⅲでは保育所等以外の児童福祉施設等での実習を行う。保育実習ⅠBでの体験を基礎に、より高い専門性を身につける。乳幼児を対象に主に日中の保育を担う保育所等と異なり、児童福祉施設等での実習では施設種別の多様性を理解し、配属される施設の機能や多様な専門性をもつ職員の専門性などについて理解する。配属先の状況について理解を深めたくうえで指導担当職員の指導の下に実習を進めていく。</p>
学習到達目標	<p>1. 既習の教科目や保育実習の経験を踏まえ、児童福祉施設（保育所以外）の役割や機能について実践を通して、理解する</p> <p>2. 家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を習得する</p> <p>3. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結び付けて理解する</p> <p>4. 実習における自己の課題を理解する</p>
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 臨地実習における実習</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 なし</p> <p>【その他特記事項】 児童福祉施設（保育所以外）における実習に参加</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】 実習施設からの評価票 訪問担当教員からの評価</p> <p>【割合】 実習施設からの評価票（90%） 訪問担当教員からの評価（10%）</p>
教科書・テキスト	<p>大阪青山大学子ども教育学科教育・保育実習ハンドブック 保育所・幼稚園・児童福祉施設実習用 大阪青山大学 子ども教育学科 保育実習ノート</p>
参考書	特になし
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	施設実習に参加するにあたって、厚生労働省が定めた社会的養護関連施設の「指針」および「運営ハンドブック」を参照しておくこと
履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に学ぶ姿勢をもって実習に参加すること ・実習参加条件を満たさない場合には、参加できない ・実習ハンドブックをよく読むこと
オフィスアワー	水曜3限
課題に対するフィードバックの方法	訪問担当者による事後指導により行う
実務経験	特記事項なし
その他	特になし
授業の内容	<p>1 児童福祉施設等（保育所以外）の役割と機能</p> <p>2 施設における支援の実際</p> <p>(1) 受容し、共感する態度</p> <p>(2) 個人差や生活環境に伴う子ども（利用者）のニーズの把握と子ども理解</p> <p>(3) 個別支援計画の政策と実践</p> <p>(4) 子ども（利用者）の家族への支援と対応</p> <p>(5) 各施設における多様な専門職との連携・協働</p> <p>(6) 地域社会との連携・協働</p> <p>【事前学修】</p>

【事後学修】

3 保育士の多様な業務と職業倫理

4 保育士としての自己課題の明確化

講義科目名称： 教育実習 I

授業コード： 52209100

英文科目名称： Practice in Teaching I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	2	1	選択
担当教員			
林 富公子			
開講曜限	授業形態		
	実習		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■子ども教育学科■</p> <p>■2-2 保育内容に関する専門的知識を有し、教材となる素材の内容について分析・解釈し、適切な教材の準備を行うことや、子どもの興味関心などを踏まえて、保育の内容に即した適切な保育の計画を工夫することができる。</p> <p>■4-2 子どもの権利を理解し、それを尊重して、公平かつ受容的・共感的な態度で子どもと関わることができる</p>
---------	---

科目の概要・目的	大阪青山大学附属青山幼稚園、平野幼稚園などで9月に5日間の幼稚園実習に参加する中で以下のことを行う。 観察：幼稚園における保育の様々な営みを観察によって研究する。 参加：観察をもとにして担任の助手的立場から少しずつ教育活動に入り、担当された仕事を中心に担任の指示を受けて行動する。
学習到達目標	幼稚園において実際に園児と接し、すでに学んだ理論をもとに、心身ともに健やかな幼児を育成するための保育について観察し、日誌の作成ができるようになる。 幼児教育の特質と幼児の実態・教育諸条件を理解できる。 保育内容や保育方法を実地に学び、教育者としての自覚を持ち資質を高めることができる。
授業の方法	【アクティブラーニングの取り入れ状況】 臨地実習における実習 【ICTを利用した双方向授業】 特になし 【その他特記事項】 附属幼稚園又は協力幼稚園で5日間の実習を行う。
成績評価の方法	【評価項目・割合】 実習園による評価、実習ノートの内容、面談内容などを総合的に評価する。
教科書・テキスト	大阪青山大学子ども教育学科 教育・保育実習ハンドブック 大阪青山大学子ども教育学科 教育実習ノート（基礎実習）
参考書	文部科学省 2018 幼稚園教育要領解説 フレーベル館
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	・特別時間の中で教育実習 I の事前事後指導及びオリエンテーションを行うので必ず参加すること。
履修上の留意事項	・学内オリエンテーション及び各園でのオリエンテーション時には標準服で参加すること。 ・特別時間内における事前指導及び各オリエンテーションは原則、出席すること。 ・特別時間内における事前指導及び各オリエンテーションを欠席した場合、実習参加を認めないことがあるので注意すること。 ・参加した実習先の運動会にも参加すること。 ・誠実さをもって取り組むこと。
オフィスアワー	昼休み
課題に対するフィードバックの方法	特別時間の中でフィードバックを行う
実務経験	幼稚園教諭
その他	特になし
授業の内容	<p>1 5日間の教育実習</p> <p>・学外実習を実施するための基礎的知識や技能を培うために、大阪青山大学附属青山幼稚園または平野幼稚園などで5日間の観察実習および参加実習を行う。 【事前学修】各幼稚園が実施するオリエンテーションに参加し、各幼稚園におけるデイリープログラムや実習参加にあたっての準備事項を各自行う。また、特別時間内における基礎実習の事前指導を受けその内容を各自、理解しておく。 【事後学修】後期に教育実習 I の振り返りを行うので、各自実習を終えた課題を明確にしておく。</p> <p>2 実習記録について</p> <p>・日々、実習日誌を記載し翌朝担当の先生に日誌の提出を行う。 ・実習記録は、実習終了後日々の実習日誌をまとめて実習園に持参する。 【事前学修】事前指導で伝えた日誌の書き方について復習しておく。 【事後学修】実習園の指導教諭より日誌について受けたアドバイスの理由を考え、次の日の日誌に活かすように努める。</p>

講義科目名称： 理科

授業コード： 52210200

英文科目名称： Science

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	2・3	2	選択
担当教員			
金川 弘希			
開講曜限	授業形態		
火5	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■子ども教育学科■</p> <p>■1-2 教育・保育に関する基本的な内容や歴史の変遷、制度などについての専門的知識を有している</p> <p>■2-1 初等教育の教科等の内容に関する専門的知識を有し、教材の内容について分析・解釈し、適切な教材の準備を行うことや、場面に応じた適切な指導方法を工夫することができる</p>
科目の概要・目的	<p>小学校学習指導要領 理科の目標である「自然に親しみ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うこと」の意味と「自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力の育成」のための授業設計についての知識や能力を実際の小学校の理科教育の観察・実験を通して身につけることを目標とする。</p> <p>小学校理科教育の内容区分（エネルギー、粒子、生命、地球）の代表的な学習内容について、知識として目標と内容を学んだ後、数人のグループで実際の授業を想定し、観察・実験・考察といった子どもの探究学習を体験した後、グループ間でよりよい学習のあり方を論じて探っていくという「アクティブ・ラーニング」の形式の授業によって、授業設計の能力を身につけたい。</p>
学習到達目標	<p>小学校理科の目標に則した学習計画を立て、効果的な授業展開を創意工夫するための基礎知識と技能を身につける。効果的な理科授業を想定して指導するための授業力を身につける。</p> <p>(1) 「関心・意欲・態度」 小学校の理科教育に関心を持ち、授業設計や、実際の観察実験に意欲的に取り組む。また、よりよい理科学習づくりに対する能動的な態度を育てる。</p> <p>(2) 「思考・判断・表現」 理科の学習の基本的な知識に基づき、よりよい学習のあり方について、自分の考えを深め、具体的な授業設計として表現することができる。</p> <p>(3) 「技能」 小学校理科学習の観察・実験に必要な技能を修得し、指導者として必要な技能を修得する。</p> <p>(4) 「知識・理解」 小学校理科の目標・内容を理解するとともに具体的な授業設計に必要な知識を修得する。</p>
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験では、問題解決を実践的に理解できるようなグループワークを行う。第11回目、12回目の「液水の同定」では、一連の問題解決を行い、その過程を全体で交流する。 <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ARS（オーディエンスレスポンスシステム）を毎回使用することによって、学生相互の考えの違いや認識の度合いを意識できるようにして授業を進める。 ・9回の実験時には、ICT機器の利用を想定した活動を行う予定。 ・感染症の感染状況等によっては、遠隔授業を行うことがある。 <p>【その他特記事項】</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <p>平常点（主体的、協働的に取り組んだか）、課題（実験観察のレポート）、授業内小テスト（記述）の結果から総合的に評価する。</p> <p>【割合】平常点30%、課題40%、授業内小テスト（記述）30%</p>
教科書・テキスト	小学校学習指導要領解説 理科編 東洋館出版社 2018年2月
参考書	考える力が身につく対話的な理科授業 森本 信也著 東洋館出版社 2013年2月
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	<p>理科は、自然科学を扱う教科であるから、普段から自然に関心をもつようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容のポイントは、必ず直前の授業でお知らせしますので、各自で調べて自分の意見を持っておく。 ・実際の演習を行うときは、学習指導要領の該当の目標と内容を熟読し、紹介している各種文献や資料を参照すること。 ・授業後には、WSP（ワークシート）に授業内容に関する考察、感想をまとめておく。特に実験後は、結果の考察を必ず行う。
履修上の留意事項	グループでの実験や理科授業に関するグループワークを多く設定しているので、欠席しないよう体調管理に十分留意すること。
オフィスアワー	事前連絡をして訪問すること。
課題に対するフィードバックの方法	前半と後半にワークシート等の評価を返却する。対面授業不可の場合には、メール等で返却する。
実務経験	小学校教諭
その他	<p>〔略号〕 授業の内容の記号は以下の意味である</p> <p>ARS：オーディエンスレスポンスシステム</p> <p>WSB：ワークシート冊子</p> <p>WSP：ワークシート</p> <p>RPT：レポート</p>
授業の内容	第1回 オリエンテーション（授業の進め方、成績評価の説明等）

	<p>小学校理科教育の概略について、関心を持ち、科目の全体像を理解する。</p> <p>小学校学習指導要領解説 理科編の第2章第1節P12～19を読んで、教科の目標「理科の目標及び内容」の「自然に親しみ」、「理科の見方・考え方を働かせ」、「見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して」、「自然の事物・現象についての問題を科学的に解決する」を読み自分の考えを持ち、科目全体の内容の理解を深める。ARSによって、小学校理科教育の概略の相互の捉え方の差異から、理解を深める。</p> <p>【事前学修】</p> <p>シラバスを読んでおくこと。事前に小学校学習指導要領解説 理科編の第2章第1節P12～19を読んで、教科の目標「理科の目標及び内容」の「自然に親しみ」、「理科の見方・考え方を働かせ」、「見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して」、「自然の事物・現象についての問題を科学的に解決する」を読み自分の考えを持ち、科目全体の概要を理解しておくこと。[WSB]</p> <p>【事後学修】</p> <p>授業後には、ワークシート冊子(WSB)に授業内容に関する考察、感想をまとめる。</p>
第2回	<p>学習指導要領内容区分について</p> <p>小学校の理科の目標や内容の各学年の関連を理解し、全体像をつかむ。</p> <p>理科編の第2章第2節 理科の内容構成P20～28を読み、小学校理科の内容区分(エネルギー、粒子、生命、地球)についてその目標と内容のスコープとシーケンスと相互の関連の理解を深める。</p> <p>【事前学修】</p> <p>理科編の第2章第2節 理科の内容構成P20～28を読み、小学校理科の内容区分(エネルギー、粒子、生命、地球)についてその目標と内容と関連を調べておくこと。[WSB]</p> <p>【事後学修】</p> <p>授業後には、授業内容に関する考察、感想をまとめる。[WSB]</p>
第3回	<p>内容区分 「生命」 その1</p> <p>第3回に引き続いて、動物の生命の連続について実験を構想し、計画を立てる。実技としては、時期が合えばメダカの卵の観察を行い、関心を持って継続的な飼育を行い、学習に必要な基本となる技能を修得する。</p> <p>第3章 各学年の「生命・地球」の動物を扱う単元の目標及び内容の理解を個別学修とグループ内の対話で深める。</p> <p>【事前学修】</p> <p>第3章 各学年の目標及び内容P29～P93の「生命・地球」の中の「動物」に関する部分を読み、生命に関する内容を把握しておくこと。[WSB]</p> <p>【事後学修】</p> <p>授業後には、授業内容に関する考察、感想をまとめておく。[WSB]</p>
第4回	<p>内容区分 「生命」 その2</p> <p>第3回に引き続いて、動物の生命の連続について実験を構想し、計画を立てる。実技としては、時期が合えばメダカの卵の観察を行い、関心を持って継続的な飼育を行い、学習に必要な基本となる技能を修得する。</p> <p>第3章 各学年の「生命・地球」の動物を扱う単元の目標及び内容の理解を個別学修とグループ内の対話で深める。</p> <p>【事前学修】</p> <p>第3章 各学年の目標及び内容P29～P93の「生命・地球」の中の「動物」に関する部分を読み、生命に関する内容を把握しておくこと。[WSB]</p> <p>【事後学修】</p> <p>授業後には、授業内容に関する考察、感想をまとめておく。[WSB]</p>
第5回	<p>内容区分 「生命」 その3</p> <p>第3回目と第4回目に該当する実験内容について実際の物を扱って、必要になる技能や知識を習得する。</p> <p>第3章 各学年の目標及び内容P29～P93の「生命・地球」の中の「生命」に関する部分を読み、生命に関する内容を理解しておくこと。</p> <p>【事前学修】</p> <p>第4、5回目の実験の内容や結果をまとめておく。[WSB]</p> <p>【事後学修】</p> <p>授業後には、授業内容に関する考察、感想をまとめておく。[RPT]</p>
第6回	<p>内容区分 「エネルギー」 その1</p> <p>エネルギーの見方について目標と内容を理解する。第3学年「音と光の性質」の実験を行い、学習に必要な基本となる技能を修得する。授業の構想を考察し、よりよい計画を立てる。</p> <p>第3章 各学年の「音」と「光」に関する部分を読み、内容を理解しておくこと。</p> <p>【事前学修】</p> <p>第3章 各学年の目標及び内容P29～P93の「物質・エネルギー」の「音」と「光」に関する部分を読み、内容を把握しておくこと。[WSB]</p> <p>【事後学修】</p> <p>授業後には、授業内容に関する考察、感想をまとめておく。[WSB]</p>
第7回	<p>内容区分 「エネルギー」 その2</p> <p>エネルギーの変換と保存について概説する。第6学年「電気の利用」の蓄電と放電の実験を行い、科学的な実験に必要な基本となる技能を修得する。</p> <p>第3章 各学年の目標及び内容P29～P93の「物質・エネルギー」のエネルギーに関する部分を読み、内容を理解しておくこと。</p> <p>【事前学修】</p> <p>第3章 各学年の目標及び内容P29～P93の「物質・エネルギー」の「電気」に関する部分を読み、内容を把握しておくこと。[WSB]</p> <p>【事後学修】</p> <p>授業後には、授業内容に関する考察、感想をまとめておく。[WSB]</p>
第8回	<p>内容区分 「エネルギー」 その3</p> <p>第6学年「電気の利用」の実験結果の共有から問題解決の考察の意味を理解し、学習に必要な基本となる技能を修得する。授業の構想を考察し、よりよい計画を立てる。</p> <p>【事前学修】</p> <p>第7回の実験の結果をまとめ、考察しておくこと[WSB]</p> <p>【事後学修】</p> <p>授業後には、授業内容に関する考察、感想をまとめる。[RPT]</p>
第9回	<p>内容区分 「エネルギー」 その4</p>

	<p>第6学年「電気の利用」の実験結果の共有から問題解決の考察の意味を理解し、学習に必要な基本となる技能を修得する。授業の構想を考察し、よりよい計画を立てる。プログラミング機器を使った「電気の利用」の活動を通して、理科教育でのプログラミング教育の可能性を探る。</p> <p>【事前学修】 第7回の実験の結果をまとめ、考察しておくこと。[WSB] 【事後学修】 授業後には、授業内容に関する考察、感想をまとめる。[RPT]</p> <p>第10回 内容区分 「物質」 その1 物質についての目標と内容を理解する。空気や水についての内容と水溶液に関する内容を理解し、実験を構想し、計画を立てる。(実験を行うこともある。) 11回目からの「未知の水溶液の同定」の内容について理解する。</p> <p>【事前学修】 第3章 各学年の目標及び内容P29～P93の「空気や水」、「物の溶け方」に関する部分を読み、内容を理解しておくこと。[WSB] 【事後学修】 授業後には、授業内容に関する考察、感想をまとめておく。</p> <p>第11回 内容区分 「物質」 その2 数種類の未知の水溶液の同定を行うことによって、問題解決の追体験を行い、小学校の理科教育の過程や指導のポイントについて理解を深める。 グループ別の実験し、結果をまとめる。</p> <p>【事前学修】 第3章 各学年の目標及び内容P29～P93の「物の溶け方」の物質に関する部分を読み、内容を理解しておくこと。[WSB] 【事後学修】 授業後には、授業内容に関する考察、感想をまとめておく。</p> <p>第12回 内容区分 「物質」 その3 10回目に続いて問題解決の追体験を行い、グループでまとめる活動を行い、小学校の理科教育の過程や指導のポイントについて、グループディスカッションを通して理解を深める。 第3章 各学年の目標及び内容P29～P93の「物質・エネルギー」の物質に関する部分を読み、内容を理解しておくこと。</p> <p>【事前学修】 第11回目での結果を整理して、残っている実験やまとめ方を考えておくこと。[WSB] 【事後学修】 授業後には、RPTに授業内容に関する考察、感想をまとめる。(RPT提出)</p> <p>第13回 内容区分 「地球」 その1 第3章 各学年の目標及び内容P29～P93の「生命・地球」の中の「地球」に関する部分を読み、地球に関する内容を理解しておくこと。 太陽の動きについて、実験を構想し、計画を立て、指導案の立案について学ぶ。指導案については、単元目標と指導観、教材観、単元観、評価規準(ルーブリック)を学ぶ。太陽の動きについて実験器具を構想し、実験する。ARSによって、天体の運動に関するご認識を確認し、見方・考え方についての認識を深める。</p> <p>【事前学修】 内容区分の「生命・地球」の中の天体に関するものを読んで、自分の未知と既知を明確にしておくこと。[WSB] 【事後学修】 授業後には、授業内容に関する考察、感想をまとめておく。</p> <p>第14回 内容区分 「地球」 その2 第3章 各学年の目標及び内容P29～P93の「生命・地球」の中の「地球」に関する部分を読み、地球に関する内容を理解しておくこと。 大地の働きや火山地震について実験を構想し、計画を立てる。</p> <p>【事前学修】 内容区分の「生命・地球」の中の大地の働き位や火山地震、災害に関するものを読んで、自分の未知と既知を明確にしておくこと。[WSB] 【事後学修】 授業後には、RPTに授業内容に関する考察、感想をまとめる。</p> <p>第15回 まとめ 今学期の授業の評価を行う。また、今後の課題等を考察する。講義内小テストを実施する。</p> <p>【事前学修】 第1回からの講義内容をまとめておくこと。 【事後学修】 後期の初等教科教育法に向けて、自らの成長を自覚し、不十分な点を明確にしておくこと。</p>
--	--

講義科目名称： 生活

授業コード： 52210300

英文科目名称： Life

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	2・3	2	選択
担当教員			
服部 太			
開講曜限	授業形態		
火4	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■子ども教育学科■</p> <p>■1-2 教育・保育に関する基本的な内容や歴史的変遷、制度などについての専門的知識を有している</p> <p>■2-1 初等教育の教科等の内容に関する専門的知識を有し、教材の内容について分析・解釈し、適切な教材の準備を行うことや、場面に応じた適切な指導方法を工夫することができる</p>
---------	---

科目の概要・目的	<p>1989年に改正された学習指導要領で小学校低学年に新設された教科である。その目標は「具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1) 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする(2) 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにする(3) 身近な人々、社会及び事前に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う」こととされている。</p> <p>本授業では、第1・2学年に開設されている生活科の目標や学習内容を理解し、入学当初のスタートカリキュラム、また第3学年以降の「総合的な学習の時間」や社会・理科への連続性も概観するとともに、生活科ができた背景や生活科がめざす「生きる力」の育成についても理解を図る。</p> <p>また、初等教科教育法「生活」につながるよう、具体的な授業展開も視野に入れた講義とする。</p>
----------	---

学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「生活科」の目標及び内容を理解する。 ・「生活科」の特性について理解し、活動内容・方法・評価の実際を知る。 ・幼児教育、小学校3学年以降の学習への連続性を理解する。
--------	---

授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小グループによるディスカッション <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <p>特になし</p> <p>【その他特記事項】</p> <p>特になし</p>
-------	--

成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内課題（レポート、小テスト、ノートなど）、定期試験（レポート） ・ほぼ毎授業で課題を提示する。 <p>【割合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内課題（レポート、小テスト、ノートなど）40%、定期試験（レポート）60%
---------	--

教科書・テキスト	小学校学習指導要領解説（平成29年告示） 生活編
----------	--------------------------

参考書	児童用教科書 せいかつ（上・下） 東京書籍
-----	-----------------------

授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	・講義内容は各自振り返り、次の学修へのぞむこと。
---------------------------	--------------------------

履修上の留意事項	・教具を作成したり、大学周辺でのフィールドワークをしたりする予定をしている。別途、連絡する。
----------	--

オフィスアワー	火曜日5コマ、研究室にて
---------	--------------

課題に対するフィードバックの方法	学期中のレポートに関しては、授業中に全般的な解説を行う。
------------------	------------------------------

実務経験	小学校教諭 公立学校、附属学校勤務経験あり
------	-----------------------

その他	・授業中の携帯電話、スマートフォン等の使用を禁止する（学生便覧、p.26）。
-----	--

授業の内容	<p>第1回 オリエンテーション（学習指導要領と生活科） 学習指導要領解説「生活」の改訂の経緯を読んでおくこと。 【事前学修】シラバスを事前に読み、授業に関する質問や意見があればまとめておく。 【事後学修】おもちゃづくりについて、材料集めの計画を立てておく。</p> <p>第2回 生活科の誕生と学習指導要領改訂 生活科の誕生経緯を調べておくこと。 【事前学修】再度、学習指導要領解説「生活」の改訂の経緯を読み、理解を深めておく。 【事後学修】生活科の誕生経緯について、再整理する。</p> <p>第3回 生活科の目標とその趣旨、学年目標とその内容構成、階層性について</p>
-------	--

	<p>学習指導要領解説編pp. 23-27. を読み、概要を捉える。 【事前学修】 小学校で学習した生活科授業について想起しておく。 【事後学修】 小学校で学習した生活科授業が、どのような目標があったのか学修を踏まえて整理する。</p>
第4回	<p>「学校、家庭及び地域の生活に関する内容」について① 生活科の内容「学校と生活」について、具体的な展開例をもとに、ねらいを理解する。 スタートカリキュラムの趣旨と内容について理解する。 【事前学修】 スタートカリキュラムについて、学習指導要領解説pp. 62-64. を読み、概要を理解しておく。 【事後学修】 学修を踏まえ、スタートカリキュラムの意義を整理しておく。</p>
第5回	<p>「学校、家庭及び地域の生活に関する内容」について② 具体的な単元「大きくなあれ わたしの 野さい」をもとに、ねらいを理解する。 【事前学修】 少なくとも学習指導要領のpp. 43-46. を読んでおくこと。 【事後学修】 生活科において植物を育てる意義について、整理する。</p>
第6回	<p>「学校、家庭及び地域の生活に関する内容」について③ 生活科の内容「家庭と生活」「地域と生活」について、具体的な展開例をもとに、ねらいを理解する。 【事前学修】 少なくとも学習指導要領のpp. 31-36. を読んでおくこと。 【事後学修】 「家庭と生活」「地域と生活」の学習の意義を整理する。</p>
第7回	<p>「身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容」について① 生活科の内容「公共物や公共施設の利用」「季節の変化と生活」について、具体的な展開例をもとに、ねらいを理解する。 【事前学修】 少なくとも学習指導要領のpp. 36-41. を読んでおくこと。 【事後学修】 「公共物や公共施設の利用」「季節の変化と生活」の学習の意義を整理する。</p>
第8回	<p>「身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容」について② 生活科の内容「自然や物を使った遊び」について、ねらいを理解する。 【事前学修】 少なくとも学習指導要領pp. 41-43. を読んでおくこと。 【事後学修】 「自然や物を使った遊び」の学習の意義を整理する。</p>
第9回	<p>「身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容」について③ 生活科の内容「自然や物を使った遊び」について、身近な自然や身近にある物を使って遊ぶ活動を行い、ねらいを理解する。 【事前学修】 関連する教科書を読んでおく。 【事後学修】 自分のつくりたいおもちゃについて考えておく。</p>
第10回	<p>「身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容」について③ 生活科の内容「動植物の飼育・栽培」「生活や出来事の伝え合い」について、ねらいを理解する。 【事前学修】 少なくとも学習指導要領pp. 43-48. を読んでおくこと。 【事後学修】 「動植物の飼育・栽培」「生活や出来事の伝え合い」の学習の意義を整理する。</p>
第11回	<p>「自分自身の生活や成長に関する内容」について 生活科の内容「自分の成長」について、そのねらいを理解する。 【事前学修】 少なくとも学習指導要領pp. 43-48. を読んでおくこと。 【事後学修】 「自分の成長」の学習の意義を整理する。</p>
第12回	<p>生活科教材研究の実際① 動くおもちゃを作成する。 【事前学修】 おもちゃづくりのための材料を用意しておく。 【事後学修】 自分の思いを実現するために、不足していた材料を検討しておく。</p>
第13回	<p>生活科教材研究の実際② 動くおもちゃを完成させ、実際に遊ぶ。 【事前学修】 さらに必要な材料を用意しておく。 【事後学修】 遊び方の工夫を検討しておく。</p>
第14回	<p>生活科教材研究の実際③ おもちゃの動き、遊び方のルールなどの工夫について話し合う。 【事前学修】 他の人に遊んでもらうための工夫を考えておく。 【事後学修】 生活科におけるおもちゃづくりのあり方について、自分の考えを整理する。</p>
第15回	<p>まとめ 「生活科」のついてまとめる。 【事前学修】 今までの学習を振り返り、生活科の目標について具体例をもって理解を深めておく。 【事後学修】 子どもにとっての生活科の意義について、まとめをする。</p>
	<p>定期試験</p>

講義科目名称： 家庭

授業コード： 52210400

英文科目名称： Home Economics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	2・3	2	選択
担当教員			
中嶋 たや			
開講曜限	授業形態		
土2、3	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■子ども教育学科■</p> <p>■1-2 教育・保育に関する基本的な内容や歴史的変遷、制度などについての専門的知識を有している</p> <p>■2-1 初等教育の教科等の内容に関する専門的知識を有し、教材の内容について分析・解釈し、適切な教材の準備を行うことや、場面に応じた適切な指導方法を工夫することができる</p>
---------	---

科目の概要・目的	自身の生活について振り返ると共に、衣食住の生活と地域社会との関わり、現代社会の課題である持続可能な社会の実現に向けて
学習到達目標	1. 家庭科の教科としての特性を理解し、小学生につけさせるべき力は何かを考える。 2. 家族・家庭生活、衣食住の生活、消費生活・環境に関する基礎的・基本的事項について理解し、実践する力をつける。 3. 持続可能な社会の実現に向けての目標と生活の関連を理解し、小学生に指導する力をつける。
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 グループディスカッション、プレゼンテーションなど</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 発表時には、ICTを活用してプレゼンテーションなどを行う</p> <p>【その他特記事項】 特になし</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】 定期試験（筆記）、レポート、製作物の提出</p> <p>【割合】 定期試験（筆記）50%、レポート30%、製作物20%</p>
教科書・テキスト	対話で学ぶ 家庭科の授業 伊深 祥子著(大学図書出版)
参考書	小学校家庭科教科書 「新編 新しい家庭科」(東京書籍)
授業時間外の学修について(事前・事後学習について)	指示された内容を事前事後に学習し、小学校家庭科について理解を深める。 家庭科は生活全般を学習対象とするため、自身の生活を批判的に見つめ、課題とすることは何かについて日常的に考える。
履修上の留意事項	自身の生活、自分自身と向き合うこと。
オフィスアワー	授業終了後
課題に対するフィードバックの方法	レポートへのコメント、発表についての講評及び助言問う
実務経験	奈良教育大学附属中学校教諭 奈良教育大学学内非常勤講師
その他	特になし

授業の内容	<p>第1回 オリエンテーション 授業の進め方、成績評価について知る。 【事前学修】テキストを一読しておくこと。 【事後学修】今後この授業で学びたいことについてまとめる。</p> <p>第2回 家庭科ってどんな教科？ 自身が今まで学んだ家庭科の学習内容を振り返り、家庭科で学習すべきとは何かを考える。 【事前学修】自身の小・中・高校での家庭科の学習内容を振り返っておく。 【事後学修】仲間とのディスカッション、授業内容を元に自分の考えをまとめる。</p> <p>第3回 家庭科の特徴を学ぶ 生活を学ぶ家庭科は5教科と違う学び方をする。なぜそのような学び方をするかについて考える。 【事前学修】テキスト第2章に目を通しておく。 【事後学修】資料を読んで考えた事を交流することで分かったことをまとめておく。</p>
-------	---

第4回	<p>教科書を紹介する 教科書に目を通して、自分が興味を持ったページを紹介する。また、なぜそのページを選んだのか理由を紹介する。 【事前学修】家庭科教科書に目を通して、自分が興味を持ったページを決める。理由についても考えておく。 【事後学修】教科書を紹介し合って学んだことをまとめる。</p>
第5回	<p>家庭科の歴史を学ぶ 家庭科にはどんな歴史があり、何を学んできたのかを知ることで、これからの家庭科の学びについて考える 【事前学修】テキストを読んで、家庭科の授業の歴史について理解する。 【事後学修】仲間と考えを交流することで、今後の家庭科はどうあるべきかについて考えた事をまとめる。</p>
第6回	<p>学習指導要領A「家族・家庭生活」について学ぶ。 家族や家庭生活について考え、家族の一員としての自覚を育てるために必要なことを考える。 【事前学修】教科書を読み、家庭内の仕事について考える。 【事後学修】家族の一員としての役割について考えをまとめる。</p>
第7回	<p>学習指導要領B「衣食住の生活」について学ぶ 衣生活① 基本的な縫い方について学び、技術を習得する。 【事前学修】教科書を読んで、小学生に教えるべき、基本的な縫い方を理解する。 【事後学修】基本的な縫い方を習得する。</p>
第8回	<p>学習指導要領B「衣食住の生活」について学ぶ 衣生活② 快適に過ごすための衣服の着方や手入れについて学ぶ。 【事前学修】洗濯について理解する。 【事後学修】洗濯についての実践をまとめる。</p>
第9回	<p>学習指導要領B「衣食住の生活」について学ぶ 食生活① 小学生の時期の栄養について考える 【事前学修】教科書の食生活についての記述を読んでおく。 【事後学修】バランスの良い食生活について考える。</p>
第10回	<p>学習指導要領B「衣食住の生活」について学ぶ 食生活② だしを取ってみそ汁を作る実習を行うときに留意すべきことについて考える。 【事前学修】みそ汁を作って、作り方のそのレシピと小学生に指導するときに留意すべきことをまとめたレポートを作成する。 【事後学修】仲間と交流したことをもとに、みそ汁の調理実習で押さえるべきことについてまとめる。</p>
第11回	<p>学習指導要領B「衣食住の生活」について学ぶ 住生活① いろいろな住まいについてジグソー法で学ぶ 【事前学修】テキストに示されているA～Dの特徴的な住まいについて資料から学んでおく。 【事後学修】授業の中でジグソー法で学んだことによって分かったこと、子ども達に付けることが出来る力は何かについて考える。</p>
第12回	<p>学習指導要領B「衣食住の生活」について学ぶ 住生活② 過ごしやすい住まいの条件について考える 【事前学修】日常生活について振り返ることで、過ごしやすい住まいの条件を考える。 【事後学修】教科書の記述も含めて小学生に押さえるべきとは何かを考える。</p>
第13回	<p>学習指導要領C「消費生活と環境」について学ぶ① 生活を支える消費生活について考える 【事前学修】生活を支える物・サービスとお金野関係について考えをまとめる。 【事後学修】小学生の消費生活について指導すべきことを考える。</p>
第14回	<p>学習指導要領C「消費生活と環境」について学ぶ② 持続可能な消費生活について小学生に指導すべきことを考える。 【事前学修】SDGsの行動目12「つくる責任使う責任」と自分の消費生活について考える。 【事後学修】小学生の消費生活における課題と解決方法を考える。</p>
第15回	<p>まとめと総括 現代生活における課題とそこに働きかけるための小学生に何を指導すべきかを考える。 【事前学修】現在の自分の生活で課題となっていることは何かについて考える。 【事後学修】小学校家庭科で指導すべきことについてまとめる。</p>
	定期試験

講義科目名称： 初等教科教育法（国語）

授業コード： 52210900

英文科目名称： Education Methodology (Japanese) of Elementary

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	2・3	2	選択
担当教員			
山口 妙子			
開講曜限	授業形態		
木4	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■子ども教育学科■</p> <p>■2-1 初等教育の教科等の内容に関する専門的知識を有し、教材の内容について分析・解釈し、適切な教材の準備を行うことや、場面に応じた適切な指導方法を工夫することができる</p> <p>■4-1 初等教育・保育・子ども福祉における職務内容と役割を理解し、子どもと関わる専門的職業人としての強い使命感を有している</p>
科目の概要・目的	小学校教員として国語を指導するうえで、必要な知識や技能を身につけるとともに、具体的な教材研究をおとして、国語科の教科の本質をふまえた教材研究と発問について理解し、授業記録の検討等をおとして、実際の授業のあり方について実践的に理解することを目的とする。
学習到達目標	国語科、とりわけ文学、説明文についての教材研究の仕方について理解でき、国語科の実際の指導の方法や技術を習得できる。
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 アクティブラーニングを取り入れつつ、一斉講義を基本とする。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 対面授業が行えない場合、ICTを利用した双方向の授業を行うことも、検討する。</p> <p>【その他特記事項】 特になし</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】 授業中のとりくみ、その都度の講義のまとめ 定期試験（授業内試験）（レポート）</p> <p>【割合】 授業中のとりくみ、その都度の講義のまとめ（30%） 定期試験（授業内試験）（レポート）（70%）</p>
教科書・テキスト	とくにテキストは使用しない。授業に必要なプリント資料は随時配布する。
参考書	小学校学習指導要領解説 国語編
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	授業の復習をおこなうとともに、授業中に指示した必要な事項について、前もって考えておく。
履修上の留意事項	授業ごとに、学習のまとめや感想を書いてもらう予定なので、その構えで履修すること。
オフィスアワー	授業時間の後に控室で
課題に対するフィードバックの方法	授業のまとめに見られる学生たちの問題意識に着目し、交流をおとしてフィードバックする
実務経験	小学校教諭
その他	特になし
授業の内容	<p>第1回 オリエンテーション 初等教科教育法国語で学んでほしいこと等 【事前学修】 シラバスを確認する 【事後学修】 授業後に小レポートを作成し、提出する</p> <p>第2回 国語科で子どもたちに身につけさせたい力とは 認識の力を育てる－文学の場合・説明文の場合 【事前学修】 オリエンテーションで学んだことを生かし、授業で扱うテーマを参照し、予習する 【事後学修】 授業後に小レポートを作成し、提出する</p> <p>第3回 文学で子どもたちに身につけさせたい力とは 低・中・高学年の認識の内容と方法 【事前学修】 国語科で子どもたちに身につけさせたい力をふまえ、授業で扱うテーマを参照し、予習する 【事後学修】 授業後に小レポートを作成し、提出する</p> <p>第4回 文学でどのような教材を選択すればよいか 教材とは何か・作品分析と教材研究の区別と関連 【事前学修】 文学で子どもたちに身につけさせたい力をふまえ、授業で扱うテーマを参照し、予</p>

	習する 【事後学修】授業後に小レポートを作成し、提出する
第5回	文学の教材研究をどうするか① 〈1〉文学教材を使って教材分析をおこなう 【事前学修】第4回講義で扱った教材を読み、自分ならどのような教材分析をおこなうか予習する 【事後学修】授業後に小レポートを作成し、提出する
第6回	文学の教材研究をどうするか② 〈2〉文学教材を使って教材分析をおこなう 【事前学修】第5回講義で学んだことを生かし、予習でさらに深める 【事後学修】授業後に小レポートを作成し、提出する
第7回	文学の教材研究をどうするか③ 文学教材の分析を交流する 【事前学修】第6回講義で学んだことを生かし、予習でさらに深める 【事後学修】授業後に小レポートを作成し、提出する
第8回	文学の教材研究をどうするか④ 文学教材の教材観を書く 【事前学修】第5回から第7回まででおこなった教材分析を生かし、教材観のあらましについて予習する 【事後学修】授業後に小レポートを作成し、提出する
第9回	国語科学習指導案の書き方 学習指導案を書くうえで留意すべきこと・学習指導案と授業のあり方 【事前学修】第9回講義で学んだ教材観を生かし、学習指導案のあらましについて予習する 【事後学修】授業後に小レポートを作成し、提出する
第10回	説明文で子どもたちに身につけさせたい力とは どのような教材を選択すればよいか 【事前学修】第2回講義で学んだ説明文でどのような力を身につけさせるのかを生かし、予習する 【事後学修】授業後に小レポートを作成し、提出する
第11回	説明文の教材研究をどうするか① 〈1〉説明文を使って教材分析をおこなう 【事前学修】第11回講義で学んだ教材選択の観点を生かし、教材分析のあらましについて予習する 【事後学修】授業後に小レポートを作成し、提出する
第12回	説明文の教材研究をどうするか② 〈2〉説明文を使ってグループで教材分析をおこなう 【事前学修】第11回講義でおこなった教材分析を生かし、討論に備えて自分なりの考えをまとめておく 【事後学修】授業後に小レポートを作成し、提出する
第13回	説明文の教材研究をどうするか③ 〈3〉説明文を使ってグループで教材分析をおこなう 【事前学修】第12回講義でおこなった教材分析を生かし、討論に備えて自分なりの考えをまとめておく 【事後学修】授業後に小レポートを作成し、提出する
第14回	説明文の教材研究をどうするか④ 教材分析を交流し、深める 【事前学修】第13回講義でのグループ討論で深めたことを想起し、授業で扱うテーマを参照し、予習する 【事後学修】授業後に小レポートを作成し、提出する
第15回	全体のまとめ・レポートテスト 授業内定期試験（レポート） 【事前学修】これまでの講義全体を振り返り、レポートテストに備える 【事後学修】レポートテストを振り返る

講義科目名称： 初等教科教育法（社会）

授業コード： 52211000

英文科目名称： Education Methodology (Society) of Elementary

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	3	2	選択
担当教員			
服部 太			
開講曜限	授業形態		
火2	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■子ども教育学科■</p> <p>■2-1 初等教育の教科等の内容に関する専門的知識を有し、教材の内容について分析・解釈し、適切な教材の準備を行うことや、場面に応じた適切な指導方法を工夫することができる</p> <p>■4-1 初等教育・保育・子ども福祉における職務内容と役割を理解し、子どもと関わる専門的職業人としての強い使命感を有している</p>
---------	--

科目の概要・目的	社会科授業づくりに必要な教材研究の方法について検討する。また、教材開発と模擬授業を通して、問題解決的な学習、価値判断的な学習を取り入れた社会科授業づくりの基礎・基本を習得する。
----------	--

学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決的な学習、価値判断的な学習をふまえ、学習指導案が作成できる。 ・社会科授業で用いる資料を精選し、模擬授業を実践できる。 ・模擬授業後の検討において、実践に基づいた発言内容で協議に参加できる。
--------	--

授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「第4回～第7回」においては積極的にグループ学習を取り入れ、各自が準備してきた教材、資料等を生かせるようにする。 ・「第8回～第13回」においては検討、吟味する時間を設定し、対話的な学びとなるよう留意する。 <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <p>社会科授業に関する情報活用能力の育成を図るため、ICTを活用する。また、各種の統計資料や新聞、視聴覚教材や教育機器などの教材、教具の適切な活用を図る。</p> <p>【その他特記事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人で指導案を作成し、模擬授業を行う。 ・解説のみならず、創意工夫を生かした教材研究や模擬授業の実践を通して興味・関心を高め、学習到達目標の達成をめざす。
-------	---

成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内課題（模擬授業、レポート、ノートなど）、定期試験（レポート） ・指導案の作成、模擬授業の実施は必須とする。 <p>【割合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内課題（模擬授業、レポート、ノートなど）40%、定期試験（レポート）60%
---------	---

教科書・テキスト	伊藤裕康編『社会科教育へのリバイバルへの途』学術図書、2022、2420円
----------	---------------------------------------

参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省） ・社会科教科書「小学社会5年」日本文教出版 ・その他、授業内において提示する。
-----	---

授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	<ul style="list-style-type: none"> ・担当する単元について、適切な教材研究をすること ・グループで協働しながら、学習指導案の作成をすること ・模擬授業の準備や練習を各自、実施すること
---------------------------	---

履修上の留意事項	・模擬授業のための教材研究に、多くの時間を必要とする。早めに、模擬授業の単元を決め、教材研究を各自進めること。
----------	---

オフィスアワー	・火曜日5コマ、研究室にて
---------	---------------

課題に対するフィードバックの方法	学期中の小レポートに関しては、授業中に全般的な解説を行う。
------------------	-------------------------------

実務経験	公立学校、附属学校勤務経験あり
------	-----------------

その他	・授業中の携帯電話、スマートフォン等の使用を禁止する（学生便覧、p.28）。
-----	--

授業の内容	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p> 社会科で習得する知識や問いの構造について知る。</p> <p> 問題解決的な学習、価値判断的な学習について知る。</p> <p> 【事前学修】 シラバスを事前に読み、質問事項を考えておく。</p> <p> 【事後学修】 テキストを読み、社会科における知識習得を復習する。</p> <p>第2回 小学社会5年上の教科書の教材研究をする。</p> <p> 知識や問いの構造をとらえる。</p> <p> 模擬授業のグループを決め、授業単元を絞る。</p> <p> ※教科書を読み、どの単元の模擬授業をしたいか考えておくこと</p>
-------	--

	<p>【事前学修】知識習得についての疑問点を考えておく。 【事後学修】テキストを読み、社会科における知識習得と問いの関係についてとらえる。</p> <p>第3回 社会科授業映像を視聴し、授業における発問を想起する。 グループで担当する単元の、何時間目の模擬授業を作成するのかを決める。 ※各自、一つ模擬授業を実践する。 ※役割(係)分担や今後のスケジュールを考えておくこと</p> <p>【事前学修】授業映像を視聴する視点を策定しておく。 【事後学修】模擬授業について、各自資料収集を進める。</p> <p>第4回 グループごとに、教材研究をする。 ※あわせて、家庭や近隣の図書館など学校外でも教材研究を進めること 【事前学修】各自、資料を持ち寄り、社会科授業づくりに活用する。 【事後学修】テキストを読み、社会科授業のイメージをつかんでおく。</p> <p>第5回 模擬授業用の学習指導案を作成する①。 ※各自が作成してきた学習指導案を持ち寄ること 【事前学修】主発問まで入れた社会科授業指導案を持ち寄る。 【事後学修】検討課題となったことがらを修正し、指導案作成を進める。</p> <p>第6回 模擬授業用の学習指導案を作成する②。 ※問題解決的な学習、価値判断的な学習を実現するためのポイントを想起しておくこと 【事前学修】指導案を完成させ、板書計画をイメージしておく。 【事後学修】板書計画を完成させ、発問計画を作成する。</p> <p>第7回 模擬授業用の学習指導案について、課題を検討・討議する。 ※板書計画や発問等にそって、授業の流れをイメージしておくこと 【事前学修】板書計画と発問計画を照らし合わせ、授業構成を確認しておく。 【事後学修】検討・討議より課題となった点を、板書計画と発問計画を中心に練り直す。</p> <p>第8回 模擬授業(国土グループによる模擬授業)と評価① ※気づいたことを記録したり、分析したりして、整理しておくこと 【事前学修】社会科模擬授業を参観する視点を策定しておく。 【事後学修】参観した社会科模擬授業に対して、代案を考えておく。</p> <p>第9回 模擬授業(食料生産グループ i による模擬授業)と評価② ※気づいたことを記録したり、分析したりして、整理しておくこと 【事前学修】社会科模擬授業を参観する視点を策定しておく。 【事後学修】参観した社会科模擬授業に対して、代案を考えておく。</p> <p>第10回 模擬授業(食料生産グループ ii による模擬授業)と評価③ ※気づいたことを記録したり、分析したりして、整理しておくこと 【事前学修】社会科模擬授業を参観する視点を策定しておく。 【事後学修】参観した社会科模擬授業に対して、代案を考えておく。</p> <p>第11回 模擬授業(工業生産グループによる模擬授業)と評価④ ※気づいたことを記録したり、分析したりして、整理しておくこと 【事前学修】社会科模擬授業を参観する視点を策定しておく。 【事後学修】参観した社会科模擬授業に対して、代案を考えておく。</p> <p>第12回 模擬授業(情報社会グループによる模擬授業)と評価⑤ ※気づいたことを記録したり、分析したりして、整理しておくこと 【事前学修】社会科模擬授業を参観する視点を策定しておく。 【事後学修】参観した社会科模擬授業に対して、代案を考えておく。</p> <p>第13回 模擬授業(環境グループによる模擬授業)と評価⑥ ※気づいたことを記録したり、分析したりして、整理しておくこと 【事前学修】社会科模擬授業を参観する視点を策定しておく。 【事後学修】参観した社会科模擬授業に対して、代案を考えておく。</p> <p>第14回 「問題解決的な学習、価値判断的な学習」を視点に、模擬授業を振り返る。この振り返りから、成果と課題を明確にする。 ※これまで(6回分)の模擬授業の成果と課題を整理しておくこと 【事前学修】今までの代案を整理し、社会科授業づくりに必要なことがらをノートに整理しておく。 【事後学修】テキストの社会科授業と、模擬授業を照らし合わせ、課題点を抽出する。</p> <p>第15回 講義のまとめ 「問題解決的な学習、価値判断的な学習」について協議し、整理する。 ※教壇に立ったとき、どのような社会科授業を実践するのか、発表できるようにしておくこと 【事前学修】ノート、テキストを読み返して、社会科授業における問題解決的な学習について確認しておく。 【事後学修】多様な社会科授業実践をとおして、自分めがず社会科授業について整理する。</p> <p>定期試験 ノート、模擬授業、テキストを中心に振り返りをしておく。</p>
--	--

講義科目名称： 初等教科教育法（算数）

授業コード： 52211100

英文科目名称： Education Methodology (Arithmetic) of Elementary

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	3	2	選択
担当教員			
中川 一彦			
開講曜限	授業形態		
火1	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■子ども教育学科■</p> <p>■2-1 初等教育の教科等の内容に関する専門的知識を有し、教材の内容について分析・解釈し、適切な教材の準備を行うことや、場面に応じた適切な指導方法を工夫することができる</p> <p>■4-1 初等教育・保育・子ども福祉における職務内容と役割を理解し、子どもと関わる専門的職業人としての強い使命感を有している</p>
---------	--

科目の概要・目的	この授業では、算数科の授業を実践するために必要となる学習指導案の書き方について講義し、作成できるようにする。また、授業プランの実現化を図るために、ひとりひとりが模擬授業を実践する場を設定し、受講者自身の算数教育における授業力や実践力の向上を図る。ひとりで考える場、グループで話し合う場を設定し、算数の授業を自らつくり実践できる教員としての力量形成をめざす。
----------	--

学習到達目標	算数科学習指導案の書き方および算数教育の授業実践に関する基本的な知識や理論を獲得する。具体的には次のような目標を満たすことが期待される。 ①【知識・技能】学習指導案の書き方及び算数の授業のつくり方について理解するとともに、算数の授業づくりに取り組むことができる。 ②【思考・判断・表現】算数の授業のつくり方について考え、学習指導案や板書計画に表す。 ③【主体的に学習に取り組む態度】小学校算数教育に関心をもち、進んで算数の授業づくりに取り組もうとする。
--------	---

授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 第1回～第15回全てにおいて、設定された課題に対して自分で考え、他者と意見交流し、課題解決に向けた活動を行う。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 デジタル教科書作成ツールを利用した授業展開を図る。</p> <p>【その他特記事項】 基本的には、小学校算数教育で行われている一般的な授業の流れ 「1. 復習（確認テスト）→2. 課題提示→3. ひとりで課題解決→4. 他者と意見交流→5. 振り返り」で授業を進める。また、プレゼンテーションソフトを活用して、授業を進行する。</p>
-------	---

成績評価の方法	<p>【評価項目】【割合】</p> <p>平常点(30%) 算数科学習指導案の作成および考察(40%) 板書計画の作成および模擬授業の実践(30%)</p>
---------	--

教科書・テキスト	<p>テキスト①文部科学省『小学校学習指導要領解説算数編』日本文教出版, 2018 テキスト②中川一彦『子どもの算数・数学の力と教員の指導力を高める算数・数学実践的指導法』由学舎, 2014</p>
----------	---

参考書	特になし
-----	------

授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	毎回、授業の初めに前回の授業についての確認テストを行うので、復習をしておくこと。その回の授業中に仕上がらなかった分を課題として取り組むこと。
---------------------------	--

履修上の留意事項	大学ノートを一冊(B5)用意しておくこと。
----------	-----------------------

オフィスアワー	授業後に講師控え室にて。または、Eメールで行う。
---------	--------------------------

課題に対するフィードバックの方法	毎回実施する「確認テスト」については、コメントなどを記入した後、その次の回にて返却する。第15回目の授業において、模擬授業の実践についてのフィードバックを行う。
------------------	--

実務経験	小学校教諭
------	-------

その他	テキスト②については、第1回目の授業において別途案内する。
-----	-------------------------------

授業の内容	<p>第1回 授業内容・方法に関するオリエンテーション</p> <p>■内 容：実際の授業の様子を観察・体験し、算数教育の本質について考察する。 【事前学修】授業内で配布された資料をよく読むとともに、テキスト①でその資料に関係する部分を読み、自身が担当する単元の内容について捉えておくこと。 【事後学修】授業を振り返る感想をノートにまとめ、次時の確認テストに臨めるようにしておくこと。</p> <p>第2回 算数科学習指導案の内容についての解説</p> <p>■内 容：授業づくりを行う上で必要となる算数科学習指導案を構造的に捉える。 【事前学修】テキスト②のP90～P93を読み、算数科学習指導案の構造について捉えておくこと。 【事後学修】授業を振り返る感想をノートにまとめ、次時の確認テストに臨めるようにしておくこと。</p>
-------	---

第3回	<p>こと。</p> <p>算数科学習指導案〔児童観・教材観・指導観〕の書き方の解説</p> <p>■内 容：授業づくりのもととなる学習指導案の「児童観」「教材観」「指導観」の意味及び書き方について理解する。</p> <p>【事前学修】テキスト②のP93～P96を読み、児童観・教材観・指導観の書き方について捉えておくこと。</p> <p>【事後学修】授業を振り返る感想をノートにまとめ、次時の確認テストに臨めるようにしておくこと。</p>
第4回	<p>算数科学習指導案〔児童観・教材観・指導観〕の作成と相互批評</p> <p>■内 容：自身が実践する授業の学習指導案における「児童観」「教材観」「指導観」について作成する。</p> <p>【事前学修】テキスト②のP93～P96を読み、自身がつくる授業について児童観・教材観・指導観を考えておくこと。</p> <p>【事後学修】授業内で出来上がらなかった分を仕上げると共に、授業を振り返る感想をノートにまとめ、次時の確認テストに臨めるようにしておくこと。</p>
第5回	<p>算数科学習指導案〔指導計画〕の書き方の解説と作成</p> <p>■内 容：学習指導案の「指導計画」の意味及び書き方について理解する。</p> <p>【事前学修】テキスト②のP97～P99を読み、単元目標及び指導計画の書き方について捉えておくこと。</p> <p>【事後学修】授業内で出来上がらなかった分を仕上げると共に、授業を振り返る感想をノートにまとめ、次時の確認テストに臨めるようにしておくこと。</p>
第6回	<p>板書計画による算数の授業プランづくりについての解説</p> <p>■内 容：授業のつくり方について理解するとともに、自身が実践する授業のイメージ化を図る。</p> <p>【事前学修】テキスト②のP13～P24を読み、算数の授業のつくり方について捉えておくこと。</p> <p>【事後学修】授業内で出来上がらなかった分を仕上げると共に、授業を振り返る感想をノートにまとめ、次時の確認テストに臨めるようにしておくこと。</p>
第7回	<p>算数科学習指導案〔本時案〕の書き方の解説</p> <p>■内 容：学習指導案の「本時の目標」及び「本時の展開」の書き方について理解する。</p> <p>【事前学修】テキスト②のP100～P102を読み、本時の目標及び本時の展開の書き方について捉えておくこと。</p> <p>【事後学修】授業を振り返る感想をノートにまとめ、次時の確認テストに臨めるようにしておくこと。</p>
第8回	<p>算数科学習指導案〔本時案〕の作成と相互批評</p> <p>■内 容：自身が実践する授業の学習指導案における「本時の目標」と「本時の展開」について作成する。</p> <p>【事前学修】テキスト②のP100～P102を読み、自身がつくる授業について本時の目標及び展開について考えておくこと。</p> <p>【事後学修】学習指導案を完成させると共に、授業を振り返る感想をノートにまとめ、次時の確認テストに臨めるようにしておくこと。</p>
第9回	<p>板書の作成と相互批評</p> <p>■内 容：模造紙を黒板に見立て、第6回で考えた板書計画を模造紙に書く。</p> <p>第6回で作成した板書計画を、この時間までに完成させておくこと。</p> <p>授業終了後、授業を振り返る感想をノートにまとめ、次時の確認テストに臨めるようにしておくこと。</p> <p>【事前学修】第6回で学修した板書計画を完成させておくこと。</p> <p>【事後学修】授業内で出来上がらなかった分を仕上げると共に、授業を振り返る感想をノートにまとめ、次時の確認テストに臨めるようにしておくこと。</p>
第10回	<p>授業討議会の行い方についての解説</p> <p>■内 容：実際の授業の様子を観察・体験し、授業討議会の意義や行い方について考察する。</p> <p>【事前学修】テキスト①のP252(エ)円周率の部分を読み、5年の円周率の学習のねらいなどについて捉えておくこと。</p> <p>【事後学修】授業を振り返る感想をノートにまとめ、次時の確認テストに臨めるようにしておくこと。</p>
第11回	<p>模擬授業の実践と授業討議会による授業の相互批評Ⅰ</p> <p>■内 容：作成した授業プランをもとにして模擬授業及び授業討議会を行う。(A数と計算)</p> <p>【事前学修】テキスト①のP42～P49を読み、「A数と計算」領域のねらいなどについて捉えておくこと。</p> <p>【事後学修】授業を振り返る感想をノートにまとめ、次時の確認テストに臨めるようにしておくこと。</p>
第12回	<p>模擬授業の実践と授業討議会による授業の相互批評Ⅱ</p> <p>■内 容：作成した授業プランをもとにして模擬授業及び授業討議会を行う。(B図形)</p> <p>【事前学修】テキスト①のP50～P56を読み、「B図形」領域のねらいなどについて捉えておくこと。</p> <p>【事後学修】授業を振り返る感想をノートにまとめ、次時の確認テストに臨めるようにしておくこと。</p>
第13回	<p>模擬授業の実践と授業討議会による授業の相互批評Ⅲ</p> <p>■内 容：作成した授業プランをもとにして模擬授業及び授業討議会を行う。(C測定・C変化と関係)</p> <p>【事前学修】テキスト①のP56～P66を読み、「C測定・C変化と関係」領域のねらいなどについて捉えておくこと。</p> <p>【事後学修】授業を振り返る感想をノートにまとめ、次時の確認テストに臨めるようにしておくこと。</p>
第14回	<p>模擬授業の実践と授業討議会による授業の相互批評Ⅳ</p> <p>■内 容：作成した授業プランをもとにして模擬授業及び授業討議会を行う。(Dデータの活用)</p> <p>【事前学修】テキスト①のP66～P71を読み、「Dデータの活用」領域のねらいなどについて捉えておくこと。</p> <p>【事後学修】授業を振り返る感想をノートにまとめ、次時の確認テストに臨めるようにしておくこと。</p>

	<p>こと。</p> <p>第15回 授業プランの省察</p> <p>■内容：自身が計画した授業プランと実践をふり返る。</p> <p>【事前学修】 これまでの授業ノートを見直し、自身が学んできたことについて捉えておく。</p> <p>【事後学修】 自身の授業づくり・実践についてまとめ、提出用レポートの準備を図り、作成に臨むこと。</p>
--	--

講義科目名称： 初等教科教育法（音楽）

授業コード： 52211400

英文科目名称： Education Methodology (Music) of Elementary

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	3	2	選択
担当教員			
桐山 由香			
開講曜限	授業形態		
金1	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■子ども教育学科■</p> <p>■2-1 初等教育の教科等の内容に関する専門的知識を有し、教材の内容について分析・解釈し、適切な教材の準備を行うことや、場面に応じた適切な指導方法を工夫することができる</p> <p>■4-1 初等教育・保育・子ども福祉における職務内容と役割を理解し、子どもと関わる専門的職業人としての強い使命感を有している</p>
---------	--

科目の概要・目的	<p>小学校音楽科における教育目標や育成すべき資質・能力について理解し、音楽の演奏技能や専門的知識の修得を目的とする。</p> <p>そのために、小学校音楽科学習指導要領における各領域について理解し、学年に応じた教材研究を実施する。</p> <p>また、実践につながる力を身につけるために、小学校音楽科の授業設計や授業方法などを修得し、模擬授業やその振り返りを実施する。</p>
学習到達目標	<p>「小学校学習指導要領(音楽)」の内容を理解できるようになる。</p> <p>各学年のねらいに応じた授業計画を立案することができるようになる。</p> <p>模擬授業を実施し振り返りにより改善することができるようになる。</p>
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンサンブルや小グループでの指導案作成及び模擬授業の実施。 <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書を使用した授業。 ・リモート授業を実施する場合は、ZoomやA-portalを使用する。 <p>【その他特記事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容に応じて複数教室に分かれ、各自の課題に取り組む。
成績評価の方法	<p>【評価項目・割合】</p> <p>授業への取り組み 30%、模擬授業 40%、指導案・レポート 30%</p>
教科書・テキスト	<p>「小学校学習指導要領解説 音楽編」 文部科学省</p> <p>「最新 初等科音楽教育法」 音楽之友社</p> <p>小学音楽「音楽のおくりもの」1～6 教育出版</p> <p>ソプラノリコーダー（ジャーマン式、バロック式のどちらでもよい）</p>
参考書	適宜、授業中に指示する。
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	<p>事前学修では、前時のふりかえりを行うこと。</p> <p>事後学修では、本時の復習を行うこと。</p>
履修上の留意事項	<p>毎時の課題について、事後学修でしっかりと取り組むこと。</p> <p>課題は毎時必ず提出すること。</p>
オフィスアワー	水曜日5限
課題に対するフィードバックの方法	リフレクションシートの記入により、毎回の振り返りを実施する。
実務経験	<p>小学校教諭</p> <p>中学校 音楽科講師</p> <p>高等学校 音楽科講師</p>
その他	特になし
授業の内容	<p>第1回 オリエンテーション、小学校学習指導要領(音楽)について 授業の概要の説明、小学校学習指導要領(音楽)の内容について学習する。 【事前学修】前年度までの授業のふりかえりを行う。 【事後学修】本時の内容を復習し、課題レポートを作成する。</p> <p>第2回 表現領域について(1) 小学校第1学年の歌唱、器楽、音楽づくり 小学校第1学年の表現領域について学習する。 【事前学修】前時のふりかえりを行う。 【事後学修】本時の内容を復習し、課題レポートを作成する。</p> <p>第3回 表現領域について(2) 小学校第2学年の歌唱、器楽、音楽づくり 小学校第2学年の表現領域について学習する。 【事前学修】前時のふりかえりを行う。 【事後学修】本時の内容を復習し、課題レポートを作成する。</p>

第4回	表現領域について(3) 小学校第3学年の歌唱、器楽、音楽づくり 小学校第3学年の表現領域について学習する。 【事前学修】前時のふりかえりを行う。 【事後学修】本時の内容を復習し、課題レポートを作成する。
第5回	表現領域について(4) 小学校第4学年の歌唱、器楽、音楽づくり 小学校第4学年の表現領域について学習する。 【事前学修】前時のふりかえりを行う。 【事後学修】本時の内容を復習し、課題レポートを作成する。
第6回	表現領域について(5) 小学校第5学年の歌唱、器楽、音楽づくり 小学校第5学年の表現領域について学習する。 【事前学修】前時のふりかえりを行う。 【事後学修】本時の内容を復習し、課題レポートを作成する。
第7回	表現領域について(6) 小学校第6学年の歌唱、器楽、音楽づくり 小学校第6学年の表現領域について学習する。 【事前学修】前時のふりかえりを行う。 【事後学修】本時の内容を復習し、課題レポートを作成する。
第8回	鑑賞領域について(1) 低学年の鑑賞教材 低学年の鑑賞教材について学習する。 【事前学修】前時のふりかえりを行う。 【事後学修】本時の内容を復習し、課題レポートを作成する。
第9回	鑑賞領域について(2) 中学年の鑑賞教材 中学年の鑑賞教材について学習する。 【事前学修】前時のふりかえりを行う。 【事後学修】本時の内容を復習し、課題レポートを作成する。
第10回	鑑賞領域について(3) 高学年の鑑賞教材 高学年の鑑賞教材について学習する。 【事前学修】前時のふりかえりを行う。 【事後学修】本時の内容を復習し、課題レポートを作成する。
第11回	模擬授業(1) 歌唱 歌唱による活動を伴う模擬授業を行う。 【事前学修】前時のふりかえりを行う。歌唱による指導案を作成する。 【事後学修】本時の内容を復習し、指導案を修正する。
第12回	模擬授業(2) 器楽 器楽による活動を伴う模擬授業を行う。 【事前学修】前時のふりかえりを行う。器楽による指導案を作成する。 【事後学修】本時の内容を復習し、指導案を修正する。
第13回	模擬授業(3) 音楽づくり 音楽づくりによる活動を伴う模擬授業を行う。 【事前学修】前時のふりかえりを行う。音楽づくりによる指導案を作成する。 【事後学修】本時の内容を復習し、指導案を修正する。
第14回	模擬授業(4) 鑑賞 鑑賞による活動を伴う模擬授業を行う。 【事前学修】前時のふりかえりを行う。鑑賞による指導案を作成する。 【事後学修】本時の内容を復習し、指導案を修正する。課題レポートを作成する。
第15回	まとめとふりかえり 表現と観賞の領域についてふりかえりを行う。 【事前学修】前時のふりかえりを行う。 【事後学修】本授業で学修したことを復習し、実習に向けて準備をする。

講義科目名称： 初等教科教育法（図画工作）

授業コード： 52211500

英文科目名称： Education Methodology (Drawing & Picturing) of Elementary

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	3	2	選択
担当教員			
藤丸 一郎			
開講曜限	授業形態		
月1	講義		
添付ファイル			

DPとの関連	<p>■子ども教育学科■</p> <p>■2-1 初等教育の教科等の内容に関する専門的知識を有し、教材の内容について分析・解釈し、適切な教材の準備を行うことや、場面に応じた適切な指導方法を工夫することができる</p> <p>■4-1 初等教育・保育・子ども福祉における職務内容と役割を理解し、子どもと関わる専門的職業人としての強い使命感を有している</p>
--------	--

科目の概要・目的	<ul style="list-style-type: none">・図画工作科で育成する資質や能力についての考察を行い、図画工作科の学習指導要領の内容と構成について理解説明する。・模擬授業の計画・準備・実行と事後の検討交流を通して、指導法の理解と実践力を養う。・図画工作科の題材研究と授業計画の作成を通して、子どもにとって魅力ある授業についての問題意識を高める。
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none">・教科内容と指導法への理解が深まり、授業を行うための正しい知識と基礎的な実践力が身につく。・学習指導案の作成と模擬授業・事後討議を通して、安全で楽しい指導の基礎が身につく。・図画工作科に対する興味・関心が高まり、子どもにとって魅力ある授業をつくりあげる姿勢ができる。
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <ul style="list-style-type: none">・グループワーク：課題検討・学習指導案の作成・教材研究・模擬授業をグループで協働実施。・ディスカッション：各模擬授業の後に改善のための討議をグループや全体で実施。・実習：材料用具の扱い、安全指導について実習体験し、学修内容の定着を図る。 <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <ul style="list-style-type: none">・PC、タブレット端末等により題材や作例を情報収集し、授業づくり検討に生かす。・プレゼンや映像資料を活用する模擬授業と発表交流で、機器活用の必要性を体感する。 <p>【その他特記事項】</p> <ul style="list-style-type: none">・特になし
成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <ol style="list-style-type: none">① レポート・・・・・・・・・・毎回の学習テーマのまとめと授業中のワークシートやミニ課題など② 学習指導案の作成・・・・・・・・グループ版学習指導案、個人版学習指導案③ 模擬授業の取り組み・・・・・・・・事後討議への参加姿勢、準備や板書の的確さ、導入のアイデア、展開や机間指導の工夫など④ 最終レポート・・・・・・・・図画工作科で育つ力や指導のポイントについて、学修を踏まえて記述 <p>【割合】</p> <p>① 40% ② 30% ③ 20% ④ 10%</p>
教科書・テキスト	「小学校学習指導要領解説 図画工作編」 文部科学省 その他、必要に応じてプリント配布します。
参考書	『子どもの資質・能力を育む図画工作科指導法』新野貴則・福岡知子編著 萌文書林 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【小学校 図画工作】』国立教育政策研究所教育課程研究センター 東洋館出版
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	日頃から図画工作やアート作品に関心を持ち、自分が出会う様々なものに対して「教材として応用できないか」という意識をもつことを心がける。 (各回の事前・事後の学習については、「授業計画」の欄に掲載。)
履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none">・グループワークを多く取り入れるので、積極的に交流に参加するとともに、授業時間外に行う仕事分担にも各自責任を持って取り組むこと。・テーマや課題について、「教員の視点」と「児童の視点」の両面から考える姿勢を持つようにする。
オフィスアワー	質問や相談がある場合は、上欄の「連絡方法」を参考に声をかけ、日時などを相談すること。 必要に応じて、別途時間を設けて対応します。 少しでもわからないことなどがあれば、気軽に相談してください。
課題に対するフィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none">・課題や模擬授業・事後討議における共通の話題については、「授業の中で話題にする」「まとめのプリントにする」などの方法で説明を行う。・小レポート等については、必要に応じて共通に解説又はコメントをつけて返却する。
実務経験	国公立小学校（教諭・教頭・副校長・校長）、公立中学校（美術科教諭） 経験を生かして、図画工作・美術教育に関わる学校現場の現状と課題、保幼小中の連携、作品や活動の映像などの情報を取り入れ、具体的なイメージを持って学修が進められるように心がけます。
その他	グループワークを中心に進めるため、「座席指定」で行います。必ず決められた場所に着席してください。

授業の内容	<p>第1回 オリエンテーション及び「図画工作科」で育む資質・能力についての考察 ・授業の確認(目標・全体の構成・進め方・約束など)とグループの編成。 ・教科で育成する資質・能力について自分なりに考え、更にグループで考察する。 【事前学修】自分の体験してきた図画工作の授業を振り返り、印象の残っていることを想起しておく。(良い事、悪い事、活動内容、作品など) 【事後学修】「図画工作科で育つ力は何か」について自分なりに考察する。(小レポート)</p> <p>第2回 学習指導要領における「図画工作科」についての考察 ・学習指導要領(図画工作科)の構造、目標や教科における学びについて考える。 【事前学修】テキストP9～19「第2章 第1節 図画工作科の目標」を読み、概要を理解する。 【事後学修】「図画工作科の目標と内容の構成」について整理する。(小レポート)</p> <p>第3回 図画工作科の内容 1-1 「絵に表す活動」の考察 ・「絵に表す活動」の多様性について学び、題材をもとに指導と評価のあり方を考える。 【事前学修】テキストP27～30「第2章 第2節 絵や立体、工作に表す」を読み、(1)と(2)の違いを整理する。 【事後学修】私の考える「造形遊び」の授業について経験を踏まえて述べる。(小レポート)</p> <p>第4回 図画工作科の内容 1-2 「立体、工作に表す活動」の考察 ・「立体と工作」の違いや特性を学び、それぞれの題材をもとに指導と評価のあり方を考える。 【事前学修】立体と工作の違いを意識し、インターネット等を活用してそれぞれの指導例・作品例を集めておく。 【事後学修】「絵や立体、工作に表す活動」について、課題や学年による違いなど、学んだ内容をまとめる。(小レポート)</p> <p>第5回 図画工作科の内容 2 「造形遊びをする活動」の考察 ・「造形遊びをする活動」の特性について学び、題材をもとに指導と評価のあり方を考える。 【事前学修】テキストP26～27「第2章 第2節 造形遊びをする活動」を参考に内容を整理し、インターネットなどでその題材例を集める。 【事後学修】「造形遊びをする活動」について、学年による内容の違いや実施の現状と課題などを整理する。(小レポート)</p> <p>第6回 図画工作科の内容 3 「鑑賞する活動」の考察 ・A表現とB鑑賞の違いと価値について学び、鑑賞題材をもとに指導と評価のあり方を考える。 【事前学修】テキストP31～32「第2章 第2節 鑑賞する」を読み、「鑑賞する活動」の授業事例を収集する。 【事後学修】授業で実感した鑑賞する活動のよさを基に「鑑賞する活動」を考察する。(小レポート)</p> <p>第7回 楽しい授業づくりのポイント ・模擬授業の題材と実施順を決定する。 ・各グループの題材を元に授業づくりのポイントを考える。 【事前学修】テキストP104～112「第4章 指導計画の作成上の配慮事項」を読み、要点を理解する。 【事後学修】模擬授業を行う題材について、「題材の魅力と育成する力、指導の手立て」をまとめる。(ワークシート)</p> <p>第8回 学習指導案の作成 1 「題材設定・目標と評価」について ・学習指導案の基本的な様式及び「学習目標と評価」、指導について(児童観・題材観・指導観)の作成について学ぶ。 【事前学修】テキストP113～123「第4章 内容の取扱いと指導上の配慮事項」を読み、要点をまとめる。 【事後学修】模擬授業の題材について、グループで協力・分担して学習指導案(前半部)を作成する。(ワークシート)</p> <p>第9回 学習指導案の作成 2 「展開・板書等」について ・学習指導案の評価と本時の展開の設定について、板書の計画について学ぶ。 【事前学修】配布資料を参考に、評価規準・本時の展開を検討・作成してみる。 【事後学修】模擬授業の題材について、グループで協力・分担して学習指導案(後半部)を作成する。</p> <p>第10回 授業準備 1 「題材研究と細案の作成」について ・題材研究の結果を元に、グループで相談しながら模擬授業を行う部分の細案を作成する。 【事前学修】模擬授業(本時の展開)に対応する板書計画(案)を作成する。 【事後学修】チームで取り組む模擬授業の細案を完成させる。</p> <p>第11回 授業準備 2 「材料・用具の扱いと環境設定」について ・材料と用具の基本的な扱いや環境設定の必要性を学び、安全管理を視野に入れた授業の準備を検討する。 【事前学修】細案をもとに模擬授業を行う部分を各自でシミュレーションし、最終の準備に備える。 【事後学修】変更部分を含めた授業のシミュレーションと準備物の点検をして模擬授業に備える。</p> <p>第12回 模擬授業 ①②「演習・事後検討」 ・グループ毎に模擬授業を行い、改善のための意見交流を通して学ぶ。 【事前学修】事前に模擬授業①②の指導案を読んで、自分ならどのような授業展開にするかを考える。その際、題材の領域や内容に対応した育む力や材料の特性についても確認しておく。 【事後学修】個々の模擬授業についての観察メモを記入すると同時に、模擬授業から学んだことをまとめる。(ワークシート)</p> <p>第13回 模擬授業 ③④「演習・事後検討」 ・前時の交流を生かして模擬授業を行い、改善のための意見交流を通して学ぶ。 【事前学修】事前に模擬授業③④の指導案を読んで、前時の学びを取り入れ自分ならどのような授業展開にするかを考える。その際、題材の領域や内容に対応した育む力や材料の特性、安全管理のポイントについても確認しておく。 【事後学修】個々の模擬授業についての観察メモを記入すると同時に、その模擬授業から学んだことをまとめる。(ワークシート)</p>
-------	---

	<p>第14回 模擬授業 ⑤⑥「演習・事後検討」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時の交流を生かして模擬授業を行い、改善のための意見交流を通して学ぶ。 【事前学修】事前に模擬授業⑤⑥の指導案を読んで、前時までの学びを取り入れ、自分ならどのような授業展開にするかを考える。その際、題材の領域や内容に対応した育む力や材料の特性、安全管理のポイントについても確認しておく。 【事後学修】個々の模擬授業についての観察メモを記入すると同時に、その模擬授業から学んだことをまとめる。(ワークシート) <p>第15回 模擬授業 ⑦⑧「演習・事後検討」と学修のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの交流を生かして模擬授業を行い、魅力的な授業に向けた意見交流を行う。 ・学修全体のまとめと質疑応答。 【事前学修】事前に模擬授業⑦⑧の指導案を読んで、これまでの学びを取り入れ、自分ならどのような授業展開にするかを考える。その際、題材の領域や内容に対応した育む力や材料の特性、安全管理のポイントについても確認しておく。 【事後学修】個々の模擬授業についての観察メモを記入すると同時に、その模擬授業から学んだことをまとめる。(ワークシート) 自グループの学習指導案を、授業を通した学びを生かして改善・修正し、個人版として完成させる。
--	--

講義科目名称： 初等教科教育法（体育）

授業コード： 52211700

英文科目名称： Education Methodology (Physical Education) of Elementary

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	3	2	選択
担当教員			
村田 トオル			
開講曜限	授業形態		
木4	講義		
添付ファイル			

DPとの関連	<p>■子ども教育学科■</p> <p>■2-1 初等教育の教科等の内容に関する専門的知識を有し、教材の内容について分析・解釈し、適切な教材の準備を行うことや、場面に応じた適切な指導方法を工夫することができる</p> <p>■4-1 初等教育・保育・子ども福祉における職務内容と役割を理解し、子どもと関わる専門的職業人としての強い使命感を有している</p>
--------	--

科目の概要・目的	この科目では体育科教育の目標や内容を学び、実際の授業事例と照らし合わせ追究しながら、将来、体育授業に携わる教員として必要となる基礎的実践力を培っていく。 また、実施にあたり、リスク管理や動くことが苦手な児童に対する配慮についても学ぶ。
学習到達目標	1. 小学校学習指導要領解説（体育編）に示される各学年の目標および各運動領域の内容ならびに指導計画の作成と内容の取扱いについて理解する。 2. 指導案づくりを通して、体育科固有の指導方法および個人に応じた指導のあり方を理解する。 3. 模擬授業を通して、体育科における個人の発達や特性に応じた指導方法を身につける。
授業の方法	【アクティブラーニングの取り入れ状況】 必要に応じてグループワーク等を行う。 【ICTを利用した双方向授業】 必要に応じて実施する。 【その他特記事項】 なし
成績評価の方法	【評価項目】 授業への参加態度40% 定期試験（筆記）50% 提出物（小レポートや指導案等）10%
教科書・テキスト	小学校学習指導要領解説体育編：文部科学省2017年
参考書	必要に応じて適宜プリントを配布する。
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	1. 小学校での体育授業の必要性について、自分の考えをまとめておくこと。 2. 中学年までの各種実技について、見本ができるようにしておくこと。 3. 保健領域における健康な生活について自らが実践しておくこと。
履修上の留意事項	・初回は教室で行うので、掲示板で確認すること。 ・2回目以降はリズム室で行うので、運動できる服装、シューズで履修すること。
オフィスアワー	金曜以外の昼休み
課題に対するフィードバックの方法	授業時間やオフィスアワーでの質疑応答などによる
実務経験	・スポーツ財団職員（局長補佐） ・健康運動指導士としての講師活動
その他	特になし

授業の内容	<p>1回目 体育科の目標について 単に体を育てるということではないことを学ぶ 【事前学修】体育とスポーツの違いについて調べておく 【事後学修】体育の存在意義についてまとめておく</p> <p>2回目 低学年で育てたい感覚と技能について 運動遊びを通じて身体感覚に気づく 【事前学修】現代の子どもの気になる点をまとめておく 【事後学修】体育授業でどう活かせるかまとめる</p> <p>3回目 器械体操の指導法① 鉄棒の指導法と補助について学ぶ 【事前学修】低学年までの鉄棒について調べておく 【事後学修】できる限り自主練習を行うこと</p> <p>4回目 器械体操の指導法② マットの指導法と補助について学ぶ 【事前学修】低学年までのマット運動について調べておく 【事後学修】できる限り自主練習を行うこと</p> <p>5回目 器械体操の指導法③</p>
-------	---

	<p>跳び箱、平均台 の指導法と補助について学ぶ 【事前学修】 低学年までの跳び箱について調べておく 【事後学修】 できる限り自主練習を行うこと</p>
6回目	<p>ボール運動（ネット型）の実技 ソフトバレーボールのゲーム進行について学ぶ 【事前学修】 練習法について調べておく 【事後学修】 練習法の展開をまとめておく</p>
7回目	<p>ボール運動（ネット型）の指導法 ソフトバレーボールの指導法について学ぶ 【事前学修】 ルールを調べておく 【事後学修】 ルールを理解させる方法についてまとめる</p>
8回目	<p>ボール運動（ゴール型）の実技 ポートボールのゲーム進行について学ぶ 【事前学修】 練習法について調べておく 【事後学修】 練習法の展開をまとめておく</p>
9回目	<p>ボール運動（ゴール型）の指導法 ポートボールの指導法について学ぶ 【事前学修】 ルールを調べておく 【事後学修】 ルールを理解させる方法についてまとめる</p>
10回目	<p>陸上運動の実技 リレーを教材として、基本動作を学ぶ 【事前学修】 ルールを調べておく 【事後学修】 ルールを理解させる方法についてまとめる</p>
11回目	<p>指導案の立案 グループごとに担当領域の指導案作成を行う 【事前学修】 教材研究をしておく 【事後学修】 指導案を仕上げる</p>
12回目	<p>模擬授業① グループごとに実施する 【事前学修】 どの役割にあたってもしっかり準備しておく 【事後学修】 アドバイスされた点をまとめる</p>
13回目	<p>模擬授業② グループごとに実施する 【事前学修】 どの役割にあたってもしっかり準備しておく 【事後学修】 アドバイスされた点をまとめる</p>
14回目	<p>模擬授業③ グループごとに実施する 【事前学修】 どの役割にあたってもしっかり準備しておく 【事後学修】 アドバイスされた点をまとめる</p>
15回目	<p>模擬授業の振り返りとまとめ 模擬授業の振り返りを行う 【事前学修】 他のグループの内容をまとめておく 【事後学修】 まとめた内容を実践できるようにする</p>
	<p>定期試験</p>

講義科目名称： 特別活動の指導

授業コード： 52211900

英文科目名称： Study of Special Activities

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	3	2	選択
担当教員			
佐藤 雄一郎			
開講曜限	授業形態		
火3	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■子ども教育学科■</p> <p>■2-1 初等教育の教科等の内容に関する専門的知識を有し、教材の内容について分析・解釈し、適切な教材の準備を行うことや、場面に応じた適切な指導方法を工夫することができる</p> <p>■4-2 子どもの権利を理解し、それを尊重して、公平かつ受容的・共感的な態度で子どもと関わることができる</p>
科目の概要・目的	教育課程における特別活動の意義、目標および内容、評価について説明を行ったうえで、実践事例を用いながら、学校における様々な構成の集団活動を指導する方法について考えていく。
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程における特別活動の意義、目標及び内容、評価について理解し、説明することができる。 ・学校における様々な構成の集団活動の指導方法について理解し、集団の課題に応じた実践構想を考えることができる。
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 毎回の授業でグループワークおよびディスカッションを行う</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 オンラインでのアンケート実施や文書の共同作成を行う場合がある</p> <p>【その他特記事項】 なし</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】 毎回の課題提出、定期試験（レポート）</p> <p>【割合】 毎回の課題提出30点、定期試験（レポート）70点</p>
教科書・テキスト	植田一夫『学校ってボクらの力で変わるね』高文研、2021年
参考書	文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年3月告示）解説 特別活動編』東洋館出版、2018年 山本敏郎・藤井啓之・高橋英児・福田敦志『新しい時代の生活指導』有斐閣、2014年
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	事前学修は、毎回それぞれのテーマについて調べ、ノートにまとめてくること。 事後学修については、各回で指示する。
履修上の留意事項	積極的な意見表明、疑問、質問を期待しています。
オフィスアワー	事前連絡があれば、火曜日の昼休みに対応可能。
課題に対するフィードバックの方法	毎回提出を求める課題については、次回の授業でフィードバックを行う。
実務経験	特になし
その他	特になし
授業の内容	<p>第1回 オリエンテーション 授業概要を理解するとともに、本科目受講への課題意識を持つ。 【事前学修】これまで自分が経験した特別活動について、印象に残っている学習・活動をノートにまとめてくる 【事後学修】本科目での自分なりの目標をまとめる</p> <p>第2回 教育課程における特別活動の位置づけ 教育課程における特別活動の位置づけ、目標・内容について学ぶ 【事前学修】学習指導要領「特別活動」の部分を読んでくる 【事後学修】テキスト第1章を読む</p> <p>第3回 子どもの生きづらさと特別活動の実践的課題 子どもが抱える生きづらさ、子ども集団の課題、特別活動の実践的課題について学ぶ 【事前学修】今回のテーマについて調べ、ノートにまとめてくる 【事後学修】学級崩壊がなぜ起こるのかをまとめる</p> <p>第4回 学級活動の指導 学級活動における話し合い活動や合意形成の指導方法について学ぶ</p>

	<p>【事前学修】 今回のテーマについて調べ、ノートにまとめる 【事後学修】 1年間の学級活動のイメージをまとめる</p>
第5回	<p>集団づくりとは何か 学級集団づくりの考え方と方法について学ぶ 【事前学修】 今回のテーマについて調べ、ノートにまとめる 【事後学修】 テキスト第1章「水族館」実践の分析を書く</p>
第6回	<p>学校行事・児童会の指導 学校行事および児童会の指導方法について学ぶ 【事前学修】 今回のテーマについて調べ、ノートにまとめる 【事後学修】 学校行事の企画書を書く</p>
第7回	<p>テキスト第2章「行事の創造と児童総会の創設」を読む 提起されている内容について学ぶ 【事前学修】 テキスト第2章を読んでくる 【事後学修】 読みや学びが深まった点をまとめる</p>
第8回	<p>授業と学級づくり 学級づくりをベースとした授業方法、授業をとおした学級づくりについて学ぶ 【事前学修】 今回のテーマについて調べ、ノートにまとめる 【事後学修】 すべての子どもが参加し理解できる授業づくりについてまとめる</p>
第9回	<p>テキスト第3章「授業への子ども参加」を読む 提起されている内容について学ぶ 【事前学修】 テキスト第3章を読んでくる 【事後学修】 読みや学びが深まった点をまとめる</p>
第10回	<p>テキスト第4章「菜の花畑から見えてくる世界」を読む 提起されている内容について学ぶ 【事前学修】 テキスト第4章を読んでくる 【事後学修】 読みや学びが深まった点をまとめる</p>
第11回	<p>特別活動における「自治」の指導 学級生活、授業における「自治」とその指導方法について学ぶ 【事前学修】 今回のテーマについて調べ、ノートにまとめる 【事後学修】 それぞれの相手と連携するための方法についてまとめる</p>
第12回	<p>テキスト第5章「子どもの参加領域の拡大」を読む 子どもの参加領域の拡大について学ぶ 【事前学修】 テキスト第5章を読んでくる 【事後学修】 読みや学びが深まった点をまとめる</p>
第13回	<p>テキスト第6章「子どもの権利憲章が描く世界と道徳教育」を読む 提起されている内容について学ぶ 【事前学修】 テキスト第6章を読んでくる 【事後学修】 読みや学びが深まった点をまとめる</p>
第14回	<p>テキスト第7章「保護者の学校参加」を読む 提起されている内容について学ぶ 【事前学修】 テキスト第7章を読んでくる 【事後学修】 読みや学びが深まった点をまとめる</p>
第15回	<p>まとめ まとめ 【事前学修】 第1～14回で学んだ内容についてノートにまとめる 【事後学修】 レポート作成に備えて、自分なりに追加調査を行う</p>
定期試験	(レポート)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	3	1	選択
担当教員			
黒澤 祐介			
開講曜限	授業形態		
月5	演習		
添付ファイル			

D Pとの関連	■子ども教育学科■ ■2-3 一人一人の子どものケア・ニーズの背景を理解し、社会的養護を展開することができる ■3-1 獲得した知識・技能を活かして、自らの学びを常に省察し、課題を見つけて改善し続けることができる
---------	---

科目の概要・目的	児童福祉施設実習に臨む心構えを学ぶとともに、施設実習における自己課題を見出す。また、施設実習中の子どもとの生活を通し、子ども理解を深め、児童養護実践力の向上に努める。
学習到達目標	1. 保育実習の意義・目的を理解する 2. 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する 4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする
授業の方法	【アクティブラーニングの取り入れ状況】 適宜発表を行う 【ICTを利用した双方向授業】 学内システム等を利用し、教員と学生、また学生同士が意見を交流できるようにする 【その他特記事項】 なし
成績評価の方法	【評価項目】 授業内での小レポート 実習後のレポート 【割合】 授業内での小レポート (50%) 実習後のレポート (50%)
教科書・テキスト	大阪青山大学子ども教育学科 教育・保育実習ハンドブック 開仁志編著 2012 実習日誌の書き方一幼稚園・保育所・施設実習完全対応 一藝社
参考書	なし
授業時間外の学修について(事前・事後学習について)	・授業後の復習は怠らない事 ・各自、実習先の沿革や方針等について理解しておくこと ・社会的養護 I の復習をしておくこと
履修上の留意事項	受験資格のないものは保育実習 I Bの履修を停止することもある。 原則として欠席は認めない。欠席した場合は、実習に参加できないこともある。
オフィスアワー	水曜 3限 1-408 研究室
課題に対するフィードバックの方法	課題については、メール、学内システム等により添削を行う また、事後指導において、課題に対して添削を行う
実務経験	特記事項なし
その他	特になし
授業の内容	第1回 保育実習の意義 保育実習 I Bの目的と概要について学ぶ。 【事前学修】実習ハンドブックを事前に熟読し、施設実習の概要について下調べしておく。 【事後学修】授業資料を整理し、実習目的についてまとめる。 第2回 保育実習の内容 児童養護施設・乳児院・障がい児施設の役割と機能、および、児童の入所背景と主な支援について学ぶ。 【事前学修】これまでに授業で学んだ児童福祉施設の法的根拠と役割について振り返っておく。 【事後学修】それぞれの実習先での一日の流れについてまとめる。 第3回 保育実習の課題 直接援助と間接援助について理解し、配属先の状況にふまえた実習課題の立案について学ぶ。 【事前学修】これまでに授業で学んだ、相談援助の基本について振り返っておく。 【事後学修】それぞれの実習先での、実習課題を立案する。 第4回 子どもの人権と最善の利益の考慮

	施設での暮らしは子どもたちにとって権利の保障であることを学び、子どもたちへの適切な養育環境の提供について知る 【事前学修】 これまでに授業で学んだ、子どもの権利について振り返っておく。 【事後学修】 授業資料を整理し、子どもの最善の利益についてまとめる。
第5回	プライバシーの保護と守秘義務 利用者にはさまざまな背景があり、多くの生活課題をもつ利用者が存在することを知り、施設を利用していることを他人に知られたくない人もいることを認識し、施設利用者の情報および、実習で知りえた情報についての守秘義務について学ぶ 【事前学修】 個人情報保護や守秘義務に関する法制度について、事前に下調べしておく。 【事後学修】 授業資料を整理し、プライバシーの保護のための実習生の留意点についてまとめる。
第6回	実習生としての心構え 実習生自身がもつ価値観に気づき、保育士として適切な価値観を身につけ、子どもの権利条約や障害者の権利に関する条約などの理解を施設場면을想定して学ぶ。 【事前学修】 これまでに授業で学んだ「自己覚知」について振り返っておく。 【事後学修】 授業資料を整理し、自身の価値観について省察し、実習場面での留意点についてまとめる。
第7回	実習の計画 自身の課題を整理し、実習課題を作成し、配属先の施設に応じて実習計画を立てる 【事前学修】 配属先の施設における実習課題と実習計画案を考えておく。 【事後学修】 授業資料を整理し、実習課題と実習計画を完成させる。
第8回	実習の記録 実習における記録について、個々の利用者の行動上の特徴やその背景、その利用者に対する支援の方法に視点を向けた記録の記述の仕方について学ぶ。 【事前学修】 実習ハンドブックを熟読し、その意義について事前学習を行う。 【事後学修】 実習ノートの記録の練習を行い、提出する。
第9回	直前指導 実習前の最終確認と直前指導 【事前学修】 実習課題と計画の再確認を行う。 【事後学修】 訪問担当教員の事前指導をふまえ、自分自身の実習への課題と心構えを整理する。
第10回	事後指導① 総合考察 実習活動の考察・反省と自己課題 【事前学修】 実習全体の総合考察を行っておく。 【事後学修】 実習前に設定した課題に対する到達評価を行う。
第11回	事後指導② エピソード考察 実習中のエピソードに基づいた子ども理解 【事前学修】 実習中のエピソード記録を作成しておく。 【事後学修】 エピソードの振り返りから、自己の反省点についてまとめる。
第12回	事後指導③ 実習報告（児童養護・宿泊実習） グループごとに実習報告を行う。 【事前学修】 実習内容、一日の流れなどをまとめておく。 【事後学修】 他の学生からの質問、意見に対する、自己の実習への振り返りを行う。
第13回	事後指導④ 実習報告（児童養護・通い実習） グループごとに実習報告を行う。 【事前学修】 実習内容、一日の流れなどをまとめておく。 【事後学修】 他の学生からの質問、意見に対する、自己の実習への振り返りを行う。
第14回	事後指導⑤ 実習報告（乳児院等） グループごとに実習報告を行う。 【事前学修】 実習内容、一日の流れなどをまとめておく。 【事後学修】 他の学生からの質問、意見に対する、自己の実習への振り返りを行う。
第15回	事後指導⑥ まとめ 実習で体験し、学びを深めたこと、深められなかったこと、取り組むことができなかったことを、次の実習課題に引き付けて考える 【事前学修】 実習評価に基づいた各訪問担当教員による事後指導を受けておく 【事後学修】 保育実習ⅠBを振り返り、今後の実習課題を明らかにする。

講義科目名称： 保育実習指導Ⅲ

授業コード： 52214000

英文科目名称： Instruction in Applied Childcare III

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	3	1	選択
担当教員			
黒澤 祐介			
開講曜限	授業形態		
木1	演習		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■子ども教育学科■</p> <p>■2-3 一人一人の子どものケア・ニーズの背景を理解し、社会的養護を展開することができる</p> <p>■3-1 獲得した知識・技能を活かして、自らの学びを常に省察し、課題を見つけて改善し続けることができる</p>
---------	---

科目の概要・目的	保育実習ⅠB（施設）での経験を元に、実際の施設現場における子どもへの自立支援に関する直接・間接援助について考えながら、保育者としての自己課題を見出す。
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。 2. 実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。 3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。 4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 適宜発表を行う</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 学内システム等を利用し、教員と学生、また学生同士が意見を交流できるようにする</p> <p>【その他特記事項】 なし</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】 授業内での小レポート 実習後のレポート</p> <p>【割合】 授業内での小レポート（50%） 実習後のレポート（50%）</p>
教科書・テキスト	大阪青山大学子ども・教育・保育実習ハンドブック 開仁志編著 2012 実習日誌の書き方ー幼稚園・保育所・施設実習完全対応 一藝社
参考書	特に指定しない
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	<ul style="list-style-type: none"> ・毎授業後、復習は怠らない事 ・保育実習ⅠBの自己課題を整理しておくこと ・社会的養護Ⅰの復習をしておくこと
履修上の留意事項	受験資格のないものは保育実習Ⅲを辞退することもある。 原則として欠席は認めない。欠席した場合は、実習に参加できないこともある。
オフィスアワー	火曜2限目 1-408研究室
課題に対するフィードバックの方法	課題については、メール、学内システム等により添削を行う また、事後指導において、課題に対する添削を行う
実務経験	特記事項なし
その他	特になし
授業の内容	<p>第1回 保育実習の意義 保育実習Ⅲの意義と目的について。 【事前学修】実習ハンドブックを事前に熟読し、施設実習の概要について下調べしておく。 【事後学修】授業資料を整理し、実習目的についてまとめる。</p> <p>第2回 保育実習の内容と施設の理解 それぞれの施設の役割と機能、施設が地域の中で果たしている役割、利用者の家族への支援、社会全体における役割などについて学ぶ 【事前学修】これまでに授業で学んだ児童福祉施設の法的根拠と役割について振り返っておく。 【事後学修】それぞれの実習先での一日の流れについてまとめる。</p> <p>第3回 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解 保育実習の総合的な学びとして、エピソードを通して子どもの最善の利益を考慮した保育について学ぶ 【事前学修】これまでに授業で学んだ子どもの最善の利益について振り返っておく。 【事後学修】授業の資料を整理し、内容をふまえて、エピソードに対して再考察を行う。</p>

第4回	<p>子どもの保育と保護者支援 子どもの保育と保護者支援について学ぶ 【事前学修】 これまでに授業で学んだ家庭支援について振り返っておく。 【事後学修】 授業資料を整理し、実習の中で家庭支援と家庭の再統合に向けた支援についてまとめる。</p>
第5回	<p>利用者の理解と支援 利用者が抱える課題の理解と支援方法、および、虐待等が心身に与える影響や支援の方法について、具体的かつ高度な専門性を学ぶ 【事前学修】 これまでに授業で学んだ虐待について振り返っておく。 【事後学修】 授業の資料を整理し、被虐待児に対する実習の留意点についてまとめる。</p>
第6回	<p>保育士の専門性と職業倫理 各施設の機能と、保育士および多様な専門性をもつ職員の専門性について学び、職業倫理について理解する。 【事前学修】 配属先施設に配置されている専門職について下調べを行う。 【事後学修】 授業の資料を整理し、実習における実習生の専門性の向上についてまとめる。</p>
第7回	<p>保育の実践力の育成 保育実習ⅠBでのエピソードから子どもの状態に応じた適切な関わりについて学ぶ 【事前学修】 保育実習ⅠBでのエピソードをまとめておく。 【事後学修】 授業の資料を整理し、保育実習ⅠBでの振り返りから自己課題をまとめる。</p>
第8回	<p>実習における計画と実践 施設の理解、利用者の理解、実習生の専門性の向上の3つの視点から、実習課題を課題を設定し、実習計画を作成する。 【事前学修】 これまでの授業を振り返り、保育実習Ⅲにおける自己課題をまとめる。 【事後学修】 授業の資料を整理し、実習計画に基づいた実践での学びについてまとめる。</p>
第9回	<p>実習における記録および評価 個々の利用者の行動上の特徴やその背景、その利用者に対する支援の方法に視点を向けた、実習記録の書き方について学ぶ。 【事前学修】 保育実習ⅠBでの自身の記録を振り返り、その課題についてまとめる。 【事後学修】 授業の資料を整理し、利用者、実習生の行動、考えについての記述方法についてまとめる。</p>
第10回	<p>支援計画と家族支援の視点 自立支援計画について理解し、子どもの支援とともに、家族支援の視点での支援計画について学ぶ。 【事前学修】 自立支援計画について、下調べを行っておく。 【事後学修】 授業の資料を整理し、家族支援の視点をもった支援計画についてまとめる。</p>
第11回	<p>直前指導 実習前の最終確認と直前指導 【事前学修】 実習課題と計画の再確認を行う。 【事後学修】 訪問担当教員の事前指導をふまえ、自分自身の実習への課題と心構えを整理する。</p>
第12回	<p>事後指導① 総合考察 実習活動の考察・反省と自己課題 【事前学修】 実習全体の総合考察を行っておく。 【事後学修】 実習前に設定した課題に対する到達評価を行う。</p>
第13回	<p>事後指導② エピソード考察 実習中のエピソードに基づいた子ども理解 【事前学修】 実習中のエピソード記録を作成しておく。 【事後学修】 エピソードの振り返りから、自己の反省点についてまとめる。</p>
第14回	<p>事後指導③ 実習報告 グループごとに実習報告を行う。 【事前学修】 実習内容、一日の流れなどをまとめておく。 【事後学修】 他の学生からの質問、意見に対する、自己の実習への振り返りを行う。</p>
第15回	<p>事後指導④ まとめ 実習で体験し、学びを深めたこと、深められなかったこと、取り組むことができなかったことを、就業に向けた課題に引き付けて考える 【事前学修】 実習評価に基づいた各訪問担当教員による事後指導を受けておく 【事後学修】 保育実習Ⅲを振り返り、就業に向けた課題を明らかにする。</p>

講義科目名称： 教育実習事前事後指導（幼）

授業コード： 52214400

英文科目名称： Practical Training of Education Pre & Post Direction (Kindergarten)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 通年	3	1	選択
担当教員			
林 富公子、鈴木 順子			
開講曜限	授業形態		
水1	演習		
添付ファイル			

DPとの関連	<p>■子ども教育学科■</p> <p>■2-2 保育内容に関する専門的知識を有し、教材となる素材の内容について分析・解釈し、適切な教材の準備を行うことや、子どもの興味関心などを踏まえて、保育の内容に即した適切な保育の計画を工夫することができる。</p> <p>■3-1 獲得した知識・技能を活かして、自らの学びを常に省察し、課題を見つけて改善し続けることができる</p>
--------	--

科目の概要・目的	<p>教育実習Ⅱ（幼稚園）の事前事後指導科目として学生が次の内容を考え身に付けることが出来るように講義を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習生としてふさわしい態度を自覚する。 ・保育内容を総合的に理解し、保育実践と結びつける方法を考える。 ・教育実習Ⅰにおける自己の実習課題を考え実習に取り組めるようにする。 ・実習を通して保育者として働く上での課題を見つける。 						
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習に参加するにあたって必要な知識・態度を身につける。 ・実習を通して自身の子ども観・保育観について考えることができる。 ・保育者として働く上で必要な課題を見つけることができる。 						
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 第5回、6回でグループ活動を行う。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 特になし</p> <p>【その他特記事項】 特になし</p>						
成績評価の方法	<p>【評価項目・割合】</p> <table> <tr> <td>提出物・小テスト</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>指導案</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>事後指導におけるレポートの内容</td> <td>20%</td> </tr> </table>	提出物・小テスト	40%	指導案	40%	事後指導におけるレポートの内容	20%
提出物・小テスト	40%						
指導案	40%						
事後指導におけるレポートの内容	20%						
教科書・テキスト	<p>大阪青山大学子ども教育学科 教育・保育実習ハンドブック 大阪青山大学子ども教育学科 教育実習ノート（幼稚園実習）</p>						
参考書	<p>文部科学省 2018 幼稚園教育要領解説 フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省 2018 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 フレーベル館</p>						
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	<p>各回の授業の内容に書かれていることを行うこと。</p>						
履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習Ⅱ（幼稚園）を履修する学生のみ履修可とする。 ・通年科目として開講する。 ・後期授業で教育実習の振り返りとまとめを行うため、前期・後期とも開講日に留意しておくこと。 ・各時間、実習に必要な講義や演習、連絡事項等があるので、原則として欠席は認めない。 ・欠席した場合は、実習に参加できないこともあるので気を付けること。 						
オフィスアワー	<p>昼休み 4-608研究室（林）</p>						
課題に対するフィードバックの方法	<p>各授業の中で授業シートを配布し翌週フィードバックを行う</p>						
実務経験	<p>幼稚園教諭</p>						
その他	<p>特になし</p>						
授業の内容	<p>第1回 幼稚園実習に参加するにあたって（教育実習の意義と目的） 【事前学修】教育・保育実習ハンドブックのp1を読み実習の意義と目的を再確認すること。 【事後学修】保育実習ⅠAと教育実習の違いについて説明できるようになっておくこと。</p> <p>第2回 実習の流れと内容 【事前学修】第1回目に配布する教育実習要項の実習の内容を読み、分からない語彙について調べておくこと。 【事後学修】実習の流れと内容について具体的な事柄について考えておくこと。</p> <p>第3回 幼稚園における保育</p>						

第4回	<p>【事前学修】『幼稚園教育要領解説』p26～49を読み分らない語彙については調べておくこと。 【事後学修】幼稚園における保育について口頭で説明できるように準備しておくこと。</p> <p>実習日誌・記録の書き方</p> <p>【事前学修】基礎実習の日誌を再び見直すこと。 【事後学修】基礎実習及び保育所実習での日誌の書き方の違いに気付き説明できるようになること。</p>
第5回	<p>指導案の作成と保育の展開①（子どもの姿、ねらい、内容）</p> <p>【事前学修】基礎実習で入ったクラスの子どもの姿及び活動についてまとめておくこと 【事後学修】グループ毎に発表準備を行うこと。</p>
第6回	<p>指導案の作成と保育の展開②（グループ発表）</p> <p>【事前学修】第5回で各グループごとにまとめた子どもの姿及び活動の発表が出来るようにしておくこと 【事後学修】各グループの発表を聞き、各年齢の子どもの姿についてまとめておくこと。</p>
第7回	<p>指導案の作成と保育の展開③（部分実習の指導案作成：個人）</p> <p>【事前学修】「保育カリキュラム」の復習を行うこと。 【事後学修】指導案の作成を仕上げること。</p>
第8回	<p>実習に必要な書類の作成</p> <p>【事前学修】各園の保育目標などについて確認しておくこと。 【事後学修】実習に必要な書類を完成させること。</p>
第9回	<p>実習オリエンテーションについて</p> <p>【事前学修】実習参加の意義について再確認しておくこと。 【事後学修】実習オリエンテーションでの質問事項などを纏めておくこと。</p>
第10回	<p>指導案の作成と保育の展開④（実習園の保育の流れと行事について）</p> <p>【事前学修】実習園の1日の流れや実習時期の行事について調べておくこと。 【事後学修】部分実習の指導案作成に向けた準備を行うこと。</p>
第11回	<p>指導案の作成と保育の展開⑤（実習園の保育の流れを意識した部分実習の指導案の作成）</p> <p>【事前学修】実習時期に読める絵本や手遊びについて年齢別に考えて図書館などで借りておくこと 【事後学修】部分実習の指導案を仕上げること</p>
第12回	<p>教育実習の留意点①子どもとの関わり</p> <p>【事前学修】教育・保育実習ハンドブックp13-15を読み、内容を理解しておくこと。 【事後学修】幼稚園教育における教育と幼児との関わりについて振り返っておくこと。</p>
第13回	<p>教育実習の留意点②実習生の心構え</p> <p>【事前学修】教育実習要項を熟読し、実習生としての心構えについて確認しておく。 【事後学修】実習準備についての確認を行うこと。</p>
第14回	<p>実習終了後の振り返り（個人）</p> <p>【事前学修】実習における子どもの姿や活動、保育者の援助について思い出しておくこと。 【事後学修】振り返りシートの記入を終わらせておくこと。</p>
第15回	<p>実習終了後の振り返り（グループ）</p> <p>【事前学修】実習振り返りシートをふまえながら、発表準備を行うこと。 【事後学修】発表を聞き、その感想をまとめておくこと。</p>

講義科目名称： 教育実習事前事後指導（小）

授業コード： 52214500

英文科目名称： Practical Training of Education Pre & Post Direction (Primary School)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 通年	3	1	選択
担当教員			
服部 太、金川 弘希			
開講曜限	授業形態		
水1	演習		
添付ファイル			

DPとの関連	<p>■子ども教育学科■</p> <p>■2-1 初等教育の教科等の内容に関する専門的知識を有し、教材の内容について分析・解釈し、適切な教材の準備を行うことや、場面に応じた適切な指導方法を工夫することができる</p> <p>■3-1 獲得した知識・技能を活かして、自らの学びを常に省察し、課題を見つけて改善し続けることができる</p>
--------	---

科目の概要・目的	<p>実習の現場となる小学校での教育実践について、教科・領域等の内容や授業及び生活指導を中心に学び、教育実習への問題意識を高め、実習生としての自覚をもてるようにする。さらに、授業観察・授業実践の在り方、とりわけ教材研究、学習指導案の作成、授業展開の実際、学習評価の観点、児童とのコミュニケーションなど、可能な限り現場での実習に役立つ内容について理解する。</p>
学習到達目標	<p>○教育実習に向けて、教科指導、生徒指導（児童理解）など学校における教育活動全般にわたって実習への準備となる事項を習得する。</p> <p>○教員として求められる姿勢を学び、実践的指導力を培うことの重要性を理解する。</p> <p>○教材研究や学習指導案の作成の方法、授業実践力を身につける。</p>
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 ディスカッション、ロールプレイ</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 特になし</p> <p>【その他特記事項】 指導案作成、模擬授業など、実習の現場で役立つ内容で構成する。</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】【割合】</p> <p>○日々の授業でのレポートや指導案等の提出物 30%</p> <p>○模擬授業 30%</p> <p>○実習日誌等、実習に関する記録やレポート 30%</p> <p>○授業への参加態度 10%</p>
教科書・テキスト	<p>○学習指導要領および各教科解説</p> <p>○各教科児童用教科書</p> <p>○大阪青山大学子ども教育学科 教育・保育実習ハンドブック</p> <p>○大阪青山大学子ども教育学科 教育実習ノート（小学校実習）</p> <p>○授業時配付プリント</p>
参考書	<p>特に指定なし</p>
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	<p>○各市町村、各小学校が募集している学習支援ボランティアなどへ積極的に参加し、授業を参観する機会や子ども理解につながる機会を積極的にもつこと。</p>
履修上の留意事項	<p>○教育実習に参加する学生として、自己の目標を明確にもち、実習生としての自覚と責任を意識して授業に臨むこと。</p> <p>○原則として欠席は認めない。欠席した場合は、実習に参加できないこともある。</p>
オフィスアワー	<p>服部 月～木 昼休み 金川 授業終了後、教室にて</p>
課題に対するフィードバックの方法	<p>ワークシートや指導案、レポート等の添削、返却による。</p>
実務経験	<p>服部 公立学校，附属学校教員経験あり 金川 小学校教諭</p>
その他	<p>特になし</p>
授業の内容	<p>第1回 オリエンテーション（教育実習の意義と目的・実施計画） 教育実習の意義や目的について理解する。</p> <p> 【事前学修】 シラバスを事前に見て、授業のねらいや意義を意識しておく。</p> <p> 【事後学修】 実習の心構えや準備についてまとめる。</p> <p>第2回 生活指導と授業づくり①（生活指導上の問題「いじめ」対応） 子どもの実態に即した生活指導の在り方について理解する。</p>

	<p>【事前学修】自己の小学校時代を振り返り、問題場面やその対応について想起しておく。</p> <p>【事後学修】「いじめ」の対応や考え方についてまとめる。 生活指導と授業づくり②（障がいのある子どもへの支援） 子どもの実態に即した一斉指導と個別指導について学ぶ。</p> <p>【事前学修】障がいの種別やその実態について調べておく。</p> <p>【事後学修】支援教育の考え方や基本的な対応について振り返る。 教材研究と学習指導案作成①（学習指導案の意味や役割） 学習指導案の位置づけについて解説し、教科、単元ごとと教材研究と指導案づくりについて学ぶ。 実習時を想定して、具体的な教科・単元を決める。（グループ学習）</p> <p>【事前学修】学習指導要領を読み、教科の学習をとおして身に付けるべきことがらを確認しておく。</p> <p>【事後学修】決定した教科に応じて、学習指導要領を読んでおく。 教材研究と学習指導案作成②（学習指導案の内容） 単元目標、児童観・教材観・指導観の内容について理解し、作成する。</p> <p>【事前学修】学習指導要領を読み、担当教科における学年ごとの目標を確認しておく。</p> <p>【事後学修】教材観や指導観について、学習指導要領における学年ごとの目標と照らし合わせておく。 教材研究と学習指導案作成③（指導内容の策定） 本時の展開について、本時の目標、板書計画等を作成する。</p> <p>【事前学修】担当模擬授業における目標を策定しておく。</p> <p>【事後学修】学修やグループでの話し合いを経て、板書計画を練り直す。 教材研究と模擬授業 作成した指導案をもとに、発問・板書計画等授業を行う準備をする。</p> <p>【事前学修】板書計画をほぼ完成させておき、発問計画に生かすことができるようにする。</p> <p>【事後学修】発問計画を練り直し、資料等の準備を進めていく。 模擬授業① 1人ずつ模擬授業を行い、授業力を養う。 相互評価や意見交換を通して、授業観察の力を身につける。</p> <p>【事前学修】模擬授業を参観するポイントを策定しておく。</p> <p>【事後学修】参観した模擬授業について、代案を考えておく。 模擬授業② 1人ずつ模擬授業を行い、授業力を養う。 相互評価や意見交換を通して、授業観察の力を身につける。</p> <p>【事前学修】模擬授業を参観するポイントを策定しておく。</p> <p>【事後学修】参観した模擬授業について、代案を考えておく。 模擬授業③ 1人ずつ模擬授業を行い、授業力を養う。 相互評価や意見交換を通して、授業観察の力を身につける。</p> <p>【事前学修】模擬授業を参観するポイントを策定しておく。</p> <p>【事後学修】参観した模擬授業について、代案を考えておく。 模擬授業④ 1人ずつ模擬授業を行い、授業力を養う。 相互評価や意見交換を通して、授業観察の力を身につける。</p> <p>【事前学修】模擬授業を参観するポイントを策定しておく。</p> <p>【事後学修】参観した模擬授業について、代案を考えておく。 実習直前指導① 実習日誌の書き方等実習ハンドブックの内容の確認をする。</p> <p>【事前学修】実習ハンドブックを読み、記入内容やその趣旨を確認しておく。</p> <p>【事後学修】学習内容を振り返り、自分なりに実習に臨む心構えと実習日誌の記入事項を整理する。 実習着前指導② 実習ハンドブックを基に、実習の心得についての確認と提出書類の確認をする。</p> <p>【事前学修】実習ハンドブックを読み、その趣旨や心構えを確認しておく。</p> <p>【事後学修】学習内容を振り返り、自分なりに実習に臨む心構えや準備物、手続きを整理する。 実習事後指導① 実習終了後11月～12月に実施</p>
第3回	
第4回	
第5回	
第6回	
第7回	
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	

第15回	<p>小学校での教育実習を終えて、実習内容（学校運営・子ども理解・教材研究・研究授業等々）の各自振り返りをし、グループで交流をする。</p> <p>【事前学修】 記入した実習日誌や作成した指導案を整理し、自分の実習を振り返っておく。</p> <p>【事後学修】 自己の振り返りや交流をもとに、再度、実習全般について振り返る。</p> <p>実習事後指導② 実習終了後11月~12月に実施 事後指導①での振り返りをもとに、めざす教師像を考える。</p> <p>【事前学修】 前時での振り返りをもとにめざす教師像について、イメージをまとめておく。</p> <p>【事後学修】 自分のめざす教師像、めざす教育の在り方について考える。</p>
------	---

講義科目名称： 臨床教育学

授業コード： 52215200

英文科目名称： Study of Clinical Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	3	2	選択
担当教員			
佐藤 琢志			
開講曜限	授業形態		
水2	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■子ども教育学科■</p> <p>■1-1 子どもの発達に関する基本的知識を有し、子ども一人一人の特性や心身の状況を多面的に捉えることができる</p> <p>■4-2 子どもの権利を理解し、それを尊重して、公平かつ受容的・共感的な態度で子どもと関わることができる</p>
---------	--

科目の概要・目的	<p>教育実践上の臨床的諸問題について、臨床心理学や教育学等からの学際的アプローチを行い解決を図ることが求められていることを理解する。</p> <p>また、臨床教育学という学際的な視点に立って、課題を抱える子どもや保護者、そして教師に対する支援方法等について理解し、分析できるようになる。具体的には、教師が行う教育相談や、発達障がい・非行・いじめ・不登校などの教育実践上の臨床的諸問題について事例を通して理解を深められるようになる。</p>
学習到達目標	<p>1. 臨床教育学の考え方と視点について説明できる。</p> <p>2. 教育実践上の臨床的諸問題について論じることができる。</p>
授業の方法	基本的に講義形式で行う。
成績評価の方法	<p>【評価項目】 定期試験（授業内試験(筆記)(第15回目)）、授業時の課題提出物、授業への参加態度</p> <p>【割合】 定期試験（授業内試験(筆記)(第15回目)）：60%、授業時の課題提出物：30%、授業への参加態度：10%</p>
教科書・テキスト	佐々木正昭編著、「入門臨床教育学～課題を抱える子ども・親・教師への支援～」、学事出版、2013
参考書	河合隼雄、「臨床教育学入門」、岩波書店、1995
授業時間外の学修について(事前・事後学習について)	<ul style="list-style-type: none"> ・参考書の他、教育実践上の臨床的諸問題に関する書籍等を読むこと。 ・新聞などで話題になっている教育臨床上の諸問題について、常に関心と注意を向け、自分なりの考えを準備しておくこと。
履修上の留意事項	特になし。
オフィスアワー	火曜日の昼休み（12：15～12：55）
課題に対するフィードバックの方法	採点をして返却する。
実務経験	高等学校教諭
その他	特になし。
授業の内容	<p>第1回 オリエンテーション 本科目の意義と目的、授業の進め方、及び臨床教育学の「臨床」の意味について学ぶ。 【事前学修】臨床教育学について調べておく。 【事後学修】授業中に実施した課題について振り返りを行うこと。</p> <p>第2回 臨床教育学のススメ 臨床教育学がどのような学問なのかについて学ぶ。 【事前学修】テキストの第1章を熟読しておくこと。 【事後学修】授業中に実施した課題について振り返りを行うこと。</p> <p>第3回 教師が行う教育相談 教師が行う教育相談（教師カウンセラー）について学ぶ。 【事前学修】テキストの第2章を熟読しておくこと。 【事後学修】授業中に実施した課題について振り返りを行うこと。</p> <p>第4回 専門機関が行う不登校児童生徒への支援 専門機関が行う不登校児童生徒への支援について学ぶ。 【事前学修】テキストの第3章を熟読しておくこと。 【事後学修】授業中に実施した課題について振り返りを行うこと。</p> <p>第5回 発達障がいの子どもの支援 発達障がいの子どもの支援について学ぶ。 【事前学修】テキストの第4章を熟読しておくこと。 【事後学修】授業中に実施した課題について振り返りを行うこと。</p> <p>第6回 教師の燃え尽きを防ぐ特別支援教育体制 教師の燃え尽きを防ぐ特別支援教育体制について学ぶ。</p>

第7回	<p>【事前学修】テキストの第5章を熟読しておくこと。 【事後学修】授業中に実施した課題について振り返りを行うこと。</p> <p>親子関係の支援 親子関係の支援について学ぶ。</p>
第8回	<p>【事前学修】テキストの第6章を熟読しておくこと。 【事後学修】授業中に実施した課題について振り返りを行うこと。</p> <p>「問題」児童生徒への支援 「問題」児童生徒への支援について学ぶ。</p>
第9回	<p>【事前学修】テキストの第7章を熟読しておくこと。 【事後学修】授業中に実施した課題について振り返りを行うこと。</p> <p>学校におけるいじめ 学校におけるいじめ指導について学ぶ。</p>
第10回	<p>【事前学修】テキストの第8章を熟読しておくこと。 【事後学修】授業中に実施した課題について振り返りを行うこと。</p> <p>学校における「非行少年」の指導 学校における「非行少年」の指導について学ぶ。</p>
第11回	<p>【事前学修】テキストの第8章を熟読しておくこと。 【事後学修】授業中に実施した課題について振り返りを行うこと。</p> <p>モンゴル放牧文化における体罰 体罰（モンゴル放牧文化と日本文化の対比）について学ぶ。</p>
第12回	<p>【事前学修】テキストの第10章を熟読しておくこと。 【事後学修】授業中に実施した課題について振り返りを行うこと。</p> <p>担任教師を亡くした子どもたちへの支援 担任教師を亡くした子どもたちへの支援について学ぶ。</p>
第13回	<p>【事前学修】テキストの第11章を熟読しておくこと。 【事後学修】授業中に実施した課題について振り返りを行うこと。</p> <p>文献講読 いじめの未然防止を促す「体験活動」 臨床教育学と関連する文献から実際に学ぶ。</p>
第14回	<p>【事前学修】あらかじめ文献を熟読しておくこと。 【事後学修】授業中に実施した課題について振り返りを行うこと。</p> <p>臨床教育学の方法論、まとめ 臨床教育学の方法論について学ぶ。また、全体のまとめを行う。</p>
第15回	<p>【事前学修】テキストから臨床教育学の方法論について考えをまとめておくこと。 【事後学修】授業中に実施した課題について振り返りを行うこと。</p> <p>授業内試験(筆記)、まとめ 【事後学修】今までの学習内容を復習し、試験に備えること。 【事前学修】分からなかった点を振り返り、理解すること。</p>

講義科目名称： 特別支援実践論

授業コード： 52215510

英文科目名称： Practition of Special Needs

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	3	2	選択
担当教員			
西堂 直子			
開講曜限	授業形態		
金2	演習		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■子ども教育学科■</p> <p>■1-3 社会的養護に関する基本的な内容や子ども家庭をめぐる諸問題の歴史の変遷と各種法制度などについての専門的知識を有している</p> <p>■2-2 保育内容に関する専門的知識を有し、教材となる素材の内容について分析・解釈し、適切な教材の準備を行うことや、子どもの興味関心などを踏まえて、保育の内容に即した適切な保育の計画を工夫することができる。</p>
---------	--

科目の概要・目的	障害児保育・療育の制度の変遷について理解し、これからの障害児保育の課題は何かを考える。実際の事例、実践例を基に子どもの理解の仕方、支援の在り方、遊びや生活づくりについて検討を行い分析できるようになる。 家族への援助、地域との連携の必要性も含め、保育士の専門性について理解を深める。
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・特別の支援を必要とする乳幼児の支援体制について説明できる。 ・発達、障害、生活の視点から個別の子どもの実態課題について述べるができる。 ・事例検討、実践検討を通して、実際の支援の在り方について説明することができる。
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 事例・実践例を基にグループディスカッションを行う。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 現場の授業映像を活用する。</p> <p>【その他特記事項】 特になし</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内レポート課題 ・授業での発表 <p>【割合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポート 60% ・授業での発表40%
教科書・テキスト	なし
参考書	「保育者のためのテキスト障害児保育」全障研出版部
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	グループディスカッションでの検討内容をまとめる。 毎回の授業のまとめを行う。
履修上の留意事項	特になし
オフィスアワー	金曜日の昼休み（12:15～12:55）
課題に対するフィードバックの方法	受講生からの質問やレポート内容について、授業内で全体にフィードバックする。
実務経験	特別支援学校教員
その他	特になし
授業の内容	<p>第1回 障害児保育の歴史の変遷 障害児保育の歴史の変遷から保育の必要性について考える。 【事前学修】 シラバスを読み授業内容を把握する。 【事後学修】 保育士の担う役割、保育士のやりがいについて自分の思いをまとめる。</p> <p>第2回 障害者権利条約と合理的配慮 障害者権利条約により提起された合理的配慮の意義と内容について理解する。 【事前学修】 合理的配慮について調べる。 【事後学修】 合理的配慮の意義と手順をまとめる。</p> <p>第3回 障害の理解①視覚障害・聴覚障害 視覚障害・聴覚障害の原因、分類、特性を知る。 【事前学修】 視覚障害・聴覚障害について調べる。 【事後学修】 視覚障害児・聴覚障害児への支援の在り方をまとめる。</p> <p>第4回 障害の理解②肢体不自由</p>

第5回	<p>肢体不自由の原因、分類、特性を知る。 【事前学修】 肢体不自由について調べる。 【事後学修】 肢体不自由児への支援の在り方をまとめる。</p> <p>障害の理解③重症心身障害・医療的ケア 医療的ケアとは何か、制度と具体的内容を知る。 【事前学修】 医療的ケアについて調べる。 【事後学修】 医療的ケアには何があるかをまとめる。</p>
第6回	<p>障害の理解④発達障害 発達障害の分類、特性を知る。 【事前学修】 発達障害について調べる。 【事後学修】 発達障害児への支援の在り方をまとめる。</p>
第7回	<p>障害の理解⑤知的障害 知的障害の診断基準と特性を知る。 【事前学修】 知的障害について調べる。 【事後学修】 知的障害児への支援の在り方をまとめる。</p>
第8回	<p>地域療育システムにおける乳幼児子育て支援 乳幼児健診の制度と意義を理解する。 【事前学修】 乳幼児健診について調べる。 【事後学修】 障害の発見とその後の支援体制についてまとめる。</p>
第9回	<p>療育とは何か 多様な療育の在り方を知る。 【事前学修】 幼児期の療育について調べる。 【事後学修】 療育の必要性をまとめる。</p>
第10回	<p>専門施設と保育所・幼稚園との違い 配慮の必要な子どもの保育の実際を知る。 【事前学修】 どんな専門施設があるかを調べる。 【事後学修】 子どもの生活づくりで大切にすることをまとめる。</p>
第11回	<p>個別の指導計画と個別の支援計画の作成 個別の指導計画と個別の支援計画の意義と違いを理解する。 【事前学修】 個別の指導計画、個別の支援計画について調べる。 【事後学修】 個別の指導計画を作成する。</p>
第12回	<p>職員間の連携 保育現場の事例より職員間の連携の在り方について考える。 【事前学修】 職員間の連携の必要性について調べる。 【事後学修】 事例の評価を行う。</p>
第13回	<p>児童発達支援センターの役割 児童発達支援センターとは何か、その役割を理解する。 【事前学修】 児童発達支援センターについて調べる。 【事後学修】 地域における障害児支援の制度についてまとめる。</p>
第14回	<p>家族への支援 事例をもとに家族支援の在り方について考えを深める。 【事前学修】 家族支援の必要性について考える。 【事後学修】 父母への援助、きょうだいへの援助で大切にすることをまとめる。</p>
第15回	<p>小学校との連携 就学までの大まかな手続きを理解し就学相談の大切さを理解する。 【事前学修】 小学校との連携の必要性を調べる。 【事後学修】 就学相談で大切なことをまとめる。</p>

講義科目名称： 保育内容・身体表現

授業コード： 52215900 52215910

英文科目名称： Detailed Study of Nurturing Physical Expression

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	3	1	選択
担当教員			
山岸 多恵			
開講曜限	授業形態		
木2、3	演習		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■子ども教育学科■</p> <p>■2-2 保育内容に関する専門的知識を有し、教材となる素材の内容について分析・解釈し、適切な教材の準備を行うことや、子どもの興味関心などを踏まえて、保育の内容に即した適切な保育の計画を工夫することができる。</p> <p>■4-1 初等教育・保育・子ども福祉における職務内容と役割を理解し、子どもと関わる専門的職業人としての強い使命感を有している</p>
科目の概要・目的	幼稚園教育要領に示された領域「表現」についての理解を深め、幼児の発達段階に即した身体表現を学ぶ。幼児の表現遊びや環境の構成などの専門的事項についての知識・技能、表現力を身につけ、幼児の豊かな表現力を育む指導法を習得する。
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・領域「表現」のねらい及び内容について理解し、保育の構想につなぐことができる。 ・幼児の特性や発達について理解を深め、身体表現を導く方法を習得する。 ・保育現場を想定した身体表現の指導法を習得し、課題を見つけ解決策を提案することができる。
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <p>グループディスカッション：課題に取り組み、授業内容の理解を深める。</p> <p>グループワーク：グループでの創作ダンスの練習を実施する。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <p>必要に応じて実施する。</p> <p>【その他特記事項】</p> <p>特になし</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <p>授業への取り組み・提出物・課題発表</p> <p>【割合】</p> <p>授業への取り組み：20%</p> <p>提出物：30%</p> <p>課題発表：50%</p>
教科書・テキスト	適宜プリントを配布する。（配布プリントを閉じるファイルを準備すること）
参考書	<p>「幼稚園教育要領（平成29年3月告示）」文部科学省（2017）</p> <p>「保育所保育指針（平成29年3月告示）」厚生労働省（2017）</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示）」内閣府・文部科学省・厚生労働省（2017）</p>
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	日頃より様々な子どもの身体表現に関心を持つようにする。 授業で学習したことを振り返り、要点を確認し、課題を整理しておくこと。
履修上の留意事項	ジャージなどの体操服、室内用の運動靴を着用すること。 （活動に危険のない身なりを整えること。スカートは不可。）
オフィスアワー	授業終了後教室にて
課題に対するフィードバックの方法	毎回の授業内容を記入した学習記録カードを第14回の授業終了後に提出し、教員確認後に返却する。また、小レポートに書かれた質問等に回答し必要に応じて授業で共有する。
実務経験	特記事項なし
その他	特になし
授業の内容	<p>第1回 オリエンテーション 授業概要の及び到達目標、授業の進め方、成績評価の説明。 【事前学修】 シラバスを事前に把握しておく。 【事後学修】 授業で何をどのように学ぶのか整理しておく。</p> <p>第2回 身体表現の概要 領域「表現」における幼児の身体表現活動について学ぶ 【事前学修】 どのような遊びが幼児にとって望ましいのか遊びの内容を調べておく。 【事後学修】 授業内容を学習記録カードにまとめておく。</p> <p>第3回 伝承遊びと身体表現 遊び歌、手遊び歌、わらべ歌を用いた身体表現 【事前学修】 身体を使った伝承遊びについて実践例を調べておく。</p>

第4回	<p>【事後学修】授業内容を学習記録カードにまとめておく。</p> <p>個から集団の身体表現</p> <p>ゲームや鬼ごっこを通してコミュニケーションをはかる身体表現</p> <p>【事前学修】ゲームや鬼ごっこについて実践例を調べておく。</p> <p>【事後学修】授業内容を学習記録カードにまとめておく。</p>
第5回	<p>自然と生活の身体表現Ⅰ</p> <p>自然の中にある音、形、色などから豊かな感性を育む身体表現</p> <p>【事前学修】自然や生活での表現について実践例を調べておく。</p> <p>【事後学修】授業内容を学習記録カードにまとめておく。</p>
第6回	<p>自然と生活の身体表現Ⅱ</p> <p>身近な様々な素材を用いてイメージを広げる身体表現</p> <p>【事前学修】自然や生活での表現について実践例を調べておく。</p> <p>【事後学修】授業内容を学習記録カードにまとめておく。</p>
第7回	<p>模倣と身体表現</p> <p>動物や乗り物など身の回りにある様々なものを模倣する身体表現</p> <p>【事前学修】身体を使った模倣遊びについて実践例を調べておく。</p> <p>【事後学修】授業内容を学習記録カードにまとめておく。</p>
第8回	<p>音楽と身体表現の関連性Ⅰ</p> <p>拍と拍子について学ぶ</p> <p>【事前学修】身体を使った様々な動きを考えておく。</p> <p>【事後学修】授業内容を学習記録カードにまとめておく。</p>
第9回	<p>音楽と身体表現の関連性Ⅱ</p> <p>リズムとフレーズについて学ぶ</p> <p>【事前学修】身体を使った様々な動きを考えておく。</p> <p>【事後学修】授業内容を学習記録カードにまとめておく。</p>
第10回	<p>幼児体操・幼児ダンス</p> <p>近年普及している幼児体操・幼児ダンスの習得</p> <p>【事前学修】幼児向けの体操やダンスの実例を調べておく。</p> <p>【事後学修】授業内容を学習記録カードにまとめておく。</p>
第11回	<p>創作と身体表現Ⅰ</p> <p>グループワークでの創作活動（テーマと題材の検討）</p> <p>【事前学修】保育現場を想定した指導案を作成する。</p> <p>【事後学修】授業内容を学習記録カードにまとめておく。</p>
第12回	<p>創作と身体表現Ⅱ</p> <p>グループワークでの創作活動（イメージを深めた表現と創作）</p> <p>【事前学修】幼児の発達に適した振り付けとなっているか確認しておく。</p> <p>【事後学修】授業内容を学習記録カードにまとめておく。</p>
第13回	<p>創作と身体表現Ⅲ</p> <p>グループワークでの創作活動（全体構成の検討）</p> <p>【事前学修】グループワークでの発表の準備をしておく。</p> <p>【事後学修】授業内容を学習記録カードにまとめておく。</p>
第14回	<p>創作発表</p> <p>グループワークの発表、授業内容のまとめ</p> <p>【事前学修】創作過程や発表を通して、幼児の表現をひきだす適切な援助や表現あそびとは何かについて考えておく。</p> <p>【事後学修】授業内容を学習記録カードにまとめておく。</p>
第15回	<p>まとめ</p> <p>評価の考え方と学習の振り返り</p> <p>【事前学修】これまで学んだ内容を整理しておく。</p> <p>【事後学修】毎回の授業内容を記入した学習記録カードを見直す。</p>

講義科目名称： 健康子ども学 I

授業コード： 52216600

英文科目名称： Principles of Child Health I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	1	2	必修
担当教員			
戸松 玲子			
開講曜限	授業形態		
水3	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■子ども教育学科■</p> <p>■1-1 子どもの発達に関する基本的知識を有し、子ども一人一人の特性や心身の状況を多面的に捉えることができる</p> <p>■2-4 子ども・家庭をめぐる今日的・社会的諸課題について多面的に捉えることができる</p>
---------	--

科目の概要・目的	子どもを巡る諸問題の社会的要因となる背景について学ぶ。また、子どもの体と心のつながりについて考え、子ども理解の専門基礎を養う。
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者・教育者として自分なりの子ども観を述べられるようになる。 ・子どもの健やかな育ちの背景にある様々な現象を科学的に理解し、論じることができる。
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 適宜、ディスカッションを行う</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 特になし</p> <p>【その他特記事項】 特になし</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】 定期試験(筆記)、課題提出</p> <p>【割合】 定期試験(筆記)：70% 課題提出：30%</p>
教科書・テキスト	適宜、資料を配布する
参考書	稲垣由子・上田淑子・内藤由佳子編著『子ども学がひらく子どもの未来 子どもを学び、子どもに学び、子どもと学ぶ』 北大路書房 2019年 2500円(税抜)
授業時間外の学修について(事前・事後学習について)	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から子ども関連の話題について情報収集を行い、自身の考えや意見をまとめておくこと ・毎授業終了後、復習は怠らない事
履修上の留意事項	授業中の私語は厳に慎むこと
オフィスアワー	毎昼休み
課題に対するフィードバックの方法	授業終了後の感想を元に、次回授業時にフィードバックを行う
実務経験	幼稚園教諭、保育士、児童養護施設心理療法業務
その他	特になし

授業の内容	<p>第1回 オリエンテーション “子ども”とは?、“健康”とは?</p> <p>【事前学修】自身の「子ども」「健康」に関するイメージをまとめておく 【事後学修】授業での学びを通して抱く自分なりの「子ども観」「健康観」に関する小レポート提出</p> <p>第2回 子どもを巡る今日的課題① 子ども・家庭を巡る歴史的変遷</p> <p>【事前学修】保育問題、人口動態などについて下調べをしておくこと 【事後学修】保育問題、人口動態などの実態と少子社会との関連性についてまとめる</p> <p>第3回 子どもを巡る今日的課題② 児童虐待増加の背景にあるもの</p> <p>【事前学修】児童虐待相談対応件数の実態について下調べをしておくこと 【事後学修】児童虐待相談対応件数増加の背景にあるものについてまとめる</p> <p>第4回 子どもの虐待① 子ども虐待とは</p>
-------	---

第5回	<p>【事前学修】虐待の種類について下調べをしておくこと 【事後学修】子ども虐待の歴史的変遷についての復習 子どもの虐待② 子どもの虐待と子どもの権利条約について</p>
第6回	<p>【事前学修】子どもの権利条約について下調べをしておくこと 【事後学修】子どもの権利侵害としての児童虐待についてまとめる 子どもの虐待③ 子ども虐待の理解</p>
第7回	<p>【事前学修】子ども虐待発生の要因について予め下調べしておくこと 【事後学修】子ども虐待の背景を理解し、それに関する小レポートを提出すること 身体発育について</p>
第8回	<p>【事前学修】発育の順序性について予習しておく 【事後学修】発育の原則について復習する 身体発育と心の関係① 身体発育のトレンドについて</p>
第9回	<p>【事前学修】心と身体の繋がりについて自分なりの意見をまとめる 【事後学修】発育の原則と心の発達の関係について考察する 身体発育と心の関係② 子ども虐待、いじめと身体発育の関係</p>
第10回	<p>【事前学修】発育の原則と心の発達の関係についての復習 【事後学修】心身症についての復習 子ども期のストレスについて① 子ども期のストレス要因について</p>
第11回	<p>【事前学修】ストレスについて考える 【事後学修】子ども期のストレスの要因についてまとめる 子ども期のストレスについて② 子どものストレスと不定愁訴、心身症について</p>
第12回	<p>【事前学修】子ども期のストレスの要因についての復習 【事後学修】子ども期のストレスがもたらす発育への影響についての小レポート提出 基本的な生活習慣と子どもの健やかな育ち① 子どもの睡眠と育ちの関係について</p>
第13回	<p>【事前学修】日本の子どもの睡眠事情を下調べをしておくこと 【事後学修】子どもの育ちと睡眠の関係についてまとめる 基本的な生活習慣と子どもの健やかな育ち② 子どもの食行動と育ちの関係について</p>
第14回	<p>【事前学修】子どもの食生活習慣について自分なりの考えをまとめる 【事後学修】子どもの食行動と育ちの関係についてまとめる 子どもとメディア 子どもをとりまくメディア環境の変化 メディアが与える心理的影響と乳幼児期の社会性の発達の関係について</p>
第15回	<p>【事前学修】日本の子どものメディア視聴の実態について下調べをしておくこと 【事後学修】メディアが与える心理的影響についての復習 まとめ②</p>
	<p>【事前学修】これまでの授業の中で特に興味・関心の高かった内容をまとめておく 【事後学修】今日の子どもの巡る諸課題と自分なりの子ども観についてまとめる</p> <p>定期試験</p>

講義科目名称： 子ども社会論

授業コード： 52216900

英文科目名称： Child Society Theory

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	2	2	選択
担当教員			
尾場 友和			
開講曜限	授業形態		
木3	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■子ども教育学科■</p> <p>■1-3 社会的養護に関する基本的な内容や子ども家庭をめぐる諸問題の歴史的変遷と各種法制度などについての専門的知識を有している</p> <p>■2-4 子ども・家庭をめぐる今日的・社会的諸課題について多面的に捉えることができる</p>
---------	---

科目の概要・目的	今日の社会は急激な変動過程にある。それに伴って、子どもの成育環境もたえず変貌を余儀なくされている。しかし、社会がどのように変わろうとも、子どもの発達の基本的な過程は変わらない。子どもは、誕生とともにさまざまな社会に所属し、そうした社会が保有している文化、すなわち、ものの見方や考え方、行動の仕方や規範などから影響を受ける。そしてそれらを身につけ、社会の構成員となる。このように、人間の形成過程は、たえず社会とともにある。そこで「子ども社会論」では、まずは「子ども」という概念がどのようなものなのかについて問い直し、子どもにかかわる社会的な課題や子ども社会における文化的特徴を学び理解する。そうした学習を通じて、子どもの心身の成長・発達を支える子ども社会に関わる基礎的な学習をする。
学習到達目標	学習の到達目標は次の三つである。 (1)子どもを捉えるうえで重要な役割を果たす「子ども観」について、これまでの歴史的な形成過程や現在の状況について、専門用語を用いて説明することができる。 (2)子どもと社会との関係についての理解を深め、子どもを取り巻く今日的な課題や社会との関係性について事例をもとに討議できる。 (3)子どもの文化的特徴を理解し、子ども社会を考察するための社会学的思考法を操作できる。
授業の方法	【アクティブラーニングの取り入れ状況】 特になし 【ICTを利用した双方向授業】 特になし 【その他特記事項】 特になし
成績評価の方法	【評価項目】 レポート、定期試験(授業内)(筆記) 【割合】 レポート(50%)、定期試験(授業内)(筆記)(50%)
教科書・テキスト	授業中に適宜資料を配布する。
参考書	南本長穂・山田浩之『入門・子ども社会学』ミネルヴァ書房、2015年
授業時間外の学修について(事前・事後学習について)	毎回講義開始時に、前回の授業の確認を行うので復習しておくこと。 毎回講義終了後は、ノートを見直し復習すること。
履修上の留意事項	自筆ノートを整備し、授業後の復習を怠らないこと。
オフィスアワー	授業前後に設ける。
課題に対するフィードバックの方法	課題の翌週にて解説します。
実務経験	特記事項なし
その他	特になし
授業の内容	<p>第1回 オリエンテーション 本授業の目的と概要、および学習の進め方 【事前学修】：シラバスを事前に読み、質問事項や確認事項について整理する。 【事後学修】：授業を振り返り、要点を整理する。</p> <p>第2回 「子ども」はどこから来たのか 「子ども」概念の形成過程 【事前学修】：参考書pp.2-11を読み、「子ども」概念の変容について調べ整理する。 【事後学修】：授業を振り返り、要点を整理する。</p> <p>第3回 物語に見る子どもの姿 子どもの多面性・多様性の発見 【事前学修】：これまで読んできた絵本を振り返り、子どもがどのように描かれているのかにつ</p>

第4回	<p>いて調べ整理する。 【事後学修】：授業を振り返り、要点を整理する。</p> <p>家庭の教育機能 家庭生活における子どもの成長 【事前学修】：中学校・高校の家庭科や公民科で、家庭というものがどのような定義されているのかについて調べ整理する。 【事後学修】：授業を振り返り、要点を整理する。</p>
第5回	<p>親になる過程 子どもの社会化と親の自己社会化 【事前学修】：子育てに関する女性のジェンダーについて調べ整理する。 【事後学修】：授業を振り返り、要点を整理する。</p>
第6回	<p>父親の育児 ジェンダー規範に抗うことの意味 【事前学修】：子育てに関する男性のジェンダーについて調べ整理する。 【事後学修】：授業を振り返り、要点を整理する。</p>
第7回	<p>ひとり親家族と子どもの生活 家族形態に着目した子どもの発達環境 【事前学修】：参考書pp.40-54を読み、子どもの貧困について調べ整理する。 【事後学修】：授業を振り返り、要点を整理する。</p>
第8回	<p>子どもにとっての家庭外の世界 学校に通うことに対する意義の再検討 【事前学修】：イヴァン・イリイチの「脱学校論」について調べ、学校に通うことの意義について調べ整理する。 【事後学修】：授業を振り返り、要点を整理する。</p>
第9回	<p>子育て支援の社会的制度 ファミリーサポートに関する日本の環境 【事前学修】：厚生労働省「子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター事業）」について調べ整理する。 【事後学修】：授業を振り返り、要点を整理する。</p>
第10回	<p>地域の教育力とはなにか 地域社会における子どもの生活環境 【事前学修】：「社会化」の概念について調べ整理する。 【事後学修】：授業を振り返り、要点を整理する。</p>
第11回	<p>教育機関等における子どもの生活 幼稚園と保育所の発達環境 【事前学修】：幼稚園と保育所の制度的な違い、共通点について調べ整理する。 【事後学修】：授業を振り返り、要点を整理する。</p>
第12回	<p>子どもの仲間集団 人間関係のタテ・ナナメ・ヨコ 【事前学修】：青井倫子, 2000, 「幼児の仲間入り場面における規範の機能」『幼年教育研究年報』(22), pp.45-52 (https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/ja/00017847) を読み、子どもの人間関係について整理する。 【事後学修】：授業を振り返り、要点を整理する。</p>
第13回	<p>子どもを対象としたメディアとジェンダー 子どもの生活におけるメディアの影響 【事前学修】：内閣府「低年齢層の子供のインターネット利用環境実態調査調査結果（概要）」(https://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/chousa/h28/net-jittai_child/pdf/gaiyo.pdf) を読み、子どもを取り巻くメディア環境について整理する。 【事後学修】：授業を振り返り、要点を整理する。</p>
第14回	<p>小学校へのトランジション 保育所と小学校の違いを考える 【事前学修】：幼小連携事業を行っている自治体を調べ整理しておくこと。 【事後学修】：授業を振り返り、要点を整理する。</p>
第15回	<p>まとめと振り返り・定期試験(授業内) これまでの学修を整理し、今後の目標を立てる。 【事前学修】：学習を振り返り、自らの学びの良さと課題について整理しておくこと。 【事後学修】：授業を振り返り、要点を整理する。</p>

講義科目名称： 子どもと英語 I

授業コード： 52217000

英文科目名称： Children & English I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	3	2	選択
担当教員			
山口 美穂			
開講曜限	授業形態		
月3	演習		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■子ども教育学科■</p> <p>■2-1 初等教育の教科等の内容に関する専門的知識を有し、教材の内容について分析・解釈し、適切な教材の準備を行うことや、場面に応じた適切な指導方法を工夫することができる</p> <p>■4-1 初等教育・保育・子ども福祉における職務内容と役割を理解し、子どもと関わる専門的職業人としての強い使命感を有している</p>
---------	--

科目の概要・目的	学習指導要領の小学校外国語活動の目標・内容を理解した上で、様々な指導法を理解する。小学校3・4年生で使用されているLet's Try!1・2の教科書を使った指導計画の作成と模擬授業により授業の実践力を高める。
学習到達目標	小学校における外国語活動（中学年）の指導、評価に関する基礎的な知識や指導技術を身に付ける。 1. 小学校の外国語活動や外国語科の目標、内容について理解している。 2. Let's Try!1・2の教科書構成、内容の意義を理解している。 3. 小学校外国語活動で実施されている基本的な活動の指導法を理解し、その実践力を身に付ける。 4. 学習状況の評価について理解し、学習到達目標に基づいた指導計画を立案、模擬授業を実践することができる。
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 グループディスカッション グループごとの実技発表</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 小課題 実技の提出</p> <p>【その他特記事項】 ペアやグループでの会話をする場面が多くある。</p>
成績評価の方法	【評価項目】 【割合】 課題レポート（40%）・小課題レポート（20%）・模擬授業（30%）・ディスカッションや授業プリントなど平常点（10%）
教科書・テキスト	Let's Try!1 Let's Try!2（文部科学省） 小学校学習指導要領外国語科・外国語活動解説（文部科学省）
参考書	小学校学習指導要領（文部科学省）、小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック（文部科学省）、コアカリキュラム対応小・中学校で英語を教えるための必携テキスト（東京書籍）
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	事前学修として次回の学習内容について、調べておく。 事後学修として学んだ内容を実践に生かすための手立てをまとめる。 模擬授業の準備や、練習をする。
履修上の留意事項	模擬授業のための教材研究、教材作り、指導案作成のための時間が必要である。
オフィスアワー	水曜日5限 その他（必要に応じてメールで連絡）1号館314研究室
課題に対するフィードバックの方法	毎時間の授業プリントは、添削して返却し評価を画面で伝える 課題レポートは都度画面にて行う。 実技については終了後授業時間内に口頭で行う。
実務経験	小学校教諭 中学校教諭 主幹教諭 教頭
その他	常時、学習相談に応じます。（事前にメールで連絡してください。）

授業の内容	<p>第1回 オリエンテーション これまで小学校外国語活動・小学校外国語科の変遷を理解する。 【事前学修】自己の課題を明らかにしておく。 【事後学修】自己の到達目標をもつ。</p> <p>第2回 外国語活動の目標・内容 外国語活動の目標・内容を理解する。 【事前学修】授業で扱うテーマを予習し、ノートにまとめる 【事後学修】重点をまとめておく。</p> <p>第3回 単語の習得 単語の導入の指導 単語習得指導のための様々なゲームを体験的に身につける。 【事前学修】単語の導入の指導法を調べる。 【事後学修】単語導入の実技練習をする。</p> <p>第4回 英語の歌 英語の歌による指導の効果 英語の歌を使った活動を体験する。 【事前学修】小学生に歌わせたい英語の歌を調べる。 【事後学修】重点をまとめる。</p>
-------	---

第5回	英語の絵本を使った指導 英語の絵本を使った指導の効果 読み聞かせを体験する。 【事前学修】英語の絵本について調べる。 【事後学修】小課題レポートを作成して提出する。
第6回	教材研究1 Let's Try!1の構成とその指導法について理解する。 【事前学修】テキスト指定範囲を事前に熟読する。 【事後学修】Let's Try!1を振り返っておく。
第7回	教材研究2 Let's Try!2の構成とその指導法について理解する。 【事前学修】テキスト指定範囲を事前に熟読する。 【事後学修】Let's Try!2を振り返っておく。
第8回	ICTを活用した指導 デジタル教科書の効果的な利用 ICTを使った指導を理解する。 【事前学修】テキスト指定範囲を事前に熟読する 【事後学修】指導例をまとめておく。
第9回	単元指導計画・単位時間の指導計画 単元指導計画・単位時間の指導計画の作成方法を理解し、実際に作成する。 【事前学修】テキスト指定範囲を事前に熟読する。 【事後学修】単元指導計画・単位時間の指導計画を作成する。
第10回	模擬授業の準備 模擬授業のための授業計画 教材研究、授業準備をする。 【事前学修】模擬授業をする単元の指導案を作成する。 【事後学修】模擬授業の指導単元 指導時間を決める。
第11回	模擬授業1 Let's Try!1の模擬授業の発表① ・Unit1 Hello! あいさつしてともだちになろうの単元の授業指導を担当グループが発表する。 ・発表について討論する。 ・Unit 2 How are you? ごきげんいかが?の単元の授業指導を担当グループが発表する。 ・発表について討論する。 【事前学修】模擬授業の準備をする。 【事後学修】模擬授業の省察レポートを作成する。
第12回	模擬授業2 ②Let's Try!1の模擬授業の発表② ・Unit 3 How many? 数えてあそぼうの単元の授業指導を担当グループが発表する。 ・発表について討論する。 ・Unit 4 I like blue. すきなものをつたえようの単元の授業指導を担当グループが発表する。 ・発表について討論する。 【事前学修】模擬授業の準備をする。 【事後学修】模擬授業の省察レポートを作成する。
第13回	模擬授業3 ②Let's Try!1の模擬授業の発表③ ・Unit 5 What do you like? 何が好き?の単元の授業指導を担当グループが発表する。 ・発表について討論する。 ・Unit 6 ALPHABET アルファベットとなかよしの単元の授業指導を担当グループが発表する。 ・発表について討論する。 【事前学修】模擬授業の準備をする。 【事後学修】模擬授業の省察レポートを作成する。
第14回	模擬授業4 Let's Try!1の模擬授業の発表④ ・Unit 7 This is for you. カードを送ろうの単元の授業指導を担当グループが発表する。 ・発表について討論する。 ・Unit 8 What's this? これなあに?の単元の授業指導を担当グループが発表する。 ・発表について討論する。 【事前学修】模擬授業の準備をする。 【事後学修】省察レポート 各発表への感想をまとめて提出する。
第15回	評価方法 児童へのフィードバック方法を理解する。これまでのまとめのレポートを作成する。 【事前学修】評価方法について調べる。 【事後学修】模擬授業の最終指導案と自分の模擬授業についての振り返りをレポートにまとめて提出する。

講義科目名称： 子ども体育 I

授業コード： 52217300

英文科目名称： Physical Education for Children I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	2	1	選択
担当教員			
村田 トオル			
開講曜限	授業形態		
月5	演習		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■子ども教育学科■</p> <p>■2-1 初等教育の教科等の内容に関する専門的知識を有し、教材の内容について分析・解釈し、適切な教材の準備を行うことや、場面に応じた適切な指導方法を工夫することができる</p> <p>■2-2 保育内容に関する専門的知識を有し、教材となる素材の内容について分析・解釈し、適切な教材の準備を行うことや、子どもの興味関心などを踏まえて、保育の内容に即した適切な保育の計画を工夫することができる。</p>
---------	---

科目の概要・目的	「子どもの生活は遊びである」と言われるが、幼児期の子どもの遊びは身体活動を伴うことが多い。そして、これらの身体活動を伴う遊びは、子どもの心身の発育・発達に大きく関与している。本授業では、幼児期の子どもにとっての運動遊びとは何か、また、運動遊びの指導はどのように進めていけばよいかなど、単に動きの指導や遊びを考える指導に留まらず、心身の発達を視野において保育活動の一環としての運動遊びの指導ができる内容とする。
学習到達目標	1. 実技実習によって各種運動能力を高め、各技能の獲得過程から、子どもの補助ならびに援助の仕方を学び、指導力を身に付ける。 2. 器具・用具の配置や使い方を工夫し、安全面や発達段階や運動課題の難易度を配慮して、運動遊びを構成できるようにする。
授業の方法	【アクティブラーニングの取り入れ状況】 必要に応じてグループワーク等を行う。 【ICTを利用した双方向授業】 状況を鑑み実施する。 【その他特記事項】 なし
成績評価の方法	【評価項目】 【割合】 授業参加態度70% 実技テスト30%
教科書・テキスト	適宜配布する。
参考書	幼児期運動指針（スポーツ庁）
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	積極的にからだを動かす習慣をつけるとともに、日頃から子どもたちの健康や心身の状況についても観察することを望む。
履修上の留意事項	初回に指示した内容にしたがって履修すること。
オフィスアワー	4-502 金以外の昼休み
課題に対するフィードバックの方法	授業時間やオフィスアワーの質疑応答などによる。
実務経験	・スポーツ財団職員（管理職） ・健康運動指導士としての講師活動
その他	特になし

授業の内容	<p>1回目 ガイダンス・からだほぐし 授業の進め方など 【事前学修】 幼児期の運動発達について調べておく 【事後学修】 器具を使用しない遊びをまとめておく</p> <p>2回目 ボールを使った運動遊び 幼児期のつく・蹴る・打つ 【事前学修】 ルールがあるボールを使った遊びを考案する 【事後学修】 子どもに遊び方を伝えるようにまとめておく</p> <p>3回目 身体感覚を養う運動遊び 幼児期の跳ぶ・跳ねる・いろいろなジャンプ 【事前学修】 跳ぶ動作の特性について調べておく 【事後学修】 跳ぶ動作が入った遊びを考案する</p> <p>4回目 新聞紙を使った運動遊び 新聞紙を用いた様々な運動遊び 【事前学修】 新聞紙の特性を調べておく 【事後学修】 新聞紙を使った遊びを考案する</p> <p>5回目 縄・輪・棒を使った運動遊び①</p>
-------	---

6回目	<p>幼児期の短縄跳び・長縄跳び 【事前学修】 縄の特性を調べておく 【事後学修】 縄を使った遊びを考案する</p> <p>縄・輪・棒を使った運動遊び②</p>
7回目	<p>幼児期の跳ぶ・潜る・回す・引く 【事前学修】 鉄棒の特性を調べておく 【事後学修】 鉄棒を使った遊びを考案する</p> <p>年代別リレー遊び</p> <p>走力向上を目指したプログラム体験 【事前学修】 走ることの意義を調べておく 【事後学修】 リレー遊びを考案する</p>
8回目	<p>マット・跳箱・平均台を使った運動遊び①</p> <p>前転・後転・倒立・側転 【事前学修】 幼児期のマット運動について調べておく 【事後学修】 マットを使った遊びを考案する</p>
9回目	<p>マット・跳箱・平均台を使った運動遊び②</p> <p>開脚跳び・閉脚跳び 【事前学修】 幼児期の跳び箱運動について調べておく 【事後学修】 跳び箱を使った遊びを考案する</p>
10回目	<p>サーキット</p> <p>大型器具であるマット・跳箱・平均台を使った運動遊び 【事前学修】 いろいろなサーキット遊びについて調べておく 【事後学修】 サーキット遊びを考案する</p>
11回目	<p>創作ダンス</p> <p>ダンスを創作し、相互評価をする 【事前学修】 創作ダンスの意義について調べておく 【事後学修】 発表ができるよう練習する</p>
12回目	<p>伝承遊び体験</p> <p>グループワーク等を行う 【事前学修】 各自教材研究を行う 【事後学修】 作成した内容をグループで確認しておく</p>
13回目	<p>学生企画</p> <p>子どもが楽しく取り組める遊びを考案する 【事前学修】 準備物などを把握しておく 【事後学修】 修正点などをまとめておく</p>
14回目	<p>実技試験（前半）</p> <p>指定された種目について試験を行う 【事前学修】 種目について調べておく 【事後学修】 修正点などをまとめておく</p>
15回目	<p>実技試験（後半） およびまとめ</p> <p>指定された種目についての試験および全体のふりかえり 【事前学修】 練習をしておく 【事後学修】 修正点などをまとめておく</p>

講義科目名称： 初等教科教育法（英語）

授業コード： 52217900

英文科目名称： Education Methodology (English) of Elementary

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	3	2	選択
担当教員			
山口 美穂			
開講曜限	授業形態		
木5	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■子ども教育学科■</p> <p>■2-1 初等教育の教科等の内容に関する専門的知識を有し、教材の内容について分析・解釈し、適切な教材の準備を行うことや、場面に応じた適切な指導方法を工夫することができる</p> <p>■4-1 初等教育・保育・子ども福祉における職務内容と役割を理解し、子どもと関わる専門的職業人としての強い使命感を有している</p>
---------	--

科目の概要・目的	「授業実践に必要な力」（聞く・話す活動を取り入れ、英語で会話することに慣れる）「英語に関する背景的な知識」（音声・語彙・文構造・文法など）及び指導法の裏付けとなる小学校外国語科に取り入れられている「第二言語習得理論」について学ぶ。実際の小学校外国語の授業映像を視聴して、Small Talkや絵本を使った指導、タスク活動などの指導法を学ぶ。また、模擬授業を行うことにより、指導案立案及び教科指導の実践力を身につける。
学習到達目標	小学校における外国語活動（中学年）・外国語（高学年）の学習、指導、評価に関する基礎的な知識や技能を身につける。 1. 小学校外国語教育の変遷、小学校の外国語活動や外国語科の目標、内容について理解している。 2. 児童期の第二言語習得の特徴について理解している。 3. 小学校外国語科で実施されているSmall TalkやTeacher Talkなど基本的な活動の指導法を理解し、その実践力を身に付ける。 4. 教材選定や教材研究の仕方を学び、ALTとのチームティーチング、ICTの効果的な指導、学習状況の評価について理解し、学習到達目標に基づいた指導計画を立案、模擬授業を実践することができる。
授業の方法	【アクティブラーニングの取り入れ状況】 グループディスカッション グループごとの実技発表 【ICTを利用した双方向授業】 小課題 実技の提出 【その他特記事項】 ペアやグループで会話をする場面が多くある。
成績評価の方法	【評価項目】【割合】 課題レポート（40%）・小課題レポート（20%）・実技、模擬授業（30%）・毎時間の活動の参加度（10%）
教科書・テキスト	小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）Here we go! 5・6（光村図書）
参考書	小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック（文部科学省）（インターネットよりダウンロード可） 中村典夫 鈴木渉 巽徹 林裕子 矢野淳（2019）「コア・カリキュラム対応 小・中学校で英語を教えるための必修テキスト」東京書籍
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	小課題レポート、単元指導計画、指導案の提出がある。 実技動画の提出がある。
履修上の留意事項	小学校英語は近年必修化となった教科であるため、若い教員が教科の責任者を任されることが多い。基本的な理論と新しい指導法を身に付けられるように積極的に参加してほしい。
オフィスアワー	水曜日 5限 その他（必要に応じてメールで連絡） 1号館 314研究室
課題に対するフィードバックの方法	毎時間の授業のプリントは添削して、書面にて評価する。 小課題レポートは都度書面にて行う。 実技については終了後授業時間内に口頭で行う。
実務経験	小学校教諭 中学校教諭 主幹教諭 教頭
その他	常時、学習相談に応じます。（事前にメールで連絡してください。）
授業の内容	第1回 オリエンテーション「小学校外国語科の今」 実際の小学校外国語科の授業映像を視聴して現状と課題を掴む 【事前学修】自己の課題を明らかにする。 【事後学修】自己の到達目標をもつ。 第2回 学習指導要領の理解 学校外国語活動・外国語の目標・内容を理解する。 【事前学修】テキストの指定範囲を熟読しておく。 【事後学修】重点をまとめておく。 第3回 小・中・高等学校の接続 小・中・高の英語科の目標・内容を比較。 【事前学修】テキストの指定範囲を熟読しておく。

第4回	<p>【事後学修】小学校外国語科の役割について小課題レポート 第二言語習得理論の理解 第二言語習得に関する代表的な学説を理解する。 【事前学修】テーマについて予習しておく。 【事後学修】重点をまとめておく。</p>
第5回	<p>児童の実態と動機づけ 授業の導入部分における実技やTT指導者の役割分担。 【事前学修】テーマについて調べておく。 【事後学修】動機づけの方法をまとめる。</p>
第6回	<p>語彙指導 絵本を使った指導の効果 フォニックスを活かした指導・絵本指導 【事前学修】フォニックスについて調べておく。 【事後学修】絵本の読み聞かせ練習</p>
第7回	<p>アウトプット理論 Small Talk, Teacher Talkの実践 体験的理解と指導実技 【事前学修】テーマについて調べておく。 【事後学修】クラスルームイングリッシュの練習。小課題レポート・Small Talk の【目的】【場面】【状況】の設定と予想される会話の事例をまとめる。</p>
第8回	<p>「書くこと」「読むこと」文字指導の在り方 他教科との連携 文字言語との出会わせ方 CLILについて理解する。ICT活用の実技 【事前学修】事前に出された課題について調べる。 【事後学修】児童の誤りやすい例をまとめておく。CLILの題材となる例を考える。</p>
第9回	<p>教材研究と指導計画 評価方法の例、学習到達目標 CAN-DOリストの活用 ALTとのチームティーチングの案を作成する。 【事前学修】テーマについて調べておく。 【事後学修】学習状況の評価例作成</p>
第10回	<p>学習状況の評価 評価方法の例、学習到達目標 CAN-DOリストの活用 ALTとのチームティーチングの案を作成する。 【事前学修】テーマについて調べておく。 【事後学修】学習状況の評価例作成</p>
第11回	<p>模擬授業1 模擬授業発表 【事前学修】実技練習 【事後学修】小課題レポート・発表者は自分の模擬授業についての省察。発表者以外は 模擬授業の成果と課題をまとめる。</p>
第12回	<p>模擬授業2 模擬授業発表 【事前学修】実技練習 【事後学修】小課題レポート・発表者は自分の模擬授業についての省察。発表者以外は 模擬授業の成果と課題をまとめる。</p>
第13回	<p>模擬授業3 模擬授業発表 【事前学修】実技練習 【事後学修】小課題レポート・発表者は自分の模擬授業についての省察。発表者以外は 模擬授業の成果と課題をまとめる。</p>
第14回	<p>模擬授業4 模擬授業発表 【事前学修】実技練習 【事後学修】小課題レポート・発表者は自分の模擬授業についての省察。発表者以外は 模擬授業の成果と課題をまとめる。</p>
第15回	<p>まとめ まとめと課題の指示 【事前学修】これまでのプリントを熟読しておく。 【事後学修】これまでの学習について振り返る。課題レポートに取り組む。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	3	1	選択
担当教員			
早川 一穂			
開講曜限	授業形態		
水4、5	演習		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■子ども教育学科■</p> <p>■2-3 一人一人の子どものケア・ニーズの背景を理解し、社会的養護を展開することができる</p> <p>■4-2 子どもの権利を理解し、それを尊重して、公平かつ受容的・共感的な態度で子どもと関わることができる</p>
---------	--

科目の概要・目的	子どもたちが「社会的養護のもとで生活する」ことの背景や実際を主に「子ども虐待」や「子どもの権利」の観点から学び、整理して理解を深める。また、子どものトラウマケアと生活上での支援、それぞれの家族の在り方・再統合に向けた家族支援、社会資源を活用した自立に向けた支援など、実践において必要となる知識・アセスメント能力の基礎を身につけられるように取り組んでいく。
----------	---

学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的養護の現状を理解し、基本的な支援の枠組み・流れを理解する。 ・社会的養護における子ども支援・家族支援を理解し、職種による役割の違い・専門性について考えることができる。 ・社会的養護下で生活する子どもの背景・現状へのアセスメントを行い、それに基づいてどのような日常での生活支援を行うことができるのかを考え、議論することができる。 ・社会的養護における家族支援・自立支援について理解し、関係機関との連携・社会資源の活用について考えることができる。
--------	--

授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <p>ディスカッション、グループワーク</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <p>特になし</p> <p>【その他特記事項】</p> <p>特になし</p>
-------	--

成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <p>平常点（レポートを含む）、定期試験（レポート）</p> <p>【割合】</p> <p>平常点（レポートを含む）40%、定期試験（レポート）60%</p>
---------	---

教科書・テキスト	授業時に随時プリント等を配布します。
----------	--------------------

参考書	<p>西澤哲「子どものトラウマ」講談社現代新書、1997年</p> <p>相澤仁・奥山真紀子編著「生活の中の養育・支援の実際（やさしくわかる社会的養護シリーズ4）」明石書店、2013年</p> <p>野坂祐子「トラウマインフォームドケア：“問題行動”を捉えなおす援助の視点」日本評論社、2019年</p> <p>吉村美由紀・吉村謙・藤田哲也編著『「そだちあい」のための子ども家庭支援』ミネルヴァ書房、2022年</p>
-----	---

授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	<ul style="list-style-type: none"> ・毎授業後には授業内容の復習を行うこと ・日常生活の中で、社会的養護に関連する情報を幅広く収集すること
---------------------------	--

履修上の留意事項	初回オリエンテーション時に伝えます。
----------	--------------------

オフィスアワー	授業終了後の教室にて
---------	------------

課題に対するフィードバックの方法	レポートのフィードバックは必要な場合に適宜行います。
------------------	----------------------------

実務経験	児童指導員、公認心理師
------	-------------

その他	特になし
-----	------

授業の内容	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p> 授業の進め方・全体の見通し、成績評価の説明等</p> <p> 【事前学修】シラバスを事前に読んでおく</p> <p> 【事後学修】社会的養護の関連で学びたいこと・気になることをまとめておく</p> <p>第2回 社会的養護とは① 関係機関とその役割</p> <p> 社会的情勢から近年の社会的養護の動向を学び、入所・措置の流れや関係機関の役割を理解する。その過程において、子どもの権利条約がどのように反映されているのかを考える。</p> <p> 【事前学修】社会的養護に関わる機関とその役割を調べる</p> <p> 【事後学修】授業後に小レポートを作成し、次回授業で提出する</p>
-------	--

第3回	<p>社会的養護とは② 各施設の特徴と里親制度 社会的養護に関わる各施設の特徴や里親制度について学び、子ども・家族を支える仕組みを理解する。全国統計等から施設入所している子ども・家族の状況を概観する。 【事前学修】社会的養護の各施設、里親制度について調べる 【事後学修】授業後に小レポートを作成し、次回授業で提出する</p>
第4回	<p>施設養育について① アセスメントと支援計画 施設入所している子どもの生活における支援の実際を学び、ソーシャルワークの流れを理解する。また、どのように家族・子どもについてアセスメントを行うのか、何に基づいて支援計画をたてるのかを学ぶ。 【事前学修】アドミッションケア・インケア・リービングケア・アフターケアについて、それぞれの言葉の意味を調べる 【事後学修】授業後に小レポートを作成し、次回授業で提出する</p>
第5回	<p>施設養育について② アタッチメント・愛着 アタッチメント・愛着の発達過程につまずきがある子どもの背景や実際の姿を学び、生活における支援について考える。 【事前学修】アタッチメント・愛着について調べる 【事後学修】授業後に小レポートを作成し、次回授業で提出する</p>
第6回	<p>施設養育について③ 発達と障害 発達の遅れや身体の不自由さ等のある子どもの背景や実際の姿を学び、生活における支援について考える。 【事前学修】重症心身障害・身体障害・知的障害・発達障害について調べる 【事後学修】授業後に小レポートを作成し、次回授業で提出する</p>
第7回	<p>子ども虐待とトラウマ 子ども虐待の基礎知識、虐待が子どもに及ぼす影響・トラウマについて学び、生活においてどのような困難が生じるのかを理解する。 【事前学修】虐待の種別、トラウマについて調べる 【事後学修】授業後に小レポートを作成し、次回授業で提出する</p>
第8回	<p>トラウマインフォームドケア トラウマを抱えた子どもにどのような支援があるのかを学び、施設・学校・幼稚園や保育園などの事例から支援・ケアについて考える。 【事前学修】トラウマインフォームドケアについて調べる 【事後学修】授業後に小レポートを作成し、次回授業で提出する</p>
第9回	<p>生い立ち・ライフストーリーワーク 社会的養護下で育つ子どもが自身の生い立ち・家族のことをどのように捉え、支援者がどのように寄り添って関わっているのかを学ぶ。 【事前学修】自分の生い立ちについて知っていることを整理する 【事後学修】授業後に小レポートを作成し、次回授業で提出する</p>
第10回	<p>家族支援・ファミリーソーシャルワーク 社会的養護における家族支援の動向、家族再統合を目指す過程での子ども・保護者への支援を学ぶ。 【事前学修】社会的養護における家族と子どもの交流状況を調べる 【事後学修】授業後に小レポートを作成し、次回授業で提出する</p>
第11回	<p>自立に向けた支援：リービングケア 青年期の子どもが抱える葛藤・不安について学び、奨学金の充実・措置年齢の延長等の制度的な変遷、自立に向けて活用できる社会資源や支援について理解する。また、障害福祉分野における青年期の支援・近年の動向についても学ぶ。 【事前学修】施設入所児童が利用できる奨学金について調べる 【事後学修】授業後に小レポートを作成し、次回授業で提出する</p>
第12回	<p>退所後の支援：アフターケア 施設等から退所した後の支援、社会資源を活用したアフターフォローの実際例を学び、現行の制度上の課題について考える。 【事前学修】生活保護等の社会的セーフティネットについて調べる 【事後学修】授業後に小レポートを作成し、次回授業で提出する</p>
第13回	<p>地域・関係機関との連携について 社会的養護に関わる各機関とどのように連携して子ども・家族支援を展開していくのかを学び、地域に根ざした施設のあり方を考える。 【事前学修】地域にどのような関係機関があるのかを調べる 【事後学修】授業後に小レポートを作成し、次回授業で提出する</p>
第14回	<p>社会で子ども・保護者を支える仕組みについて 社会的養護の周辺領域を含めて、子ども・保護者に関する現状の支援制度・サポートの仕組みを整理して学ぶ。 【事前学修】子育て支援の制度・支援内容について調べる 【事後学修】授業後に小レポートを作成し、次回授業で提出する</p>
第15回	<p>まとめ これまでの授業で学んだことを整理して振り返り、社会的養護の課題・今後の展望について考える。 【事前学修】これまでの授業内容を振り返っておく 【事後学修】授業全体を通して考えたこと・感じたことをまとめる</p>
定期試験	

講義科目名称： 子ども家庭支援論

授業コード： 52218500 52218510

英文科目名称： Theories of Family Support for Children

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	2	2	選択
担当教員			
黒澤 祐介			
開講曜限	授業形態		
火2、3	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■子ども教育学科■</p> <p>■2-2 保育内容に関する専門的知識を有し、教材となる素材の内容について分析・解釈し、適切な教材の準備を行うことや、子どもの興味関心などを踏まえて、保育の内容に即した適切な保育の計画を工夫することができる。</p> <p>■2-4 子ども・家庭をめぐる今日的・社会的諸課題について多面的に捉えることができる</p>
科目の概要・目的	現代の社会では、さまざまな形で家庭支援・子育て支援の取り組みが行われている。家庭支援を行っていくためには、現代における家庭の状況を知り、子育て関連の政策の動向を学ぶ。また、保育所・幼稚園・地域子育て支援センターなど、子育て支援の具体的な取り組みから、家庭支援・子育て支援の方法について学ぶ。
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会における、子育て家庭の現状について理解できる ・家庭支援・子育て支援の政策の歴史的変遷を理解できる ・子育て支援の具体的な取り組みを学び、家庭支援の方法を身につける ・家庭支援を行うものとしての態度を身につける
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 講義では必要に応じてグループワーク・発表を行う</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 学内システム等を利用し、教員と学生、また学生同士が意見を交流できるようにする</p> <p>【その他特記事項】 なし</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】 授業ごとの小課題 定期試験(授業内)(筆記)</p> <p>【割合】 授業ごとの小課題 20% 定期試験(授業内)(筆記) 80%</p>
教科書・テキスト	松本峰雄監修(2023)『子ども家庭支援論演習ブック』ミネルヴァ書房
参考書	特に指定しない
授業時間外の学修について(事前・事後学習について)	<p>①子育て家庭に関するニュースなどに関心をもつこと。</p> <p>②講義後に内容に関する小レポートを行うので、予習・復習をしておくこと。</p>
履修上の留意事項	適宜、ディスカッション、発表を行ってもらうので、主体的な態度での受講を望みます。
オフィスアワー	水曜日3限目
課題に対するフィードバックの方法	課題については、メール、学内システム等により添削を行う
実務経験	介護職員
その他	特になし
授業の内容	<p>第1回 子ども家庭支援の意義と目的 子ども家庭支援の意義について理解し、子どもを取り巻く環境、および、少子化社会対策と子育て支援について知る。 【事前学修】テキスト6頁から13頁を読み、社会福祉・子ども家庭福祉の専門用語を振り返り、調べておく。 【事後学修】授業資料を整理し、現代の子ども家庭支援の意義についてノートにまとめる。</p> <p>第2回 子ども家庭支援の内容と対象 児童福祉法、保育所保育指針、幼稚園教育要領に示されている子ども家庭支援の内容と対象について学ぶ。 【事前学修】テキスト14頁から23頁を熟読し、専門用語について下調べしておく。 【事後学修】授業資料を整理し、子ども家庭支援の内容と対象についてノートにまとめる。</p> <p>第3回 保育の専門性を生かした子ども家庭支援とその意義 保育所および保育士の特性を生かした子育て支援について学び、保育士等が備えておくべき子ども家庭支援の専門性について考える。 【事前学修】テキスト26頁から37頁を熟読し、専門用語について下調べしておく。 【事後学修】授業資料を整理し、保育の専門性と子育て支援についてノートにまとめる。</p>

第4回	<p>子どもの育ちの喜びの共有</p> <p>子どもの育ちの喜びを共有することが保護者にとってどのような意味を持つのかについて、保育所保育指針や幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領の内容から考える。</p> <p>【事前学修】テキスト38頁から47頁を事前に熟読し、専門用語について下調べしておく。</p> <p>【事後学修】授業資料を整理し、子どもの育ちの喜びの共有についてノートにまとめる。</p>
第5回	<p>保護者および地域が有する自ら実践する力の向上に資する支援</p> <p>保護者および地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援を行うために、地域の子育て家庭を取り巻く環境を把握し、保育士に求められる視点を考える。</p> <p>【事前学修】テキスト48頁から59頁を事前に熟読し、専門用語について下調べしておく。</p> <p>【事後学修】授業資料を整理し、子育てを自ら実践する力の向上についてノートにまとめる。</p>
第6回	<p>保育士に求められる基本的態度①</p> <p>バイスティックの7原則をはじめ、ソーシャルワークの技術について学び、保護者との相互理解とエンパワメントについて理解する。</p> <p>【事前学修】テキスト60頁から73頁を事前に熟読し、専門用語について下調べしておく。</p> <p>【事後学修】授業資料を整理し、エンパワメントについてノートにまとめる。</p>
第7回	<p>保育士に求められる基本的態度②</p> <p>子どもや保護者との信頼関係を築くためコミュニケーションスキルの基本を学び、ケースワークの手法について理解する。</p> <p>【事前学修】テキスト74頁から87頁を事前に熟読し、専門用語について下調べしておく。</p> <p>【事後学修】授業資料を整理し、コミュニケーションスキルについてノートにまとめる。</p>
第8回	<p>家庭の状況に応じた支援</p> <p>家庭の状況に応じた支援を行う上で保育者に求められる姿勢を理解し、子どもの最善の利益を考慮すること、子どもと保護者の困りごとに着目することを学び、継続的な支援の必要性について知る。</p> <p>【事前学修】テキスト88頁から101頁を事前に熟読し、専門用語について下調べしておく。</p> <p>【事後学修】授業資料を整理し、見落としやすい家庭の状況についてノートにまとめる。</p>
第9回	<p>地域資源の活用と関係機関との連携</p> <p>保育所の保護者のみならず、地域の保護者等に対する支援のために、地域の多様な資源の活用と自治体・関連機関との連携・協力に関する基本的事項を理解し、実際のあり方や展開について考える。</p> <p>【事前学修】テキスト102頁から113頁を事前に熟読し、専門用語について下調べしておく。</p> <p>【事後学修】授業資料を整理し、地域の関係機関との連携についてノートにまとめる。</p>
第10回	<p>子育て家庭の福祉を図るための社会資源</p> <p>フォーマルな社会資源とインフォーマルな社会資源について学び、行政や児童福祉施設などの物的資源、専門職などの人的資源、各種手当などの制度的支援の実態を知り、その活用方法について考える。</p> <p>【事前学修】テキスト116頁から127頁を事前に熟読し、専門用語について下調べしておく。</p> <p>【事後学修】授業資料を整理し、地域の社会資源についてノートにまとめる。</p>
第11回	<p>子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進</p> <p>子育て支援政策の流れ、少子化対策から子ども・子育てビジョン、子ども・子育て支援新制度への変遷を学ぶ。</p> <p>【事前学修】テキスト128頁から135頁を事前に熟読し、専門用語について下調べしておく。</p> <p>【事後学修】授業資料を整理し、子ども・子育て支援新制度についてノートにまとめる。</p>
第12回	<p>保育所等を利用する子ども家庭への支援</p> <p>児童福祉法、保育所保育指針の改正や地域共生社会の実現に向けた政策的背景と保育所等の相談支援機能の関連を理解し、事例を用いて具体的な支援のあり方を学ぶ。</p> <p>【事前学修】テキスト138頁から151頁を事前に熟読し、専門用語について下調べしておく。</p> <p>【事後学修】授業資料を整理し、子ども家庭支援の留意点についてノートにまとめる。</p>
第13回	<p>地域の子育て家庭への支援</p> <p>子育て家庭を支えるための地域づくりの重要性を理解し、地域の子育て家庭の実際から支援者の姿勢を学ぶ。</p> <p>【事前学修】テキスト152頁から165頁を事前に熟読し、専門用語について下調べしておく。</p> <p>【事後学修】授業資料を整理し、地域子ども・子育て支援事業についてノートにまとめる。</p>
第14回	<p>要保護児童およびその家庭に対する支援</p> <p>要保護児童の現状と子どもの権利について理解し、保育所による要保護児童等に対する支援について、予防的支援や関係機関との連携による支援について学ぶ。</p> <p>【事前学修】テキスト166頁から175頁を事前に熟読し、専門用語について下調べしておく。</p> <p>【事後学修】授業資料を整理し、保育所における要保護児童等に対する予防的支援についてノートにまとめる。</p>
第15回	<p>子育て支援に関する課題と展望、定期試験（筆記）</p> <p>子育て支援に関する包括的な支援体制の整備について知り、支援の質の向上について考える。また、授業内で試験を行う。</p> <p>【事前学修】テキスト170頁から180頁を事前に熟読し、専門用語について下調べしておく。</p> <p>【事後学修】授業資料を整理し、支援者の質の向上についてノートにまとめる。</p>

講義科目名称： 子ども家庭支援の心理学

授業コード： 52218800 52218810

英文科目名称： Psychology of Family Support for Children

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	2	2	選択
担当教員			
高木 典子			
開講曜限	授業形態		
火2、3	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■子ども教育学科■</p> <p>■1-1 子どもの発達に関する基本的知識を有し、子ども一人一人の特性や心身の状況を多面的に捉えることができる</p> <p>■2-4 子ども・家庭をめぐる今日的・社会的諸課題について多面的に捉えることができる</p>
---------	--

科目の概要・目的	1年次の「保育の心理学」や「教育心理学」における学びをベースとして、生涯発達という視点から、発達の諸特徴や発達課題、初期経験の重要性について学ぶ。また、子どもの発達における家庭の意義や機能について学び、親子関係が発達に及ぼす影響や家族という単位での発達について考える。さらに、子育て家庭のおかれている社会的現状や課題、それによって子どもたちに起きている心の問題などを知ることで、子どもとその家庭を包括的に捉えた支援を考える視点を養成する。
学習到達目標	<p>①生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を修得し、初期経験の重要性や発達段階ごとの発達課題の意義がわかる。</p> <p>②家族・家庭の意義や機能を理解した上で、家族・家庭という単位での発達という視点を得ることができる。</p> <p>③子育て家庭の置かれている社会的現状や課題を具体的に述べることができる。</p> <p>④子どもの精神保健について理解し、その課題について具体的に述べるができる。</p> <p>⑤子どもとその家庭の包括的な支援とはどういうことかがわかる。</p>
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 適宜、グループディスカッションを取り入れる。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 事後学修とその振り返りに、Teamsを利用する。</p> <p>【その他特記事項】 特になし</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】 定期試験（筆記）、授業内小テスト、課題、受講態度</p> <p>【割合】 定期試験（筆記）（55%）、小テスト4回(20%)、受講態度と課題の取組み(25%)の総合評価。</p>
教科書・テキスト	沼山博・三浦主博編著「子どもとかかわる人のための心理学」萌文書林（←「保育の心理学」のテキスト） 適宜、プリントも配布
参考書	<p>心理科学研究会編「育ちあう乳幼児心理学」有斐閣 三浦正樹編著「発達と教育の心理学」八千代出版 繁多進監修 向田久美子・石井正子編著「新 乳幼児発達心理学」福村出版 本郷一夫・神谷哲司編著「子ども家庭支援の心理学」建帛社 遠藤利彦・佐久間路子・徳田治子・野田淳子著「乳幼児のこころー子育て・子育ての発達心理学」有斐閣アルマ 斎藤勇監修 田中正人編著「図解心理学用語大全」誠文堂新光社 岡本夏木他監修「発達心理学辞典」ミネルヴァ書房 森上史朗・柏女霊峰編「保育用語辞典」ミネルヴァ書房 秋田喜代美監修「保育学用語辞典」中央法規</p>
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	授業で扱える内容には限りがあるので、各自教科書以外にも参考書などで積極的に学びを深めることを期待する。 また、子どもおよび子育て家庭を取り巻く問題について、新聞等を読んで、自分なりのテーマを立てて調べるレポート課題を課す。
履修上の留意事項	<p>保育士資格の必修科目である。</p> <p>1年時の学びを前提として授業を進めるので、保育の心理学・教育心理学以外にも健康子ども学Ⅰ・子ども家庭福祉・保育原理等で学んだ内容を十分に復習しておくことが望ましい。</p> <p>やむを得ず授業を欠席する場合には、メールまたはTeamsチャット機能で連絡し、資料や課題等の配布プリントがあった場合は、次の授業日の前日までに研究室に取りに来ること。授業欠席の場合でも期日までに課題を提出すれば課題点を付ける。</p> <p>毎回の授業に教科書を持参せずに臨んでいる場合には受講停止とすることがある。</p>
オフィスアワー	火曜日の昼休み（12：15-12：45） 上記以外の時間帯でも事前連絡があれば対応可。
課題に対するフィードバックの方法	小テストについては、原則として授業内で解答を確認する。定期テストについては、A-portalで全体にフィードバックを行う。
実務経験	臨床発達心理士
その他	特になし

授業の内容	<p>第1回 ガイダンス / 1年次の学びの振り返り 保育の心理学・教育心理学（発達領域）の復習。 授業の目的と目標の確認。授業の進め方と評価について 【事前学修】保育の心理学、教育心理学の学びを復習しておくこと。 【事後学修】子ども家庭を取り巻く諸問題について、半期に渡って自分で調べるテーマを決めること。</p> <p>第2回 生涯発達について① 生涯発達過程の概観。プリントを中心に、該当する既習ページを適宜確認しながら進める。 【事前学修】発達段階ごとの発達課題について復習しておくこと。 【事後学修】プリントを完成させて、次回授業で提出する。</p> <p>第3回 生涯発達について② プリントを中心に、エリクソンのライフサイクル論に沿って、生涯発達の特徴を振り返る。 【事前学修】エリクソンのライフサイクル論について復習しておくこと。 【事後学修】プリントを完成させて、次回授業で提出する。</p> <p>第4回 生涯発達について③ プリントを中心に、生涯発達の中での初期経験の重要性について、心理面の発達、身体面の発達の両面から説明する。 【事前学修】野生児について、メディアセンター等で文献を調べておくこと。 【事後学修】生涯発達における初期経験の重要性について、ノートにまとめておくこと。</p> <p>第5回 家族・家庭の理解① 小テスト①（生涯発達に関する形成的評価） 家族・家庭の意義と機能 【事前学修】第2～4回の内容をよく復習しておくこと。 【事後学修】家族の役割と様々な家族の形態について、まとめておくこと。</p> <p>第6回 家族・家庭の理解② 家族システムと家族のライフサイクル 【事前学修】教科書p. 198～207を読んで、わからない漢字等があれば調べておくこと。 【事後学修】個人の発達と家族の発達との関連について、よく復習しておくこと。</p> <p>第7回 家族・家庭の理解③ 親にとって子どもとは 女性のライフコースとワークライフバランス 親になることによる発達 【事前学修】教科書p. 222～233を読んで、わからない漢字等があれば調べておくこと。 【事後学修】ライフコースとライフサイクルの違いをよく復習しておくこと。</p> <p>第8回 家族・家庭の理解④ 父親の育児参加 【事前学修】教科書p. 241～248を読んで、わからない漢字等があれば調べておくこと。 【事後学修】父親の育児参加の現状について、新聞等で調べてノートにまとめておくこと。</p> <p>第9回 子育て家庭に関する現状と課題① 小テスト②（家族・家庭の理解の形成的評価） 母親の育児不安・ストレス 女性の就業状況と子育て 【事前学修】第5～8回の内容をよく復習しておくこと。 教科書p. 234～240を読んで、わからない漢字等があれば調べておくこと。 【事後学修】母性神話及び三歳児神話と母親の育児不安との関連についてノートにまとめておくこと。</p> <p>第10回 子育て家庭に関する現状と課題② 多様な子育て家庭への支援 【事前学修】教科書p. 208～213を読んで、わからない漢字等があれば調べておくこと。 【事後学修】多様な子育て家庭における、諸課題をノートにまとめておくこと。</p> <p>第11回 子育て家庭に関する現状と課題③ 特別な配慮を必要とする家庭への支援 【事前学修】教科書p. 214～220を読んで、わからない漢字等があれば調べておくこと。 【事後学修】特別な配慮を必要とする家庭への支援のポイントをノートにまとめておくこと。</p> <p>第12回 子どもの精神保健とその課題① 小テスト③（子育て家庭に関する現状と課題の形成的評価） 子どものこころの健康と生活環境 【事前学修】第9～11回の内容をよく復習しておくこと。 教科書p. 168～172を読んで、わからない漢字等があれば調べておくこと。 【事後学修】子どもの心の問題はどのような形で表されやすいのかについて、よく復習しておくこと。</p> <p>第13回 子どもの精神保健とその課題② 発達障害とは 気になる子どもとどうかわかるか？ 障害児保育とは？ 【事前学修】教科書p. 173～184を読んで、わからない漢字等があれば調べておくこと。 【事後学修】気になる子どもとの関わりで重要だと思ったことをノートにまとめておくこと。</p> <p>第14回 子どもの精神保健とその課題③ 虐待を受けている子どもたち 強いストレスにさらされた子どもたち 【事前学修】教科書p. 185～193を読んで、わからない漢字等があれば調べておくこと。 【事後学修】被虐待経験やその他の強いストレスにさらされている子どもの対応で重要だと思ったことをノートにまとめておくこと。</p> <p>第15回 まとめと試験について 小テスト④（子どもの精神保健とその課題の形成的評価） 子どものこころの健康のために保護者を支える 授業のまとめと試験について 【事前学修】子どもの精神保健とその課題について、復習をしておくこと。</p>
-------	--

	<p>教科書p. 194～197を読んで、わからない漢字等があれば調べておくこと。 【事後学修】子どもとその過程の包括的な支援とは何かについて、ノートにまとめておくこと。</p> <p>定期試験</p>
--	---

講義科目名称： 保育の心理学

授業コード： 52219000 52219010

英文科目名称： Psychology of Nursery Care

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	1	2	必修
担当教員			
高木 典子			
開講曜限	授業形態		
金1、2	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■子ども教育学科■</p> <p>■1-1 子どもの発達に関する基本的知識を有し、子ども一人一人の特性や心身の状況を多面的に捉えることができる</p> <p>■1-2 教育・保育に関する基本的な内容や歴史的変遷、制度などについての専門的知識を有している</p>
---------	---

科目の概要・目的	<p>一生涯に渡る発達過程について、乳幼児期を中心に、その発達の諸特徴を見ていく。また、発達過程の変化を捉える軸として、今までに心理学研究において見い出されてきた主要な発達理論を紹介し、そこからなぜ保育者・教育者になるために子どもの発達を学ぶ必要があるのかを講義する。さらに、子どもの学びと保育との関連についても紹介していく。</p> <p>科目のねらいは、子どもの発達に沿った保育・教育支援のための基礎（土台）作りであり、授業を通して、発達に関する基本的な専門用語を知り、以降の学びにつなげていくことも目的としている。</p> <p>発達は、学生ひとりひとりが今まさに現在進行形でその過程のただ中にあるものである。受講者には、観念的な知識の獲得のみにならないよう、これまでの自身の発達を振り返り、自分の経験と関連づけた学修を主体的に行うことを期待する。</p>
----------	---

学習到達目標	<p>①発達理論等の心理学的知識を踏まえて、発達をとらえる視点について理解する。</p> <p>②子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護および教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。</p> <p>③乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。</p>
--------	---

授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 適宜、ディスカッションを取り入れる。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 授業内で前時の振り返りおよび事後学修にMicrosoft Teamsを使う。 (Teamsは情報処理の授業で本学アカウントを取得することで使用可能となる。具体的な使い方については本授業内で説明する。)</p> <p>【その他特記事項】 特になし</p>
-------	---

成績評価の方法	<p>【評価項目】 定期試験（筆記）および受講態度（授業への積極的な参加）と課題の総合評価とする。</p> <p>【割合】 定期試験 : 70% 受講態度と課題 : 30%</p> <p>※定期試験で100点満点中20点以下の者については、再試験の対象外とする。 ※再試験の評価には、受講態度及び課題点は含めず、試験点数のみで評価する。</p>
---------	--

教科書・テキスト	沼山博・三浦主博編著「子どもとかかわる人のための心理学」萌文書林
----------	----------------------------------

参考書	<p>塩見慎朗・長尾和英編「愛の子育て 子ども学のすすめ」昭和堂</p> <p>遠藤利彦他著「乳幼児のこころー子育て・子育ての発達心理学」有斐閣アルマ</p> <p>繁多進監修 向田久美子・石井正子編著「新・乳幼児発達心理学」福村出版</p> <p>佐々木正美著「子どもの心が見える本ー再びエリクソンに学ぶ」子育て協会</p> <p>斎藤勇監修 田中正人編著「図解心理学用語大全」誠文堂新光社</p> <p>岡本夏木他監修「発達心理学辞典」ミネルヴァ書房</p> <p>森上史朗・柏女霊峰編「保育用語辞典」ミネルヴァ書房</p> <p>秋田喜代美監修「保育学用語辞典」中央法規</p>
-----	--

授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	<p>事前学修については、毎回の授業前に教科書をよく読み、言葉の読みや意味が分からないものは、国語辞書や参考書に挙げた辞典等で調べておくこと。</p> <p>事後学修については、なるべく授業当日中に、自分のノートと教科書を見直し、Teamsの復習課題に取り組むことで、授業で学んだ内容の確認を行うこと。</p>
---------------------------	---

履修上の留意事項	<p>卒業必修科目であることに注意すること。</p> <p>やむを得ず授業を欠席する場合には、メールまたはTeamsチャット機能で連絡し、資料や課題等の配布プリントがあった場合は、次の授業日の前日までに研究室に取りに来ること。授業欠席の場合でも期日までに課題を提出すれば課題点をつける。</p> <p>教科書を使って授業を進めるので、必ずテキスト販売日に購入すること。毎回の授業に教科書を持参せずに臨んでいる場合には受講停止とすることがある。</p> <p>☆この科目専用のノート（B5またはA4のもの。ルーズリーフは不可）を用意すること。</p>
----------	--

オフィスアワー	<p>金曜日の昼休み（12:20-12:50）</p> <p>上記以外の時間帯でも事前連絡があれば対応可。</p>
---------	---

課題に対するフィードバックの方法	課題および第8回に予定の確認テストについては、授業内で回答を確認する。定期試験については、Aポータルで全体的なフィードバックを行う。
実務経験	臨床発達心理士：特別支援学校を中心に行っている発達評価および発達支援について授業内容との関連で適宜紹介する予定である。
その他	子どもを理解し、子どもに寄り添った関わりができるようになるために、具体的な子どもの姿をイメージしながら学んでください。暗記ではなく、理解が大事！日常的に子どもと関わる機会を意識して設けたり、自らメディアセンター等の書籍を手取るというのでもOK！充実した授業を共に作りあげましょう！
授業の内容	<p>第1回 ガイダンス／導入 授業の目的と目標の確認および学修の進め方について説明する。 発達の定義と子ども理解のために発達について学ぶ意義を概観する。 準備物：B5またはA4のノートを用意すること。</p> <p>序章 子どもを理解するって？ キーワード：発達の定義、生涯発達、発達段階</p> <p>【事前学修】教科書の序章を読んで、わからない漢字等があれば調べておくこと。 【事後学修】発達の定義をよく復習しておくこと。子ども理解の意義をまとめておくこと（課題①）。</p> <p>第2回 胎児期～新生児期の発達 胎内ではどのように発達が進んでいくのか、また出生から1か月間の発達特徴について説明する。 キーワード：受精、胎芽期、新生児期、低出生体重児、妊娠期間（在胎期間）、原始反射</p> <p>第1章 1. 人生の始まりー胎児期の発達 2. 赤ちゃんは宇宙人？</p> <p>【事前学修】教科書p. 5～12を読んで、わからない漢字等があれば調べておくこと。 【事後学修】原始反射について、さらに詳しく調べておくこと（課題②）。</p> <p>第3回 乳児期の発達①感覚・知覚の発達／初期の情動発達 乳児の感覚・知覚の発達および初期の情動変化について説明し、乳児の有能性について理解する。 キーワード：感覚・知覚・認知、選好注視法、馴化法、情動面の発達、乳児の有能性</p> <p>第1章 3. 赤ちゃんの知覚する世界 4. 面倒をみさせられている？</p> <p>【事前学修】教科書p. 13～19を読んで、わからない漢字等があれば調べておくこと。 【事後学修】ポルトマンの言う生理的早産の状態で生まれてくるヒトの乳児が有能であるのとされるのはなぜかについて、まとめておくこと（課題③）。</p> <p>第4回 乳児期の発達②身体と運動の発達 身体の変化と原始反射から随意運動ができるようになるまでについて、説明する。 キーワード：身体発達と運動発達、頭部尾部勾配、発達加速現象、原始反射から随意運動へ</p> <p>第1章 5. 身体はどのように大きくなるの？ 6. 自分の意志で体を動かせるようになるまで</p> <p>【事前学修】教科書p. 20～28を読んで、わからない漢字等があれば調べておくこと。 【事後学修】運動発達と情動発達および認知発達との関連についてまとめておくこと（課題④）。</p> <p>第5回 乳児期の発達③認知の発達 ピアジェの認知発達理論の感覚運動期について、および近年の赤ちゃん研究における成果について説明する。また、関連して生後1年の間に脳ではどのような変化が起きているのかを概説する。 キーワード：ピアジェ、同化と調節、感覚運動期、循環反応、物の永続性、表象、協応、ミエリン化、シナプスの刈り込み</p> <p>第1章 7. 遊びがしごと 8. 赤ちゃんは何でも知っている？ 9. 脳の不思議な話ー赤ちゃんの脳の発達</p> <p>【事前学修】教科書p. 29～39を読んで、わからない漢字等があれば調べておくこと。 【事後学修】課題プリント：ピアジェの認知発達理論について、まとめること（課題⑤）。</p> <p>第6回 乳児期の発達④愛着の発達 乳児の発達にとって最も重要である「愛着」について、その基本的考えと愛着のパターンについて説明する。 キーワード：ボウルビイの愛着理論、エインズワースのストレンジ・シチュエーション法、安全基地、基本的信頼感</p> <p>第1章 10. 誰が信頼できるの？(1)アタッチメントとその働き 11. 誰が信頼できるの？(2)アタッチメントの個人差</p> <p>【事前学修】教科書p. 40～47を読んで、わからない漢字等があれば調べておくこと。 【事後学修】課題プリント：ホスピタリズムについて調べ、愛着との関連についてまとめること（課題⑥）。</p> <p>第7回 乳児期の発達⑤言葉の発達 出生直後の大人が子どもの意図を読み取る段階からはじまり、身振り中心のコミュニケーション</p>

	<p>が音声中心のコミュニケーションに変わるまでの変化について説明する。 キーワード：言葉の3つの機能、クーイング、喃語、初語、ポインティング、共同注意、社会的参照</p> <p>第1章 12. ことばの前のことばー赤ちゃんのコミュニケーション 13. ことばを獲得する道筋</p> <p>【事前学修】教科書p48～55を読んで、わからない漢字等があれば調べておくこと。 【事後学修】言葉の発達について、4歳までの変化をまとめること（課題⑦）。</p>
第8回	<p>中間まとめ</p> <p>前半は、乳児期の発達の特徴の理解度について確認テストを行う。 後半は、主要な発達理論の紹介および、発達全般の特徴について説明する。 キーワード：発達段階、発達課題、ピアジェ、エリクソン、ハヴィガースト、ヴィゴツキー、心理社会的危機、発達の最近接領域 ノート提出（課題⑧）</p>
第9回	<p>第3章 1. 保育と子どもの発達(1)ー発達観、子ども観と保育観</p> <p>【事前学修】第1～7回の学修内容を専門用語を中心によく復習しておくこと。 【事後学修】教科書p. 112～115を読んで、ピアジェ、エリクソン、ハヴィガースト、ヴィゴツキーの発達理論について、よく復習しておくこと。</p> <p>幼児期の発達①自我の発達 幼児期の身体発達と運動発達について概説する。また、自他認知がどのように発達し、自我の形成に反抗期がどのように関連しているのか、自己の発達と関連して情動はどのように変化するかについて概説する。 キーワード：身辺自立、移動能力の完成、第一次反抗期、自我の芽生え、有能感（コンピテンス）、セルフコントロール、欲求不満耐性、メタ認知、情動調律</p>
第10回	<p>第2章 1. 自分のはじまりー自己とセルフコントロールの発達 2. 「いうことをきかない」にも発達があるのか？ 3. 情動や感情はどのように発達していくのか？</p> <p>【事前学修】教科書p. 57～66を読んで、わからない漢字等があれば調べておくこと。 【事後学修】課題プリント：自分の第一次反抗期エピソードについて、家族等にインタビューをしてみよう（課題⑨）。</p> <p>第一次反抗期と自我の発達の関連について、よく復習しておくこと。</p> <p>幼児期の発達②対人関係の発達と思いやり 幼児期の人間関係の広がりについて、愛着と関連させて説明する。また、道徳性の発達についてピアジェ及びコールバーグの考え方を概説する。 キーワード：対人関係の発達、内的作業モデル、道徳性の発達、向社会的行動</p>
第11回	<p>第2章 4. 人間関係の発達ー対大人の関係から子ども同士の関係へ 5. 道徳性と思いやり</p> <p>【事前学修】教科書p. 67～75を読んで、わからない漢字等があれば調べておくこと。 【事後学修】内的作業モデルをよく復習し、まとめる（課題⑩）。</p> <p>幼児期の発達③遊びの発達とセルフコントロール</p> <p>幼児の遊びの特徴とその前提となるピアジェの認知発達理論の前操作期について説明する。またセルフコントロールの発達について調べるマシュマロ・テストについて概説する。 キーワード：ピアジェの認知発達理論、前操作期、保存概念、自己中心的思考、アニミズムの思考、パーテンの遊びの発達、セルフコントロール、ミッシェルのマシュマロ・テスト、ピグマリオン効果</p>
第12回	<p>第2章 6. 遊びはどう変わっていくのか？ 7. マシュマロ・テストー子どもの自制心を科学する</p> <p>【事前学修】教科書p. 76～82を読んで、わからない漢字等があれば調べておくこと。 【事後学修】課題プリント：幼児期の認知（思考）の特徴をまとめる（課題⑪）。</p> <p>幼児期の発達④心の理論と社会情動的スキル 対人関係の発達を理解する上で重要となる「心の理論」について説明する。そのうえで、認知的スキルと非認知的スキル、情動知能といった比較的新しい発達のとらえ方について説明する。 キーワード：心の理論、誤信念課題、認知的スキル、非認知的スキル、社会情動的発達</p>
第13回	<p>第2章 8. いつから他者の心がわかるのか？ー「心の理論」の発達 10. 社会情動的スキルを育む</p> <p>【事前学修】教科書p. 83～86およびp. 92～96を読んで、わからない漢字等があれば調べておくこと。 【事後学修】心の理論について復習し、まとめる（課題⑫）。認知的スキルと非認知的スキルの違いを押さえておくこと。</p> <p>幼児期の発達⑤幼児期から児童期へ 文字の読み書きの発達について説明する。また、臨界期との関連から、早期教育の問題点を概観する。 キーワード：自己中心語、外言と内言、話し言葉と書き言葉、音韻意識、文字意識、ラテラリ</p>

	<p>ティ、鏡文字、臨界期と早期教育、レディネス、小1プロブレム</p> <p>第2章</p> <p>11. 子どもはいつから文字が読めるの？ 12. 子どもはいつから教育すべき？ 13. 小学校に入ったあとの子どもは？</p> <p>【事前学修】教科書p. 97～110を読んで、わからない漢字等があれば調べておくこと。 【事後学修】臨界期と早期教育とレディネスとの関連についてまとめる（課題⑬）。</p> <p>子どもの学びと保育①</p> <p>改めて発達とは何かを、ピアジェ及びエリクソンの発達理論と関連づけて振り返る。そのうえで、保育と子どもの学びの関連についても説明する。 キーワード：保育および幼児教育における発達観、環境を通じた保育・教育、発達の諸理論、個人差、発達の規定因（氏か育ちか）</p> <p>第3章</p> <p>1. 保育と子どもの発達(1)－発達観、子ども観と保育観（振り返り） 2. 保育と子どもの発達(2)－個人差や発達過程・発達の課題に応じた保育</p> <p>【事前学修】教科書p. 112～119を読んで、わからない漢字等があれば調べておくこと。 【事後学修】課題プリント：発達の諸理論の違いをまとめる（課題⑭）。</p> <p>子どもの学びと保育②</p> <p>乳幼児期の発達の特徴を振り返り、生活や遊びを通して子どもたちはどのように学び発達していくのかを概観し、以降の「保育原理」「教育原理」の学びにつなげる。 キーワード：養護と教育の一体性、遊びを通じた学び、「生きる力」の基礎</p> <p>第3章</p> <p>4. 子どもの発達に応じた保育援助（1）－3歳未満児 5. 子どもの発達に応じた保育援助（2）－3歳以上児 6. 子どもの発達と保育の環境 7. 生活や遊びを通じた学びの過程</p> <p>【事前学修】教科書p. 130～145を読んで、わからない漢字等があれば調べておくこと。 【事後学修】「生きる力」の基礎となる有能感や自己肯定感を育てることと、身近な特定の人物との間に安定した愛着を形成することの重要性との関連をよく復習しておくこと。 乳児期および幼児期の発達の特徴について、p. 130～136の内容を第1章、第2章の学びと対応づけながらよく復習しておくこと。 ノート提出（課題⑮）←定期試験開始時に提出すること。</p>
第14回	
第15回	
定期試験	

講義科目名称： 子どもの保健

授業コード： 52219100 52219110

英文科目名称： Children's Health

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	2	2	必修
担当教員			
戸松 玲子、小島 賢子、蜂須賀 のぞみ			
開講曜限	授業形態		
木1、2	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■子ども教育学科■</p> <p>■1-1 子どもの発達に関する基本的知識を有し、子ども一人一人の特性や心身の状況を多面的に捉えることができる</p> <p>■2-2 保育内容に関する専門的知識を有し、教材となる素材の内容について分析・解釈し、適切な教材の準備を行うことや、子どもの興味関心などを踏まえて、保育の内容に即した適切な保育の計画を工夫することができる。</p>
---------	---

科目の概要・目的	<p>① 保育士として、子どもの心身の発育、発達、健康状態の把握の方法について理解し、健やかな子どもの育ちを支えるための実践知と理論値を習得する。</p> <p>② 保育者は子どもを健全に保育する使命と同時に保育環境における危機的状況に対応できる力量も求められていることから、子どもを健康に養育するための人体生理機能の基礎的知識を学びながら乳幼児期の発育の特徴を理解する。</p> <p>③ 乳幼児に多くみられる疾病と症状、感染症と免疫の関係について理解を深める。</p> <p>④ 子どもの養護にあたる保育者の視点から子どもの健康観察の重要性を理解する。</p> <p>⑤ 集団生活をする子どもたちの健康状態を身体的（発育、疾病など）、精神的（いじめ、発達問題など）、社会的（虐待、ネグレクトなど）観点から分析し、一人一人に適切な対応、支援が構築できる保育者の基本となる素地を養う。</p>
----------	--

学習到達目標	<p>母子保健（生命の誕生、乳幼児期）について理解し、命の尊さを説明できる</p> <p>乳幼児の身体の成長、運動機能の発達など発育の特徴を述べるができる</p> <p>健康観察の重要性を保育者の観点から説明でき子どもに多い感染症に対応できる実践力を養う</p> <p>子どもの健康に関する情報（保育、成長の記録）の取り扱い方、他職種間の連携・協働体制について理解する</p>
--------	--

授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <p>スキヤモンの発達曲線、パーセンタイル曲線などの作成実習</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <p>健康に関する情報をインターネットでタイムリーに正確に収集する体験（厚労省、感染症研究所の公式サイト）</p> <p>【その他特記事項】</p> <p>特になし</p>
-------	---

成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <p>授業内テスト（筆記）、課題</p> <p>【割合】</p> <p>授業内テスト（筆記）：70%、課題：30%</p>
---------	---

教科書・テキスト	・飯島一誠監修『保育者のための わかりやすい子どもの保健 第2版』、2024年、総合医学社
----------	---

参考書	<p>・中村安秀編著『地域保険の原点を探る-戦後日本の事例から学ぶプライマリヘルスケア-』、杏林書院、2018年</p> <p>・ドナジャクソン・ナカザワ『小児期トラウマがもたらす病』、パンローリング株式会社、2018年</p>
-----	--

授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	<p>・毎授業後の復習を怠らないこと</p> <p>・現代社会における子ども・子育て環境に関する情報収集をしておくこと</p> <p>・健康概念について理解しておくこと</p> <p>・心理学等で学んだ発達段階について理解しておくこと</p>
---------------------------	---

履修上の留意事項	保育士必修科目
----------	---------

オフィスアワー	毎昼休み
---------	------

課題に対するフィードバックの方法	授業終了後の感想を元に、次回授業導入時にフィードバックを行う
------------------	--------------------------------

実務経験	<p>戸松：幼稚園教諭、保育士</p> <p>小島：看護師</p> <p>蜂須賀：栄養教諭、管理栄養士、小学校教諭</p>
------	---

その他	特になし
-----	------

授業の内容	<p>第1回 オリエンテーション（授業の進め方）、健康の定義（WHO）と健康観（戸松）</p> <p>「子どもの保健」を学ぶ目的と授業の予定など評価を含めて説明する。WHOとICF（国際生活機能分類）から「健康」について理解する。子どもを健康に養育するための基礎知識を学ぶ重要性を</p>
-------	--

	理解する。 【事前学修】自分の健康観をまとめる。 【事後学修】WHO健康の定義を日本語訳する。
第2回	母子保健と乳幼児の身体発育の特徴（小島） 母子保健における生殖から母親と胎児の健康、そして胎児期と先天的疾患の関係を学ぶ。さらに出生後の乳幼児期の身体的発育（体重、身長、頭囲、胸囲）の特徴を学び、健康状態と密接な関係があることを理解する。
第3回	【事前学修】母子保健における発育期の区分を調べる。 【事後学修】学校教育における区分を調べ、母子保健との違いを確認する。 乳幼児期の運動機能、精神機能の発達（戸松） 生理的に未成熟な段階で生まれてくる人間が運動機能を獲得していく発達段階とそれに伴う精神機能の発達を学ぶ。言葉や感情の出現と心の健康について理解をするとともに乳幼児期の保育の重要性について理解する。
第4回	【事前学修】乳児期の原始反射を調べる。 【事後学修】粗大運動の概ねの時期と発達の目安を覚える。 人体の生理機能（体温、水分代謝、睡眠）、恒常性の発達（小島） 人体の生理機能の体温、水分代謝、睡眠について、子どもの成長や発達に伴う特徴、成人と相違する点などを学ぶ。生体の営みの基本であるホメオスタシスと子どもの恒常性の発達と健康の関係などを学ぶ。
第5回	【事前学修】自分の平常の体温を調べる。（朝、夜で違いがあるかなど） 【事後学修】スキヤモンの発達曲線のグラフを書く。 人体の生理機能（呼吸器、循環器）、胎児期と出生後の違い（小島） 胎児期と出生後に劇的に変化する呼吸器と循環器について、呼吸の定義、外呼吸と内呼吸、心臓の役割、血液の肺循環と体循環などの基礎知識を学ぶ。乳幼児期におこるシズ（SIDS）を紹介し保育の現場での注意を学ぶ。
第6回	【事前学修】成人の体内における血液の循環について調べる。 【事後学修】胎児期と出生後の各器官について復習する。 人体の生理機能（消化器）、乳幼児期の食物摂取の重要性（蜂須賀） 外界に接している一本の管である人体の消化器系（口から排泄器まで）の臓器について消化（物理的消化と化学的消化）をキーワードに主な機能を学ぶ。臓器発達と食物摂取の仕方、生体と栄養の関連性を解説して、栄養が子どもの健康な成長、発達に重要であることを学ぶ。
第7回	【事前学修】消化器官について理解する。 【事後学修】消化器官のやくわりについて復習する。 子どもの食物摂取とアレルギー（蜂須賀） 子どもを巡る食物アレルギー問題について学ぶ。
第8回	【事前学修】アレルギーについて調べる。 【事後学修】アレルギー反応について理解する。 子どもの食物アレルギーとその対応（蜂須賀） 多様なアレルギーを持つ子どもへの配慮やアナフィラキシーショック時の対応について学ぶ。
第9回	【事前学修】アナフィラキシーショックの症状について調べる。 【事後学修】アレルギーのある子どもと親対応についての考えをまとめておく。 ◆確認小テスト 子どもによくある症状と病気（小島） 健康観察で気になる子どもによくある症状を学ぶ。子どもがどのような時その症状がみられるのか、病気との関連性はないかなど、保育者として押さえておきたい症状を学ぶ。子どもの症状や疾病にどのように対処していくことが保育者としての専門性であるかを解説し、緊急性の度合いを見極める必要性についても学ぶ。
第10回	【事前学修】保育園でよく見かける病気を調べる。 【事後学修】子どもによくある症状と健康観察の要点をまとめる。 子どもと感染症 免疫（血液）と病原性微生物、予防接種について（小島） 子どもによくある病気に感染症がある。感染症は病原性微生物に感染することにより引き起こされる疾病である。感染症に対する人体の免疫機能を解説し、子どもに多い感染症について名称と症状などを一覧表にまとめる。さらに主な感染症の臨床像をスライドで紹介し現場に出た時に対処できるように学ぶ。
第11回	【事前学修】子どもに多い感染症を調べる。 【事後学修】予防接種の種類と接種時期についてまとめる。 ◆確認小テスト 子どもの心身の健康状態とその把握（戸松） 子どもの健康は健康診断、身体計測などから継続的に成長発達の記録を取るとともに日々の健康観察などから栄養状態を評価し客観的にかつ総合的に管理をする必要性を学ぶ。成長の記録を継続的に取る意義、データの保育への活用の仕方、個人情報としての取り扱い方などを学ぶ。パーセントイル成長グラフの作成やカウプ指数の計算などの実習をする。
第12回	【事前学修】身体計測、健康診断の意義をまとめる。 【事後学修】心身の健康状態と発育の関係についてまとめる。 子どもの心身症について【戸松】 乳幼児期の子どもは脳の中樞神経の発達が未分化であるがゆえ、自身の抱える思いが適切に言語化することができない。そのため、子どもの抱える思いがうまく大人に理解されないことによって不適切な養育環境が生じ、心身症を発することは稀ではない。本授業では、心身症の背景にある心理・社会的要因を理解すると共に、その対応についても学ぶ。
第13回	【事前学修】心身症とは何かまとめる。 【事後学修】心身症の種類についてまとめる。 統計からみる子どもの保健（事故、虐待など）（戸松） 少子高齢化といわれる日本の人口統計データから子どもの健康を分析することを学ぶ。出生、死亡など年代、国、地域などの違い、変化を統計データから読み解いていく。さらに最近では子どもの虐待がクローズアップされて社会的問題となっている。子どもと接する時間が多い保育者が虐待に気づきやすいこともあり基礎事項（虐待の分類など）を学ぶ。そして子どもを守り健全に育成するためには、保育、教育、児童福祉など関連機関の連携が重要であることも理解する。
	【事前学修】合計特殊出生率や虐待対応件数などを調べる。虐待種について調べる。 【事後学修】虐待発生要因についてまとめる。

<p>第14回</p>	<p>子どもの発育と虐待について【戸松】 我が国の児童虐待相談対応件数は増加の一途を辿っている。乳幼児期からの被虐待経験はその後の人生に大きな影響を及ぼし、思春期・成人期以降の反社会的、非社会的行動の遠因となる。子どもが健やかに、そして幸せな人生を歩んでいくためには、保育者による虐待予防、早期発見・介入が重要であることを理解する。 【事前学修】 風疹の胎児に及ぼす影響（先天性風疹症候群）について調べる 【事後学修】 個別な配慮を必要とする子どもの対応についてまとめる（P118～129）</p>
<p>第15回</p>	<p>アドボカシー、リスクコミュニケーションについて【戸松】 子どもの権利を代弁するアドボケイションから子どもの尊厳を守り保育することを考える。自然災害の多い日本ではリスクコミュニケーションが緊急時に必要とされるが、保育者として危機管理、安全管理における職員間の連携について考える。 【事前学修】 保育者の危機管理の責任について考えをまとめる。 【事後学修】 保育現場におけるリスクマネジメントの重要性について理解する。 ◆確認小テスト</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	3	1	選択
担当教員			
石川 明美、柴山 浩一			
開講曜限	授業形態		
木2、3	演習		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■子ども教育学科■</p> <p>■2-2 保育内容に関する専門的知識を有し、教材となる素材の内容について分析・解釈し、適切な教材の準備を行うことや、子どもの興味関心などを踏まえて、保育の内容に即した適切な保育の計画を工夫することができる。</p> <p>■4-3 専門的職業人としての誇りをもって、家庭や地域社会との連携・協働のもと、子どもの健やかな育ちに貢献することができる</p>
科目の概要・目的	<p>○子どもの健やかな成長を見守るため、保健的観点から保育環境、健康・安全管理について講義する。</p> <p>○「子どもの保健」での学修をもとに、子どもの体調不良時や感染症対策について講義し、その具体的な方法について説明する。</p> <p>○健康及び安全管理の実施体制について組織的取組と連携対応について具体例をあげながら説明する。</p> <p>○保育者にとって必要な子どもの健康と安全に関する支援について、具体例をあげながら説明する。</p>
学習到達目標	<p>1. 健康と安全について、個別と集団の管理について理解できるようになる。</p> <p>2. 関連するガイドラインやデータから、保育の衛生管理・安全管理等について学び、理解できるようになる。</p> <p>3. 子どもの体調不良や障害の適切な対応・感染予防・応急処置など演習を通して習得する。</p> <p>4. 子どもの健康増進と安全へ保健活動の重要性を知り、計画及び評価などが実践できるようになる。</p>
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <p>各回の授業では、2人から6人のグループワークや演習、ロールプレイなどを取り入れて、各自の課題を見つけ、理解を深めるようにする。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <p>特になし</p> <p>【その他特記事項】</p> <p>特になし</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <p>実技試験、確認テスト、提出物、授業参加態度</p> <p>【割合】</p> <p>実技試験（1回）20%、確認テスト（2回）40%、提出物30%、授業参加態度10%</p>
教科書・テキスト	これだけはおさえない！保育者のための「子どもの健康と安全」[改訂版] 編著：鈴木美枝子 創成社
参考書	<p>○「保育者のためのわかりやすい子どもの保健」監修：飯島一誠 編集：稲垣由子・本田順子・八木麻理子 総合医学社</p> <p>○必要に応じ資料を配布します。</p>
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	<p>○ワークシートを活用して重要事項をまとめておく。</p> <p>○限られた時間内で演習を行うため、テキストなどを事前によく読み積極的に臨むこと。</p>
履修上の留意事項	<p>○演習の時はふさわしい服装で受講する。</p> <p>○演習内で用いる使用備品は丁寧に扱い、使用備品以外の備品は触れないようにすること。</p>
オフィスアワー	<p>石川：授業時間終了後に教室で随時対応する。</p> <p>柴山：保育・教職支援室（木）昼休み</p>
課題に対するフィードバックの方法	レポートやワークシートなどの添削、および返却による。
実務経験	<p>石川：看護師、介護支援専門員</p> <p>柴山：小学校（教諭、教頭、校長）、幼稚園長、教育委員会（主任指導主事、初等教育担当課長）</p>
その他	特になし
授業の内容	<p>第1回 オリエンテーション 保育における健康と安全管理【石川】</p> <p>○子どもの「健康」を中心に（講義の進め方、評価、演習等について）。</p> <p>○衛生管理とマスク・手袋の取り扱いについて演習にて学ぶ。</p> <p>【事前学修】衛生管理の重要性と安全なマスク・手袋の取り扱い方法を確認しておく。（テキストP.1～26）</p> <p>【事後学修】学修内容をもとに、保育施設等における衛生管理を考える。マスク・手袋を使って安全な取り扱いを身につける。</p> <p>第2回 子どもの健康と保育環境【石川】</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもの健康管理と健康診断について学ぶ。 ○子どもの身体計測の意義と発育の評価について演習にて学ぶ。(グループワーク) 【事前学修】子どもの健康観察の観点について確認しておく。(テキストP.149～180) 【事後学修】学修内容をもとに、テキストを確認し身体計測の意義についてまとめる。
第3回	<p>子どもの体調不良症状やケア【石川】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子どもの体調不良時の園や家庭での対応を理解する。薬投与方法について学ぶ。 ○バイタルサインの測定方法について演習にて学ぶ。(グループワーク) 【事前学修】子どもの体調がすぐれない時にどのような症状があるか確認しておく。(テキストP.52～82) 【事後学修】学修内容をもとに、テキストを確認し体調不良時の子どもへの対応を振り返る。
第4回	<p>子どもの応急手当と対応【石川】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○出血、すり傷、打撲、骨折、熱傷、誤嚥、窒息等の適切な応急処置について演習にて学ぶ。(グループワーク) 【事前学修】応急手当の重要性を調べ包帯法を確認しておく。(テキストP.83～108) 【事後学修】学修内容をもとに、テキストを確認し応急手当方法についてまとめる。
第5回	<p>救急処置の意義や対応方法【石川】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子どもの心肺蘇生法について演習にて学ぶ。(グループワーク) ○気道異物除去について学ぶ。 【事前学修】子どもの心肺蘇生法、気道異物除去の手順について調べておく。(テキストP.109～118) 【事後学修】学修内容をもとに、テキストを確認し心肺蘇生法の手順を整理する。
第6回	<p>感染症の予防 (実技試験①)【石川】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○感染経路と予防策を学び、予防接種のスケジュールを確認する。 ○感染症を予防する方法を学ぶ。(グループワーク) 【事前学修】予防接種の復習と手洗いの手順を覚えておく。(テキストP.119～128) 【事後学修】実技試験を振り返り、理解の不十分だった点について、再度、復習する。
第7回	<p>感染症の対応【石川】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○感染症を理解し、発生時と罹患後の対応を学ぶ。(グループワーク) 【事前学修】感染症の特徴について復習しておく。(テキストP.128～148) 【事後学修】学修内容をもとに、テキストを確認し感染症の発生時対応についてまとめる。
第8回	<p>個別的な配慮が必要な子どもへの対応【石川】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○アレルギー疾患や慢性疾患について学ぶ。 ○エピペン投与を含むアナフィラキシー対応について演習にて学ぶ。(グループワーク) 【事前学修】アレルギー疾患の種類を調べておく。(テキストP.214～232) 【事後学修】学修内容をもとに、過去に起こった食物アレルギー事例を振り返り、防止対策について考える。
第9回	<p>子どもへの健康指導【石川】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○保健だよりを作成し発表する。 ○保健だよりを相手に分かりやすく伝える方法を考えておく。 【事前学修】保健だよりのテーマを決め、レイアウトやカットなどを考えておく。 【事後学修】学修内容をもとに、より分かりやすく読みやすい保健だよりについて考える。
第10回	<p>保育における保健的対応と本時までのまとめ (確認テスト①)【石川】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○3歳未満児への発育、発達について学ぶ。 ○子どもの生活援助に必要な技術について学ぶ。 ○1～10時間目の確認テスト 【事前学修】3歳未満児の特徴やむし歯になりやすい環境について調べておく。(テキストP.180～198) 【事後学修】子どもの健康を守る援助は何かを見直す。
第11回	<p>オリエンテーション 事故防止と安全管理【柴山】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子どもの「安全」を中心に(講義の進め方、評価等について)。 ○事故防止と安全管理、危機管理についてワークショップを通して学ぶ。 【事前学修】保育室や園庭の危険個所について調べておくこと。(テキストP.27～51) 【事後学修】学修内容を踏まえ、身近な駅や公共の場における安全管理についても考える。
第12回	<p>子どもの生活習慣【柴山】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○睡眠・排泄・食事について、その考え方と援助の方法についてロールプレイを通して学ぶ。 【事前学修】生活の支援について具体的な方法を調べておくこと。(テキストP.198～213) 【事後学修】学修内容をもとに身近にある支援の道具について見直す。
第13回	<p>障がいのある子どもへの対応【柴山】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○障がいの種別と支援の方法についてロールプレイを通して学ぶ。 【事前学修】障がいの種別に応じた支援の仕方について調べておくこと。(テキストP.232～245) 【事後学修】学修内容をもとに、駅や公共交通のバリアフリーについて考える。
第14回	<p>健康及び安全管理の実施体制【柴山】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○職員組織や関係諸機関との連携の実際について具体例をもとに学ぶ。 【事前学修】虐待の実際とその対応について調べておくこと。(テキストP.246～259) 【事後学修】学修内容をもとに、過去の虐待事案を振り返り、未然防止の意義を考える。
第15回	<p>学修のまとめ (確認テスト②)【柴山】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○10～14時間目までの総括 ○10～14時間目の確認テスト

	【事前学修】 これまでの学修を振り返る。 【事後学修】 理解の不十分だった内容について、再度、見直す。
--	--

講義科目名称： 子育て支援

授業コード： 52219300 52219310

英文科目名称： parenting support

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	3	2	選択
担当教員			
嶋田 和美			
開講曜限	授業形態		
金3	演習		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■子ども教育学科■</p> <p>■1-3 社会的養護に関する基本的な内容や子ども家庭をめぐる諸問題の歴史の変遷と各種法制度などについての専門的知識を有している</p> <p>■4-3 専門的職業人としての誇りをもって、家庭や地域社会との連携・協働のもと、子どもの健やかな育ちに貢献することができる</p>
---------	--

科目の概要・目的	保育士の法定業務としての「保育指導」の具体的方法を学ぶ科目であり、日常保育と一体的に展開される保育指導の特性を踏まえ、保育の専門性を基盤とした子育て支援の意義や方法、活用技術等について具体的に学んでいく。
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育士の行う子育て支援の意義と方法を説明することができる。 2. 保育の専門性を基盤とした子育て支援の方法を例示することができる。 3. 他者との協働により、学修成果をまとめることができる。
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習を中心として、個人ワークとグループワークを組み合わせながら授業を行う。また、各回のおわりには、授業内容を振り返り、自分なりの考えをリアクションペーパーに記述する。 <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし。 <p>【その他特記事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし。
成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業参加度 ・授業内ワークシート ・定期試験（レポート） <p>【割合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業参加度：10% ・授業内ワークシート：30% ・定期試験（レポート）：60%
教科書・テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援15のストーリーで学ぶワークブック：二宮祐子 萌文書林 ・適宜配布。
参考書	子育て支援 ―保育者に求められる新たな専門的実践― 太田光洋 同文書院
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークブックを活用し授業の前後に確認。
履修上の留意事項	特になし。
オフィスアワー	授業終了後に教室で。
課題に対するフィードバックの方法	小テストを実施した際は、次の授業にて解説。
実務経験	<p>児童養護施設 児童指導員</p> <p>児童家庭支援センター 相談員</p>
その他	特になし。
授業の内容	<p>第1回 子育て支援とは何か 具体的な子育ての相談や支援の基本となる子育て支援の概念について整理。具体的な相談や支援の基本的な考え方や特徴について理解する。 【事前学修】ワークブック lesson 1 「子育て支援とは」部分を読む。 【事後学修】配布資料の確認と記入後のワークシートを復習。</p> <p>第2回 保育者の行う子育て支援の特性 子育ての大切さを共有し子育ての楽しさをさらに大きくするために保護者を支援していく保育者の行う子育て支援について考える。 【事前学修】ワークブック lesson 2 「子育て支援の意義」を読む。 【事後学修】配布資料の確認と記入後のワークシートを復習。</p> <p>第3回 子育て支援の展開</p>

	<p>核家族化が進み地域のつながりが薄れるなか、保護者の負担は増大している。社会全体で子育てを支援するシステムを構築する為に必要なことについて学ぶ。(支援ニーズの把握、7つの支援プロセス、支援の為に3つの環境整備、記録とカンファレンスの方法)</p> <p>【事前学修】ワークブックlesson3「子育て支援の基本的価値・倫理」を読む。 【事後学修】配布資料の確認と記入後のワークシートを復習。</p>
第4回	<p>支援のための連携と協働</p> <p>各児童福祉施設に配置される職種について学び園内の連携の種類や方法、意義などについて理解を深め、園外の地域の支援機関についても捉える。</p> <p>【事前学修】ワークブックlesson4「子育て支援の基本的姿勢」を読む。 【事後学修】配布資料の確認と記入後のワークシートを復習。</p>
第5回	<p>保育者に求められる子育て支援の基本</p> <p>保護者が保育者に求める保育ニーズを理解し信頼関係を築くためのポイントを学ぶ。カウンセリング技術、バイステックの7原則などの相談援助技術を押さえる。</p> <p>【事前学修】ワークブックlesson5「子育て支援の基本的技術」を読む。 【事後学修】配布資料の確認と記入後のワークシートを復習。</p>
第6回	<p>保育所等における支援</p> <p>保育所等における子育て支援について指針にある原則と実際を学ぶ。事例と演習を通して保育者としての適切な関わりと援助を学ぶ。</p> <p>【事前学修】ワークブックlesson6「園内・園外との連携と社会資源」を読む。 【事後学修】配布資料の確認と記入後のワークシートを復習。</p>
第7回	<p>地域の子育て家庭に対する支援</p> <p>保育者が行う子育て支援のなかでも、保育者の専門性をいかし、地域の関係機関と連携して行う地域に開かれた支援について考える。</p> <p>【事前学修】ワークブックlesson7「記録・評価・研修」を読む。 【事後学修】配布資料の確認と記入後のワークシートを復習。</p>
第8回	<p>乳児を持つ保護者の支援</p> <p>乳児期の母親が直面する課題と悩みを知り、必要な支援を学ぶ。事例と演習を通じて、保護者に対する保育者の適切な支援を習得する。</p> <p>【事前学修】ワークブックlesson8「日常会話を活用した子育て支援」を読む。 【事後学修】配布資料の確認と記入後のワークシートを復習。</p>
第9回	<p>保護者の自己肯定感を下げない具体的支援(コーチング)</p> <p>子育て支援に生かされる「コーチング」の意義と活用について理解を深め、保育者と保護者の信頼関係を築くためのポイントを学ぶ。</p> <p>【事前学修】ワークブックlesson9「文書を活用した子育て支援」を読む。 【事後学修】配布資料の確認と記入後のワークシートを復習。</p>
第10回	<p>気になる子どもや発達障がいのある子どもと家庭に対する支援</p> <p>発達特性のある子どもについてその特徴を把握する。また、障がい受容の困難さを知り、支援方法と注意すべきことを学ぶ。連携すべき機関の種類を理解し適切な連携に向けた保育の役割を知る。</p> <p>【事前学修】ワークブックlesson10「行事などを活用した子育て支援」を読む。 【事後学修】配布資料の確認と記入後のワークシートを復習。</p>
第11回	<p>特別な配慮を要する子どもおよび家庭に対する支援</p> <p>外国にルーツを持つ子育て家庭や子どもの貧困、母親の病気等支援が必要な子どもとその家庭について学ぶ。</p> <p>【事前学修】ワークブックlesson11「環境を活用した子育て支援」を読む。 【事後学修】配布資料の確認と記入後のワークシートを復習。</p>
第12回	<p>児童虐待の予防と対応の実際</p> <p>児童虐待の現状を知り、虐待の予防のための体罰によらない子育てについて学ぶ。虐待を発見する為の視点を捉え、リスク要因や相談の注意点を理解する。虐待が判明した時の対応と関係機関との連携、虐待認定後の対応について学ぶ。</p> <p>【事前学修】ワークブックlesson12「地域子育て支援拠点における支援」を読む。 【事後学修】配布資料の確認と記入後のワークシートを復習。</p>
第13回	<p>要保護児童等の家庭に対する支援</p> <p>要保護児童、要支援児童等の定義と支援対象を知る。児相、要対協など関係機関の役割を学ぶ。社会的養護における役割と支援者の連携を理解する。</p> <p>【事前学修】ワークブックlesson13「入所施設における子育て支援」を読む。 【事後学修】配布資料の確認と記入後のワークシートを復習。</p>
第14回	<p>多様な保育ニーズを抱える子育て家庭の理解とその支援</p> <p>保育制度の変遷を押さえ、多様化する保育ニーズの社会的背景を知る。演習問題を通じて多様な保育ニーズと施策について考えを深める。</p> <p>【事前学修】ワークブックlesson14「通所施設における子育て支援」を読む。 【事後学修】配布資料の確認と記入後のワークシートを復習。</p>
第15回	<p>子育て支援をめぐる今後の課題</p> <p>多様化する家族の形を知り、現在の保育ニーズの特徴を理解する。保護者のエンパワメントについて考えを深め保育者として今後の支援のあり方を考える。</p> <p>【事前学修】ワークブックlesson15「まとめと今後の課題」を読む。 【事後学修】配布資料の確認と記入後のワークシートを復習。</p>
定期試験	

講義科目名称： 子どもと人間関係

授業コード： 52219600

英文科目名称： Children and relationships

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	1	2	選択
担当教員			
徳留 由貴			
開講曜限	授業形態		
水2	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■子ども教育学科■</p> <p>■1-2 教育・保育に関する基本的な内容や歴史的変遷、制度などについての専門的知識を有している</p> <p>■2-2 保育内容に関する専門的知識を有し、教材となる素材の内容について分析・解釈し、適切な教材の準備を行うことや、子どもの興味関心などを踏まえて、保育の内容に即した適切な保育の計画を工夫することができる。</p>
---------	--

科目の概要・目的	本授業では、乳幼児期における「人とかかわる力」を育てていくための基本的な知識・技能を学ぶことを通して、幼稚園教育要領等の領域「人間関係」のねらいと内容について理解する。また、保育現場でのフィールドワークを通して、実践力の基礎を身につけるとともに、子どもの発達や人とかかわる力について体験的に理解する。
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 子どもを取り巻く人間関係をめぐる現代的課題について理解する。 領域「人間関係」の意義、人とかかわりが子どもの発達に与える影響について理解する。 他領域との関係を踏まえ、人とかかわる力の発達や子どもの姿に応じた保育教材の研究と実践ができる。
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業内容をもとにグループディスカッションを行うとともに、その討議内容をまとめ・発表する。 学生が主体となり、活動内容を考え、計画・準備し、保育現場にて実践する。 <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <ul style="list-style-type: none"> teamsを利用する。 <p>【その他特記事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 特になし
成績評価の方法	<p>【評価項目】 【割合】</p> <ul style="list-style-type: none"> 講義内課題 50% 定期試験（レポート） 50%
教科書・テキスト	特に指定しない
参考書	<ul style="list-style-type: none"> 文部科学省 2018 「幼稚園教育要領解説」フレーベル館 厚生労働省 2018 「保育所保育指針解説」フレーベル館 内閣府 2018 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	事後学修として、授業で学習したことを振り返り、要点を確認し整理しておくこと。
履修上の留意事項	グループをつくり授業を進めていく為、欠席はしないようにすること。
オフィスアワー	1号館308研究室 月～金のお昼休み
課題に対するフィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> 各授業内で提示した課題については、その後添削・採点し、学生に返却する。 各自で取り組んだ課題をもとに、再度グループで討議することもある。
実務経験	保育士
その他	特になし
授業の内容	<p>第1回 オリエンテーション／領域「人間関係」について 授業の概要や目標、具体的な授業内容を確認する。 5領域における「人間関係」について理解する。 【事前学修】 ・シラバスを読んでおく。 【事後学修】 ・授業内容を振り返り、整理する。</p> <p>第2回 子どもの人間関係をめぐる課題 子どもを取り巻く現代的課題について理解する。 各自が様々な現代的課題に対する問題意識を持ち、グループで討議する。 【事前学修】 ・第1回授業内で指示を出す。 【事後学修】 ・授業内容を振り返り、整理する。</p> <p>第3回 領域「人間関係」と教材研究①</p>

	<p>わらべうた、ふれあい遊びを通して、領域「人間関係」と保育について考える。</p> <p>【事前学修】 ・第2回授業内で指示を出す。</p> <p>【事後学修】 ・授業内容を振り返り、整理する。</p>
第4回	<p>領域「人間関係」と教材研究②</p> <p>製作を通して、領域「人間関係」と保育について考える。</p> <p>【事前学修】 ・第3回授業内で指示を出す。</p> <p>【事後学修】 ・授業内容を振り返り、整理する。</p>
第5回	<p>領域「人間関係」と教材研究③</p> <p>ルールのある遊びを通して、領域「人間関係」と保育について考える。</p> <p>【事前学修】 ・第4回授業内で指示を出す。</p> <p>【事後学修】 ・授業内容を振り返り、整理する。</p>
第6回	<p>領域「人間関係」と教材研究④</p> <p>ごっこ遊びを通して、領域「人間関係」と保育について考える。</p> <p>【事前学修】 ・第5回授業内で指示を出す。</p> <p>【事後学修】 ・授業内容を振り返り、整理する。</p>
第7回	<p>領域「人間関係」と実践研究①</p> <p>これまでの授業を振り返り、「人とかかわる力」を育む保育内容とは何か考察する。その上で、保育所等でのフィールドワークに向けて、どのような遊びを実践するかグループ・全体で討議する。</p> <p>【事前学修】 ・第6回授業内で指示を出す。</p> <p>【事後学修】 ・決定したテーマをもとにどのような遊びをするか構想しておく。</p>
第8回	<p>領域「人間関係」と実践研究②</p> <p>第7回で決定したテーマをもとに、グループに分かれて遊びの計画を立てる。</p> <p>【事前学修】 ・第7回授業内で指示を出す。</p> <p>【事後学修】 ・グループで立案した遊びに関する指導計画案を探しておく。 ・対象年齢の子どもの特徴について調べておく。</p>
第9回	<p>領域「人間関係」と実践研究③</p> <p>フィールドワークの準備を進める。 対象クラスにおける子どもの発達や予想される子どもの姿について考える。</p> <p>【事前学修】 ・第8回授業内で指示を出す。</p> <p>【事後学修】 ・対象年齢の子どもの特徴について調べておく。</p>
第10回	<p>領域「人間関係」と実践研究④</p> <p>フィールドワークの準備を進める。 「第8回」の内容を踏まえて、子どもに関わる際の配慮について考える。</p> <p>【事前学修】 ・第9回授業内で指示を出す。</p> <p>【事後学修】 ・対象年齢の子どもの特徴について調べておく。</p>
第11回	<p>領域「人間関係」と実践研究⑤</p> <p>保育所等でのフィールドワークに向けて、グループごとに模擬保育を行う。 模擬保育後、グループ間で意見交換し合い、活動の見直しを行う。</p> <p>【事前学修】 ・第10回授業内で指示を出す。</p> <p>【事後学修】 ・模擬保育を振り返り、必要に応じて内容の修正を行う。</p>
第12回	<p>領域「人間関係」と実践研究⑥</p> <p>保育所等でのフィールドワークを実施する。 実際に子どもと関わることを通して、子どもの発達や保育者の配慮について体験的に学ぶ。</p> <p>【事前学修】 ・第11回授業内で指示を出す。</p> <p>【事後学修】 ・フィールドワークを振り返り、課題を整理しておく。</p>
第13回	<p>領域「人間関係」と実践研究⑦</p> <p>保育所等でのフィールドワークを通して学んだことを省察し、まとめる。</p> <p>【事前学修】 ・第12回授業内で指示を出す。</p> <p>【事後学修】 ・授業内容を振り返り、整理する。</p>
第14回	<p>領域「人間関係」と実践研究⑧</p> <p>グループごとに体験したことを発表し合い、領域「人間関係」のねらいと内容について理解を深める。</p> <p>【事前学修】 ・第13回授業内で指示を出す。</p> <p>【事後学修】 ・授業内容を振り返り、整理する。</p>
第15回	<p>まとめ</p>

授業の評価を行う。これまでの授業を振り返り、自身の課題を明確にする。

【事前学修】

・第14回授業内で指示を出す。

【事後学修】

・授業内容を振り返り、整理する。

定期試験

講義科目名称： 子どもと環境

授業コード： 52219700

英文科目名称： Children and the environment

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	1	2	選択
担当教員			
鈴木 順子			
開講曜限	授業形態		
水2	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■子ども教育学科■</p> <p>■1-2 教育・保育に関する基本的な内容や歴史的変遷、制度などについての専門的知識を有している</p> <p>■2-2 保育内容に関する専門的知識を有し、教材となる素材の内容について分析・解釈し、適切な教材の準備を行うことや、子どもの興味関心などを踏まえて、保育の内容に即した適切な保育の計画を工夫することができる。</p>
科目の概要・目的	子どもを取り巻く環境の変遷や子どもと環境との関わりについて概説し、子どもの発達に必要な環境について学ぶ。また保育の場において環境との豊かなかかわりを育むために必要な保育者の援助の在り方について知る。
学習到達目標	<p>①保育内容「環境」のねらいと内容を理解するための知識や技術を身に付ける。</p> <p>②子どもの環境とのかかわりと保育者の援助の在り方について理解する。</p> <p>③指導案作成等を通して環境構成や保育実践の展開の仕方を理解することができる。</p>
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <p>・グループワークでディスカッションをし、発表を行う。また体験型学習を行う。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <p>・特になし</p> <p>【その他特記事項】</p> <p>・特になし</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <p>授業内テスト(筆記)、課題提出、指導案、発表等</p> <p>【割合】</p> <p>授業内テスト(筆記)(50%)、課題提出(20%)、指導案(10%)、発表等(20%)</p>
教科書・テキスト	必要に応じて資料を配布します。
参考書	・平成29年告示「幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領」2018年、チャイルド本社
授業時間外の学修について(事前・事後学習について)	・授業で取り扱った内容を各自整理するとともに実践に活かせるようにまとめておくこと。
履修上の留意事項	・授業で配布したプリントはファイリングをしてまとめておくこと。
オフィスアワー	・火曜日、水曜日の3,4限
課題に対するフィードバックの方法	・指導案添削や課題の提出物については個々にコメントを記載し、返却することでフィードバックを行う。
実務経験	・保育所の主任保育士、地域子育て支援センター職員
その他	・特になし
授業の内容	<p>第1回 オリエンテーション、環境とは 【内容】授業の目的と内容等について 【事前学修】自分の身近な環境について考える。 【事後学修】授業で話した目的と内容について確認しておく。</p> <p>第2回 子どもを取り巻く環境について 【内容】現代の子どもを取り巻く環境について具体的に知る。 【事前学修】昔と現代の子どもが育つ環境について考える。 【事後学修】現代の子どもにとって必要な環境を考えてみる。</p> <p>第3回 環境のねらい及び内容:「乳児」「1歳以上3歳未満児」 【内容】3歳未満児の発達や環境のねらい及び内容について学ぶ。 【事前学修】通学等の際、3歳未満児の子どもの様子を気にかけて観察する事を心掛ける。 【事後学修】3歳未満児の身近な環境について興味をもち考える。</p> <p>第4回 環境のねらい及び内容:「3歳以上児」</p>

	<p>【内容】3歳以上児の発達や環境のねらい及び内容について学ぶ。 【事前学修】通学等の際、3歳以上児の子どもの様子を気にかけて観察する事を心掛ける。 【事後学修】3歳以上児の身近な環境について興味をもち考える。</p>
第5回	<p>季節を通しての環境を考える①園の行事や季節の遊びを調べる 【内容】グループ分けをし、テーマについて考え、グループで相談する。 【事前学修】毎日の生活の中で季節に関心をもつように心掛ける。 【事後学修】授業外にもグループの仲間と考え、次回、まとめられるようにする。</p>
第6回	<p>季節を通しての環境を考える②調べたことをまとめる。 第5回で考えた内容をグループで意見を出し、まとめる。 【事前学修】本やパンフレットを準備し、まとめられるようにしておく。 【事後学修】まとめるための不足資料を収集する。</p>
第7回	<p>季節を通しての環境を考える③発表原稿の作成 【内容】第6回に引き続き、グループでまとめ、発表原稿を作成する。 【事前学修】まとめるための不足資料を収集する。 【事後学修】グループでの発表者の役割分担を決めておく。</p>
第8回	<p>季節を通しての環境を考える④発表する 【内容】グループごとに発表をする。 【事前学修】発表の準備をしておく。 【事後学修】発表後には他のグループの内容についてまとめる。</p>
第9回	<p>身近な児童文化財を利用した保育 【内容】物的環境の一つとして、児童文化財について学ぶ。特に身近な絵本についての知識を得る。 【事前学修】児童文化財とは何かを自分なりに調べておく。 【事後学修】児童文化財について学んだ事をまとめる。</p>
第10回	<p>環境に関する指導計画①指導案の書き方 【内容】指導案の書き方を学ぶ。 【事前学修】指導案とは何か、本やネットで検索して目を通しておく。 【事後学修】指導案についての概要をまとめる。</p>
第11回	<p>環境に関する指導計画②立案する 【内容】指導案を立案する。 【事前学修】第11回に行う指導案の立案を想定しておく。 【事後学修】指導案を仕上げ、期日までに提出する。</p>
第12回	<p>指導計画作成後の解説と展開 【内容】添削して返却された立案を基に環境等、留意する点に着目しながら解説する。 【事前学修】今回の指導案作成以外にもどのような指導計画が作成されているのか本等で調べてみる。 【事後学修】添削した指導案と解説を聞いて指導案の見直しを行う。</p>
第13回	<p>物的環境の児童文化財を利用した実践① 【内容】物的環境の一つとして、最も身近な絵本の読み聞かせを行う。 【事前学修】年齢等に応じた絵本を選択し、事前に読み聞かせの練習を行う。 【事後学修】他の学生が絵本の読み聞かせをする際に気がついたことをまとめる。</p>
第14回	<p>物的環境の児童文化財を利用した実践② 【内容】物的環境の一つとして、最も身近な絵本の読み聞かせを行う。 【事前学修】年齢等に応じた絵本を選択し、事前に読み聞かせの練習を行う。 【事後学修】他の学生の読み聞かせや教員の助言を参考に再度、自分で読み聞かせを行う。</p>
第15回	<p>全体のまとめと授業内テスト 【内容】14回目までのまとめとテストを実施する。 【事前学修】14回目までのプリントに目を通し、復習をしておく。 【事後学修】テストで出題された問題をプリントで再度、確認をする。</p>